

事項七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件

二六七 一月六日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

独線処分問題ニ関スル感想報告ノ件

（一月七日接受）
通第一号

独線処分問題交渉ニ関スル感想御参考迄ニ電報ス

一、「ウイルソン」大統領ハ巴里平和會議ニ於テ独線ガ戰時中日、英、仏三国ニ依リ占領セラレタル事實ニ鑑ミ並ニ當時同大統領ノ有セシ一種ノ理想ニ基キ独線全体ヲ國際有ト為サントスルノ考案ヲ有シ米國ノ為何等独線ノ分配ヲ要求セザリシガ其後米国内一般民心ノ変化及米國ガ戰爭ノ結果毫モ物質上ノ利益ヲ獲得セザリシ事ニ対シ米國內殊ニ實業家間ニ於テ内実不満ヲ抱クモノ多キ事實ニ顧ミ少クモ独線処分問題ニ就テハ巴里平和會議ニ於テ執リタル態度ヲ一変スルノ必要ヲ認メタル處米國ニトリテ最モ重要ナル価値ヲ有スル獨線ハ現ニ日、英、仏三国ノ手ニ依リテ占有運用セラルルノ実況ナルガ故ニ今回ノ會議ニ當リテハ自然一方ニ於テ米國ト他方ニ於テ日、英、仏三国ト対立スルノ形勢

ヲ誘致シ且ツ前述態度ノ一変ニ伴ヒ米國ノ主張ニ幾分ノ不合理ト前後矛盾トヲ免カレザルニ到レリ
二、米國ハ前項所述ノ如ク終始難局ニ立チタルモ元來政治上並ニ財政經濟上列国ニ於ケル自己ノ地位ヲ確信シ隠然此ノ地位ニ乘ジテ目的ノ貫徹ヲ期待シタルガ現ニ独線ヲ占有運用シ居ル三国ノ態度強硬ナリシヲ以テ先づ英國ト妥協シ英國ノ勢力ヲ利用シテ日、仏両国ニ臨ムノ方針ヲ執ルニ到レルモノノ如シ然ルニ仏國ハ後段述ブルガ如ク英國委員長ノ態度ニ嫌焉タラズ常ニ不信ノ念ヲ以テ英國ノ提議ヲ観測セルガ故ニ英國ノ努力ハ仏國ノ態度ヲ緩和スルニ足ラザルノミナラズ却テ全然反対ノ結果ヲ來シ右米國ノ方針ハ遂ニ其ノ効ヲ奏セズ益々事態ヲ紛糾セシムルニ至レリ米國委員ハ又最後ノ手段トシテ共和黨員ノ多数ヲ占ムル上院外交委員会ノ意見ヲ求メ之ヲ會議ニ提出シテ政府ノ更迭ガ米國ノ主張ニ変化ヲ來タサザルベキヲ関係国ニ警告セん事ヲ努メタルモ他國委員ハ孰レモ之ニ動カサレズ却テ侮蔑ノ念ヲ強クシ米國ノ執レル手段ハ全ク失敗ニ終レリ

三、米國ノ提出セル要求中不当ト認メラレタルモノ四アリ

(イ) 戰前狀態復旧ノ要求

(ロ) 紐育「ブレスト」線全部ヲ米國ニ返属セシムベシトノ要求

(ハ) 「ブレスト」端ノ運用ヲ仏國ノ手ヨリ離シテ米国会社ニ一任スペシトノ要求

(二) 日本ノ委任統治区域ヨリ「ヤップ」島ヲ除外シ又ハ通信ニ関スル限り同島ヲ國際化スペシトノ要求

ナリ此等ノ要求ハ孰レモ仏國又ハ我国ニ於テ到底承諾シ得ザルモノニシテ独線処分ガ部分的ノ解決ヲ許サザル關係上米國側ニ於テ此等要求中ノ孰レカ一ヲ固執スルモ全般ノ解決ヲ妨グルモノナリ

四、英國ハ其ノ要求ノ根拠最モ強固（英國ノ要求スル「ペンザンス、ハリファクス」線ハ戰時中切斷シタル上完全ニ敷設換ヲ為シ然モ双方ノ陸揚地ハ共ニ英帝国ノ領土ナリ加フルニ英國ノ要求スル線條ノ長サハ独線全体ノ長サノ五分ノ一ヲ超過スル事多カラザルヲ以テ孰レノ点ヨリ觀ルモ基礎強固ナリ）ニシテ其ノ為シ得ベキ讓歩ノ程度モ極メテ局限セラレ居リタルニモ拘ラズ交渉開始ノ劈頭ニ於テ米國側

國力自發的ニ讓歩スルヲ待ツノ態度ヲ取り居リタリ但シ英
國委員長累次ノ提案ハ概シテ仏國委員ノ見ヲ以テ自己ノ利
益ニ反ストナセルモノナリシヲ以テ英仏ノ関係ハ次第ニ疎
隔スルコトトナレリ

七、仏國ハ其ノ関スル限り極度ト認メタル讓歩ヲナセシモ
米國カ尚満足セザル為遂ニ解決ヲ他日ニ延バスノ決心ヲ為
シタリ仏國カ右ノ決心ヲナシタル理由左ノ通り

イ、米國委員ノ人選宜シキヲ得ズ殊ニ米國委員中内部ニ於
テ最モ重要ノ地位ヲ占メタル「ロジャース」ハ政治外交
ノ経験ニ乏シク其ノ職業新聞ト関係アルノミナラズ米國
電信会社ノ代理人ノ如キ態度ヲ取り到底仏國特殊ノ立場
ヲ了解スル人物ニアラズト認メタリ

ロ、英國委員長ガ仏國ノ利益ヲ犠牲ニスルコトヲ意トセザ
ルヲ以テ斯ノ如キ英國代表者ト事ヲ共ニスルハ不得策ト
認メタリ尚仏國ハ遠カラズ成立スペキ共和党政府ヲ対手
トシテ解決ヲ計ルノ方針ヲ取レリト推察スルモノノ如
ニ米伊両国側ニ於テハ此ノ如キ感想ヲ抱キタルモノノ如
シ

八、伊國ハ予備會議中殆ンド米國ニ追従スルノ態度ヲ取り

初メハ紐育「アゾールス」線ヲ要求シ後ニ讓歩シテ其ノ半
分ヲ要求シ更ニ讓歩シテ自己ニ帰属スペキ分ヲ米國ニ壳渡
スペキコトヲ承諾セリ而シテ最後ニ至リ「アゾールス」伊
國間ニ新設スペキ線ヲ自己ノ所属トナスベキコトノ条件ヲ
固執セルモ米國カ如何ナル程度迄伊國ノ要求ヲ支持シ又ハ
之ニ対シテ同情ヲ有セシヤハ一ノ疑問ナリ

九、太平洋線ノ処分ニ関スル米國側最初ノ要求ハ頗ル大ニ
シテ先ツ線条ニ關シテハイ最初ハ「ヤップ」上海線ヲ戰前
ノ狀態ニ戻サンコトヲ主張セルノミナラズ同線所有權ヲモ
要求セントスルノ勢ヲ示シ(四)次ニハ「ヤップ」「三線ノ共有
ヲ提唱シタルモハ最後ニハ單ニ「ヤップ」「グアム」線ヲ
要求スルニ止マリタリ又「ヤップ」島ノ問題トシテハ或ハ
(イ)委任統治ノ根本問題ヲ提起シ或ハ(四)通信ニ関スル限り同
島ヲ國際化センコトヲ要求シ或ハ(ハ)英米伊ノ委員間ニ協議
セラレタル中繼地(「リレー」、「ステーション」)ニ関スル協
定ニ加入センコトヲ獎励セリ

十、「ヤップ」、「グアム」線ハ政府ニ於テモ止ムヲ得ザル場
合ニハ一定条件ノ下ニ米國ノ所屬トスルモ差支ナキ御意見
セラレタル(「リレー」、「ステーション」)ニ關スル協
定ニ加入センコトヲ獎励セリ

如クナルモ實際ニ於テハ尚相當ノ距離アリト認メザルヲ得
ズ何トナレバ米國ハ同線ヲ自己ノ手ニ収メタル上ハ「ヤッ
プ」ノ端ハ自カラ之ヲ運用シ蘭國ト共同シテ「ヤップ」、「メ
ナド」線トノ連絡ヲ計リ以テ全然日本ノ手ヲ経ズンテ「グ
アム」、「メナド」線ノ直通ニ信ヲナサンコトヲ企図シ居ルモ
ノナレバナリ

從テ米國ハ「ヤップ」島ヲ少クモ中繼地(「リレー」、「ステー
ション」)トシテ何国トテモ自由ニ海底線ノ陸揚ヲ許シ又ハ
島上ニ於テ自由ニ自働中繼又ハ手中繼(リトランスマッシ
ョン)ヲ為シ得ルコトトナント主張シ居リ政府ヨリ止ヲ
得ザル場合ニ承諾スルモ差支無キコトニ決定シ居ラルル自
動中繼ノ如ク我方ノ手ニテ取扱フモノトハ性質ヲ異ニシ
「ヤップ」島上ニ於テ米國ノ運用権ヲ主張シ居ル次第ナリ

十一、右ノ通リニテ太平洋電線問題ノ解決ハ決シテ容易ニ
アラザリシヲ以テ我方ニ於テハ一面英、仏、米ノ間ニ立チ
テ出来得ル限り全局ノ解決ヲ計ランコトニ力ヲ致シ同時ニ
一面ハ万一全局ノ解決不能トナル場合ニハ太平洋ノミガ不
解決ノ原因トナリテハ一般國際關係上殊ニ日米關係上大ニ
不得策ナルヲ以テ愈々太平洋線問題ノ解決不能ノ見込立チ

タル場合ハ成ルベク問題ガ尚太平洋ニ引懸リ居ル間ニ總括
的ニ全般ノ解決ヲ延期セシムルコトトスル様注意ヲ怠ラザ
リソ次第ナルガ結局太平洋線ノ処分ハ「ヤップ」島ノ問題
横ハル間ハ解決不能ナルコト明瞭トナリタルヲ以テ我方ニ
於テハ解決延期ニ關スル仏國ノ意見ニ同意ヲ表セリ英國ハ
最初ハ寧ロ米國ニ対スル妥協ノ成立ヲ助成スルノ態度ヲ示
シタルモ最后ニ四國共同案ヲ提出シ且ツ英国外務省ヲ代表
セル「スペーリング」ヨリハ本會議ノ経過ニ關スル機密ガ
米國新聞ニ漏洩スルコトヲ指摘シテ斯ノ如キ米國ノ空氣ガ
國際會議ニ適セザルコトヲ痛論セル以後程度ニ相違コソア
レ等シク解決ノ延期ノ責任者ノ一ト見做サルルニ至リ斯ク
テ巴里ニ於ケルト同数大体ニ於テ日、仏、英ト米、伊トガ
対立スルノ姿トナリタリ

十二、尚我方ニ於テ特ニ注意シタルハ不必要ニ讓歩シテ將
來談判再開ノ際我立場ヲ弱カラシメザルノ点ニシテ幸ニ最
后迄帝國政府ノ意見トシテハ当初ノ主張ヨリ一寸モ讓歩シ
居ラズ只ダ本使一個ノ考トシテ「ヤップ」、「グアム」線ヲ日
米ノ共有トナサンコトヲ政府ニ上申スルノ意アル旨ヲ述べ
タルニ止マレリ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二六八

一一三一

十三、今回ノ交渉ニ付日、英、仏三国間相互支持ノ約束アリタルガ大臣宛在英大使発第三六八号ニ依ルモ其當時我方ハ自己ノ希望及ビ取ルベキ態度ヲ云ヒ放チタル儘ニテ米國部長「スペーリング」ノ之ニ対スル確答ハ記載セラレズ又

同電並ニ大臣宛在英大使電報第三六一號ニ依レバ「スペーリング」ハ三線共我方ニ帰属スベキモノナルコトヲ繰返セルニ不拘既電ノ通り「スペーリング」ト共ニ当地ニ来レル英委員長「ブラウン」ハ初メヨリ「ヤップ、グアム」線ハ

米国ニ帰属セシムルヲ至当ト認メ居レル等ノ事情モアリ又英米間ノ協定ハ米仏間ノ問題殊ニ「ブレスト、紐育」線ニ

付米国ニ満足ナル協定ノ成立スルコトヲ条件トスルモノナルニ不拘英國側ハ止ヲ得ザル場合ニハ右英米協定ノミニテ

モ確定的ノモノトナサントシ又ハ差当リ大西洋線ノ問題ノミヲ解決シ太平洋線ノ問題ハ別ニ外交手段ニ依ル解决ニ譲

ラシメントシタルガ如キ態度アリ且ツ前記ノ如ク英國ハ独線問題ニ関スル地歩鞏固ナルヲ以テ独線処分問題ノミニトリ

云ハバ英國ハ日、仏等ヨリ何等支持ヲ受クルノ必要モナカリシ次第ナルニ付テ我方ニ於テモ多少其辺機微ノ事情ヲ察シ英國ノ態度ニ付テハ常時注意ヲ怠ラザリシモ終始極メテ

親密ナル關係ヲ維持シ得タリ

日仏両国ハ大体ニ於テ立場ヲ同ジクジタル為メ提携ノ必要アリタルノミナラズ我方ニ於テハ相互ノ支持ノ約束ヲ十分ニ尊重シ常ニ隔意無ク協議ヲ為シ仏國側ニ於テモ我方ニ対シテハ特ニ信頼ノ態度ヲ示セリ

伊国ハ今回ノ會議ニ於テハ幾分我ガ方ト立場ヲ異ニスル所アリタルモ我方ハ伊国委員トノ間ハ極メテ友好的ノ関係ヲ保チタリ

在英大使ニ転電シ各大使及び在蘭公使ヘ郵送方依頼セリ

二六八 一月十三日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛（電報）

獨線問題決議文中ノ建議事項ニ對スル任國政府ノ態度取調方指示ノ件

第一二号
貴電通第一五五号ニ關シ獨線問題決議文中ノ建議事項ニ對スル貴任國政府ノ態度ヲ取調電報アリタシ

右本大臣訓令トシテ英仏伊ヘ転電シ参考トシテ在独大使及在蘭代理公使ヘ転電アリタシ

意アルニアラサレハ何国ト雖モ右「プロトコール」ヲ変更シ又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得ス從テ当事国全體カ其ノ変更ニ同意セサル限リ該「プロトコール」ハ依然効力ヲ存続スルモノト解スル處英國政府ニ於テモ華府會議中同國委員再三ノ言明ニ照スモ必スヤ帝國政府ト見解ヲ同シウセラルヘキヲ信スル旨ヲ申入レ之ニ對スル英國當局ノ応答振電報アリタシ

右参考トシテ在欧米各大使及在蘭代理公使ヘ転電アリタシ

通第三号
条三機密送第二八号貴信接到本件ニ關シテハ從來本官ニ於テ米國側トノ間ニ論議ヲ重ネタル行懸リモ是レアルニ付今回帝國ヨリ提出セラル可キ回答案ハ御確定以前本官ヘ御内示アル様願度シ回答ノ時機ハ米國政府更迭前ヲ適當トスルモ目下ノ処特ニ取急グノ要ナシト思考ス尤モ何時急ニ回答スル必要起ラストモ限ラサルニ付用意タケハ成ル可ク早メニ整ヘ置カレン事ヲ希望ス

ト思考スルニ付貴官ハ英國當局ニ対シ帝國政府ハ華府會議ニ於テ英國委員カ日本委員ト協調ノ態度ヲ持セラレタルヲ多トスルト共ニ後日獨線最終処分討議ノ場合ノ為兩國間相互支持ノ關係ヲ此ノ上一層緊密ナラシメ置クコトヲ切望スル次第ヲ述ヘテ我要求ニ付充份先方ノ了解ヲ得ル様努メラレ尚又該會議決議（通第一五五号）所定ノ期日迄ニ万一千新協定成立セサル場合ニハ一九一九年五月三日「プロトコール」ノ効力再ヒ問題トナルベク帝國政府ハ当事國全体ノ同

第一三三号
二六九 一月十八日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）
獨線処分問題ニ付英國側ト相互支持ニ關シ協調ヲ緊密ナラシムベキ旨ノ了解取付ヲ英國側
二申入方訓令ノ件

第一三三号

華府通信予備會議ニ於ケル獨線処分問題ニ關シテハ會議前

英國側ト相互支持ヲ約シ置キタルニ拘ラス英國委員ノ言動往々我方ノ予期ニ反スルモノアリタルハ在米大使隨時ノ電報ニテ御承知ノ通リナル処令後我方要求ノ貫徹ヲ期セムカ

為ニハ此ノ際改メテ英國側ノ支持ヲ確保シ置クノ必要アリト思考スルニ付貴官ハ英國當局ニ対シ帝國政府ハ華府會議ニ於テ英國委員カ日本委員ト協調ノ態度ヲ持セラレタルヲ多トスルト共ニ後日獨線最終処分討議ノ場合ノ為兩國間相互支持ノ關係ヲ此ノ上一層緊密ナラシメ置クコトヲ切望スル次第ヲ述ヘテ我要求ニ付充份先方ノ了解ヲ得ル様努メラ

レ尚又該會議決議（通第一五五号）所定ノ期日迄ニ万一千新協定成立セサル場合ニハ一九一九年五月三日「プロトコ

二七〇 一月十八日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛（電報）

対米回答案確定前ニ内示方裏請ノ件

（一月十九日接受）

通第三号
条三機密送第二八号貴信接到本件ニ關シテハ從來本官ニ於

テ米國側トノ間ニ論議ヲ重ネタル行懸リモ是レアルニ付今回帝國ヨリ提出セラル可キ回答案ハ御確定以前本官ヘ御内

示アル様願度シ回答ノ時機ハ米國政府更迭前ヲ適當トスル

モ目下ノ処特ニ取急グノ要ナシト思考ス尤モ何時急ニ回答

スル必要起ラストモ限ラサルニ付用意タケハ成ル可ク早メニ整ヘ置カレン事ヲ希望ス

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二六九

二七〇

一一三三

二七一 一月二十一日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独線処分ニ対スル仏國側ノ意向ニ付仏国外務

省政務局長ニ確メノ件

(一月二十三日接受)

第七四号

在米大使宛貴電第一二号ニ閲シ

一月十九日松田ヲシテ当国外務省政務局長ニ当国政府ノ意

嚮ヲ確メシメタル処同局長ノ言ニ依レバ右決議ノ趣旨タル
(一)海底電線最終ノ帰属ヲ定ムルコト並技術的ノ方面ノ解決
ノ延期ニ関シテハ別ニ異議ナカル可ク(二)代表者帰國ノ間
米大使ニ於テ代位スルノ件ハ仏國ニ於テハ已ニ其事ニ取計
ヒ居レリ(三)本年一月一日以後五國ノ計算ニ於テ現在ノ儘運
用スルコト及料金ヲ算定スル等ノ点並(四)暫定取極ノ点ハ仏
國代表者「ラネル」氏今般帰巴シ目下報告書起草中ニテ出
来上リ次第交通当局トモ協議ノ上仏国政府ノ態度ヲ決定ス
ベキ筈ナリ從テ未ダ本件ニ閲シテハ何トモ確定セズトノコ
トナリ

英米へ転電セリ

第一分科会再開督促ニ付米國國務長官代理ヨリ リ照会ノ件

通第四号

(一月二十五日接受)

第一分科会再会ノ儀ニ閲シ國務長官代理ヨリ一月二十日附
ヲ以テ要領左ノ通リ照会シ来レリ

第一分科会決議ハ各國委員ニ於テ該決議中ノ建議事項(レ
コンメンデーンヨンス)ニ閲スル本国政府ノ決定ヲ成ルヘ
ク速ニ報告スヘキコトヲ規定セリ本官ノ了解スル所ニ依レ
ハ各國委員ノ希望ハ旧獨線処分ニ閲スル協議ヲ本年一月十
五日頃ヨリ再開シ以テ旧獨線運用ニ閲シ新ナル暫行協定ヲ
設クルノ必要ヲ生スルニ先タチ本件報告処分ヲ決定スル為
メ充分ノ時日ヲ存セシムルニアリ依テ本官ハ分科会ヲ遲ク
トモ一月十七日ニ招集スル積リナリシモ決議中ノ建議事項
ニ閲シ貴国政府ノ取ラルヘキ行動ニ付通報ヲ受ケンコトヲ
期待シテ特ニ招集ヲ延期セリ本官ハ分科会ヲ成ルヘク速ニ
開会シ得ル為メ本月二十二日迄ニ前記ノ通報ニ接セんコト
ヲ切望ス

右ニ付二十一日本使長官代理ニ会見ノ際帝国政府ノ決定ヲ
二十二日迄ニ通報スルカ如キハ素ヨリ不可能ナル旨注意シ
置キタリ

在歐州各大使在蘭公使へ転電セリ

二七三 一月二十四日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ閲シ國務長官代理トノ会談内

容報告ノ件

通第五号

(一月二十五日接受)

一月二十一日別用ヲ以テ國務長官代理ニ会見ノ際本使ハ米
國ガ我「ヤップ」問題ニ対シ其后如何ニ考ヘ居ルヤヲ知ラ
ンガタメ談ヲ同問題ニ向ケタルニ「デヴィス」ハ大統領ガ
「ヤップ」ニ閲シテ留保ヲナシタリト了解スルハ當然ナリ
トテ先ニ主張シタル意見ヲ繰返スト共ニ五月七日最高會議
ガ日本代表者ニ列席ノ機会ヲ与ヘズシテ日本ノ主張ニ反ス
ル決定ヲナスノ権利ナシトノ議論ハ最モ有力ニシテ右留保
ノ有無ニ閑スル誤解ニ付テハ自分ハ毫モ日本政府ヲ非難セ
ントスルノ意志ヲ有セズ只本問題ニ対スル英仏側ノ態度ニ
ハ怪訝ニ堪ヘザルモノアリトテ左ノ二点ヲ指摘シタリ即チ

第一ハ大統領ガ先ニ上院外交委員会ニ対シ「ヤップ」島ノ
処分未定ナル旨ノ説明ヲ与ヘタルニ対シ英仏ハ殊更ニ沈黙
ヲ守リ以テ予備會議ノ際ニ至リテ突然日米両国ヲ争ハシメ
タルコト及ビ第二ハ客年八月頃予備會議開催ノ件ニ付米國
ヨリ英國ニ発セル照会中ニハ同會議ニ於テ討議スベキ議題
トシテ太平洋旧獨線処分ノ外「ヤップ」ノ最後ノ「ステー
タス」ニ閲スル問題ヲモ共ニ掲ゲタルニ英國ノ回答中ニ漠
然ト「ヤップ」「ケーブルス」其他ノ旧獨線処分(字句ハ
「デヴィス」ニ於テ正確ニ記憶セズト云ヘリ)ヲ議スルニ
異議ナシト記載シアルハ今ヨリ考フルレバ何カ意味アルヤ
ニモ解セラルコト之ナリト云ヘリ本使ハ右第一点ニ対シ
テハ前記大統領ノ上院委員会ニ対スル説明以後「ロイド、
ジョージ」ハ赤道以北ノ旧獨領諸島ガ日本ノ委任統治ニ帰
スペキモノナルコトヲ公表シ之ガタメ上院ニ於テハ兩者ノ
言明ニ不一致ノ点アルヲ認メ大統領ニ其事情ヲ質問スルフ
決議ヲナシタルコトアルヲ指摘シ第一点ニ付テハ米國政府
ノ日本ニ対スル照会中ニハ予備會議ノ議題トシテ何等「ヤ
ップ」島ノ最終ノ地位ニ閲スル問題ヲ掲ゲタルコトナキ処
米國政府ノ日英両國ニ対スル照会文ニ此差別ヲ設ケタルハ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 117回

如何ナル理由ナリヤト問ヒタルニ「ド・カ・バス」ノ頗ル驚キタル模様ニテ自分ハ全ク之ヲ記憶セズ篤ト調査スベシト答タリ

右米国政府ノ英國政府宛照会ノ日附及ビ文言ハ我将来ノ立場上突止メ置ク必要アリト思考スルニ付前記本使ト「ド・ガ

イス」トノ会見談ニ言及スルコトナクシテ夫レトナク英國政府当局ニ問ヒ合ハセ方御取計ヒアル様致度シ

英仏ニ転電シ伊独蘭ヘ郵報方依頼セリ

~~~~~

117回 1月11十四日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

独線問題決議文中ノ建議事項ニ対スル英國政

府ノ態度ハ未ダ決定ニ至ラザル旨報告ノ件

第六号

(1月11十五日接受)

在米大使宛貴電第一二一號ニ關シ委員帰来セルモ書類荷物未着ノ為関係官序トノ協議ヲ開始スルヲ得ス從ツテ未タ本件ニ対スル態度決定ニ至ラス今後一週間セ経過セバ何等内示シ得キカトニ十二日「バーリング」申シ居レリ英國政府ニテハ我態度ヲ知ランカ為メ1111日前在本邦大使ニ電訓セル由

1111K  
在米仏伊各大使ヘ転電セリ

117回 1月11十四日 在米國整原大使ヨリ

國艦轉體半佛會議ニ關スル國務省來翰時卷中

ノ件

公第四〇号 (1月十四日接収)

大正十年一月一一十四日

在米

特命全權大使男爵 潤原喜重郎(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

國際通信予備會議ニ關スル國務省來翰写別紙ノ通り及御送附候間御查閱相成度此段申進候也

(別紙)

1月11十日附米國國務長官代理ヨリ裕原大使宛書翰写

國際通信予備會議ニ關スル件

DEPARTMENT OF STATE,

Washington.

January 20, 1921.

Excellency:

I have the honor to refer to the resolution of December 14th last, unanimously agreed to by the delegates of the five principal Allied and Associated Powers in a meeting of that date, of Sub-Committee No. 1, of the Preliminary International Conference on Electrical Communications. The resolution stated that it was understood that the delegates would obtain and report at the earliest possible date the decisions of their Governments concerning the recommendations contained in the resolution.

My understanding of the desire of the delegates was that the discussions regarding the disposition of the cables should be resumed at least by January 15, 1921, so that there would be ample opportunity for reaching a settlement before it should become necessary for the conference to proceed to the arrangement of a new modus vivendi regarding the operation of the cables in question. I therefore contemplated calling

a meeting of the Sub-Committee on January 17th at

the latest. I delayed the call, however, hoping to receive notification from your Government as to the action taken on the recommendations contained in the resolution.

I am naturally most anxious to be informed of the decision by your Government with regard to the recommendations and I shall be grateful if you will give me the desired information before the 22nd instant, in order that the members of the Sub-Committee may meet as soon as possible with instructions which will enable them to reach an expeditious settlement of this matter, in accordance with the unanimous desire of the Governments of the Allied Powers so often expressed by their delegates.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) Norman H. Davis

Acting Secretary of State.

ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 117回

1111K

1111L

Baron Kijuro Shidehara,

Ambassador of Japan.

## 二七六

一月二十八日 内田外務大臣（ヨリ 在米國幣原大使宛（電報）

## ヤップ海底電線ニ対スル米國政府ノ意図ニ付

## アドヴァータイザーノ記事大要通報ノ件

## 第四一号

獨線問題ニ関シ一月二十七日ノ「ジャパン、アドヴァータイザ」ハ二十五日貴地発大要左ノ通り特電ヲ掲載セリ  
 「デヴィス」ハ同日上院外交委員会ニ於テ「ヤップ」島及「ヤップ」三線ニ関スル從來ノ經緯ヲ説明ノ上英国外務省トノ往復文書ヲ提出シ米國カ講和會議ニ於テ「ヤップ」島ノ日本帰属ニ対シ抗議權ヲ留保シタルコトヲ立証スヘキ文書ナキ為英國側ニテハ日本ノ「ヤップ」海底線単独管理ノ主張ヲ有効ト認メムトスル意向ナルヲ示セリ外交委員会ハ講和會議ノ議事録ヲ検シタルニ四頭會議ニ於テ日本ノ「ヤップ」島管理ニ対スル「ウイルソン」ノ異議ニ付討議シタルモ右討議ノ結果ニ關シテハ何等微スヘキ書類ナキコト立証セラレタリ「デヴィス」ハ更ニ通信會議ニ於テ「ヤッ

## 二七七 一月三十日 在英國林大使（ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

## ヤップ島問題解決方策ニ関シ英國側ノ意向報

## 告並意見具申ノ件

## 第一二二二号 (一月三十一日接受)

二十八日「テイル」外相代理ニ会見シ貴電第一三三号御訓令ノ趣旨ヲ記シタル覚書ヲ手交シタル上在米大使宛貴電第一二号御訓令ニ基ヅキ獨線問題建議事項ニ対スル英國政府ノ態度ヲ尋ねタルニ同代理ハ英國政府ニ於テモ本件ニ關シ在日本及在仏使臣ヲシテ任國政府ノ態度ヲ問合セシメタルニ日本政府ハ未だ決定ニ至ラザル趣ナリシガ仏國政府ニテハ不思議ニモ閣下宛在米大使発通第四号ノ照会ヲ米國側ヨリ受ケ居ラズトノ回答ヲナセリト答ヘタリ

本使ハ進ンデ在来ノ成行ヲ概観スルニ英米間ハ既ニ大体ノ了解ヲ遂ゲ得ラレタルモノノ如ク思考セラル旨談及シタルニ同代理ハ之ニ対シ英米ノ関スル限り確定ト云フニ非ざルモ最早事済ナリ（We are out）残ルハ仏米及日米間ノ問題ニシテ此等関係諸国ニテ行詰リ解決ノ道ヲ決定スルニアラズソバ會議ヲ取急ギ再開スルモ詮ナカルベント思考スト

」島ノ國際管理ヲ主張シタルモ會議ノ同意ヲ得ル能ハサリシカ一方日本ハ英國トノ間ニ委任統治ノ様式ニ関シ協定ヲ遂ケ聯盟總会ノ承認ヲ得タリ國務省ニ到達シタル非公式報告ニ依レハ日本ハ其ノ結果トシテ赤道以北獨領諸島全部ニ自國法律ヲ施行シ得ヘク日本法律ニ依レハ其ノ領域内ニ於ケル通信機関ノ所有及管理ハ政府ノ獨占トナリ居ルヲ以テ「ヤップ」ニ陸揚セル海底線ハ日本政府ニ依リテノミ管理セラルヘキモノナルコトヲ主張スルニ至ルヘント陳述シタルニ外交委員等ハ本問題ニ關スル日本政府ノ措置ニ不満ノ意ヲ表シ米國カ誠意ヲ以テ行動シタルニ拘ラス講和會議中實際上決定シタル諸事項ヲ示スヘキ公文書ナキ為米國カ「ヤップ」三線ノ管理ニ參加スルノ権利ヲ認メンムル能ハサリシ事實ヲ明カニスル為「ヤップ」問題ニ關スル一切ノ記録ヲ公表セムコトヲ非公式ニ提議シ委員中或ル者ハ政府カ「ヤップ」島管理ニ対スル米國側要求ヲ支持スル為強硬ナル措置ヲ執ラムコトヲ希望セル趣ナリ

尚一月二十八日ノ時事ニモ右ト同文ト思ハルル二十五日貴地発特電ヲ掲載セリ

## 七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二七七

## 二七八

## 二七八 一月三十一日 在米國幣原大使（ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

## ヤップ島問題ニ関シ國務長官代理上院外交委

## 二三九

## 員会ニ於テ説明ノ件

別電 同日在米國幣原大使発内外務大臣宛電報通第

八号

右ニ関スル新聞論調報告ノ件

通第七号 (二月二日接受)

獨線処分問題ニ関シ一月二十五日國務長官代理「デヴィス」上院外交委員会ニ出席シテ説明ヲ与へ本問題ニ関係アル講和會議事録ヲ同会ニ提出セル趣ニテ其結果「ヤップ」問題ニ付種々ノ報道諸新聞ニ伝ハリ御参考ノ為メ主ナルモノヲ別電第八号ニテ電報ス尤モ「デヴィス」ハ本使ノ問ニ答ヘ右委員会ハ秘密会ニシテ新聞紙ニ散見スル記事ハ探訪員ガ上院議員ヲ追窮シテ得タル談片ヲ基礎トスルモノナルガ故ニ事實ヲ誤マル所多ク甚ダ遺憾ナリト云ヘリ  
以上在英大使ニ転電シ仏伊独葡へ郵報方依頼セリ

(別電)

一月三十一日在米國幣原大使発内外務大臣宛電報通第八号  
ヤップ島問題ニ関シ新聞論調報告ノ件

通第八号

二十六日華盛頓「ポスト」記事ノ要点  
外交委員会ノ言ニ依レバ「ヤップ」島ノ処分ニ關シテハ何

尚共和党上院議員ノ談ニ依レバ上院ニ提出セラレタル議事録ハ大統領及ビ其同僚間ノ議事手続ガ如何ニ杜漏ナリシヤ  
ヲ駁論シタリ即チ正式ノ記録ハ單ニ一人ノ英國書記官ニ依リテ作製セラレ而シテ右英國書記官ノ保留セル覚書ハ大統領及ビ連盟国首相之ニ署名スル例ナリシトノコトナルモノ外交委員会ニ提出セラレタル記録ノ内右正式ノ手続ヲ経タルモノハ少數ナリ  
同日「パブリック、レヂャー」(華盛頓「ヘラルド」)モ同文ナリ)記事ノ要点  
「ウイルソン」政府ハ「ヤップ」島國際化問題ニ付其敵タル上院外交委員会ノ援助ヲ求メ上院ガ一年以上ニ亘リテ要求セル講和會議事録ノ一部分ヲ同院ニ交附セリ外交委員会ニ於ケル「デヴィス」氏ノ陳述中ニ左ノ諸点アリ即チ(→米國ガ「ヤップ」島ヲ日本ニ与フルコトニ反対スル根拠

ハ議事録中ニヶ所ニ大統領ガ「ヤップ」ニ關シ米國ノ権利ヲ留保スル旨ヲ述ベタルコトガ記載セラレ居ル点ニア

ルモ右米國ノ主張ヲ支持スペキ何等書面ニ依リ協定又ハ  
覚書等存在セズ

(二)昨年十二月英國政府ハ米國政府ニ宛テタル書面ヲ以テ講和會議ノ記録就中五月七日會議ノ記録ニ徵シ英國政府ハ  
「ヤップ」島ニ關スル日本ノ要求ヲ正当ト認メザルヲ得ザル旨聲明セリ

(三)米國政府ハ英國議會ニ於ケル「バルフォア」ノ陳述ニ依リテ國際聯盟理事会ガ北太平洋諸島ノ委任統治ニ付決定ヲナシタルコトヲ承知ス右決定ハ十二月十七日ニナサレタルモノナレドモ米國政府ハ今日迄「ヤップ」ガ除外セラレ居ルヤ否ヤヲ承知セズ  
四)米國政府ハ講和會議々事録ノ大部分ヲ未ダ入手セズ而シテ何時入手シ得ルヤヲ知ラズ

(五)日本ハ其立場ニ付講和會議中モ又ハ其以後ニ於テモ書面

ニ依リ又ハ何等正式ノ方法ニ依リ自己ヲ拘束シタルコトナク千九百十五年條約ヲ以テ其要求ノ根拠トスルコトニ

付米國政府ガ極力反対スルニ拘ラズ今日ニ於テモ尚何等

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二七九

二七九

二月二日

内田外務大臣ヨリ  
在英國大使宛(電報)

ヤップ島海底電線問題ニ付英國側ノ好意的了

解取付方訓令ノ件

二四一

貴電第一二二号ニ閑シ

(一)英国外相代理ハ独線問題ハ英米ノ関スル限り事済ナリト  
述ヘタル趣ナル處元來獨線問題ハ総括的ニ五国全体ニ関  
係セル問題ナルカ故ニ部分的解決ヲ許ササルコトハ通信

予備會議ニ於テ屢々在米大使ノ声明セル所ニシテ(在米  
大使発九二、一四三、一四五、一四七各号等参照)仏國  
側亦同様ノ見解ナルハ通第九七号ノ通リナリ

(二)又外相代理ハ米国カ戰前ヨリモ不利ノ地位ニ立ツハ難シ  
トル所云々ト語レル趣ナルモ日本ノ要求ハ單ニ戰前獨

逸カ「ヤップ」三線ニ付有シタル地位ニ代ラムトルニ  
過キサルヲ以テ我方ノ要求貫徹ノ曉ニ於テモ米国ハ決シ

テ戰前ニ比シ不利ノ地位ニ立ツモノト謂フコトヲ得ス  
(通第一五〇号参照)

(三)今後ノ會議ニ於テ仏國側カ我方ノ要求ヲ支持スヘキハ從  
來ノ關係ニ徵シ之ヲ期待シ得ヘシト思考スルモ万—英國  
側ニ於テ苟クモ米国ノ主張ニ同情ヲ表スルカ如キ態度ニ  
出ツルコトアラハ我要求ヲ貫徹スルコト頗ル困難トナル  
ヘキニ付英國側ヲシテ我主張ヲ積極的ニ支持セシムルノ

望マシキハ勿論少クトモ米国側ノ主張ヲ援ケ我方ノ妨ト  
ナル如キ態度ニ出テサランムコト極テ必要ナリ

仍テ貴官ハ英國政府當局ニ對シ再応懇談ヲ試ミ上記ノ諸  
点ニ付十分説明ヲ尽サレ何等カ好意的了解ヲ取付ケ得ル

様精々御尽力アリタシ

在歐米各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

二八〇 二月一日 在仏國石井大使宛(電報)  
内田外務大臣宛(電報)

### 最高會議ニ於ケル米國大統領ノヤップ島問題

#### 留保ニ閑シハンケー氏説明ノ件

第一三九号

(一月四日接受)

(往電第一三八号ノ続キ)

当夜本使ハ「ロイド、ジョージ」氏ヨリ「ヤップ」島問題  
ニ閑シ何等カ言質ヲ得ント待チ居リタル處宴会後「ロ」氏  
本使及「ハンケー」氏夫人寄合タル際同夫人ハ講和會議中  
牧野男ヨリ極楽鳥ヲ貰ヒタリトテ其ノ美麗ナルヲ賞シタル  
ニ付本使ハ極楽鳥ハ今ヤ日本ノ委任統治ニ帰シタル旧領  
島ヨリ来ルモノナルヘシト語リ進ンテ「ロ」氏ニ向ヒ五月  
七日最高會議ノ決定ヲナシタル政治家ハ歐州ニ於テハ貴總

理ノミ尚政權ニアル唯一ノ「オーソリティ」ナレハ右決  
定ニ閑シ貴總理ノ教ヲ受ケタキコトアリト(脱)ヲ述ヘタ

ルニ偶々「ブリアン」氏ト會談中ナリシ「スマーフォルザ」伯  
來リテ「ロ」氏ノ參加ヲ求ムラアリ「ロ」氏ハ本使ニ向ヒ  
「ハンケー」氏ヲ指シ彼ハ自分ヨリ尚好キ「オーソリティ  
」ナレハ委細ハ彼ヨリ聽取ラレタシト述ヘ「ハンケー」  
ヲ招ケリ「ハンケー」氏ハ本使ノ問ニ対シ「ウィルソン」

氏ハ五月七日以前ニ於テ「ヤップ」島ニ閑シ留保シタルコ  
トアリンハ事實ナレトモ其ノ時ハ日本代表モ出席セリ五月  
六日七日ノ會議ニ於テ何等ノ保留ナカリシハ勿論ニシテ  
「ウィルソン」氏カ斯ノ如ク云ハルハ記憶違ヒト云フノ  
外ナシト断言セリ

在歐米各大使ニ転電セリ

右回答寫

第五一号

貴電通第三号ニ閑シ

客年十一月十六日附条三機密送第二八号附屬在本邦米國代  
理大使ノ來翰ニ対スル回答案別電第五二号ノ通リ一應決定  
シタリ付テハ右ニ対スル貴官御意見御回電アリ度シ

(別電)

一月四日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第五二号  
ヤップ島問題ニ閑スル対米回答案

第五二号(別電)極秘

以書翰致啓上候(中略)就テハ右米國政府ノ意見ニ対スル  
帝國政府ノ見解ヲ腹藏ナク茲ニ披瀝スヘシ

一右貴翰ニ於テハ一昨年四月二十一日ノ最高會議並同四  
月三十日及五月一日ノ外相會議ニ於テ米國現大統領閣下  
又ハ前國務卿「ランシング」氏カ各々「ヤップ」島ヲ國

際化スヘキコト若ハ之ヲ或一國ノ手ニ帰セシムヘカラス  
トノ意見ヲ述ヘラレタルコト、同年五月六日ノ最高會議  
ニ於テ「ロイド、ジョージ」氏カ帝國ノ委任統治ニ帰ス  
ヘキ地方ニ付 certain islands ナル語ヲ用ヒラレタルコ  
ト及同五月七日ノ最高會議議事録ニ依レハ委任統治ニ付

二八一 二月四日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

### 二対スル回答案通報ノ件

#### ヤップ島問題ニ閑シ在本邦米國代理大體書翰

別電 同日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第五

二号

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二八一

二四二

テハ何等ノ討議ナカリシカ同日ノ議事録ノ附属トシテ同六日ニ北太平洋諸島ニ関シ到達シタル協定ヲ書頭ハシタリト思ハルル覺書ニ依レハ特ニ北太平洋ニ在ル島ノ全部ヲ含ムコトヲ明ニ示サレ居ラサル旨指摘セラルル処右御援用ノ議事録中一昨年四月三十日及五月一日ノ外相會議ニ属スル分ノ外ハ帝国代表者ニ於テ当日ノ最高會議ニ出席セサリン為議事録ノ配布ヲ受ケス從テ一昨年四月二十一日、五月六日及五月七日ノ議事録中ニ果シテ米国政府主張ノ如キ記載アリヤ否ヤ帝国政府ニ於テ之ヲ確ムルノ途ナキモ仮リニ此等ノ會議ニ於テ「ウイルソン」大統領ニ於テ右ノ如キ意見ヲ述ヘラレタル事實アリトスルモ米国政府ニ於テ之ニ依リ帝国政府ニ対シ主張シ得ル所ハ單ニ一昨年ノ五月一日ノ外相會議迄ニ最高會議若ハ外相會議ニ於テ米国現大統領閣下及「ランシング」氏カ「ヤップ」島ヲ國際化スヘキコト若ハ之ヲ或一國ノ手ニ帰セシムヘカラストノ意見ヲ述ヘラレタルノ事實アルコトニ遇キスト思考ス而テ右ニ対シテハ帝国政府トシテハ仮令米国側ニ於テ右ノ如キ意見ヲ最高會議又ハ外相會議ニ於テ述ヘラレタル事實アリトスルモ右意見カ會議ノ容ル所

テ其ノ以前ニ於テ如何ナル論議アリタリトスルモソハ畢竟決議ニ至ル予備的 conversation タルニ止マリ何等公ノ効力ヲ有スルモノニ非スト断スルノ外ナキ次第ナリ況ノヤ右米国大統領又ハ「ランシング」氏ノ陳述セラレタル前顧ノ意見ニ対シテハ會議ニ於テモ将又會議ノ外ニ於テモ帝国全權ニ於テ嘗テ同意ヲ表シタルコトナク殊ニ一昨年四月三十日ノ外相會議ニ於テハ牧野全權ハ之ニ不同意ノ趣旨ヲ明ニ陳述シ居ルノ事實アリ

二 貴翰ニ於テハ「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治地域内ニ包含セラレ居ルニ於テハ右五月七日ノ決定ハ今一層特別ナル文字ヲ使用シ居ルヲ以テ当然トスト主張セラルルモ帝国政府ノ見解ニ依レハ赤道以北ノ旧独領太平洋諸島中ヨリ特ニ「ヤップ」島ヲ除外スル場合ニ於テコソ該決定ニ於テ其ノ除外ヲ明確ニ表明スヘキ筋合ニシテ之ヲ除外セサル場合ニ殊更ニ右除外セサルノ事實ヲ此ノ種決定中ニ表明スルヲ要ストハ事ノ正常ニ反シタル無理ナル注文ニシテカカル主張ハ何人ト雖モ首肯セサル所ト思考スルノミナラス帝国ニ於テ直接ノ利害關係ヲ有シ且帝国全權ニ於テ強硬ニ反対ノ態度ヲ持続シタル「ヤップ」島除外

トナリ「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治ノ外ニ置カルルコトカ會議ニ於テ決定セラレタリトノ事實アルニ非サレハカカル意見ノ陳述アリタルノ事實ハ何等「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治地域ノ外ニ在リトノ米国政府ノ主張ヲ正当トスルノ材料ト成ラスト思考ス從テ帝国政府トシテハ米国政府ニ於テ「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治地域ニ舍マレスト主張セムト欲セラルルニ於テハ單ニ米国側ニ於テ此等ノ意見ヲ會議ニ於テ述ヘラレタル事實ノ外ニ會議ニ於テ此ノ決定アリタルノ事實ヲ立証セラルル必要アルモノト思考スルモノナリ尚右ノ点ニ関連シ帝国政府ハ一昨年六月二十八日ノ最高會議ニ於テ現ニ「ウイルソン」大統領カ同會議ニ於ケル論議ハ單ニ private conversation タルニ止マリ公ノ効力ヲ有セス唯會議ノ決議ノミカ公ノ効力ヲ有スル旨ヲ述ヘラレ居ルコトニ從テ帝国政府ノ前顧ノ見解ハ「ウイルソン」大統領自身ニ於テ裏書セラレ居ルノ事實ヲ指摘セムトス由是觀之「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治地域ヨリ除外セラレ居ルヤ否ヤノ問題ハ結局本件受任國及受任地域カ初メテ最終的決定ニ到達シタル前顧五月七日ノ決定自身ニ依リ判断スヘキモノニシ

## 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二八一

二四六

ノ最高會議ニ於テ英國現首相 *certain islands* ナル語ハ聯  
ヲ用ヒラレタルコトヲ指摘シ以テ「ヤップ」島除外ヲ立  
証セラレムト試ミラレ居レトモ仮リニ当日ノ議事録ニ右  
ノ記載アリタリトスルモノ右 *certain islands* ナル語ハ聯  
盟規約第二十二条第六項ニモ使用セラル文句ニシテ右  
規約ニ於テハ单ニ赤道以北ノ太平洋ニハ旧独領以外ノ島  
嶼モ少カラサル関係上ヨリ此ノ如キ文字ヲ使用シタルニ  
過キサルモノニシテ英國政府ニ於テ赤道以北ノ旧独領太  
平洋諸島カ全部帝国ノ委任統治地域タルコトニ決定セリ  
トノ解釈ヲ執ラルルノ意味ニ照ラストキハ英國現首相ニ  
於テ右文句ヲ当日使用セラレタルノ趣旨ハ決シテ「ヤッ  
プ」島ヲ除外スルノ意味ニ非スシテ单ニ其ノ場合ニ右規  
約第二十二条第六項ノ語ヲ引用セラレタルモノト解スル  
ヲ以テ正当ト認ムヘシ

要之委任統治地域ノ決定ノ如キ重要ナル決定ニ於テハ其  
ノ決定ニ現ハレタル所ノミカ有權的ニシテ其ノ文面ニ表  
ハレサル而モ少數ニ止マル代表者ノ意中ニ如何ナル思惑  
カ存在シタルカヲ以テ此ノ決定ニ対シ異常ノ解釈ヲ下サ  
ムトスルカ如キハ帝國政府ノ同意シ得サル所ナリ

統治協約原案第三条ヲ引用シ之ヲ以テ右諸島ノ最終的処  
分ニ閑シ未タ決定的ノ協定ニ達シ居ラサル証左ト為サル  
ルモ右ハ單ニ将来境界又ハ土地ノ所屬等ニ閑シ万一紛争  
ヲ生シタル場合ニ之カ解決ノ方法ヲ規定スルノ趣旨ニ止  
マルモノニ過キサルノミナラス右ト同様ノ規定ハ独リ赤  
道以北ノ諸島ニ閑スル分ニ存スルニ止マラス同時ニ同日  
ノ會議ニ提出サレタル其ノ他ノ地域ニ閑スル總テノ委任  
統治協約原案ニモ同様ニ存シタルニ付右御主張ノ論理ヲ  
貫ケハ此等ノ協約ノ関係統治地域中ニハ總テ除外例伴ヘ  
リトノ論結ニ到達スヘキ次第ナルカ右ハ全然事實ニ反シ  
何人ヲモ首肯セシムル能ハサル所ナルト共ニ「ジュネ  
ブ」ニ於テ開催ノ聯盟理事会ノ昨年十二月十八日ノ會議  
ニ於テ確定シタル赤道以北ノ旧独領太平洋諸島ニ閑スル  
委任統治条項ニハ右様ノ規定ナク從テ貴翰ニ於ケル右ノ  
引用ハ何等米国政府ノ主張ヲ強ムル理由ト成ラサルモノ  
ト信ス

五 加之赤道以北ノ旧独領諸島カ例外ナク全部帝國ノ委任  
統治ノ下ニ置カルコトヲ規定スル本件委任統治条項ハ  
右聯盟理事会ニ於テ全会一致ノ賛同ヲ得タルニ付從テ當

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二八一

## 三 加之一昨年五月七日ノ決定ハ翌八日公表セラレタルニ

二四六

付若シ右公表ノ決定カ米国政府ノ了解ト相違シ居タルナ  
ラハ右ニ対シ當時直ニ異議ヲ申立テラルヘカリシ筋合ナ  
ルニ當時何等此ノ擧ニ出テスシテ甚タシク時日ヲ隔テタ  
ル今日ニ至リ右決定ニ対シ異論ヲ称ヘラルハ帝國政府  
ニ於テ甚タシク了解ニ苦シム所ナリ然ルニモ拘ラス貴翰  
ニ於テハ「ウイルソン」大統領ノ上院外交委員会ニ於ケ  
ル陳述ニ対シ何国ヨリモ反対ノ意見ヲ聴カサリシ事実ヲ  
挙ケ之ヲ以テ恰モ關係列國ニ於テ同大統領ノ意見ニ異議  
ナカリシ証左ナルカノ如ク論断セラルニ至リテハ帝國  
政府ノ全然首肯スル能ハサル所ナリ一ハ自國ノ閑与スル  
國際的協定ニシテ他ハ全然一國ノ國內的事件ナリ前者ニ  
対シテコソ其ノ協定カ自己ノ了解ニ反スト思考スル場合  
ニハ直ニ之ニ異議ヲ述ヘ之カ是正ヲ為ササルヘカラサル  
モ後者ニ対シテ第三國カ一々弁駁ヲ加フルノ義務アルモ  
ノニアラス從テ右ニ対シ異議ヲ述ヘタル國ナキノ事實ハ  
本件ニ閑シ何等ノ結果ヲモ伴フモノニアラスト思考ス  
四 又貴翰ニ於テ一千九百十九年十二月二十四日ノ最高會  
議ニ提出セラレタル赤道以北ノ旧独領諸島ニ閑スル委任  
統治協約原案ニ存スル尾ニ於テ「ヤップ」島カ帝國ノ委任  
統治地城ニ包含セラレ居ルモノト仮定スルモ海底線ノ陸上及運  
用ノ目的ノ為ニ他ノ諸國カ自由且無障礙ニ同島ヲ使用シ  
能ハストハ想像シ得サル所ナル旨主張セラレ居ル處右主  
張ニシテ同島カ委任統治地域タルノ事實ト何等關係ナキ  
議論ナルニ於テハ右ハ結局當該地域ノ施政ヲ司ル國即チ  
帝國ノ自由ニ考慮スヘキ問題ナリト云ハサルヘカラサル  
次第ナリ又若シ右ノ主張ニシテ委任統治ノ性質上常ニ他  
國ニ対シテ門戸ノ開放ヲ要ストノ意味合ナルニ於テハ帝  
國政府ハ一昨年七月八日ノ委任統治條項委員会ニ於テ米  
国政府代表者「ハウス」大佐カ珍田伯爵ノC種委任統治  
地域ニ於テモB種ノ場合ニ於ケルト同様通商及貿易上ノ  
機会均等ノ保障ヲ設クヘントノ主張ニ反対セラレタル事  
實ヲ指摘シ以テ米国代表ノ此ノ言議ニ顧ミ米国政府ニ於  
テハ少クトモ帝國政府ニ対シテハC種委任統治地域ニ閑  
シ有効ニ門戸開放ノ主張ヲナサルルノ地位ニ在ラサル義

実ヲ指摘シ以テ米国代表ノ此ノ言議ニ顧ミ米国政府ニ於  
テハ少クトモ帝國政府ニ対シテハC種委任統治地域ニ閑  
シ有効ニ門戸開放ノ主張ヲナサルルノ地位ニ在ラサル義

二四七

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二八二

ト思考スル次第ヲ述ヘサルヘカラサルト共ニ門戸開放主義ヲ保障スヘキ場合ト雖モ海底線ノ陸上及運用ニ関シ他國ニ米国政府主張ノ如キ自由ヲ認ムルノ義務アルモノトハ帝国政府ニ於テ思考シ能ハサル旨ヲ告ケサルヲ得ス以上帝国政府ノ見解逐一貴国政府ニ伝達方御取計相成度シ云々

二八二 二月五日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ関シ上院議員及一般公衆ニ我方ノ主張ヲ周知セシムル為交渉経過詳細発表

方意見具申ノ件

別 電 一月五日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報通第九号

紐育タイムス紙ニ掲載セル日米条約ノ件ニ関スル記事一節ノ要領

通第一〇号

(二月六日接受)

通第三号末段ニ関シ

「ヤップ」問題ニ付上院外交委員会ノ意見ナリトテ新聞紙上ニ現ハルル議論ハ米国政府側ノ主張ノミヲ反映シ我方ノ主張ハ殆ンド現ハレ居ラズ「デヴィス」ガ上院外交委員会

(別電)

二月五日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報通第九号

紐育タイムス紙掲載ノ日米条約問題ノ件ニ関スル記事

通第九号

二月一日「ニューヨーク、タイムス」ニ掲載セル日米条約

ノ件ニ関スル記事中ニ要領次ノ如キ一節アリ

上院外交委員会委員中ニハ「ジョンソン」ノ態度ニ同情ヲ

表スル者少カラス之等委員ハ條約ヲ以テ州ノ法律ヲ無効ナ

ランマルコトニ反対ナルハ勿論ナルモ其根柢ニハ加州土地

法以外ノ諸問題ニ付日本ノ米国ニ対スル態度不誠実ナリト

ノ信念ヨリ生セル悪感ノ横タハレルハ事実ナリ

「デヴィス」国務次官カ「ヤップ」島ニ関スル日米両国間

ノ争議ニ付外交委員会ニ於テ為シタル説明ハ委員等ニ深甚

ナル印象ヲ与ヘタリ而シテ一面ニ於テ大統領カ「ヤップ」

島ヲ日本ノ委任統治ノ下ニ置クコトニ対シ正式ニ書面ヲ以

テ異議ヲ挾マサリシハ手落ナリトノ非難ヲ為ス者アリト雖

モ委員会一般ノ意見ハ大統領カ五国会議ニ於テ「ヤップ」

島ヲ全然日本ノ管轄下ニ置クコトニ対シ留保ヲ為シタル事

実ニ依リ日本及他ノ諸国ハ米国カ「ヤップ」島ヲ日本ニ与シテ日本カ之ヲ利用スルハ同国ノ辛辣ナル遣口ノ証拠ナリ

ト云フニアリ

二四八

ニ於テ如何ナル説明ヲ与ヘタルヤハ明カナラザルモ大統領ノ主張ニ弱点アルコトヲ曝露スルガ如キハ「デヴィス」ノ立場トシテハ自然之ヲ憚リタルコト推測セラレ而シテ上院議員等ハ「デヴィス」ノ説明ノミニ依リテ事態ヲ判断スルガ故ニ別電通第九号「ニューヨーク、タイムス」所載ノ如キ思想ヲ有スル議員尠カラザル可キハ想像ニ難カラズト

思考ススノ如クシテ上院議員及一般公衆ガ本件ニ関シ一種ノ僻見ヲ抱クニ至ラバ我方ノ主張如何ニ正当ナリト雖モ現政府ハ勿論次ノ政府ヲシテ之ヲ認識セシムルコト困難ナル可ク延テ排日問題ニ関スル日米条約ノ運命ニモ影響ヲ及ボ

スコトアル可キヲ懸念セザルヲ得ズ就テハ此ノ際速ニ米国政府ノ照会ニ対シ回答ヲ発シ彼我往復ノ次第ヲ詳細発表スル方得策ナリト思考スルニ付至急御詮議ノ上予テ稟請ノ通り當方へ御内示アランコトヲ希望ス

院議員等ハ「デヴィス」ノ説明ノミニ依リテ事態ヲ判断ス

ルガ故ニ別電通第九号「ニューヨーク、タイムス」所載ノ

如キ思想ヲ有スル議員専カラザル可キハ想像ニ難カラズト

思考ススノ如クシテ上院議員及一般公衆ガ本件ニ関シ一種

ノ僻見ヲ抱クニ至ラバ我方ノ主張如何ニ正当ナリト雖モ現

政府ハ勿論次ノ政府ヲシテ之ヲ認識セシムルコト困難ナル可ク延テ排日問題ニ関スル日米条約ノ運命ニモ影響ヲ及ボ

スコトアル可キヲ懸念セザルヲ得ズ就テハ此ノ際速ニ米国

政府ノ照会ニ対シ回答ヲ発シ彼我往復ノ次第ヲ詳細発表スル方得策ナリト思考スルニ付至急御詮議ノ上予テ稟請ノ通り當方へ御内示アランコトヲ希望ス

二八三 二月七日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第一分科会開催ノ際其決議ニ対スル我政府ノ

意図等ニ付請訓ノ件

通第一一号

(二月八日接受)

二月十一日午後三時第一分科会ヲ開会スベキ旨二月四日附

書面ヲ以テ「デヴィス」部長ヨリ通告シ来レリ帝国政府ニ

於テ第一分科会決議中ノ「レコンメンデーションス」ヲ承認セラルルヤ否ヤハ全然別問題トン前記分科会愈々開催ノ

場合ニハ元來委員タル本使ハ当然之ニ出席スベキモノト思考スルニ付此際右決議ニ対スル政府大体ノ御意図本使心得迄ニ承知シ度ク又獨線處分問題解決案ニ付其後御詮議ノ次

第モアラバ此又至急御電報ヲ請

尚本件ニ付当地英仏大使ニ間接ニ問合セタル処仏国大使ハ

政府ノ訓令ヲ請ヒタル上ニアラザレバ今回ノ會議ニ出席スルノ權限ヲ有セザルヲ以テ早速本国ニ電報シタル趣ニテ英

国政府代理大使モ同様ナリ  
在英仏独伊各大使並ニ在蘭公使ヘ転電セリ

二八四 二月十日

内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

## 第一分科会開催ニ際シ政府ノ方針訓令ノ件

(附記一) 右ニ関スル電報案文

## 二 通信省ノ意見

第五九号 至急

貴電通第一一號ニ関シ

(1) 第一分科会決議ノ「レコンメンデーションス」中旧独線ノ分配及運用ニ関スル審議ノ継続並本年一月一日ヨリ千九百十九年五月三日ノ「プロトコール」ニ基ク現在ノ運用状態終止スルニ至ル迄旧独線運用ノ継続及右運用ヨリ生スル収入ノ配当方ニ関シテハ異存ナシ

(2) 本月十五日迄ニ最終処分ニ関スル協定成立セサル場合ニハ會議ハ直ニ新ナル暫定協定ノ商議ニ着手スヘキ旨ノ建議ニ付テハ時日切迫ノ日本月十五日迄ニ最終処分ヲ決定スルカ如キハ殆ント不可能ナルヘキノミナラス結局運用ノ現状ニ変更ヲ加フルコトナルヘキ新協定ハ出来得ル限り之ヲ避ケ度キニ付右期日ヲ過クルモ直ニ新協定ノ商議ニ入ルコトナク最終処分問題ノ解決ニ全力ヲ尽スコトシタシ

ラレタシ尚本月十五日迄ニ独線最終処分ニ関スル協定成立セサル場合ニ設クヘキ新ナル暫定協定ニ対シ我方ノ執ルヘキ態度ニ就テハ追テ電訓スヘキモ右ニ付御意見アラハ電報アリタシ  
在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

(欄外註記)

「海軍側ハ同意シタルモ通信省ニテ意見アリタル為改案ノコトトス」

(附記二)

通信省案

(二月十一日接受)

第一六二号

在英園林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 第一分科会開催ニ對スル英國政府ノ意嚮報告

ノ件

難シ

四、右ノ趣旨ニテ他ノ関係國大使ト連絡ヲ取リ是等諸国ヨリノ回答ヲ俟チテ然ルヘク措置ヲナスヘキコト  
尚独線最終処分ニ関シテハ既定方針ニ従ヒ我要求貫徹方尽力セラレタシ

二八五 二月十日

在英園林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ノ件

(二月十一日接受)

閣下宛在米大使発電報通第一一號ニ関シ八日次官補「チレル」英國政府ハ在米代理大使ニ對シ第一分科会出席ヲ訓電

シタル旨ヲ内話シタルニ付永井ハ試ニ右會議ノ上何等力解決シ得ル見込アリヤ英國政府今後ノ方針如何ヲ問ヒタル処同官ハ今後ノ發展ハ日仏兩國政府ノ意向ニ係リ他方「デヴィス」ハ近々退官ス可ク米國政府内何人ガ實際立策ノ衝ニ當リ居ルヤヲ突止メザレバ予測シ兼ヌト述べ第一分科会再開ニ望フ嘱シ居ルモノト認メラレザリシ由ナルガ尚永井ハ

貴電第五四号(1)ノ点ニ言及シ同官ニ誤解無キヲ確メタル後來スヘキ新暫定協定ニ関スル商議ヲナスコトニハ同意シ  
三、從テ右最終処分決定セサル場合ニ運用ノ現状ニ変更ヲ  
決議ニハ異存ナシ)

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二八五

(2) 仍テ貴官ハ英仏委員ニ対シ前項ノ方針ニ賛同ヲ求メ三国共同ノ主張ニ依リ米國側ヲシテ之ヲ承認セシムルニ努メラレタク万一右ノ方針會議ノ容ルル所トナラサル場合ニハ新ナル暫定協定ノ商議ニ同意セラルモ差支ナシ尤モ其ノ場合ニ於テモ五月三日ノ「プロトコール」ノ効力ニ関スル貴官ノ留保ヲ維持スヘキハ勿論ナリ

(4) 尚独線処分ニ関シテハ既定ノ方針ニ従ヒ我要求貫徹方精々尽力セラレタシ

在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

(附記一)

内田外務大臣ヨリ在米國幣原大使宛電報案  
第一分科会開催ニ際シ政府ノ方針訓令案ノ件

第一号

貴電通第一一號ニ關シ

政府ハ五月三日ノ「プロトコール」ニ関スル貴官留保ノ下ニ決議中ノ「レコンメンデーションス」ヲ承認シ差支ナキ意嚮ナルニ付貴官ハ他ノ関係國大使ト連絡ヲ執リ是等諸国ヨリ回答ノ時期ヲ俟チ右ノ旨會議ニ通告セラレタク又独線処分ニ關シテハ既定ノ方針ニ従ヒ我要求貫徹方尽力セ

米國委員ノ態度如何ニモ理不尽ナリシヲ指摘シ日本ニ米國

ヲ不利ノ地位ニ陥ルノトスルガ如キ意図無キ血刃ハヤ述バタ  
ルニ同官ハ米国委員ノ態度ニ付英國委員モ同様ノ報告ヲナ  
シ居レリト語リタルニ付上記貴電工及ビ貴電第一二三号ノ要

点ニ関スル英國政府ノ意向ヲ問ヒタル處右ニ閲シテハ十日  
帰京ノ筈ナル「カーベン」卿ノ決裁ヲ仰グ手順ニ付内報ハ  
猶予ナン度シテ之ヲ避ケタル趣ナリ

在歐米各大使及ビ在蘭公使ヘ転電セリ

1186 1月十一日 日本外務省ヨリ  
在日本英國大使宛

曰独線ノ最終処分ノ協定決定セズ新ナル暫定  
協定にて場合ノ我主張ニ英仏協調方ニ關ハ  
ル覚書送付ヘ生

謹 記 1月十一日関係主任官銘議ノ決定

CONFIDENTIAL

In reference to your verbal request of the other day to be informed of the views of my Government regarding the recommendations made by the First Subcommittee of the Preliminary International Conference on Electrical Communication held at Washington, I

ceed to arrange an agreement for a new modus vivendi, the Imperial Government are of opinion that it is practically impossible to arrive at a final decision on the subject by the 15th instant, and that the Conference should, therefore, use its utmost endeavours, even after the above date, to arrive at a final disposition of the cables, instead of immediately entering upon negotiations for a new modus vivendi. Accordingly, instructions have already been issued to his Majesty's Ambassador at Washington to seek the support of the British and French delegates for the views above expressed and to endeavour to carry them into effect by the concerted action of the three Powers.

(右覺書ノ件)

覚書

帝国政府ハ華盛頓国際通信予備會議第一分科會議決議ノ  
「ノルマーナム」即ち旧独逸線ノ分配及運用ニ關ス  
ル議論ノ繼續並ニ本年一月一日より一千九百十九年五月三日  
ハ「アローネール」即ク現在ノ運用状態終止ニ至ル迄旧

enclose herewith for your information a confidential aide-mémoire which explains itself.

Yours very truly,

(國 緒)

Confidential

Aide-mémoire

Among the recommendations resolved upon by the First Sub-Committee of the Preliminary International Conference on Electrical Communications, held at Washington, the Imperial Government have no objection to the continuance of deliberations regarding the disposition and operation of ex-German cables, nor to the arrangement that on and after January 1, 1917, and pending the termination of the present regime of operation under the Protocol of May 3, 1920, various ex-German cables shall be operated as present.

As to the recommendation that, if an agreement is not reached by February 15th for the final disposition of the cables, the Conference should immediately pro-

獨逸線運用ノ繼續ニ閲シテ異存無キヤ本月十五日迄ニ付  
獨逸線最終処分ニ閲スル協定案成立セザル場合ハ會議ヘ直  
ニ新ナル暫定協定ノ商議ニ着手スベキ旨ノ建議ニ閲シテハ  
本月十五日迄ニ最終処分ノ決定ヲ見ルカ如キハ事実殆ト不  
可能ナルヘキニ依リ右期日経過スルヤ直ニ新協定ノ商議ニ  
入ルヨリ無ク最終処分問題ノ解決ニ全力ヲ尽サントスルノ  
意圖ヲ有スルヲ以テ在米英國大使ニ対シ右方針ニ付英仏委  
員ノ賛同ヲ求メニ國協調右主張ノ貫徹ニ努力スベキ様訓令  
シタツ

大正十年一月十一日

日本帝國外務省

(謹 記)

1月十一日関係主任官銘議ノ決定

旧独線ノ最終処分ノ協定決定セズ新ナル暫定協定ヲ行フ場合ハ  
於ケル我主張案ハ生

大正十年一月十一日陸、海、通、外、四省主任  
官協議会ノ決定

華盛頓大使會議ニ於テ旧独線ノ最終処分ニ閲シ協定成立セ  
ス新ナル暫定協定ヲナヘノ日ベナキニ至ル場合ニハ日本モ  
リ左ノ案ヲ主張ベルヲ適当ノ思考ベ

ヤ ャッパ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 1186

1151

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 一一八七

第一案 大正九年十二月十四日ノ決議ノ趣旨即チ一九一九

年五月三日ノ「プロトコール」ニ基ク現在ノ運用状態

終止スルニ至ル迄旧獨線ハ現在ノ如ク運用セラルヘク

但シ右運用ヨリ生スル収入ハ運用費ヲ控除シタル後之

ヲ旧獨線ノ最終処分方ニ応シ配当スヘキモノトスル協

定ヲ継続スルコト

第一案 第一案成立セサル場合ニハ海底線ノ現状ヲ変更セ

サル範囲内ニ於テ通信ノ戦前状態復旧ノ主義ヲ認ムル

コト

〔従テ太平洋線ニ閥シテハ「ヤップ」「グアム」線ノ通

信ヲ開始シ「ヤップ」端ハ日本ニ於テ又「グアム」端

ハ米国ニ於テ之ヲ運用スルコト

〔「ヤップ」「メナム」線ハ可成速ニ通信ヲ開始スルコ

トナシ右運用方法ハ日蘭間ニ協定スルコト

〔「ヤップ」那覇上海線ハ那覇上海間ヲ連結スルコト但シ米国側ノ要求アリテ〕ムラ得サル場合ニハ通信ノ効果ヨリ見テ不利ナルモ「ヤップ」日本局内ニ自働仲絶機ヲ置キ米国側通信ノ利便ヲ計ルコト

(説明) 右自働仲絶機ノ装置ニ依リ

一一五四

(イ) 「グアム」「メナム」間ヘ直通通信ヲナスコトヲ得

(ロ) 「グアム」那覇間ヲ直通通信トシ那覇上海間ハ那覇ニ於テ手送仲絶ヲナシ以テ「グアム」上海間ノ通信ヲナスコトヲ得

一一八七 二月十一日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第一分科会決議中ノ建議事項ニ閥スル各國ノ

意擧ニ付回報ノ件

通第一三三号 (一月十三日接受)

予定ノ通リ二月十一日午後三時國務省ニ於テ第一分科会第十一回会議ヲ開ク米国委員ノ外本使仏国大使英國代理大使

伊国委員「ブルンビル」出席ス

「デヴィス」議長ヨリ第一分科会決議中ノ建議事項ニ閥スル各國政府ノ意擧ヲ問ヒタルニ對シ先づ仏国大使ハ本国政府ヨリ訓令ナキ由ラ答ヘ本使並ニ英國代理大使モ同シク未だ訓令ニ接シ居ラズト答ヘ伊国委員ハ伊国政府ハ該決議ヲ承認シタル旨ヲ答ヘタリ

仏国大使ガ會議ニ出席スルコトニ就テスラ訓令ヲ受ケ居ラ

ザリシコトハ本使ニ於テ予メ承知シ居リ貴電五九号御来示

ノ如ク英仏側ト協議スルコト不能ナルノミナラズ先以テ一

般ノ形勢ヲ觀取スル方得策ト思考シタルニ付前記ノ如ク特

ニ未ダ訓令ニ接セザル旨答ヘ置キタル次第ナリ

次回ハ二月十五日正午開会ノ筈

在英仏独伊各大使並ニ在蘭公使ヘ転電セリ

一一八八 一月十四日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

ヤップ海底電線問題ニ閥スルタイムス紙華府  
通信ノ豊加報告ノ件

第一七四号情報

(一月十五日掲載)

The Times' Washington Correspondent 10/2, says

that although the public opinion favours good Anglo-American relations, there is a strong feeling on the question of the Yap Cable. Many Americans believe

Great Britain encouraged Japan in ignoring Wilson's oral reservations at Paris with regard to the nature of the Yap Cable control.

The question is now almost regarded as a test of British and Japanese sincerity in dealings with the United States who regard the case as an attempt to maintain the communications monopolies to the disadvantage of the United States.

The Marconi protest backed by Japan and Denmark

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 一一八八 一一八九

against the erection of wireless at Shanghai by the American Federal Company is understood to be supported by British Government. The American State Department views Marconi franchise as the monopoly contrary to the American communications policy and also not in harmony with the open-door policy on China. It is regarded likely that the above views is shared by Harding.

Hayashi

一一九〇 一月十六日 在米國幣原大使  
内田外務大臣宛 (電報)

**通信會議暫定取極ニ関スル政府ノ訓令執行ノ件**

別 聞 一月十六日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電  
報連第一五号

右ニ関ベル覚書

(一月十七日接取)

貴電第六四号ニ閔シ貴電第五九号御訓令ノ趣旨ニ基キ別電  
通第一五号ノ覚書ニ調製シ帝国政府訓令ノ主旨ニハ一月  
十一日土曜日仏國大使ニ、越ニテ十四日月曜日英國大使ニ

之ヲ内示シ置ケリ尚同十四日特ニ「ハガーベ」國務次官ハ  
會見ヲ求メタル上右覚書ヲ内示シテ我所見ヲ説明シ同官ハ  
英仏両國ヨリ回訓ナキニ日本ヨリ意見ヲ表示シタルノム  
付満足ノ意ヲ表シ十五日ノ會議ニ於テ之ヲ発表セラレタシ  
トハクリ貴電第五九号第一項収入配当ノ件ハ我方ニ於テハ  
痛痒ヲ感ゼアル問題ナルモ英仏ニ取リテハ大ナル關係アル  
ヲ以テ我方ガ率先シテ承諾ノ意ヲ表スルハ穩カナラズム思  
考シ特ニ覚書ニ省キ置キタル次第ナリ為念申添ハ  
在歐州各大使在蘭公使ニ転電セリ

(別 聞)

一一九一 一月十六日在米國幣原大使發内田外務大臣宛 (電報)

**通信會議暫定取極ニ関スル五月三日ノ議定書及委任狀**

通第一五号別電

The resolution of December 14, 1920, contains a recommendation that the Ambassadors of the respective countries shall, as far as possible, temporarily substitute those delegates who return to consult in person with their governments. That recommendation presents no difficulty so far as Japan is concerned. The Japanese

Ambassador continues to be a delegate to the Conference and has always been ready to take part in any meeting of the Conference that may be called.

Another recommendation embodied in the resolution of December 14 is to the effect that if no arrangement is reached by February 15, 1921, at the final disposition of the cables, the Conference shall immediately proceed to arrange a new modus vivendi, to become operative on or before March 15, 1921. Upon careful consideration of the whole situation, the Japanese Government are not persuaded of the possibility of formulating any new plan of modus vivendi which is likely to secure unanimous consent of all parties interested, so long as bases of a final disposition of the cables are left undefined. It therefore seems to be befitting that the Conference shall continue its endeavors to reach at a final arrangement, instead of a new modus vivendi.

In such endeavors, the Japanese Delegation is willing to cooperate with all the delegations.

在歐州各大使在蘭公使ニ転電セリ

Shidehara

一一九一 一月十六日在米國幣原大使  
内田外務大臣宛 (電報)

**独線処分ニ関スル五月三日ノ議定書及委任狀**

済ニ関スル五月七日ノ決議ニ付問合ノ件

通第一六号

(一月十七日接取)

本使發在仏大使宛電報第一号

米國側ニ独線処分ニ關スル五月三日ノ「ハガーベ」及委任統治ニ關スル五月七日ノ決議ハ共ニ各國代表者ノ署名セナキヤハナリトテ其施行力ヲ薄弱ナランメント試ニ居ル處右覚書及決議文ニハ果シテ各國代表者ハ「ホイヒ」又ハ「ハシナル」ナキヤ至急仏國政府ニ御問合ノ上御回電相煩シタシ  
外務大臣ニ転電セリ

一一九一 一月十七日在米國幣原大使  
内田外務大臣宛 (電報)

**独逸海底電線処分ニ關スル日本側主張ニ付米**

國國務次官ニ譲語ノ件

一一九一

一一五七

通第一七号 (二月十八日接受)

通第一四号中ニ申進シタル「デヴィス」國務次官ト会談ノ件左ニ電報ス

一、米国側ハ五月三日ノ「プロトコール」ニ代ユベキ新ナル暫行規定ヲ設クルカ或ハ右新ナル暫行規定成立セザル時ハ「プロトコール」ヲ消滅セシメントスルモノニシテ何レノ場合ニ於テモ其ノ目的トスル所ハ「プロトコール」ヲ消滅セシムルコトハ今ヤ益々明瞭トナレリ從ツテ「プロトコール」ヲ其ノ儘トシ最終処分ノ決定ニ向テ努力ヲ継続スベシトノ我主張ハ米国側ノ希望ト逆行スルモノナルヲ以テ突然会議ノ席上ニ於テ之ヲ提議スルトキハ直ニ米国側ト衝突ヲ來スコトアル可キヲ慮リタルノミナラズ他国ニ先ンジテ帝国政府ノ意見ヲ通告スルコトハ米国側ヲシテ我誠意ヲ認識セシムルコトトモナリ得ベシト思考シ特ニ十五日ノ會議ノ前日ニ「デヴィス」ト会見シタリ

二、予想ノ如ク「デヴィス」ハ日本ガ他国ニ先ジテ意見ヲ開示シタルコトニ付満足ヲ表シ日本ノ意見ニハ一理アリ同氏ニ於テモ果シテ新ナル暫行規定成立シ得ベキヤ否ヤニ付テハ疑フ挾マザルニ非ズト云ヘリ依テ本使ハ新ナル暫行規

定ニ付米国側ニ於テ何等成案ヲ有スル次第ナリヤニ就キ質問シタルニ「デヴィス」ハ全然之ナキモ要スルニ五月三日「プロトコール」成立前ノ状態ニ立戾リ五国ニ属スル電線ニ付五国ヲ全然均等ノ地位ニ置カントスルモノナリト云ヒ尚右「プロトコール」ニハ各國代表者ノ署名ナキモノナリト附言シ「プロトコール」ニ重キヲ置クノ穩當ナラザルコトヲ諷セリ

三、次ニ本使ハ日本ニ於テ獨線処分問題ヲ成ルベク速力ニ解決フタシトノ誠意ヲ有スルコトハ充分信用セラレタリ日英仏三国ガ聯合シテ解決ヲ妨グルト邪推セラルカ如キハ迷惑千方百ナリト云ヘルニ「デヴィス」モ三国ハ同様ノ地位ニ在ルカ故ニ互ニ聯合ノ規約トナレルハ自然ノ勢ニシテ仮令自分が三国聯合スト云ヒタリトモ惡シキ意味ニ取ラレザランコトヲ希望スト云ヘリ

四、次ニ本使ハ「ヤップ」問題ハ他国ニ於テ利害ヲ感ゼザルノミナラズ之ヲ通信會議ニ於テ決定スル事ハ不可能ナル可シ今回貴方ニ於テ本問題ニ付直接東京ニ照会ヲ發シ本問題ヲ普通外交ノ経路ニ移サレタルハ極メテ適當ナル可ク本問題ハ通信會議ヨリ引離シテ外交ノ経路ニ依リテ意

見ノ疏通ヲ計ルノ外ナシト思考スト述ベタルニ「デヴィス」ハ本件ニ付東京ニ照会ヲ發シタルハ日本政府ニ対シ卒直ニ米国ノ立場ヲ明示シ置カントノ精神ニ出デタルモノニシテ決シテ本使ヲ差シ置ク主義ニ非ズトテ申訳ヲナシタル処結局本件ハ外交上ノ経路ニ依リ解決スル事トシ通信會議トシテハ「ヤップ」ノ地位ニ関スル双方ノ主張ニ害ヲ及ボス事ナクシテ獨線問題ヲ解決スル事實的ナルヤモ知レズ但シ自分ハ何等直チニ「コムミット」スル事ヲ得ズト謂ヘリ

五、本使ハ進ンデ「ヤップ」ニ関スル米国主張ノ真意ハ單ニ米国ガ「ヤップ、グアム」線ノ「ヤップ」端ヲ運用セン

ト謂フニ在リヤト質問シタルニ「デヴィス」ハ一般的問題ハ今日解決スル事困難ナル可ク差当リ米国ノ運用權ノ点ノミナリトモ決定シ度シト答ヘタルヲ以テ本使ハ更ニ米国ガ運用セントセバ我ガ国法上困難ヲ惹起ス可キ事再三説明セル通リナルモ日本電信局ガ「ヤップ」海底線ノ端ヲ運用スルニ至ラバ「ヤップ」ヲ經由シテ米国電信所ニ発着スル通信ニ付出来得ル限リノ利便ヲ供与ス可キ事勿論ナリ尤モ通商貿易ノ現勢ニ徴スルニ日本ト蘭領印度トノ關係ハ米国ト

蘭領印度トノ關係ヨリ重要ナルガ故ニ電線運用ノ問題ニ付テモ此ノ点ハ篤ト考量ヲ加フル事ヲ要スト述べ置ケリ六、次ニ「デヴィス」ハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ハ困難ナル問題ナリトテ大統領ニ於テ同島ヲ一国ノ管理ニ帰セシムル事ニ反対セル事ヲ縷述シタルニ依リ当方ヨリハ牧野全權ノ反対説ニ言及シ尚本使ヨリハ大統領ガ六月二十八日ノ最高會議ニ於テ會議ノ決議ノミ有効ニシテ會議ニ於ケル論議ハ何等効力ナシト云ヘル事ヲ指摘シ「デヴィス」ヨリハ右大統領ノ言ハ单ニ大統領旅館ニ於ケル巨頭會議ノ事ニシテ俗ニ十人會議ト称セラルル正式會議ノ事ニ非ザル可シト謂ヘリ

次ニ本使ハ機会均等主義ニ関スル「ハウス」ノ意見ニ言及シタル處「デヴィス」ハ「ハウス」ノ言説ガ必ラズシモ米国政府ノ意見ヲ拘束スルモノニ非ザル事ヲ述べタルニ付本使ハ「ハウス」ハ大統領ト共ニ平和条約ニ調印シタル全然正式ノ代表者ナル事ヲ指摘シタルニ「デヴィス」ハ幾分窮セルガ如ク見受ケラレタリ

七、終リニ「デヴィス」ハ重ネテ日本政府ノ回答ハ一理アルモ只賛成スルヤ否ヤ不明ナリ兎モ角モ明日ノ會議ニ提出

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 一一九三 一一九四

セラレタシトハヒ更ニ数日後本使ト合議ス可シト謂クリ  
在欧各大使及在蘭公使へ転電セリ

一一九三 一月十七日 在米国幣原大使〔ラ  
内田外務大臣宛 (電報)

### ヤップ島問題ニ關ハ米國駐劄仏國大使ノ見解

#### 報告ノ件

通第一八号 (一月十八日接収)

一月十二日往電第一四号覚書ヲ仏國大使ニ内示セル際同大  
使ハ獨線問題ハ急速解決ノ望ミナキヲ以テ今日ノ運用ヲ繼  
続スヘキモ「モダス、ヴィヴェンダイ」ヲ協定スルノ外ナ  
カルシント云ヘルニ依リ本使ハ今日ノ運用ヲ繼續スル為ニ  
ハ既ニ一千九百十九年ノ「プロトコール」アリ別ニ新ナル暫  
行協定ヲナスノ必要ナシト注意シタルニ仏國大使ハ兎モ角  
先方ノ考ヘ居ル暫行協定ノ如何ナルモノナルヤラ確ムル必  
要アリト云ヒ最終処分ニ関スル論議ヲ繼續スルトモ纏マリ  
見込ナク徒ニ米國側ヲ怒ラスノミナリト云クリ  
尚仏國大使ハ「ヤップ」問題ハ困難ナル問題ナリ若シ日本  
ニ於テ此点ニ付何等解決ノ方法ヲ見出スニト得ハ世界平  
和ノ大局ニ貢献スル所鮮カラサルベク其場合ニハ仏國ニ於

the question of the disposal of the ex-German cables.

In answer to Baron Hayashi's enquiry as to the view held by His Majesty's Government with regard to the validity and operation of the Protocol of May 3rd, 1919 Lord Curzon has the honour to state that His Majesty's Government would not feel at liberty to withdraw from an agreement signed by Heads of

Governments without the consent of the other parties to such agreement, though His Lordship cannot say what view would be taken by other Governments as to their obligations under an agreement which has not been formally ratified.

Lord Curzon is gratified to learn that the Japanese Government appreciate the co-operation which has existed between the British and Japanese representatives at the International Communications Conference at Washington. His Majesty's Government hope that it will be found possible by the Japanese and United States Governments to arrive at an amicable settlement of

1140

テモ米国トノ海底電線問題ニ付充分讓歩スヘキコト疑フ容  
レスト云ヒ更ニ米国ノ戦争ニ対スル貢献ハ之ヲ認識セサル  
ヲ得ス從ツテ同盟諸国トシテハ余リ貪慾ナルカ如キ感触ヲ  
与フルノ主張ハ之ヲ避ケルコトヲ要スヘシトハヒ終リニ共  
和党ノ政府トナリテモ解決容易トハナラサルベク共和党ハ  
態度一層強硬ナルヘシト云ヘリ

在欧各大使及在蘭公使へ転電セリ

一一九四 一月十七日 在英國林大使〔ラ  
内田外務大臣宛 (電報)

### ヤップ島問題解決方策ニ關スル我方覚書二枚

#### シ英國回答ノ件

通第一八三号 (一月十八日接収)

往電第一一一一號頭覚書ニ對シ十五日附ヲ以テ左ノ通り回  
答アリタリ  
(A 731/26/45/)

The Secretary of State for Foreign Affairs presents his compliments to the Japanese Ambassador and has the honour to acknowledge the receipt of His Excellency's memorandum of the 28th ultimo, with regard to

the questions between them which were not solved at

Washington, and the Japanese Government may rely on a continuance of the relations between the two delegations which fortunately subsisted during the recent negotiations in the United States.

在歐各大使及在蘭公使へ転電ヤ

通第一九号 (一月十九日接収)  
ヤップ島問題交米回答案ニ關ハ意見稟申ノ件  
貴電第五一号ニ關シ何等御参考迄ニ本使ノ思シ浮ゞタル意  
見左ノ稟申ス

本件回答ハ可成速ニ発送セラル様致度シ又英訳文御確定  
ノ上ハ其ノ全文御電報ヲ請  
一、第一項ニ於テ本件議事録中帝国政府ノ入手セサルモノ  
アル事實ヲ強ク指摘スルベ或ハ他日ノ禍ヲナスコムヤト  
ルベキカト懸念セラルル付单ニ「帝国代表者ハ前記四  
月二十一日五六日及五月七日ノ會議ニ列席セサリン為

アヤップ島ヘ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 一一九五

1141

## 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二九五

二九六一

米国代表者カ当日如何ナル意見ヲ述ヘラレタルカラ確ム  
ルコトヲ得サルモ仮リニ右會議ニ於テ」ト記載スル方穩  
当ナラザルカ

一、「ウイルソン」大統領ハ最高會議ニ於ケル論議ヲ以テ  
単純ナル私的談話ト了解スル旨ヲ述ヘタルモ右ハ大統領  
旅館ニ於テ催サレタル一部ノ非公式会合ヲ指スモノニシ  
テ例ヘハ四月三十日又ハ五月一日ノ如キ會議ニ付テハ適  
用ナキコトト弁明スルノ余地ナキニアラサルカ如ク且之  
ヲ援用スルハ又他日我ニ不利ヲ来スコトモアルヘキニ付  
「尚右ニ関連シ帝国政府ハ凡ソ一ノ決議ニ到達スルニ先  
立チ各国代表者ノ述ヘタル意見ハ当然其決議ニ附帯スル  
留保ト解釈スヘキモノニ非サルコトヲ指摘セントス即チ  
「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治区域ヨリ除外セラレタル  
ヤ否ヤノ問題ハ」云云ト改メ又「何等公ノ効力ヲ有スル  
モノニアラスト断スルノ外ナキ次第ナリ」トアルヲ「何  
等決議ノ意義又ハ適用ヲ制限スルノ効力ナント信ス」ト  
改ムル方適當ナルカ如シ

二、第一項中 German islands ノ上ニ the ナル冠詞ヲ附  
スルコト必要ナルヘシ

右規約「云々ノ一句ヲ削除シ「決シテ「ヤップ」島ヲ除  
外スルノ意味ニ非サル事明カナリ」ト改メタシ  
六、第二項ノ末段ニ「而モ少數ニ止ル代表者」トアルハ  
「單ニ一國ノミノ代表者」ト改ムル方論旨強カルヘシ  
七、「ウイルソン」大統領ノ上院外交委員会ニ於ケル陳述  
カ如何ニ無意味ナルカヲ示サンカ為第三項ノ末段ニ左ノ  
通リ附記スル事有益ナル可キカ

「將又「ウイルソン」大統領ノ上院外交委員会ニ於ケル

陳述トシテ伝ヘラル所ニ依レハ大統領ハ That subject  
is mentioned and disposed of in the Treaty ト答ヘラ

レタル趣ニテ其旨責輸中ニモ援用セラレアル処右ハ條約  
中ノ如何ナル条項ヲ指サレタルモノナリヤ意義了解シ難  
シ何レニスルモ本件大統領ノ陳述ニ對シ帝国政府ニ於テ  
之ヲ國際的論議ノ問題トシテ米国政府ニ説明ヲ求ムルハ  
事態ノ性質上甚タ穩當ナラスト認ムル次第ナリ」

八、第四項ノ末段及第五項ニ「ジユネーブ」ニ於ケル聯盟  
理事会ノ決議ヲ援用セラレタル処右ハ米国政府ノ感情ヲ  
刺戟スル問題ニシテ殊ニ「メソポタニア」委任統治条項  
ノ問題ニ関連シ米国政府ハ曩ニ英國政府ニ説明ヲ求メ聯

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二九六

## 四、英仏両国政府ニ於テ米国政府ノ通牒ニ對シ「ヤップ」

島カ除外セラレサリシ旨ヲ回答セル日附其ノ他ノ事實ヲ  
余リ具体的ニ記載スルコトハ日本カ英仏両国ヲ說キテ此  
回答ヲナサシメタルカ如キ印象ヲ深カラシムルノ嫌アル  
ニ付「独リ帝国政府ノミノ解釈タルニ止マラシシテ英仏

両国政府ノ了解モ全然之ト符合シ客年十一月中米国政府  
ノ通牒ニ答ヘテ此趣旨ヲ明言セリトノ報アリ若シ貴官ニ  
於テ主張セラルル通リ」云云ト改メラル様希望ス

五、「赤道以北ノ太平洋ニハ旧独領以外ノ島嶼少カラサル  
関係上」云々トアル處此理由ハ赤道以南ノ太平洋諸島ニ  
付テモ同様適用アルヘク然ルニ赤道以南ノ諸島ニ關シテ  
モ certain ナル形容詞ナシトセハ却テ我論拠ヲ薄弱ナラ  
シムルノ嫌アルヤニ思考セラルルニ付右 certain ナル語  
ハ聯盟規約第二十二条第六項中 certain of the South  
Pacific islands トアル文句ニ起源スルニ止マリ又該項  
ニ此文句ヲ使用セルハ South Pacific islands 中旧独領  
以外ノ島嶼モ尠カラサル事實ヲ考量セルカ為ニ外ナラス  
現ニ英國政府ニ於テ「赤道以北ノ旧独領太平洋諸島」云々  
ト改メ又後段ニ於テ之ヲ重複記載スル為「單ニ其場合ニ

盟理事會又ハ主要同盟国カ米国政府ニ何等協議無クシテ  
委任統治条項ヲ決定スルハ米國ノ立場ヲ無視スルモノト  
シテ憤慨スル所ナルニ付此際右決定ヲ援用スル事ハ益々  
事態ニ紛糾ヲ加フルノ虞アリト思考ス就テハ特ニ必要ナ  
キ限り右決議ニ言及スル事ヲ避クル様致度

二九六 二月十八日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

### 第一分科会第十二回會議経過報告ノ件

通第二〇〇号 (二月十九日接受)

二月十五日正午第十二回會議開催午后一時閉会

一、「デヴィス」議長ヨリ仏国大使ニ対シ本国ヨリ回答アリ  
タルヤト問ヘルニ大使ハ先づ以テ質問シタキコトアリト  
テ新ナル暫行規定トハ如何ナル種類ノモノナリヤニ付之  
迄論議セラレタルコトアリタルヤト反問シタルニ「デヴィ  
ス」ハ右ニ就テハ何等議論ナカリシモ要スルニ各國ハ  
五月三日「プロトコール」成立以前ノ地位ニ立戻ルベシ即  
チ各國ハ共同ニ電線ヲ所有スルモノナルヲ以テ各國ヲ均  
等ノ地位ニ置キ今后電線ヲ如何ニ取扱フヤノ問題ヲ決ス  
ルニ付テハ五國全体ノ同意ヲ要スルコトトスベキナリト

答ヘタリ仏国大使ハ更ニ新ナル暫行規定ノ審議ヲナスコ  
トヲ承諾セバ現ニ電線ヲ運用シ居ル國ハ運用ヲ差止メラ  
ルル次第ナリヤト問ヘルニ「デヴィス」ハ然ラズト答ヘ  
大使ガ更ニ念ヲ推シタルニ対シ「デヴィス」ハ差止メラ  
ルルコトナシ只所有者全体ノ同意ヲ要スル次第ナリト答  
ヘタリ

其后一二応答ノ后仏国大使ハ突然若シ他ノ関係諸國ニ於  
テモ同意ナルニ於テハ仏国政府ハ十二月十四日ノ決議ヲ  
承認スルニ異議ナキ旨ヲ述べ「デヴィス」ハ之ニ対シ満  
足ノ意ヲ表シタリ

次ニ仏国大使ハ各國代表者全体集リテ會議ヲナスヨリハ  
諸國別々ニ意見ノ相違アル國トノ間ニ個別の談判ヲナス  
方解決ニ達スル便法ナルベシト思考スルニ付右ノ方法ニ  
依リタシト提議シ「デヴィス」ヨリ個別談判ニ於テ協議  
成立シタル時ハ之ヲ會議ニ提出スル趣旨ナリヤト問ヒ大  
使ハ其通りナリト答ヘタリ

二、夫レヨリ「デヴィス」ハ英國代理大使ニ對シ英國政府  
ノ回答ニ接シタリヤト問ヒ代理大使ハ英國政府ハ未ダ何  
等決定ヲナスニ至ラズト答ヘ「デヴィス」ガ決定ヲナス

ベシト信ズベキ兆候アリヤト突込ミタルニ代理大使ハ何  
等兆候ナキモ個別談判ヲ試ムベシトノ仏国大使ノ提議ハ  
英國政府ノ全然賛成スル所ナリト信ズト云ヒ尚英國ガ之  
迄本件ニ付大ニ努力シタルモ解決ニ至ラザリシモノナル  
ヲ以テ今回ハ予備的措置トシテ先づ個別談判ヲナシ果シ  
テ解決ニ達スル見込アリヤ否ヤヲ判談スルコト適當ナル  
ベシトノ趣旨ヲ述ベタリ

三、次ニ「デヴィス」ハ仏国政府ノ意見ヲ問ヘルニ付本使  
ハ通第一五号ノ通り陳述セリ

右ニ對シ「デヴィス」ハ仏国政府ノ態度ニ鑑ミ本使ヨリ  
更ニ帝国政府ノ意図ヲ問合ス事トシタキ旨ヲ述べ尚新ナ  
ル暫行規定ヲ決定スルハ容易ナラザルベシトノ意見ニハ  
同意ヲ表スル次第ナルモ若シ五月三日ノ「プロトコール」  
ノ解釈ニ関シ現ニ存スル誤解ヲ除去シ以テ各國ヲ均等ノ  
立場ニ置ク時ハ電線分配ノ決定ヲ容易ナラシム可キヲ疑  
ハズト云ヘリ本使ハ我方ノ意見ハ若シ新ナル暫行規定ヲ  
決定シ得可シトセバ更ニ少許ノ努力ヲ為シテ最終処分ニ  
到達シ得ベシト云フニ在ルモ新ナル暫行規定ニ付具体的  
ノ案アラバ之ヲ考量スルニ客カナラザルベシト述ベタル

ニ「デヴィス」ハ帝國政府ニ於テ仏国政府ト同ジク決議  
ヲ承認スル様本使ヨリ電票セラレ度キ旨重ネテ懇願シタ  
ルニ依リ本使ハ電報スペシント答ヘ置キタリ

四、当日會議ハ大体前記ノ通リニシテ之ヲ約言セバ左ノ通  
リ

(イ)米国側ハ五月三日ノ「プロトコール」ヲ消滅セシムル  
事ニ向ツテ益々全力ヲ注ギツツアリ

(ロ)仏国大使ハ十二月十四日ノ決議ヲ承認スルニ異議無キ  
旨ヲ述ベタルノミニテ「プロトコール」ノ効力ニ関スル  
仏国ノ留保(客年通第一七七号)ヲ維持スルヤ否ヤヲ明  
言セズ加フルニ当日仏国大使ト「デヴィス」トノ応答モ  
極メテ曖昧ナリシヲ以テ若シ仏国ニシテ其留保ヲ維持ス  
ルノ意嚮ヲ有スルトスルモ右意思ハ或ハ「デヴィス」ニ  
ハ通ジ居ラザルベシト想像セラル現ニ当日會議後英國代  
理大使本使ヲ來訪シ來リ仏国大使ニ於テ充分事態ヲ了解  
シ居ルヤ否ヲ疑ハザルヲ得ズト云ヘリ本使ニ於テモ聊カ  
心許無ク感ジタルニ依リ間接ノ方法ヲ以テ一応仏国大使  
ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

在歐州各大使在蘭公使ヘ転電セリ

~~~~~

五、英國代理大使ノ一般ノ態度ニ依リ推察スルニ英國政府
七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二九六

トナラズ右米國政府ノ立場ハ充分日本政府ニ徹底スル様報
告セラレン事ヲ望ムト云ヘリ（二十三日）

二九九 二月二十三日 在仙國石井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

会議長ニ対シ抗議書ヲ提出ノ件

別電 同日在仏國石井大使登

二七七号甲

同右電報第二七八号乙

(二月十六日接受)

往電第二二六九号ニ閲シ米国ノ意見書ハ本二十三日朝理事會議長ノ許ニ達ス右ハ二十一日附國務卿「コルビー」氏ヨリ理事会議長ニ宛テタルモノニシテ第一項トシテ昨年十一月二十日附國務卿ヨリ英国外務大臣ニ送レル公文写ヲ添ヘ委任統治ニ關スル米国政府ノ地位ヲ言明シ其内別電甲ノ一節アリ第二項トシテ「ヤップ」島ハ日本ノ統治ニ包含スヘキモノニアラザルヲ主張シ十二月十七日「ゼネヴァ」ニ於ケ

交換ノ後之ヲ各本国政府ニ電稟スルコトシテ散会シタリ
右懇談中「バルフォア」氏ハ「太平洋独領ニ関スル日英
ノ取極ハ一九一七年自分カ渡米セシトキ親シク大統領ニ内
話セシ所ニシテ之ヲ知ラスト云フカ如キハ奇聖千万ナリ

二月二十三日在仏国石井大使堀内田外務大臣宛電報第二七七号
甲 委任統治ニ関スル米国政府ノ地位言明ノ件

The attention of the Council of the League of Nations is particularly invited to the request therein made on behalf of this Government that the draft mandate forms intended to be submitted to the League of Nations to be communicated to this Government for its consideration before submission to the Council of the League, in order that the Council might thus have before it an expression of the opinion of the Government of the United States on the form of such mandate and a clear indication of the basis upon which the approval of this Government, which is essential to the validity of any determinations which may be reached, might be anticipated and received.

在欧米各大使へ転電セリ
（別電一）

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 二九九

(別電) 一月二十三日在仏國石井大使堯内田外務大臣宛電報第二七八号

ノルマニヤハ威權處於公證題 1 卷 11六六

This Government is also in receipt of information that the Council of the League of Nations, at its meeting at Geneva on December 17 last, approved among other mandates, a mandate to Japan, embracing "All the former German islands situated in the Pacific Ocean and lying north of Equator." The text of this mandate to Japan, which was received by this Government and which, according to available information was approved by the Council, contains the following statement: where-as the Principal Allied and Associated Powers agreed that, in accordance with Article 22, Part 1 (Covenant of the League of Nations) of the said Treaty, a mandate should be conferred upon His Majesty the Emperor or of Japan to administer the said islands, and have proposed that the mandate should be formulated in the following terms, etc.

The Government of the United States takes this

stipulate that the question of the disposition of the Island of Yap should be reserved for future reconsid-eration. Subsequently this Government was informed that certain of the Principal Allied and Associated Powers were under the impression that the reported decision of the Supreme Council, sometimes as the Council of four, taken at its meeting on May 7, 1919, included or inserted the Island of Yap in the proposed mandate to Japan. This Government, in notes addressed to the Governments of Great Britain, France, Italy and Japan, has set forth at length its contention that Yap had in fact been excepted from this proposed mandate and was not to be included therein. Furthermore, by direction of President Wilson the respective Gov-ernments above mentioned were informed that the Gov-ernment of the United States could not concur in the reported decision of May 7, 1919, of the Supreme Council. The information was further conveyed that the reservations which had previously been made by

opportunity respectfully and in the most friendly spirit to submit to the President and Members of the Council of the League, that the statement above quoted is incorrect and is not accurate recital of the facts. On the contrary, the United States, which is distinctly included in the very definite and constantly used descriptive phrase "the Principal Allied and Associated Powers", has not agreed to the terms or provisions of the mandate which is embodied in this text, nor has it agreed that a mandate should be conferred upon Japan covering all the former German islands situated in the Pacific Ocean and lying north of the Equator.

The United States has never given its consent to the inclusion of the Island of Yap in any proposed mandate to Japan, but, on the other hand, at the time of a discussion of a mandate covering the former German islands in the Pacific Ocean north of the Equator, and in the course of said discussion, President Wilson, acting on behalf of the Government, was particular to

this Government regarding the Island of Yap were based on the view that the Island of Yap necessarily constitutes an indispensable part of any scheme or practicable arrangement of cable communication in the Pacific and that its free and unhampered use should not be limited or controlled by any one Power.

While this Government has never consented to the inclusion of the Island of Yap in the proposed mandate to Japan, it may be pointed out that even if one or more of the other Principal Allied and Associated Powers were under a misapprehension of this Island in the reported decision of May 7, 1919, nevertheless the notes above mentioned of the Government of the United States make clear the position of this Government in the matter.

At the time when the several Notes were addressed to the respective Governments above mentioned a final agreement had been reached as to the terms and allocation of mandate covering the former German

islands in the Pacific. Therefore the position taken in the matter by the President on behalf of this Government and clearly set forth in the notes referred to necessarily had the result of effectively withdrawing any suggestion of implication of assent mistakenly imputed to this Government long before December 17, 1920, the date of the Council's meeting at Geneva.

As one of the Principal Allied and Associated Powers, the United States has an equal concern and inseparable interest with other Principal Allied and Associated Powers in the overseas possession of Germany and conceded by an equal voice in their disposition which it is respectfully submitted can not be undertaken or effected without its assent. The Government of the United States therefore respectfully states that it can not regard itself as bound by the terms and provisions of said mandate and desires to record its protest against the reported decision of December 17 last, of the Council of the League of Nations in relation

thereto and at the same time to request that the Council, having obviously acted under a misapprehension of the facts, should reopen the question for the further consideration which the proper settlement of it clearly requires.

Ishii

在歐米各大使へ轉電ヤリ

11月14日 内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第八
在米國幣原大使宛(電報)

ヤシナト島問題米回答案ノ件向修正ニ關ハ回

郵ノ件

同日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第八

右修正回答英訳文

第八1号(極秘)

貴電通第一九号(閑)

丁貴電① German islands の前「定冠詞ヲ附ベルノ点」
講和會議書記局ニ「帝国全權」ノ通知ハ客年往電第三
六三〇号ノ通り定冠詞アルモ其ノ後ニ至リ在仏大使カ秘密
「仏國側」ノ入手シタル「昨年五月六日」ノ最高會議議事

録ハ依ニ同日ハ決定ハ定冠詞ナク又最近到着シタル聯盟理事會ニ總領事提出シタル Responsibility of the

League arising out of Article 22 (Mandate) ナル臣屬物母五日七日ハ決議ノ記載スル所ニ據ニヤ(貴官)
転電済ナル聯盟總會帝国代表発本大臣宛電報客年第九九
号参照) 亦定冠詞ナク旁講和會議書記局ニ「帝国全權」
ノ通知ハ定冠詞アルハ故意カ又ハ過失カノ結果「出テタル
ヤノ疑アル」以テ此ノ際ノ回答ニハ態ト之ヲ省略スル
ローテンタルヤニ付右様御承知置アリ度ク

①貴電②ノ点ハ其ノ後右ノ部分ニ付「マイテ」博士ニヤ
篤ト協議シタル處同博士ヨリ規約第一二二条第六項ノ

Certain of the South Pacific islands ナル文句ハ中央阿

弗利加ハ田独領以外ノ地域アリモ拘ハラス同条第五
項ニ單ニ those of Central Africa ナルリ対比スルト

キハ文理上ニ於テハ寧ロ田独領南太平洋諸島中ノ或モノ
ヲ意味ストノ解釈ヲ生シ從ツテ右ノ文句ヲ以テ南太平洋
ハ田独領以外ノ島嶼セカラサル事實ヲ考慮シタルニ

依ルト為スハ必ベシヤ「ノハシハシング」ニトカラサルカ
故ニ右ノ部分ハ他ノ面ニ回ハシ方ニ改ムルヲ可レバシ

セヤッパ島ノ地位及田独逸海底電線處分問題1件 1100

(別電)

11月14日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第一二一號
ヤシナト島問題米回答英訳文

11211

第六回 | 帝國論

Monsieur le Chargé d'Affaires,

(ササキ)

1. In support of the argument advanced by the Government of the United States the following points are enumerated in your note; first, that, in the course of various discussions in the Supreme Council and the Council of Foreign Ministers at the Peace Conference, (namely at the meeting of the Supreme Council on April 21st, 1919, and at the meeting of Foreign Ministers on April 30th and May 1st, 1919), the President and Mr. Lansing, the then Secretary of State of the United States, respectively gave utterance to a view that the Island of Yap should be internationalised or that it should not pass into the hands of any one Power; next, that, at the meeting of the Supreme Council held on May 6th, 1919, Mr. Lloyd George employed the words "certain islands" in giving expression to what he understood to be the territories to be

committed to the charge of Japan; and lastly, that, according to the minutes of the meeting of the Supreme Council of May 7th, 1919, no discussion took place on that day in respect to mandates, and that although there exists a memorandum, appended to the minutes of the meeting of May 7th, which purports to be a codification of the agreement reached at the meeting of May 6th with reference to the North Pacific islands such memorandum does not expressly include all the islands in the North Pacific. Of the meeting referred to, it must be noted that the Imperial Delegates were not present at the meetings of the Supreme Council of April 21st, May 6th and May 7th and in consequence the Imperial Government have no means of ascertaining what views were expressed by the American Delegates at those meetings. Assuming, however, that President Wilson did in fact give utterance at those meetings to such views as are ascribed to him, this cannot warrant the United States Government as against the Imperial

Government, in going beyond asserting as a fact that President Wilson or Mr. Lansing gave it as his opinion before the Supreme Council and the Council of Foreign Ministers, at some time previous to May 1st, 1919, that the Island of Yap should be internationalised, or that it should not pass into the hands of any one Power. In the opinion of the Imperial Government such a fact argues in no way in favour of the contention of the American Government that the Island of Yap stands outside the islands that it was decided should be held under the mandate by Japan unless they can establish at the same time the further fact that the representations of President Wilson and Mr. Lansing were accepted by the Council and that the latter decided to exclude Yap from the mandatory territories assigned to Japan. In order to maintain successfully, therefore, that the Island of Yap is not included in the mandate territories assigned to Japan, the Imperial Government consider it necessary for the American Government to prove, not

merely the fact that the particular line of views was stated at the meetings, but also that the meeting decided in favour of those views. Further in this same connection, the Imperial Government would point out that views expressed by the delegates previous to arriving at a decision are not necessarily to be interpreted as reservations naturally attached to the decision. It follows that the question whether the Island of Yap is excluded from the mandatory territories assigned to Japan must be judged from the decision of May 7th, by which the Mandatory Powers and their mandatory territories were for the first time and at the same time finally decided upon, and it must be concluded that whatever utterances may have been made previous to that date were only preliminary conversations that took place before the decisions were reached, and in themselves possessed no such cogency as to qualify the meaning or limit the application of the decision. This conclusion is the more irrefutable since the Imperial

Delegation never expressed their agreement, whether at any meeting of the Councils or elsewhere, with the above stated views of President Wilson or of Mr. Lansing.

Furthermore Viscount, then Baron, Makino announced distinctly his disagreement with them at the meeting of Foreign Ministers held on April 30th, 1919.

2. A view is advanced further in the Note under reply that, if Yap was meant to be included among the islands assigned under the mandate to Japan, then the decision of May 7th, 1919 should have been drafted in more specific language than is the case. In the opinion of the Imperial Government, however, it is more in accordance with sound principles of interpretation to say that the fact should have been set down with especial clearness if exclusion were meant, as an exception always requires to be stated expressly. To assert that the fact of non-exclusion should have been specifically mentioned in a decision of this kind could only be regarded as an extraordinary and even

an unreasonable contention with which no one would be likely to concur.

It must also be remembered that if a decision in favour of the exclusion of the Island of Yap—a question of grave concern to Japan, and one on which the Japanese Delegation invariably maintained a firm attitude—had really been made, as is implied by the argument of the United States' Government, at the meeting of May 7th, at which Japan was not represented, it could not but have been regarded as an act of entirely bad faith. It is, therefore, inconceivable to the Imperial Government that such a decision could have been reached at a meeting at which no Japanese Delegation was present. Since the decision under consideration says on the one hand "German islands" and on the other, does not make any exception of Yap, the Imperial Government regard it as perfectly clear that the ex-German Pacific islands north of the equator, with no exception whatever, all belong to the mandatory territory allocated

to Japan. Nor are the Imperial Government alone and unsupported in their interpretation of the Decision, for they are in receipt of authentic information that the Governments of Great Britain and France being of the same opinion as Japan on the matter, made statements to that effect in their replies to the American Note in November last. If the decision incorporated in the memorandum appended to the minutes for May 7th be one which was really reached at the meeting of the Supreme Council held on May 6th, as represented in the Note under reply, then the inevitable conclusion will be that, inasmuch as the meeting held on the latter date (i.e. May 6th) was that of the heads of Delegations of the United States, Great Britain and France, the contention of the American Government is tantamount to saying that President Wilson by himself arrived at an understanding which differed from that of all others present, a conclusion difficult to understand.

Again, a reference is made to the use of words

"certain islands" by Mr. Lloyd George at the meeting of the Supreme Council held on May 6th, 1919, as tending to prove the exclusion of the Island of Yap. Granting for the sake of argument that the words "certain islands" occur in the minutes for May 6th, the use of such a phrase is perfectly natural and easy to understand without supposing it to refer to the exclusion of Yap. There are other islands in the South Pacific North of the Equator, which did not belong to Germany and it does not appear how better Mr. George could succinctly describe the islands to be allotted to the Japanese mandate in that region, than as "certain islands". "Certain" is a word which is far from appropriate to mean "all but one", and had he had the exclusion of a single island such as Yap in mind, he would have been almost sure to have explicitly mentioned it. Seeing that the British Government adopts the interpretation that it was decided at that time that all the ex-German Pacific islands north of the equator

were to be assigned under the mandate to Japan, it is obvious that in employing the words, Mr. Lloyd George can not have intended to signify the exclusion of the Island of Yap.

To sum up, since in a matter of such a grave nature as the establishment of mandatory territories, only what expressly appears on the face of the decisions should be accepted as authoritative, the Imperial Government can not agree in giving an extraordinary and unusual interpretation to the decision on a vague ground that certain thoughts or intentions not expressed in the text thereof existed in the mind of the delegate of one Power only.

3. The decision of May 7th, 1919 was made public on the following day, the 8th. If the published text of the decision differed in sense from what was understood by the Government of the United States to be its meaning the latter should have, and would naturally have been expected to have, entered an immediate

lodge a protest and have the errors, if any, rectified. In the latter case, however, no third Power is called upon to make any refutation or correction and consequently the fact that there was no nation which took it upon itself to make any adverse comment has no bearing whatever on the matter under consideration.

4. On the strength of Article 3 of the obsolete draft mandate covering ex-German islands in the Pacific north of the equator, submitted to the Supreme Council on December 24, 1919, it is contended in the Note under reply that no definite agreement had yet been reached as to the final disposition of all the ex-German islands in the Pacific north of the equator. The Imperial Government would point out that this Article was intended solely to provide a means of settlement, in view of any dispute that may arise as to boundaries or the assignment of lands. Such provisions were by no means confined to the particular draft in question but there were also found similar provisions in all orig-

inal draft mandates covering other territories, which were simultaneously submitted to the same meeting. If the American contention in this connection is to be upheld, it must needs follow that all the mandatory territories are liable to be honeycombed by exceptions or exclusions. But such a conclusion is wholly at variance with facts and cannot be thought by any one to be convincing. Consequently the reference made to it in the Note under reply, tends, in the opinion of the Imperial Government, in no way to strengthen the contentions of the United States Government.

5. In the concluding part of the Note under reply it is observed that even on the assumption that the Islands of Yap should be included among the islands held under the mandate by Japan, it is not conceivable that other Powers should not have free and unhampered access to and use of the island, for the landing and operation of cables. If this observation is put forth irrespective of the fact that the island is within the

mandatory territory, then the question seems to be one which should be freely settled by the nation which has the charge of the place, namely Japan. If the meaning be, however, that owing to the nature of the mandate the island should have its doors kept open,

the Imperial Government would draw attention to the fact that at the meeting of the Commission on Man-

dates, held on July 8th, 1919, Colonel House opposed Count (then Viscount) Chinda's claim that the same

equal opportunities for commerce and trade should be guaranteed in territories belonging to the C class as in those belonging to the B class. In view of the position thus taken up by the American Delegate the Imperial Government feel obliged to state that in their opinion the American Government cannot with justice contend for the open door in the C class territories, at least as against Japan, and to inform the United States Government, at the same time, that they cannot consider themselves bound in any way to recognise the

日本ト蘭領印度間ノ通商關係ハ日々増加シツツアルヲ以テ
「ヤップ」ト「メナド」トノ聯絡ハ蘭國ニ取り大ニ重キヲ
置ク処ナリ

三〇二 二月二十六日 在任國石井大使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

議長宛抗議書ノ冒頭部分追報ノ件

別電
二月二十七日在仙國石井大使館內由外務大臣

二 同右電報第二九八號乙

右冒頭部分

(二月二十八日接受) 第二九六號

委任統治条項ニ対スル米國ノ抗議ハ本月二十五日當地ニ於

テ公表セラレタル処右抗議全文ハ往電第一七七号（別電）

(別電乙) 冒頭ニ別電乙(往電第二九八号)ヲ加ヘタルモ

(別
電二)

二

(司 電 一)
〔一月〕十七日在松園石井大使堯内田外務大臣宛電報第一九七號
別電甲
抗議書第一九七號別電甲ノ頭部分
第1九七號別電甲

Government of the United States has received information that Council of League of Nations, at its meeting, which is to be held in Paris on this date, proposes to consider at length subjects of mandates including their terms, provisions and allocations and accordingly takes this opportunity to deliver to Council of League of Nations a copy of its note addressed under date of November 20, 1920 to His Excellency Lord Curzon of Kedleston, British Secretary of State for Foreign Affairs, in which views of United States are fully set forth regarding nature of responsibilities of mandatory Powers.

freedom of other nations, in the manner insisted upon by the American Government, in regard to the landing and the operation of cables, even in places where the principle of the open door is to be guaranteed. (上諭)

三〇
二月二十五日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

使ノ談話報告ノ件

(一月二十六日接受) 通第二二号
最近帰華セル蘭国代理公使二月八日來訪「ヤップ、メナード」線ニ付左ノ通リ語レリ
蘭国側ニ於テ「ヤップ、メナード」線ヲ利用シテ「グアム、メナード」間ノ直通線ヲ敷設スル希望ヲ有スルノ「グラウル」ノ談話(客年通第四〇号参照)ニ付海牙滯在中取調タル處英國側ニ於テ大ナル誤解アルコトヲ発見セリ即チ Le Roy ハ「ヤップ、メナード」線ニ付面倒起リ適當ノ協定成立セザル時ハ別ニ「メナード、グアム」間ニ新線ヲ敷設スル考案ヲ英國会社社長ニ述ベタルコトアルモ右ハ同人一個ノ考案ニ止マリ蘭国政府ニ於テ何等承認セルモノニアラズ今ヤ

一一四|十七日在仏國石井大使宛内田外務大臣宛電報第一九八号
別電ノ
抗議書ノ第|一七八号別電ノヘ圖頭部分

第一九八号別電ノ

It was furthermore stated in said note that establishment of mandate principle, a new principle in international relations and one in which public opinion of world is taking special interest, would seem to require frankest discussion from all pertinent points of view and opinion was expressed that suitable publicity should be given to drafts of mandates which it is

intention to submit to council in order that fullest opportunity might be afforded to consider their terms in relation to obligations assumed by mandatory powers and respective interests of all Governments who deem themselves concerned or affected.

A copy of this note was transmitted to Governments of France and Italy requesting an interpretation by each Government of provisions of agreement between Great Britain, Italy and France, signed at Sèvres on

右通牒中ニ於テ特ニ國際聯盟理事會ノ注意ヲ懇請ヤント欲スルベ國際聯盟ニ提出セラルヘキ委任統治形式原案ハ聯盟理事会ニ提出ベルニ先チ合衆國政府ニ通報アリタキ旨ノ當政府ノ要求ナリトス蓋シニ依リテ理事会ハ委任統治ノ形式ニ闕スル合衆國政府ノ意見ヲ徵シ且ソ如何ナル決定ニ就キテモノノ有効ナルカ為ニ必要ナル当政府ノ贊同カ予知セラム且之ヲ受クヘキ基礎ノ明確ナル表示ヲ得ヘキヲ以テナリ

尚右通牒ニ曰ク「委任統治ノ原則ハ國際關係ニ於ケル新原則ニシテ万国ノ輿論ニ特別ナル興味ヲ惹起シタルモノナレバ之カ確立ハアラヨル見地ヨリ最モ晦憚ナキ討議ヲ経ルヲ要シ且受任國ノ負担セル義務並ニ関係各國政府ノ利害ニ関連シ委任統治条項ヲ考慮スルニ充分ナル機會ヲ与フル為國際聯盟理事会ニ提出ヤハスベル委任統治原案ハ之ヲ適切リ

公表スヘキモノトベ」ヘ

右通牒字ハ仏伊両國政府ニ之ヲ送附シ両國政府カ「アナンリト」ニ於ケル勢力範囲ノ創設ニ關シ千九百二十一年八月十日「ヤーヴル」ニ於テ調印セラシタル英仏伊協定ノ条項ノ解釈ニ千九百二十一年十一月二十一日附合衆國政府ノ対英通牒

August 10, 1920, relating to creation of spheres of special interests in Anatolia, in light of this government's note to British Government of November 20, 1920. A reply has thus far been received only from French Government in which attention is directed to Article of so-called Sèvres Treaty which provides in favour of nationals of third powers for all economic purposes free access to so-called zones of special interest.

Ishii

(蓋 署)

ヤッパ島委任統治ハ闕シ合衆國政府ニリ聯盟理事会ニ署由シ々

ニ一九二一年一月二十一日附抗議書全文和訳文

合衆國政府ハ國際聯盟理事會カ本日日本里ニ開催セラルヘキ
會議ニ於テ委任統治ノ條項並ニ額迦ニ闕スル問題ヲ審議セ
ンヌベル皿ノ通報ニ接シタルヲ以テ此機會ニ於テ千九百二
十年十一月二十一日附ヲ以テ英国外務大臣「ローブ・カーベ
ハ・ナグ、ケルベルト」閣下ニ宛テ受任國ノ責任ノ本質
ニ闕スル合衆國政府ノ見解ヲ詳述シタル通牒写ヲ國際聯盟
理事會ニ交付ヤンヌベ

ヲ參酌スヘキコトヲ懇請セリ今日迄ニ回答ニ接シタルハ仏
國政府ノミニシテ同政府ノ回答ニ依レバ「ヤーヴル」條約
中所謂勢力範囲内ニ第三國ノ國民カ凡テノ經濟的目的ノ為
ニ自由ニ入り得ヘキ旨ヲ定ムル項ニ注意ヲ促セリ
合衆國政府ハ又國際聯盟理事會カ客年十二月十七日「ヤエ
ヴア」ニ於ケル會議ニ於テ他ノ委任統治ト共リ「太平洋上
赤道以北ニ位スル凡テノ舊獨領諸島ヲ包含スル日本ニ對ス
ル委任統治ニ同意セリ」トノ通報ニ接シタル合衆國政府ノ
受領シ且理事会ノ協賛ヲ経タリト聞ケル右日本ニ對スル統
治委任條項正文ニヘ「主タル同盟及聯合國ハ右條約第一編
第一十一條（國際聯盟規約）ニ依リ上記諸島ノ施設ヲ行ハ
シムルタメ日本帝國皇帝陛下ニ統治ヲ委任スルコトニ同意
シ且右統治委任條項ヲ次ノ条項ノ如クニ定ムヘキ旨ヲ提議
シタルリ因リ」ハダトアリ

合衆國政府ハ此ノ機会ニ於テ國際聯盟理事會ノ議長及理事
会員ニ對シ極メテ友誼的ナル精神ヲ以テ茲ニ謹テ上記ノ陳述
ヲ譲謬ニシテ且事實ノ正確ナル陳述ニ非サル旨ヲ開陳セ
ント欲ヘ即チ通常ノ用語例ニ遵く「主タル同盟及聯合
國」ナル語ハ合衆國政府ヲ包含スルヲ明カナル處合衆國

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三〇一

二八四

政府ハ右本文ニ現ハルル如キ委任統治条項ニ対シ嘗テ同意ヲ与ヘタルコトナク又太平洋上赤道以北ノ舊獨領諸島全部ニ就キ日本ニ統治ヲ委任スルコトニ同意シタルコトナシ

合衆国政府ハ日本ニ対スル委任統治ノ提議ニ関シ「ヤッ

ブ」島ノ包含スヘキ旨ヲ同意シタルコトナシ却て他方太平

洋上赤道以北ノ舊獨領諸島ニ関スル委任統治ノ討議ニ際シ

「ウイルソン」大統領ハ合衆国政府ヲ代表シテ特ニ「ヤッ

ブ」島問題ハ将来ノ討議ノ為ニ留保スヘキ旨ヲ力説セリ後

ニ至リ合衆国政府ノ承合セシ所ニ依レハ主タル同盟及聯合

國中千九百十九年五月七日ノ最高會議或ハ所謂四頭會議ニ

於テ日本ニ対スル委任統治案中「ヤップ」島ヲ包含シタル

カ又ハ之ヲ挿入シタルト思考シタルモノアリシト謂フ合衆

國政府ハ英仏伊日各國政府ニ致シタル通牒ニ於テ「ヤッ

ブ」ハ右委任統治案中ヨリ實際上除外セラレ從ツテ之ニ包

含セシムヘキニ非サル旨ノ主張ヲ詳論セリ尚「ウイルソ

ン」大統領ノ指令ニ基キ合衆国政府ハ千九百十九年五月七

日ノ最高會議ノ決定ニハ同意スル能ハサル旨上記各國ニ対

シ通牒ヲ発シタリ且從前合衆国政府カ「ヤップ」島ニ関シ

テ為シタル留保ハ太平洋ニ於ケル海底電線計画並ニ其ノ実

際的設備ニ欠ク可カラサル部分ナルヲ以テ同島ノ自由ニシテ且無障礙ナル使用ハ如何ナル一國モ之ヲ制限シ又ハ之ヲ抑圧シ得ヘカラサルトノ見解ニ基クモノナリ

合衆国政府ハ日本ニ対スル委任統治案中ニ「ヤップ」島ノ

包含セシムルコトニ同意セサリシコト右ノ如クナルヲ以テ

仮令他ノ主タル同盟及聯合國中一國又ハ數國カ千九百十九

年五月七日ノ決定トシテ伝ヘラルムノニ於テ「ヤップ」

島ノ挿入ニ關シ錯誤ニ陥レリトスルモ上記合衆国政府ノ通

牒ハ本件ニ關スル當政府ノ立場ヲ明ニスルモノナルコトヲ指摘セント欲ス

上記各國ニ対シ數通ノ通牒ヲ発シタル當時太平洋ニ於ケル舊獨領諸島ノ委任統治條項及割当ニ關シ最後ノ協定ヲ見タ

リ大統領カ合衆国政府ノ名ニ於テ本件ニ關シ執リタル措置並上記通牒ニ於テ明ニ陳述シタル所ニ依レハ合衆国政府カ

默示的同意ヲ与ヘタリトノ誤認ハ「ゼネヴァ」ニ於ケル聯

盟理事会開会ノ日即千九百二十年十二月十七日以前ニ有効ニ撤回シタルモノナリ

主タル同盟及聯合國ノ一トンテ合衆国ハ独逸ノ海外屬領ニ

關シ他ノ主タル同盟及聯合國ト同等ノ利害關係並ニ不可分

題ノ審議ヲ繼續スルコトヲ拒絶セサリシ旨記載シアル處御

承知ノ通り同子爵ハ四月三十日外相會議ニ於ケル「ランシング」氏ノ「ヤップ」島國際管理ノ提議ニ同意セズ只平和

條約中ニ挿入スヘキ旧独逸海底電線ニ關スル條項ノ審議続行ニ同意シ又五月一日ノ五國會議ニ於テ「ウイルソン」氏

ノ前記電線國際管理及「ヤップ」島ハ一國ノ手ニ帰スヘカラ

ラストノ意見ニ對シ牧野氏ハ「ヤップ」島ヲ通過スル三線

ハ日本ノ所属トスヘキヲ要求シ結局獨逸カ主タル同盟及連

合國ニ讓渡スヘキ海底電線ノ「ステータス」ハ當分現状維持トナリ又「ヤップ」島ノ「ステータス」ハ別ニ五月七日

委任統治区域ノ決定ニヨリ確定シタルモノニシテ五月一日

ノ會議ニ於テ同島國際管理問題ニ付審議ヲ繼續スルコトヲ

承認シタルモノニアラサルニ付貴電第二六〇号ノ次第アレ

トモ一応仏國政府ノ注意ヲ喚起シ置カレタシ

在英米大使ニ転電

三〇三 二月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛 (電報)

ヤップ島問題ニ關スル仏國政府覺書内容ノ一

部ニ付同國政府ノ注意喚起方訓令ノ件

第一九〇号

貴電第二四九号「ヤップ」島問題ニ關スル仏國政府ノ覺書

中五月一日ノ會議ニ於テ牧野子爵カ「ウイルソン」大統領及「ランシング」氏ノ提起シタル「ヤップ」島國際管理問

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三〇三

三〇四

二月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在本邦米國臨時代理大使宛

ヤップ島ノ地位ニ關スル米側回答ヲ反駁シ重

ネテ我方見解ヲ申入ノ件

二八五

以書翰致啓上候陳者客年十一月十二日附貴大使館宛帝国外務省ノ覺書ニ対シ同十二月十日附貴翰ヲ以テ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ関シ御申越ノ趣致敬承候就テハ右貴翰ヲ以テ御回示相成候米国政府ノ御意見ニ対スル帝國政府ノ見解ヲ腹藏ナク茲ニ披瀝可致候

一 右貴翰ニ於テハ第一ニ一昨年四月二十一日ノ最高會議並同四月三十日及五月一日ノ外相會議ニ於テ米国現大統領閣下又ハ前國務卿「ランシング」氏カ各々「ヤップ」島ヲ國際化スヘキコト若ハ之ヲ或一國ノ手ニ帰セシムヘカラストノ意見ヲ述ヘラレタルコト次ニ同年五月六日ノ最高會議ニ於テ「ロイド、ジョージ」氏カ帝國ノ委任統治ニ帰スヘキ地方ニ付 certain islands ナル語ヲ用ヒラレタルコト及終リニ同五月七日ノ最高會議議事録ニ依レハ委任統治ニ付テハ何等ノ討議ナカリシカ同日ノ議事録ノ附屬トシテ同六日ニ北太平洋諸島ニ関シ到達シタル協定ヲ書頤ハシタリト思ヘルル覺書ニ依レハ特ニ北太平洋ニ在ル島ノ全部ヲ含ムコトヲ明カニ示サレ居ラサル旨ヲ御列挙相成居リ候處帝國代表者ハ前記四月二十一日、五

月六日及五月七日ノ最高會議ニ列席セサリシ為米国代表者カ当日如何ナル意見ヲ述ヘラレタルカヲ確ムルヲ得サルモ仮リニ此等ノ會議ニ於テ「ウイルソン」大統領ニ於テ右ノ如キ意見ヲ述ヘラレタル事實アリトスルモ米国政府ニ於テ之ニ依リ帝國政府ニ対シ主張シ得ル所ハ單ニ一年ノ五月一日ノ外相會議迄ニ最高會議若ハ外相會議ニ於テ米国現大統領閣下及「ランシング」氏カ「ヤップ」島ヲ國際化スヘキコト若ハ之ヲ或一國ノ手ニ帰セシムヘカラストノ意見ヲ述ヘラレタルノ事實アルコトニ過キスト致思考候而テ右ニ対シテハ帝國政府トシテハ仮令米國側ニ於テ右ノ如キ意見ヲ最高會議又ハ外相會議ニ於テ述ヘラレタルノ事實アリトスルモ右意見カ會議ノ容ルル所トナリ「ヤップ」島カ帝國ノ委任統治ノ外ニ置カルルコトカ會議ニ於テ決定セラレタリトノ事實アルニ非サレハカカル意見ノ陳述アリタルノ事實ハ何等「ヤップ」島カ帝國ノ委任統治地域ノ外ニ在リトノ米国政府ノ主張ヲ正当トスルノ材料ト相成ラスト存候從テ帝國政府トシテハ米国政府ニ於テ「ヤップ」島カ帝國ノ委任統治地域ニ含マレスト主張セラレムト欲セラルルニ於テハ単ニ米国側

ニ於テ此等ノ意見ヲ會議ニ於テ述ヘラレタル事實ノ外ニ會議ニ於テ此ノ決定アリタルノ事實ヲ立証セラルル必要アルモノト思考スルモノニ有之候尚右ニ関連シ帝國政府ハ凡ソ一ノ決議ニ到達スルニ先立チ各國代表者ノ述ヘタル意見ハ当然其ノ決議ニ附帶スル留保ト解釈スヘキモノニ非サルコトヲ指摘致度候即チ「ヤップ」島カ帝國ノ委任統治地域ヨリ除外セラレ居ルヤ否ヤノ問題ハ結局本件受任國及受任地域カ初メテ最終的決定ニ到達シタル前頭五月七日ノ決定自身ニ依リ判断スヘキモノニシテ其ノ以前ニ於テ如何ナル論議アリタリトスルモノハ畢竟決議ニ至ル予備的 conversation タルニ止マリ何等決議ノ意義ヲ変更シ又ハ其ノ適用ヲ制限スルノ効力ナシト信シ候況ンヤ右米國大統領又ハ「ランシング」氏ノ陳述セラレタル前頭ノ意見ニ対シテハ會議ニ於テモ將又会談ノ外ニ於テモ帝國全權ニ於テ嘗テ同意ヲ表シタルコトナク殊ニ一年四月三十日ノ外相會議ニ於テハ牧野全權ハ之ニ不同意ノ趣旨ヲ明カニ陳述シ居ルノ事実有之候

一 貴翰ニ於テハ「ヤップ」島カ帝國ノ委任統治地域内ニ包含セラレ居ルニ於テハ右五月七日ノ決定ハ今一層特別

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三〇四

ナル文字ヲ使用シ居ルヲ以テ当然トスト主張セラルモ帝國政府ノ見解ニ依レハ例外ハ常ニ明示セラルヘキモノタルニ顧ミ除外ヲ為ス場合ニ於テコソ其ノ除外ノ事實ヲ特ニ明確ニ表明スルヲ以テ条理ニ合スルモノト云フヘク之ヲ除外セサル場合ニ殊更ニ右除外セサルノ事實ヲ此ノ種決定中ニ表明スルヲ要ストハ事ノ正常ニ反シタル無理ナル注文ニシテカカル主張ハ何人ト雖モ首肯セサル所ト思考スルノミナラス帝國ニ於テ直接ノ利害關係ヲ有シ且帝國全權ニ於テ強硬ニ反対ノ態度ヲ持続シタル「ヤップ」島除外ノ問題カ果シテ米国政府主張ノ如ク帝國代表者ノ出席セサル同日ノ會議ニ於テ決定セラレタルモノトスレハ右ハ帝國ニ対シテ甚タシキ不信義ナル行為ト云ハサルヘカラサルヲ以テ此ノ如キ事項カ帝國ヲ除外シタル會議ニ於テ決定セラレタリトハ想像シ得サル所ナルト共ニ他方右決定ニハ German islands トアリ且「ヤップ」島ニ關シ何等ノ除外ナキヲ以テ旁右ノ決定上赤道以北ノ旧独領太平洋諸島ノ全部カ何等ノ例外ナク帝國ノ委任統治地域ニ属スルコトハ頗ル明瞭ニ表明セラレ居ルモノト思考被致候而シテ右決定ニ於テ「ヤップ」島カ除外セラ

レサリシ事実ハ独リ帝国政府ノミノ解釈タルニ止マラスシテ英仏両国政府ノ了解モ全然之ト符合シ客年十一月中米国政府ノ通牒ニ答ヘテ此ノ趣旨ヲ明言セリトノ公然タル報道ニ接シ居リ候若シ貴翰ニ於テ主張セラル通リ五月七日ノ決定カ五月六日ノ最高會議ニ於テ既ニ到達セラレ居タルモノトスレハ同日ノ會議ハ米、英、仏ノ主脳者ノミノ会合タリシ事実ニ顧ミ米国政府ノ主張ハ同日會議ニ於テ独リ「ウイルソン」大統領ノミカ他ノ全体トハ異リタル了解ニ達セラレタリトノ主張ト相成寔ニ了解シ難キ次第ニ有之候尚貴翰ニ於テハ五月六日ノ最高會議ニ於テ英國現首相カ certain islands ナル語ヲ用ヒラレタルコトヲ指摘シ依テ以テ「ヤップ」島除外ヲ立証セラレムト試ミラレ居リ候ヘ共仮ニ五月六日ノ議事録ニ右ノ記載アリトスルモ赤道以北ノ南太平洋ニハ旧領以外ノ島嶼アルヲ以テ“certain islands” ナル語ヲ用ヒルノ外「ロイド、ジョージ」氏ニ於テ右赤道以北ノ南太平洋ニ於ケル日本ノ委任統治ニ帰スヘキ島嶼ヲ簡単ニ表ヒ表ハサルノ途ナキニ顧ミ右ノ文句ハ「ヤップ」島ヲ除外スルノ意味ト想像スルコトナクシテ之ヲ用ヒラレタル理由ヲ自

然且容易ニ了解シ得ラル次第ト存シ候且“certain”ナル語ハ“all but one”ノ義トスルハ頗ル不当ノ解釈ナルノミナラス若シ「ロイド、ジョージ」氏ニシテ单ニ「ヤップ」島ノミヲ除外スルノ意アリシニ於テハ其ノ旨ヲ明白ニ言明セラレタルヘキハ殆ント疑ヲ容レサル所ト思考致シ候現ニ英國政府ニ於テ赤道以北ノ旧領太平洋諸島カ全部帝国ノ委任統治地域タルコトニ決定セリトノ解釈ヲ執ラルルノ事実ニ照ラストキハ英國現首相ニ於テ右文句ヲ当日使用セラレタルノ趣旨ハ決シテ「ヤップ」島ヲ除外スルノ意味ニ非サル事明カナル次第ニ有之候要之委任統治地域ノ決定ノ如キ重要ナル決定ニ於テハ其ノ決定ニ現ハレタル所ノミカ有權的ニシテ其ノ文面ニ表ハレサル单ニ一国ノミノ代表者ノ意中ニ如何ナル思惑力存在シタルカヲ以テ此ノ決定ニ對シ漫然異常ノ解釈ヲ下サムトスルカ如キハ帝国政府ノ同意シ得サル所ニ有之候付若シ右公表ノ決定カ米国政府ノ了解ト相違シ居タルナラハ右ニ對シ當時直ニ異議ヲ申立テラルヘカリシ筋合ニ加之一昨年五月七日ノ決定ハ翌八日公表セラレタルニ有之且当然カク期待セラルル次第ニ有之候而モ當時何等

此ノ擧ニ出テスシテ甚タシク時日ヲ隔テタル今日ニ至リ右決定ニ對シ異論ヲ称ヘラルハ帝国政府ニ於テ甚タシク了解ニ苦シム所ニ有之候然ルニモ拘ラス貴翰ニ於テハ「ウイルソン」大統領ノ上院外交委員会ニ於ケル陳述ニ對シ何国ヨリモ反対ノ意見ヲ聴カサリン事実ヲ擧ケ之ヲ以テ恰モ關係列國ニ於テ同大統領ノ意見ニ異議ナカリシ証左ナルカノ如ク論断セラルニ至リテハ帝国政府ノ全然首肯スル能ハサル所ニ有之候一ハ自國ノ閥与スル國際協定ニシテ他ハ全然一國ノ国内的事件ニ有之前者ニ對シテコソ其ノ協定カ自己ノ了解ニ反スト思考スル場合ニハ直ニ之ニ異議ヲ述ヘ之カ是正ヲ為ササルヘカラサルモ後者ニ對シテ第三國カ一々弁駁ヲ加フルノ義務アルモノニハ無之從テ右ニ對シ異議ヲ述ヘタル國ナキノ事実ハ本件ニ関シ何等ノ結果ヲモ伴フモノニハ無之ト思考致シ候

五 次ニ貴翰末尾ニ於テ「ヤップ」島カ帝国ノ委任統治地域ニ包含セラレ居ルモノト仮定スルモ海底線ノ陸上及運用ノ目的ノ為ニ他ノ諸國カ自由且無障礙ニ同島ニ到リ且同島ヲ使用シ能ハストハ想像シ得サル所ナル旨主張セラレ居ル処右主張ニシテ同島カ委任統治地域タルノ事實ト何等關係ナキ議論ナルニ於テハ右ハ結局當該地域ノ施政ヲ司ル國即チ帝国ノ自由ニ考慮スヘキ問題ナリト云ハサルヘカラサル次第ニ有之候又若シ右ノ主張ニシテ委任統治ノ性質上常ニ他國ニ對シテ門戸ノ開放ヲ要ストノ意味

四 又貴翰ニ於テ一千九百十九年十二月二十四日ノ最高會議ニ提出セラレタル赤道以北ノ旧領諸島ニ閑スル旧委任統治協約案第三条ヲ引用シ之ヲ以テ右諸島ノ最終的処分ニ關シ未タ決定的ノ協定ニ達シ居ラサル証左ト為サルモ右ハ單ニ将来境界又ハ土地ノ所屬等ニ関シ万一紛争

ナルに於テ、帝国政府、一年前七月八日、委任統治條項
委員会、於テ、米国政府代表者「ハサウエイ」大佐カ珍田伯爵
、〇種類任統治地域、於テ、ヤバ種、場合、於ケルト回避
通商及貿易上、機会均等、保障、設立、シテ、主張、反
対、セラントル事実、指摘、以テ、米国代表、此、協議、顧
「米国政府、於テ、少ク、ヤ帝国政府、対シテ、〇種類
任統治地域、閑シ、正當、門口開放、主張、ナシ得、ナ、キ
ル、義、思考、ベル、次第、述、キ、ヤ、カ、カルト共、門口開
放、主義、保障、キ、場合、ト、艦、海底線、陸上、及、運用、閑
シ、他國、米国政府、主張、如、キ、皿田、證ムル、ノ、義務、ル、
ヘ、ノ、帝国政府、於テ、思考、能、ナ、カルト、括、セ、ル、
得、ノ、候。

以上、帝国政府、見解、逐一、貴国政府、近遠方御取計相成度、此
段回答申進、勞本大臣、茲、重、ト、貴、ト、向、テ、敬意、表、シ、候
敬、

(付紙記)

Monsieur le Chargé d'Affaires,

I have the honour to acknowledge the receipt of
your Note of the 10th December last on the status of

Council held on May 6th, 1919, Mr. Lloyd George
employed the words "certain islands" in giving expres-
sion to what he understood to be the territories to be
committed to the charge of Japan; and lastly, that,
according to the minutes of the meeting of the Su-
preme Council of May 7th, 1919, no discussion took place
on that day in respect to mandates, and that although
there exists a memorandum, appended to the minutes
of the meeting of May 7th, which purports to be a
codification of the agreement reached at the meeting
of May 6th with reference to the North Pacific islands
such memorandum does not expressly include all the
islands in the North Pacific. Of the meeting referred
to, it must be noted that the Imperial Delegates were
not present at the meetings of the Supreme Council of
April 21st, May 6th and May 7th and in consequence
the Imperial Government have no means of ascertaining
what views were expressed by the American Delegates
at those meetings. Assuming, however, that President

Wilson did in fact give utterance at those meetings to
such views as are ascribed to him, this cannot warrant
the United States Government as against the Imperial
Government, in going beyond asserting as a fact that
President Wilson or Mr. Lansing gave it as his opinion
before the Supreme Council and the Council of Foreign
Ministers, at some time previous to May 1st, 1919,
that the Island of Yap should be internationalised, or
that it should not pass into the hands of any one
Power. In the opinion of the Imperial Government
such a fact argues in no way in favour of the contention
of the American Government that the Island of Yap
stands outside the islands that it was decided should
be held under the mandate by Japan unless they can
be established at the same time the further fact that the
representations of President Wilson and Mr. Lansing
were accepted by the Council and that the latter decid-
ed to exclude Yap from the mandatory territories
assigned to Japan. In order to maintain successfully,

the island of Yap in reply to the memorandum or
the Imperial Department of Foreign Affairs, dated the
12th November last, and to state candidly herewith
the opinion of the Imperial Government on the views of
the Government of the United States propounded in
the said Note.

In support of the argument advanced by the Gov-
ernment of the United States the following points are
enumerated in your note; first, that, in the course of
various discussions in the Supreme Council and the
Council of Foreign Ministers at the Peace Conference,
(namely at the meeting of the Supreme Council on
April 21st, 1919, and at the meeting of Foreign Minis-
ters on April 30th and May 1st, 1919), the President
and Mr. Lansing, the then Secretary of State of the
United States, respectively gave utterance to a view
that the Island of Yap should be internationalised or
that it should not pass into the hands of any one
Power; next, that, at the meeting of the Supreme

therefore, that the Island of Yap is not included in the mandatory territories assigned to Japan, the Imperial Government consider it necessary for the American Government to prove not merely the fact that the particular line of views was stated at the meetings but also that the meeting decided in favour of those views. Further in this same connection, the Imperial Government would point out that views expressed by the delegates previous to arriving at a decision are not necessarily to be interpreted as reservations naturally attached to the decision. It follows that the question whether the Island of Yap is excluded from the mandatory territories assigned to Japan must be judged from the decision of May 7th, by which the Mandatory Powers and their mandatory territories were for the first time and at the same time finally decided upon, and it must be concluded that whatever utterances may have been made previous to that date were only preliminary conversations that took place before

exception always requires to be stated expressly. To assert that the fact of non-exclusion should have been specifically mentioned in a decision of this kind could only be regarded as an extraordinary and even an unreasonable contention with which no one would be likely to concur.

It must also be remembered that if a decision in favour of the exclusion of the Island of Yap—a question of grave concern to Japan, and one of which the Japanese Delegation invariably maintained a firm attitude—had really been made, as is implied by the argument of the United States' Government, at the meeting of May 7th, at which Japan was not represented, it could not but have been regarded as an act of entirely bad faith. It is, therefore, inconceivable to the Imperial Government that such a decision could have been reached at a meeting at which no Japanese Delegation was present. Since the decision under consideration says on the one hand "German islands" and, on the

other, does not make any exception of Yap, the Imperial Government regard it as perfectly clear that the ex-German Pacific islands north of the equator, with no exception whatever, all belong to the mandatory territory allocated to Japan. Nor are the Imperial Government alone and unsupported in their interpretation of the Decision for they are in receipt of authentic information that the Governments of Great Britain and France being of the same opinion as the Japanese Government on the matter, made statements to that effect in their replies to the American Note in November last. If the decision incorporated in the memorandum appended to the minutes for May 7th be one which was really reached at the meeting of the Supreme Council held on May 6th, as represented in the Note under reply, then the inevitable conclusion will be that, inasmuch as the meeting held on the latter date (i.e. May 6th) was that of the heads of Delegations of the United States, Great Britain and France, the

the decisions were reached, and in themselves possessed no such cogency as to qualify the meaning or limit the application of the decision. This conclusion is the more irrefutable since the Imperial Delegation never expressed their agreement, whether at any meeting of the Councils or elsewhere, with the above stated views of President Wilson or of Mr. Lansing. Furthermore Viscount, then Baron, Makino announced distinctly his disagreement with them at the meeting of Foreign Ministers held on April 30th, 1919.

2. A view is advanced further in the Note under reply that, if Yap was meant to be included among the islands assigned under the mandate to Japan, then the decision of May 7th, 1919 should have been drafted in more specific language than is the case. In the opinion of the Imperial Government, however, it is more in accordance with sound principles of interpretation to say that the fact should have been set down with especial clearness if exclusion were meant, as an

contention of the American Government is tantamount to saying that President Wilson by himself arrived at an understanding which differed from that of all others present, a conclusion difficult to understand.

Again, a reference is made to the use of words "certain islands" by Mr. Lloyd George at the meeting of the Supreme Council held on May 6th, 1919, as tending to prove the exclusion of the Island of Yap. Granting for the sake of argument that the words "certain islands" occur in the minutes for May 6th, the use of such a phrase is perfectly natural and easy to understand without supposing it to refer to the exclusion of Yap. There are other islands in the South Pacific north of the equator, which did not belong to Germany and it does not appear how better Mr. Lloyd George could succinctly describe the islands to be allotted to the Japanese mandate in that region, than as "certain islands". "Certain" is a word which is far from appropriate to mean "all but one", and had

he had the exclusion of a single island such as Yap in mind, he would have been almost sure to have explicitly mentioned it. Seeing that the British Government adopts the interpretation that it was decided at that time that all the ex-German Pacific islands north of the equator were to be assigned under the mandate to Japan, it is obvious that in employing the words, Mr. Lloyd George can not have intended to signify the exclusion of the Island of Yap.

To sum up, since in a matter of such a grave nature as the establishment of mandatory territories, only what expressly appears on the face of the decisions should be accepted as authoritative, the Imperial Government can not agree in giving an extraordinary and unusual interpretation to the decision on a vague ground that certain thoughts or intentions not expressed in the text thereof existed in the mind of the delegate of one Power only.

3. The decision of May 7th, 1919 was made public

on the following day, the 8th. If the published text of the decision differed in sense from what was understood by the Government of the United States to be its meaning, the latter should have, and would naturally have been expected to have, entered an immediate protest. No such step was taken, however, at the time and the Imperial Government fail to understand the reason why the American Government should have allowed more than a year and a half the pass by before electing to question the decision. The Note under reply refers to the fact that President Wilson's statement before the Senate Committee on Foreign Relations on August 19th, 1919, called forth no comments by any nations, and points to this absence of contrary opinion as amounting to evidence to prove that no Power found anything in the President's view to which it could take exception. The Imperial Government are quite unable to follow contentions of this kind. In the one case, we have the publication of an international

agreement in which the American representative participated, whereas the other was essentially a pure domestic affair. As to the former, in case the published text should be found to differ from what was understood by one party, it was incumbent on him forthwith to lodge a protest and have the errors, if any, rectified. In the latter case, however, no third Power is called upon to make any refutation or correction and consequently the fact that there was no nation which took it upon itself to make any adverse comment has no bearing whatever on the matter under consideration.

4. On the strength of Article 3 of the obsolete draft mandate covering ex-German islands in the Pacific north of the equator, submitted to the Supreme Council on December 24, 1919, it is contended in the Note under reply that no definite agreement has yet been reached as to the final disposition of all the ex-German islands in the Pacific north of the equator. The Imperial Government would point out that this Article was

intended solely to provide a means of settlement, in view any dispute that may arise as to boundaries or the assignment of lands. Such provisions were by no means confined to the particular draft in question but there were also found similar provisions in all original draft mandates covering other territories, which were simultaneously submitted to the same meeting. If the American contention in this connection is to be upheld, it must needs follow that all the mandatory territories are liable to be honeycombed by exceptions or exclusions. But such a conclusion is wholly at variance with facts and cannot be thought by any one to be convincing. Consequently the reference made to it in the Note under reply, tends, in the opinion of the Imperial Government, in no way to strengthen the contentions of the United States Government.

5. In the concluding part of the Note under reply it is observed that even on the assumption that the Islands of Yap should be included among the islands held

opinion the American Government cannot with justice contend for the open door in the C class territories, at least as against Japan, and to inform the United States Government, at the same time, that they cannot consider themselves bound in any way to recognise the freedom of other nations, in the manner insisted upon by the American Government, in regard to the landing and the operation of cables, even in places where the principle of the open door is to be guaranteed.

I have the honour to request you to be so good as to transmit to your Government the views of the Imperial Government as above stated.

I beg you, Monsieur le Chargé d'Affaires, to accept the assurances of my high consideration.

三〇四
1924年1月11日
日本國石井大使
及田外務大臣宛(電報)

アラヤマク島及四島領事團總裁於亞瑟1世
ニシタケイセイノハシヨウシキツクノトツセイ

三〇四
1924年1月11日
日本國石井大使
(1924年1月11日)
三〇四

under the mandate by Japan, it is not conceivable that other Powers should not have free and unhampered access to and use of the island, for the landing and operation of cables. If this observation is put forth irrespective of the fact that the island is within the mandatory territory, then the question seems to be one which should be freely settled by the nation which has the charge of the place, namely Japan. If the meaning be, however, that owing to the nature of the mandate the island should have its doors kept open, the Imperial Government would draw attention to the fact that at the meeting of the Commission on Mandates, hold on July 8th, 1919, Colonel House opposed Count (then Viscount) Chinda's claim that the same equal opportunities for commerce and trade should be guaranteed in territories belonging to the C class as in those belonging to the B class. In view of the position thus taken up by the American Delegate the Imperial Government feel obliged to state that in their

往電第174号(題)「アラヤマク島及四島領事團總裁於亞瑟1世」出く本國政府に打合
セタニシテハトモ回答案(説)ノ處114号脱稿ヤニ由ハ
ト其案ハ臨布ノ114号ハ余議ニ於テ右案ハ議ハル事ナ
其點ヒテハ(後日議用ハ想ヘ各項ハ議即ハ在ハ)

(1) The Council warmly welcome the evidence of the interest taken by the Government of the U.S.A. in at least a portion of their work; and desire at the same time to offer some comments on the most important issues raised in the course of your despatch.

(2) In the second paragraph of your Note you quote and controvert a statement which occurs in the preamble to the document conferring upon the Emperor of Japan a Mandate for all the Pacific Islands lying north of the equator, which were formerly in German possession. The statement is to the effect that this course was agreed to by the Principal Allied and Associated Powers acting in accordance with Article 22 of the Covenant, and you point out that, in the opinion

of your Government, this historical recital, and some

subsequent statements of a similar tenor, are not in accordance with the facts.

It is unnecessary to observe that in making them the Council acted in perfect good faith; and that until they received your Excellency's letter they were not aware that the views upon which they were acting were seriously challenged. It is clearly by the duty of the Council, as these are defined in the Covenant, to select the countries who should be offered a mandate or to delimit territories to which the mandates should apply. This responsibility lies in other hands.

The Council greatly regret that on a matter of such importance high authorities should differ as to what actually happened on the 7th May, 1919. But they are not specially qualified themselves to offer any opinion on dispute, and they can only suggest that if further discussion on the subject be necessary it should be conducted with several governments of the Allied Powers who took a leading part in framing the Treaty

援助の権利トニテ米國ハ交渉ノ特リ然リテハ理事會ノ所出統治問題ニ認シ米國ハ協力リ重キア置キ左ハ「ナショナル」ナトメトニ擬シ得ハル

(4) The situation before the receipt of Your Excellency's communication was this:—Consideration of the "A" Mandates—those for Syria, Mesopotamia and Palestine had been already postponed till the next meeting of the Council, before, the American Note was received. The "C" Mandates—those for S. Africa and the Pacific—were finally dealt with at the last meeting of the Council, before the American Note was written.

In view, however, of the new situation created by Your Excellency's note, and the interest in the Mandates problems which this displays the Council propose to defer the consideration of the "B" Mandates and to take them with the "A" Mandates at the next meeting of the Council in the hope that the Government of the United States would send a representative to take part in the proceedings. It would not be in the power of

アラバマ州議會議事録 1919年 1月

of Versailles. The Council are forwarding to them copies of your note for purposes of information.

(3) The Council observe that in the first Paragraph of your note it is suggested that the "approval of the United States of America" is essential to the validity of any determination which may be reached respecting the mandates which have been, or which may be submitted to the judgment of the Council. Without arguing the legal opinion expressed in this passage, which they have read with considerable surprise, the Council desire in the most friendly spirit to draw attention to some of its consequences.

據ヘト外國政府の意見ハ總理リシテ其ノ運用如何ハ依リトハ
國際問題ハ進歩ハシベヤハナルガ世人往々委任統治國ニ對シ
シ嫉妬ハ領土云々批評ハナシ委任國ガ其ノ委任統治ナカソハ為メ
ハ姫君ナル犠牲ヲ拝シタルカ又適切ノ統治ナカソハ為メ
クシトロ地域ニ於ケル機知均等ニ専致ペルハ滿足セキル實況ナムが委任統治國ハカナハ第111回ニ同憲及進ハル其ハ

the Council to offer them, nor (if we are rightly informed) would the Government of the United States desire to accept on his behalf, a place as member of the Council. But his cooperation, even in an informal capacity, would be valuable, and he would receive a cordial welcome from all those with whom he came to consult.

The Council are, of course, not in a position to anticipate the views which the Government of the United States are likely to take of this proposal. But if it be received in the same spirit of sincere good will as that in which it is offered it can at least produce no ill effect.

在國米領大使ハ議會議事録

1919年1月11日
在國米領總領事
内田外務大臣
(總裁)

ヤシナニ國ニル米國ハ抗議ハ國ニ總領事
米國政府ハ議會ハ本邦ハ

總長 1月
(1919年1月11日)

1169

「ヤップ」島ニ関スル米国ノ抗議ニ関シ当地有力新聞中社説ヲ掲クルモノ多キカ凡テ米国ハ聯盟ノ一員ニハ非サルモ参戦國中勝敗ヲ決定セル一国トシテ米国ノ利益ニ関スルコト大ナル同問題ノ決定ニ与ルノ権利アリトシテ当局ノ態度ヲ支持シ又新政府モ此ノ方針ヲ可ナリトスルニ一致シ同時ニ「デモクラット」系ハ聯盟参加問題ニ触レテ改メテ「レパブリカン」ノ責任ヲ問ヒ「レパブリカン」系ハ本件ヲ以テ講和ニ関スル「デモクラット」失敗ノ跡始末ニテ新政府ヲ拘束スルヲ非難スルノ意ヲ加ヘ居ルノミ

二十五日 Journal of Commerce ハ当局ノ措置手後レニナリタルヲ惜ミ Times ハ米国ノ講和条約ニ依リ海外旧独領処分ヲ一任セラレタル五国ノナリトイヒ同日ノ World ハ本件ハ東洋トノ円滑ナル電信交通ヲ希望スル各国ノ利益ニ関シ抑モ米国ノ唱導ニテ聯盟ヲ組織スルニ至リタル主義目的ハ一国力有スル mandate ニ依リテ蹂躪セラルヘキモノニ非ストイヒ同日ノ Herald ハ政府ノ行動機宜ヲ得タリトナシ同日 Tribune ハ抑モ mandate ナルモノハ一地方人民ノ文化的開発ノ目的ノ為創設サレンモノニシテ一個ノ海中ノ岩巖タル「ヤップ」ハ mandate ノ目的タリ得ス而

ヨリ電線問題ヲ除クコト可能ナラバ解決ハ容易ナルベシト得ズト
右英國大使ノ回答ハ米国側ノ予期ニ反シタルモノノ如ク之ニ対シテ「デヴィス」ハ例ニ依リ五月三日「プロトコール」ハ一時のノ性質ヲ有スルニ過ギザルコト五国ニ属スル電線ヲ三国ノミニテ運用スルノ不当ナルコト及各國ヲシテ本件解決ノ熱心ヲ有セシムルタメニハ「プロトコール」ヲ消滅セシムルノ必要アルコトヲ説キタルモ英國大使ハ「プロトコール」消滅シテ之ニ代ルベキ新ナル運用規定成立ニ至ラザルトキハ電線ノ運用ニ重大ナル支障ヲ生ズベキコトヲ指摘シ英國政府ハ新ナル運用規定ノ討議ニ入ルコトヲ辞セザルモ先ヅ米国政府ノ想像スル新運用規定トハ如何ナルモノヲ謂フカ米国側ヨリ其ノ案ヲ提議セラレシト主張シ「デヴィス」ハ各國ニ於テ十二月十四日ノ決議ヲ無留保ニテ受諾スルニ於テハ新ナル運用規定ヲ攻究スルマデモナク短時日内ニ最終処分ニ到着スルヲ得ベシト思考ス従ツテ新運用規定ニ付テハ余リ考究シ居ラズト答弁シ尚十二月十四日決議中二月十五日トアルヲ三月十日ニ又三月十五日ヲ四月一日ト改ムルニ異議ナシト云ヘリ然レ共英國大使ハ英國スルニアルモノトセバ英國政府ハ右決議ヲ承認スルコトヲ

昨年十二月十四日ノ決議ノ趣旨ハ五月三日ノ「プロトコール」ニ依リ定メラレタル現在ノ運用規定ヲ終了セシメントスル討議ヲ為ストモ何レニテモ差支ヘナシト思考ス然レ共スルニアルモノトセバ英國政府ハ右決議ヲ承認スルコトヲ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三〇八

シテ世界交通ノ重要点ニシテ何レノ一国モ專管スヘキニ非トイヘリ但シ二十四日 Globe カ抗議ノ趣旨ヲ支持シツツモ法理上目的貫徹ノ見込少ナキヤヲ疑ヒ居ルハ他ト異ナル處ナリ

大使ヘ郵報セリ

三〇七 二月二十八日 在紐育熊崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シ新聞論調統報ノ件

第六二号

(三月一日接受)

往電第六一号ニ関シ「ヤップ」問題ハ尚一、三社説評論アリ殊ニ「ヘラルド」ハ二十六日ノ第一社説トシテ之ヲ論ゼルガ其要旨ハ強ク米国政府ノ立場ヲ支持スルニ在リ國務長官ノ國際聯盟宛公文ハ会心ノ文字ナリト激賞セリ当地方他新聞ノ論調モ亦本件ヲ以テ旧式ノ秘密外交ニ依リ米国カ欺カレタル一例ナリトスルニ一致ス二十五日「サン」ハ「ヤップ」ニ日本ヲ迎フルハ比律賓ヲ有スル米国ニ取リ新タニ隣人ヲ迎フル場合ト同様ノ考慮ヲ要スルモ通信系統上ヨリ観レバ事ハ之ヨリ重大ナリ島ノ面積小ナルヨリ見ルニ問題ノ島自身ノ支配ヨリモ電線ノ支配ニ在リ若シ島ノ委任統治

三〇八 二月二十八日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第一分科会第十三回会議議事経過報告ノ件

通第一三三号

(三月一日接受)

二月二十一日開催ノ筈ナリシ第一分科会第十三回会議ハ英國側ノ請求ニ依リ二十五日金曜日ニ延期セラレ同日正午開会一時ニ閉会セリ最近帰華セル英國大使「ゲデス」及最近着任セル伊国大使「リッチ」出席セリ
一、前回ニ引続キ十二月十四日ノ決議ヲ承諾スルヤ否ヤノ件ヲ討議シ先ヅ英國大使ハ「デヴィス」ノ問ニ對シ左ノ如ク陳述セリ即チ英國政府ハ直チニ獨線ノ最終処分ノ討議ニ入ルトモ又新ナル暫定的運用規定(modus operandi)ニ関スル討議ヲ為ストモ何レニテモ差支ヘナシト思考ス然レ共昨年十二月十四日ノ決議ノ趣旨ハ五月三日ノ「プロトコール」ニ依リ定メラレタル現在ノ運用規定ヲ終了セシメントスルニアルモノトセバ英國政府ハ右決議ヲ承認スルコトヲ

三〇一

二、此ニ於テ「デヴィス」ハ本使ニ向ヒ日本政府ヨリ訓令アリタリヤト間ヘルニ付本使ハ日本政府ハ依然トシテ新ナル運用規定ノ協定ヨリモ最終処分ノ決定ニ向ツテ努力スルヲ以テ自然且適當ノ方法ト信ズ日本政府ハ運用ニ関スル現在ノ協定ヲ変更セントスルトキハ其ノ結果「プロトコール」ノ性質及効力ニ関スル至難ノ問題ニ再ビ逢着センコトヲ虞ル而シテ最後ノ処分決定ハ右ノ難問ハ之ヲ避クルコトヲ得ベキノミナラズ十二月十四日旧会合各国委員ハ本国ニ帰リ親シク政府ト協議セル所アルニ依リ今ヤ最終処分ヲ決定シ得ベキヤ否ヤヲ見ルタメ再ビ努力ヲナスコトハ正ニ自然ノ順序ト謂ハザルベカラズト述べタル処「デヴィス」ハ若シ最后処分協定ヲ見ザルトキハ如何ニ措置セントスルノ趣旨ナリヤト問ヒタリ本使ハ之ニ対シ今ヨリ斯クノ如キ仮設的問題ヲ考慮スルノ必要ナシ元来米国委員ハ現ニ電線ヲ運用スル三国側ニアリテ解決ヲ急グベキ刺戟剂ナキコト再三指摘セラレタルモ現在ノ不満足ナル状態ノ繼續ハ何国ニトリテモ不利ナルヲ以テ三国何レモ最終決定ヲ欲セザルモノナシ然ノミナラズ日本ノ関係ニ付テ謂ハバ日本ガ現ニ運用スルハ「ヤップ」那覇線ノミニ止マリ同線ノ運用ハ全然

外界トノ連絡ナキヲ以テ日本ニトリ殆ンド經濟的価値ナキモノナリ然ルニ日本ト蘭領印度トノ貿易ハ日々ニ拡大スル結果日本ハ「メナド」トノ直接通信ヲ必要トスルモ右ノ通信ハ最終処分ノ決定ヲ見ルニ非ザレバ之ヲ実施スルヲ得ズ是日本ニトリテハ最終処分決定ヲ急グベキ充分ノ刺戟剤ニ非ズヤト答ヘタリ

右本使ノ陳述ニ對シ「デヴィス」モ「ヤップ」那覇線ハ現ニ何等經濟上ノ価値無キモ以前ハ米国ト上海トヲ連絡セルモノナリ又米国ハ蘭領印度トノ通信ヲ回復セザル可カラザルガ故ニ太平洋ニ関シテハ日米ノ間ニハ解決ヲ急グ理由充分アリト云フベク吾人ハ速カニ解決ニ達セん事ヲ望ムト云ヘリ三、此時英國大使モ最終処分ノ決定ヲ試ミン事ヲ要求シ仏國大使モ是既ニ前回自分ノ提議セル所ナリトテ贊意ヲ表シ「デヴィス」モ解決ノ望アリヤ否ヤヲ見ル為數日間個別談判ヲ試ミルニ異議無シト云ヒ結局右ニ決定セリ

四、夫レヨリ「デヴィス」ハ近日米国政府交迭スベキニ付決定セル事項ハ決定セルモノトシテ次ノ政府ニ之ヲ引継ギタキニ付テハ決議中本年一月一日以後電線ヲ五国ノ計算ニ於テ運用スル事ハ諸国ニ於テ承諾セルモノト承知スル旨ヲ

述べ英國大使モ夫レニ相違無キ旨ヲ述ベタリ

五、終リニ「デヴィス」ハ本件決議ガ各國ニ依リ承諾セラ

レザルトキハ米国ハ五月三日ノ「プロトコール」ヲ終了セ

シムル事ヲ得ルモノト思考スル旨義ニ述ベ置キタルガ右ノ意見ニハ何等変更無キ旨特ニ念ヲ押シタリ

六、尚仏國大使ハ当日ノ討議中「デヴィス」ノ問ニ答ヘ他

ノ諸国ニ於テ決議ヲ承認スルニ於テハ仏國モ承認スペキ旨ヲ重ネテ明カニシタリ

仏國大使ハ英國大使ト「デヴィス」トノ間ニ「プロトコール」ニ關スル議論アリタル後ニ於テ右ノ答へヲ為シタルモノナルガ故ニ「プロトコール」ノ効力ニ関スル仏國政府ノ留保ヲ放棄シ居ルガ如ク解セラルル虞無キニ非ザルモ同大使ト「デヴィス」トノ応答中ニ必ズシモ然ラザルガ如ク見ユル節モアリ頗ル曖昧ノ態度ヲ執リ居レリ

七、右ノ次第ニテ十二月十四日ノ決議モ結局不成立ニ終リ米国ガ列國ヲシテ「プロトコール」消滅ニ同意セシメントシタル計画其功ヲ奏セズ米国側ガ此儘次ノ政府ニ引繼グカ又ハ最後ノ手段トシテ五月三日ノ「プロトコール」ヲ廢棄スル措置ニ出ルカ未ダ予見スルヲ得ズ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三〇九

在英仏獨伊大使在蘭公使ニ転電セリ

三〇九 二月二十八日 在仏國石井大使(ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シバルフォア起稿ノ対米回

答案ヲ修正ノ件

第三〇四号

(三月三日接受)

往電第三〇〇号ニ關シ「バルフォア」起稿ノ回答案ハ強キニ過グル旨ノ批評事務局ニ起リ事務局ヨリ別案ヲ提出セルタメ本日理事会ハ兩案ヲ基礎トシテ午前午後トモ秘密会ヲ開キ七時漸ク脱稿セリ議論多クハ字句ノ修正ニ關シ(C)式「マンデー」ニ付テハ初メ理事会ハ委任統治ノ配当及び其区域限定ノ権限ナシトシテ最高會議ニ移サシムル勢ナリシガ本使ハ「理事会ハ善カレ惡カレ赤道以北旧独領全部ヲ日本ノ統治ニ委任シタルコトハ日本「マンダー」第一条ニ明記セル所ニシテ米国ハ此決定ヲ誤謬ニ出デタルモノトシテ攻撃ス之ニ對シテ理事会ガ今ニ至リ其権限外ナリトシテ議論ヲ避クル時ハ當然理事会ハ「ゼネヴァ」ニ於テ権限外ノ行動ヲナシタリトノ自白ニ帰着スペク而モ事実ハ決シテ然ルニアラズ理事会ハ五月七日最高會議覚書ノ「エキストラ

三〇三

クム」(理事會於テ發表セルモノ)ナル最信憑スベキ記録
ニ依テ決定ヲナシタルモノナムバ此点ヲ説明シテ世上ノ惑
ヲ解クニアハギンバ理事會ノ威儀ハ地ニ落ツベシ」と強ク

主張シ辟リ「ベヘト」ヲ初メシテ一同ノ賛成ヲ得テ
Having been notified in the name of the principal
Powers that all the islands north of the equator had

been allocated to Japan, the Council of the League
merely fulfilled its responsibility of defining the terms
of the mandate.

Consequently, if a misunderstanding exists as to
the allocation of the islands of Yap, that misunderstanding
would seem to be between the United States and
the principal Allied Powers rather than between the
United States and the League. However, in view of
the American contention and in order to advance
the possibility of an understanding, the Council of the
League has hastened to forward the American note to
the principal Allied Powers.

ト決セリ英仏両文ハ明朝理事會ニ於テ更ニ一読ノ上直ニ駐

ヲ擁護スルノ責任ヲ免レントスルモノニ非ズ

「」、紐育「トリューハー」、「ヤップ」委任統治ニ對スル國
務省抗議ノ基礎ハ公正ノ觀念ニアリテ若シ大戰ニ於テ米
國ノ援助ナクバ独逸ハ敗北セザリシナラン從テ米國ハ獨
領地処分ニ關与スルノ權利ヲ有ス米國ガ聯盟會議ニ代表
者ヲ有セザル事實ハ同國ガ交戦國ノ一員タル地位ヲ喪失
セシムルモノニ非ズ從テ独領地ノ処分ハ米國ノ承諾ナク
シテハ公平ニ之ヲナスヲ得ザルナリ米國ハ委任統治ガ未
開國ノ保護及ビ発達上希望スベキモノナリトノ説ニ賛ス
ルモ日本ハ此目的ヲ以テ「ヤップ」ヲ取得セルニ非ズ米
國ハ「ヤップ」ノ支配ヲ主張スルニアラズシテ太平洋ヲ
周縁スル諸國ガ同島ノ電線利用ニ關シ同等ノ權ヲ有スベ
キヲ主張スルモノナリ

「」、紐育「トラン」、「ヤップ」統治問題ニ對スル國務省
ノ措置ハ太平洋ニ於ケル米國ノ利害問題ハ同國ノ參加承
諾ナク決セラルベキニ非ザルヲ指摘シタルノ点ニ於テ最
モ機ヲ得タルモノナリ米國政府ハ太平洋諸島及ビ「ヤッ
プ」ニ対スル日本ノ委任統治ヲ認ムルコトナキノミナラ
ズ和平條約調印國ニ対シ米國ノ利害問題ニシテ若シ同國

仏米大使ヲ経テ發送スル筈ナリ
在歐米各大使ヘ転電セリ

三月一日 在米國葛原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シ米國各新聞米國政府ノ抗

議ハ正迦ナル並諭評ノ件

第1〇一號

(三月一日接受)

米國政府ハ委任統治ニ關シ聯盟ニ提出セル抗議書ヲ發表シ
タルガ之ニ對スル當國新聞紙ノ論調左ノ通り
一、紐育「タイムズ」米國ハ日本ガ「ヤップ」ヲ支配ス
ルニヨリ其利益ヲ害セラルコトアルモノ日本ハ同島ヲ國
際管理ニ委スルニヨリ其利益ヲ害セラルノ理ナシ獨領
地ハ平和條約ニ依リ五大國ニ讓渡セラレ五大國ニ依リ一
定ノ条件ヲ附シテ之ガ統治ヲ定メラレタルモノナルヲ以
テ米國ガ右条件ノ嚴守セラルベキヲ主張シ得ルノ權利ヲ
有スルヤ明カナリ米國ハ聯盟及ビ大臣ガ本問題ノ重要ナ
ルヲ理解スルト同時ニ之ヲ法律論ニ依リ處理スベキニ非
ザルヲ理解スルヲ希望ス「ベーディング」ハ米國ガ權利
ヲ喪失スルヲ認ムルコトナカルベク又同氏ハ米國ノ利益

ノ見解ニ合セズ又其利益ヲ害スル行為ニハ承諾ヲ与ヘザ
ルヲ通知セリ米國政府今回ノ抗議ハ此事実ニ對スル注意
ヲ喚起シタルモノニシテ機宜ノ措置ト云フベキナリ

三月一日 在蘭國田付公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島電線問題ニ關シ蘭國政府宣言發表ノ件

第一四號

(三月四日接受)

「ヤップ」島電線問題ニ關シ當国外務大臣ベ「アムステル
ダム」発刊「テレグラーフ」本月一日紙上ニ左ノ如キ宣言
ヲ發表セシメタリ

蘭國政府カ本電線一手領有ノ意図ヲ表示シタリト云フハ正
確ヲ欠ク本件ハ戰爭終了後押収セラレタル一ノ獨蘭会社ニ
屬スル電線問題ニシテ和蘭ハ本問題ニ關シ利害關係ヲ有ス
ルカ故ニ蘭國政府ハ本件ニ關シ交渉ヲ開始シタルモノ本件ニ
ハ夥多ノ難問ヲ伴ヘリ然レトモ蘭國政府カ本線ノ獨占ヲ要
求スルト云フハ不正確ナリ
本宣言ノ基ク動機ニ關シテハ未タ外務大臣ト會見ノ機ヲ得
サルヲ以テ之ヲ明カニスルヲ得サルモ不取敢御参考迄

セヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一

三一〇五

三一一 三月三日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島帰属問題ニ関スル我方回答案及在米 大使意見二付進言ノ件

第三二四号

(三月五日接受)

「ヤップ」島帰属問題ニ関スル閣下回答案並在米大使ノ之

ニ対スル意見ニ付僭越ナカラ左ノ二点ニ付卑卑電稟ス

(一)講和會議中米國大統領ノ所謂私的談話ニ止ル記録ト私的

談話ニ次テ若干決議ニ達シ之ヲ載セタル記録トアリテ前者

即チ正式決議ノ記録ナキモ私的談話ノ記録ノミ存スル分ニ

対シテハ私的談話必ズシモ効力無シト云フヲ得ズ我ガ政府

ガ之ヲ楯トシテ論争スペキ場合将来多々アルベシト思ハル

之ニ反シ私的談話ニ次テ或ル決議ニ達シタル記録アル場合

ニハ右談話ハ決議ニ至ル予備的手段ニ過ギズシテ之ヲ以テ

決議ヲ動カスベカラザルハ勿論ナルベシ其ノ分類ヲ考ニ入

レテ大統領ノ所言(private conversation)云々ヲ引用セラ

ルルハ我ガ論旨ヲ強ムルノ効力アルト同時ニ他日我ニ不利

ヲ來ス憂無カルベシ

(二)「ジュネーブ」ニ於ケル理事会ガC式「マンデート」ヲ

裁定シタル内容ヲ本問題ニ引用セラルハ大イニ我ガ論旨
ヲ強ムルノ効果アルベク之ニ対シ米國ガ「メソボタミヤ」
石油問題等ニ関スル議論ヲ加味シ事態ノ範囲拡ガルモ畢竟
米國ノ矢面ニ立ツ者ガ日本ノ外ニ英國ガ加フルニ過ギズン
テ反テ我ガ位地容易ナラシムルノ実益アルベキモ之ガタメ
大ナル不利益ヲ生ズベシトハ思ハレズ依テ本使ハ右理事会
裁判ノ件ニ論及セラルル方然ルヘシト信ズ本使ガ今回理事
会ニ於テ対米回答案討論ノ際本問題ヲ可成日米対立ノ場合
ニ至ラシムルヲ避ケ米國對聯盟理事会ノ關係ニ置カント苦
心シタルハ之ガ為ナリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

三一三 三月四日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

太平洋ニ於ケル旧独線処分問題ニ關シデヴィ ストノ会談内容報告ノ件

第一〇五号

(三月五日接受)

二月二十八日「デヴィス」ハ本使ト会見ノ際太平洋ニ於ケ

ル旧独線処分問題ニ言及シ本使ノ解決案ヲ問ヒタルニ付本

使ハ此際速ニ本問題ヲ解決センガ為ニハ「ヤップ」島委任

統治問題ヲ之ヨリ引離スノ外ナシト答ヘタルニ「デヴィ
ス」ハ右ノ趣意ニ同感ヲ表スルト共ニ兩問題ヲ分離スルニ
ハ如何ナル方法ニ依ルベキヤト問ヘリ本使ハ未ダ一定ノ提
案ヲ有セザルモ例ヘバ「ヤップ」「グアム」線ノ「ヤップ」
端ハ日本ニ於テ運用スルコトトシ若シ必要ナレバ米國政府
ハ他日機会均等主義ガ一切ノ委任統治地域ニ適用セラルベ
キモノト決セラルニ至ラバ右「ヤップ」端ニ付テモ其運用
権ヲ請求スルノ権利ヲ保留スルコトスルモ一案ナルベ
シト答ヘタル処「デヴィス」ハ米國政府ニ於テ苟モ機会均
等主義ノ適用ニ関スル主張ニ対シ反対論アルコトヲ認ムル
ガ如キ解決案ニハ同意スルコト能ハズト云ヘリ本使ハ米國
政府ノ認ムルト否トニ関ラズ右反対論アルコトヲ認ムル
ニシテ之ヲ被フベカラズト論ジ若シ米國政府ニ於テ前述本
使ノ私案ニ同意シ難シトセバ他ニ如何ナル解決案アリヤト
反問シタルニ「デヴィス」ハ「ヤップ」端ノ運用ハ米國之
ニ当ルコトトシ他日日本ノ主張成立スル場合ニハ右運用ヲ
日本ニ引続グコトシテハ如何ト述ベタリ本使ハ之ニ対シ
帝国ノ委任統治地域内ニ於テ外國ガ電線ノ運用ヲ管掌スル
コトハ聯盟規約第二十二条及日本法律ノ結果トシテ全然実

行ノ道ナキコト本使ガ從来幾回トナク詳述セル所ナリ我等
ハ實行不可能ノ考案ニ執着スペカラズト説キタルニ「デヴィ
ス」ハ元來委任ノ条件ニ付テハ米國政府ニ於テ予メ協議
ヲ受クルノ権利アルコトヲ夙ニ英國政府ニ声明シ置キタル
ニ関ラズ英國政府ハ之ニ回答スルコトナク直チニ聯盟理事
會ニ於テ米國ノ發言權ナキニ乘ジ右条件ヲ決定セント企テ
戦爭ニ対スル米國政府ノ貢獻ヲ無視スルノ状アルハ米國政
府ノ一刻モ看過スルコト能ハザル所ナリ將又旧敵國ガ五大
國ノ為ニ抛棄セル領土ノ処分方法ハ五大國ノ協議ニ依リ決
定スベキモノニシテ聯盟理事会ノ関与スペキ問題ニ非ズト
述べ歐州連合諸国ニ対スル深甚ナル不満ヲ鳴ラシタルニ付
本使ハ歐州連合諸国又ハ聯盟理事会ノ行動ニ至リテハ元ヨ
リ茲ニ論議スペキ限ニ非ザルモ本使一個ノ私見ヲ以テスレ
バ右ハ連合諸国ニ於テ米國ノ發言權ナキニ乘ジタリト云フ
ヨリモ寧ロ米國自ラ連合諸國ノ提供セル發言ノ機會ヲ拒絶
セルモノト解セラレザルニ非ズ蓋シ主要同盟諸國ハ先づ講
和条約ヲ批准シ從テ條約ノ規定スル各般ノ義務ヲ負担スル
ト共ニ條約上ノ権利ニ依リテ何レモ聯盟理事会ノ一員トナ
リ其資格ニ於テ委任統治条件ノ決定ニ参与セルモノナルニ

米国ハ自ラ理事会ノ一員タルコトヲ辞シ何等条約上ノ義務ヲ負担スルコトナクシテ單ニ権利ノミヲ主張スルモノナルガ故ニ主要同盟諸國ノ側ヨリ之ヲ見レバ米国ニ対スル不満トモナルベシ理事会ガ委任統治条件ヲ決定スルノ権限ニ至リテハ聯盟規約第二十二条第八項ノ明文ニ徵シ疑フ容レズリノエヌシニ「アツペイ島モ委任統治問題、既ニ日本河國攻

当日会見ノ結果本使ノ得タル印象ニ依レバ米国現政府ハ日
本ノ「ヤップ」島委任統治ニ對シ強テ異議ヲ唱ヘザルベキ
モ「ヤップ」「グアム」線ノ「ヤップ」端運用権ニ付テハ
飽迄從来ノ主張ヲ固持シテ其儘問題ヲ後繼者ニ引続グノ決
心ナルガ如シ

三一四 三月四日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

府間ニ於ケル外交商議ニ附セラレ更ニ轉ジテ米國ト他ノ主要連合諸國又ハ聯盟理事會トノ交渉ニ還リタル今日之ヲ通信會議ノ議題トシテ論議スルハ無益ナルベシト述ベタリ「デヴィス」ハ聯盟規約第二十二条第八項ノ解釈ニ付テハ本吏ト意見ヲ異ニシ五大國ノ為ニ一括シテ拠棄セラレタル

別レタリ
間半ニ亘リ意見ヲ交換シタルモ何等商議ノ進捗ヲ見ズシテ
ベキ効力ナシトノ議論ヲ繰返シ尚枝葉ノ論等ニ入りテ二時
事会ノ一員タルト否トヲ問ハズ右決定前当然協議ヲ受クベ
キ権利ヲ有ス本件領土ニ関シ共同名義者タル米国ヲ除外シ
テ他国ノ取りタル決定ハ米国ノ地位ニ何等ノ影響ヲ及ボス

然レトモ「ヤップ」ニ関シ茲ニ日本ノ立場ヲ明白ニスル為以下ノ二点ヲ明カニシ置クノ必要アリ

第一、日本ハ旧独領諸島ノ処分ヲ決定セル五月七日ノ四国
会議ニ代表セラレズ後ニ至リテ議事決定ノ通知トシテ
「ブロセ、ヴァーバル」ヲ受領セルノミナルガ記録ニ
ハ何等「ウイルソン」ガ留保ヲナセル跡ヲ止メズ

第一、曾テ同島カ独領ナリニ時代ニ米国ハ其通信ヲ脅カサルルノ虞アリトノ意見ヲ表示セルコトアルヲ記憶セズ從テ吾人ハ今回ノ米国ノ公文ニ接シ遺憾且痛心ニ堪ヘズ日本ハ毫モ「ヤップ」ヲ経由スル通信ヲ妨害スルノ意向ナクスノ如キ通信ノ自由ヲ保持セシムルト共ニ日本ノ同島ニ対スル委任統治ノ権ヲ保有スル方法ヲ考慮セント欲スルモノナリ吾人ハ米国政府ガ速ニ右ノ目的ニ向テ交渉ヲ開始セノコトヲ希望ス吾人ハ米国ヲ満足セシメンコトヲ期ス

三一五 三月四日 内田外務大臣ヨリ 在仏國石井大使宛(電報)

合ノ件

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線处分問題一件 三一五

三一六

三〇九

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一七 三一八 三一九

三一〇

三一七 三月五日 内田外務大臣（ヨリ）
在仏國石井大使宛（電報）

委任統治ニ付米國ノ為セル抗議ニ対スル理事

会ノ回答ニ閑スル件

第二二三号

貴電第三〇四号ノ英文ハ貴電第三〇〇号回答ノ何レノ部分ニ挿入サレタルヤ右回答ニ依レハC式「マンダー」ハ既ニ確定シタルモノトシ次回ノ理事会ニハ之ヲ提出セザル意味ト了解シ差支ナキヤ尚帝国政府ハ五月七日最高會議ノ決定ハ確定不動ノモノナリトノ見解ヲ有スルニ付其御含ニテ措置セラレタシ

在歐米各大使ニ転電アリタシ

三一八 三月五日 在蘭國田付公使（ヨリ）
内田外務大臣宛（電報）

蘭國政府ノヤップ島電線問題ニ閑スル宣言ナ

ルモノノ動機ニ付同国外相ニ問糺ノ件

第一七号

（三月六日接受）

往電第一四号ニ閑シ

三月四日外務大臣ニ面会ノ序ヲ以テ同大臣宣言ノ動機ニ閑

シ紀シタルニ意外ニモ本件毫モ関知セスト云ヒ尚政務局長へ同大臣ヨリ問糺シタルニ同局長ニ於テモ何等右様宣言ヲ發表シタルコトナシト答ヘタリ尚同大臣ハ語ヲ統ケ本件ハ目下華府ニ於テ討議中ニ属スルモノナルヲ以テ本大臣ニ於テ何等宣言ヲナスノ必要ヲ見ス察スル處右ハ同新聞社ノ一社員カ外務省ニ來リ下僚ノモノヨリ伝ヘ聞キタルコトヲ儘ニ發表シタルモノナルヘシト云ヘリ然シナカラ事情果シテ上記ノ如シトスレハ苟モ外務大臣ノ宣言トシテ新聞紙ニ発表後已ニ四日ヲ経タル今日ニ於テ何等正誤ノ手続ヲ取ラス其儘之ヲ放置シ置クハ甚タ不可解ノ様存セラルモ右統報トシテ電報ス

三一九 三月六日 在仏國石井大使（ヨリ）
内田外務大臣宛（電報）

石井大使声明ナル記事ノ紐育タイムスニ掲載

セラレタル事情ニ付説明ノ件

第三四七号

（三月九日接受）

本使発在米大使宛電報第九七号貴官御参考迄ニ転電ス
在米大使発大臣宛第一〇八号ニ閑シ「ニューヨーク、タイムズ」記者ニ対スル本使「ステートメント」ナルモノハ右

米国側ニ電線ノ運用権ヲ認ムル趣旨ノ事ハ談及シタルコトナキ趣ナリ

三二〇 三月十日 在紐育熊崎總領事（ヨリ）
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島電線問題ニ閑スル紐育新聞論調報告ノ件

第七四号

（三月十一日接受）

前記会談ノ際記者ハ連合諸国ガ米國ノ同意ナク委任統治問題ヲ決定セルハ不都合ナリト述ベタルニ付芦田ハ貴電列記（）ノ通リノ事實ヲ述ベテ米國ガ毫モ閑却セラレタルコトナキヲ答ヘタルニ記者ハ更ニ日本ガ「ヤップ」ヲ委任統治スル場合ニハ米國ト極東トノ通信ハ全ク日本ノ任意ニ左右セラルコトナリ米國ガ不快トスル点茲ニ有リト云ヘルニ對シ（）ノ前段ノ意味ヲ答ヘタリ然ルニ重ネテ同記者ハ日本及英仏ニ於テハ米國新聞通信ニ対シ検閲ガマシキ拘束ヲ加ヘツツアル事実アルニ非ズヤト反問セルニ付芦田ハ英仏ガ如何ナルコトヲナシ居ルヤ承知セザルモ日本ハ濫リニ米国人ノ通信ノ自由ヲ妨害スルノ意ナク此ノ点ハ日本ノ真意ニ信頼セラルルノ外ナシト答ヘタル趣ニテ「ヤップ」ニ於テ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一〇

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二一

三二二

米国ノ権利アルコトヲ認メザルベカラズ本問題ハ米国ノ承認ナキ限り終結シ得ルモノニ非ズ云云ト謂ヘリ今日迄当地新聞ニ表ハレタル所ハ概シテ赤道以北ノ独領諸島ヲ日本ニ割当テタル一昨年五月七日ノ最高會議ハ恰モ米国大統領ヲ加ヘズシテ行ハレタルカ又ハ右ノ事実モ無ク万事米国ノ欧洲撤退後連合國ニ於テ米国ヲ出シ抜キテ勝手ニ处分シタルモノト觀測シ居ルヤノ印象アリ尚本件ニ関シテハ既報ノ通り只管米国ノ権利ヲ主張スル論評アルト共ニ本件ヲ些細ノコトトテ嘲笑セル趣旨ノ戲画及 War ナル文字ノ滑稽ナル意味ヲ寓セル戯文モ亦散見ス

在米大使へ郵送セリ

三二一 三月十日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ、グアム線ノ日米共有説固持シ来リタ

ル経緯報告ノ件

(三月十一日接受)

貴電第九九号ニ関シ

二月二十八日「デヴィス」トノ会見ハ主トシテ「ヤップ」端電線運用權ノ問題ニ関セルコト往電第一〇五号ノ通リナ

トヲ避ケ置キタリ
将又「ヤップ」「グアム」線ニ付テハ止ムヲ得サル場合ニハ帝国政府ハ最後ノ讓歩シテ全部ヲ米国ノ所有トスルコトニ同意セラルヘキ旨客年貴電第五七八号御内訓アリタル處此際右意向ヲ示ス時ハ米国ニ於テ同線ノ両端トモ之ヲ運用センコトヲ主張スルノ理由鞏固トナルヘキヲ慮リ前記ノ如ク主義トシテ同線ノ日米共有説ヲ固持シ来リタル次第付御了承ヲ請フ

在英仏独伊蘭各大公使ニ転電セリ

三二二 三月十二日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ関スル我対米覺書ヲ関係国ニ

通告シ置クコト有利ナリト認メ請訓ノ件

(三月十四日接受)

大臣発在米大使宛第八二号ニ関シ閣下ヨリ米国代理大使ヘ御手交相成リタル覚書ハ「ヤップ」島ニ対スル日本ノ地歩ヲ極テ詳細ニ詳述シアルニ付關係国政府へ通告シ置クコト有利ナリト思考セラル就テハ御同感ナルニ於テハ右ノ通り取計方何分御回訓アリタシ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二三

三二三

ルモ同官ノ談話中ニハ「ヤップ」「グアム」線ノ所有權力

当然米国ニ属スヘキモノト予想セルカ如キ語氣アリタルニ付本使ハ曩ニ同線ヲ日米両國ノ均分共有トセソコトヲ一ノ私案トシテ提議シタルモ同線全部ヲ米国ノ所有トセントス

ル米国ノ提案ニ對シテハ本使ニ於テ同意ヲ表シタルコトナク又公平ナル分配案トモ思考セズト注意シタル上日本カヌ純ナル電線所有權ノ問題ニ拘泥シテ妥協ヲ峻拒スルモノナルカ如キ感触ヲ避ケンカ為本使ハ語ヲ繼キ若シ「ヤップ」

「グアム」線所有權問題ガ米国ニ取リテ主タル難関ナリトセハ同線持分ノ割合ニ関シテハ本使ニ於テ再考ヲ辞セザルベク只日米共有ノ主義ハ之ヲ維持セソコトヲ希望スト語リ

先方ノ意向ヲ探ラソコトヲ努メタルガ「デヴィス」ハ日本ニ於テ「ヤップ」「グアム」線ニ對シ幾分カノ持分ヲ留保スルコトナラハ「ヤップ」那覇上海線ニ付テモ米国ハ又同率ノ持分ヲ留保セソコトシタシト云ヒ何レノ場合ニ於テ

モ「ヤップ」端運用權ニ関シ讓歩ノ意ナキモノト認メタルニ付本使ハ米国政府ニ於テ斯ノ如キ態度ヲ取ル限り「ヤップ」島委任統治ノ条件ニ接觸スルコトナクシテ妥協ヲ進捗スル望ナカルヘシト答へ深ク所有權分配率ノ審議ニ入ルコ

在英米伊各大使へ転電セリ

三二三 三月十三日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島委任統治問題ヲ米国ト主要同盟諸国ト

ノ間ノ問題トスルヲ得策トスル事情ニ関スル件

第一〇五号

(三月十四日接受)

本使発在仏大使宛電報第一一号
大臣宛貴電第三二四号第二点「ヤップ」島委任統治ニ関スル問題日米間ノ爭議トセズ米国ト主要同盟諸国一般又ハ連盟理事会トノ間ニ於ケル關係ニ移スコトノ得策ナルハ本使ニ於テモ全然同感ニシテ已ニ往電第九二号「デヴィス」トノ会談中ニモ此趣意ヲ含メ置キタル次第ナルガ右会談中翌日二月二十二日ニ至リ當國諸新聞紙ハ「デヴィス」ノ談トシテ「ヤップ」委任統治問題ハ日米間ノ爭議ニアラズ米國ト主要連盟諸國一般トノ間ニ於ケル問題ナルコトヲ掲ゲ爾來此点ハ當國ニ於テ漸ク諒解セラルルニ至レルモノト認メラル我対米回答中本件理事会ノ裁定ヲ引用セザルヲ可トスル本使ノ意見モ畢竟同一ノ趣旨ニ出デタルモノニシテ若シ右裁定ヲ我主張ノ論拠トスルトキハ之ニ関スル英仏両國ノ右裁定ヲ我主張ノ論拠トスルトキハ之ニ関スル英仏両國ノ

三二三

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一六

三一七

三一六

測ヲ為シツツアリ孰レニスルモ二月二十三日附帝國政府ノ公文ニ對シ米國政府ノ發送セントスル回答ハ讓歩的態度ヲ示サナルノミナラス或ハ一層強硬ナル主張ヲ為スコトアルヘキニ付該回答ヲ包含スル往復公文書ヲ發表スルトキハ徒ニ両国新聞紙上ノ評論ニ氣勢ヲ添ヘ問題ノ解決ヲ益々困難ナラシムルノ虞アリ就テハ明十七日更ニ「デヴィス」ニ會見ノ上此際直ニ二月二十三日迄ノ往復公文書ヲ發表スルカ然ラサレハ一切ノ發表ハ當分見合ハスコトニ打合セヲ試ムヘシ本使ノ所見ニ依レハ今後一週間カ十日以内ニハ「ヤップ」問題解決ノ望アルヤ否ヤノ見込立ツニ至ルベク夫迄ニハ右公文書發表ハ姑ラク見合ハセ置ク方得策ナルヤニ思考ス英仏独伊蘭へ転電セリ

右訓令トシテ在英在伊大使ニ転電シ参考トシテ在米大使ニ転電アリタシ

三一七 三月一十一日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シデヴィストノ会談内容報

告ノ件

通第二六号 (三月二十二日接受)

三月十七日「デヴィス」ト會見ノ上旧獨線並ニ之ニ關連スル「ヤップ」統治問題ヲ久シク未解決ノ儘ニ放任スルノ不可ナルコトヲ切言シ目下本問題ノ不定ナル狀態ハ両国双方ニ對シテ重大ナル害毒ヲ釀シツツアルコトヲ指摘シタル處「デヴィス」ハ全然同感ヲ表シ現ニ歐州方面ニアリテハ此ノ不満足ナル形勢ニ乘ジテ隱然之ヲ挑発スルモノ勘カラズト述べ猶昨日「ヒューズ」ハ「デヴィス」ト談話ノ序ニ加州問題ニ言及シ自分ハ未ダ其ノ委細ノ経過ヲ考究スルノ暇ナキモ所謂「モリス」幣原案ニ對シ同情的意向ヲ有ス(sympathetically disposed)ト云ヒ尤モ本案實行ニ就テハ西部地方人民ノ強硬ナル反対アルベキモ先づ目下國論騒然タル「ヤップ」問題ヲ満足ニ解決スルコトヲ得バ加州問題

内告方訓令ノ件

第二五二号

貴電第三八三号ニ関シ本年二月二十六日附米國政府ニ對スル我回答責任國政府ヘ内密ノ含ミトシテ通告サレタシ

三一六 三月十九日 内田外務大臣ヨリ 在仏國石井大使宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シ我對米回答ヲ任國政府ニ

解決案実行ニ關スル自分ノ地歩ハ比較的容易トナルベシト内話セラレタル旨ヲ語リ右「ヒューズ」ノ内話ヲ本使ニ漏スコトハ同長官ノ承認ヲ得タルニ非ザルヲ以テ旁本使限リニ含ミ置カレ度旨ヲ附言セリ

次ニ本使ハ電線及「ヤップ」問題ノ最終的解決方法ヲ考究センガ為ニハ先づ双方ノ真意ニ關シ一点ノ誤解ナキコトヲ要スル旨ヲ述べ今一応米國政府ノ主張ヲ具体的且明確ニ回示セラレントヲ求メタルニ「デヴィス」ハ之ニ答ヘ米國政府ノ太平洋旧獨線問題解決案ハ

- 一、「ヤップ」「グアム」線ヲ米國ノ所有トスルコト
- 二、「ヤップ」「メナード」線ヲ蘭國ノ所有トスルコト
- 三、「ヤップ」那霸上海線ヲ日本ノ所有トスルコト

四、各電線ノ所有者ハ其ノ電線ノ両端共ニ之ヲ運用スルコト

五、米日蘭三国間ニ公平ナル電信連絡業務取扱協定ヲ設ケ之ニ依リテ各電線相互間ノ連絡ヲ確保スルコト

六、各線ノ所有者ハ「ヤップ」島ニ於テ何等ノ課税又ハ監督ニ服スルコトナクシテ各自ノ電線ヲ運用スルノ權利ヲ有スルコト

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一七

三一七

以上六点ニ關シ満足ナル協定ニ達スルトキハ旧獨線処分問題ハ日米両国ノ關スル限り最終的ニ解決セラレタルモノナリト答ヘタリ

本使ハ更ニ右電信運用権ノ内容ニ付質問シ即チ「ヤップ」端ニ設置セラル可キ米國電信局ハ他ノ二線トノ連絡業務ヲ取扱フニ止マリ直接ニ公衆ニ對シ電信ノ受付ヲ為スノ目的ヲ包含セズト了解シ差支無キ哉ト問ヒタルニ「デヴィス」ハ右ハ未ダ思及バザリシ問題ナルガ例ヘバ「ヤップ」「グアム」線ヲ經由スル「ヤップ」發着電信ノ受付配達ハ同島米國電信局ニ於テ之ヲ取扱フコトヲ得ザル理由無カル可シト答ヘタリ本使ハ曩ニ「ラネル」ヨリ聞キタル所ニ依ルニ仏國ニ於テハ米国会社が自己ノ電線ヲ仏國領土内ニ陸揚シ其技術的運用ヲ司ルコトヲ認許スルモ公衆ニ對スル電信ノ受付配達ハ必ズ仏國郵便局ノ手ヲ經ルコトヲ要ストスルノ法制ナルガ如シ又陸揚地ニ對スル國家主權ノ作用ヨリ見ルモ電信ノ陸揚及び技術的運用ト公衆ニ對スル電信ノ受付配達事務トハ全然區別スルコトヲ得可キモノナリト注意シタルニ「デヴィス」ハ仏國ノ法制ガ「ラネル」ノ説明セル通りナリトスルモ第一ニ右ハ徒ラニ事務ヲ複雜ナラシムルニ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三一七

三一八

止マリ何等実益無キ旧式制度ニシテ英國ノ如キハ既ニ旧慣ヲ捨テタルノミナラズ第一ニ委任統治地域ハ一国ガ固有主權ヲ有スル地域ト異ナリ交通上ノ利便ニ関シ一層広汎ナル自由解放主義ヲ取ルヲ当然トスト述ベタリ

シテ留任セルモ國務次官トシテハ已ニ退職セル。今日現政府ヲ代表シテ右質問答フルコトヲ得ズ尤モ右從來ノ方針ハ實際的ニシテ穩當ナルコトヲ「ヒューズ」氏ニ勧告スルヲ辞セズト答へタリ

本使ハ右論点ヲ附議セントスレバ又々委任統治ノ性質論ニ
涉ルヲ以テ差当リ本使ノ意見ヲ留保スルト共ニ仮リニ以上
「デヴィス」ノ述べタル米国政府ノ主張ニ付満足ナル協定
ヲ了スルモノトセバ「ヤップ」島ニ対スル日本ノ委任統治
ニ関シテハ米国政府ニ於テ最早何等異議無キコトニ了解シ
差支無キヤト問ヒタルニ「デヴィス」ハ之ニ答ヘ單ニ既設
ノ旧独線ニ限ラズ将来必要アル場合ニハ米国其他何国ト雖
モ同様ニ「ヤップ」島ニ於テ新ナル電線ヲ陸揚及ビ運用ス
ルノ権利ナカル可カラズト謂ヘリ依テ本使ハ仮リニ日本ニ
於テ此ノ権利ヲ承認スルトスレバ日本ノ「ヤップ」島委任
統治ニ関スル米国政府ノ異議ハ一切消滅ス可キヤト更ニ追
窮シタルニ「デヴィス」ハ実ハ前政府ガ日本ノ「ヤップ」
島委任統治ニ関シ異議ヲ唱ヘタルハ列国一般ノ為メ電信ノ
陸揚及ビ運用権ヲ確保スルノ目的ニ外ナラザリシモ現政府
ハ同一方針ヲ取ル可キヤ否ヤ自分ハ差当リ通信會議委員ト

テ苟モ帝国政府ニ於テ米国ノ圧迫ニ依リ当初ノ主張ヲ放
ブ」島委任統治ノ問題ハ一時解決セリトスルモ其両国将来
ノ関係ニ及ボス有害ナル影響ハ計ル可カラザルモノアルベ
ク双方ノ立場ヲ公平ニ考慮セル解決方法ニ非ザレバ偶々一
層重大ナル後累ヲ他日ニ残スモノト云ハザルヲ得ズ本使ノ
深甚ナル憂慮ハ一ニ茲ニ存ス今ヤ本問題ハ両国民ノ注意ヲ
惹ク焦点トナリ互ニ一種ノ国民的感情ヲ誘発スルニ至リタ
ルハ乍遺憾現実ノ事実トシテ認ムルノ外無ク此際米国政府
ニ於テモ此情勢ノ大局ヲ顧慮シ本問題ノ解決ヲ計ルニ当リ
日本ノ立場ヲ無視スルガ如キ態度ニ出デザランコトヲ切望
スト述ベタルニ「デヴィス」ハ頻リニ之ニ耳ヲ傾ケ尠カラ
ザル印象ヲ受ケタルノ状ヲ示セリ

三一八 三月二十一日 在米國幣原大使（ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤツブ島問題ニ関シテウイストトモヘ会談ノ件
(三月二十一日接受)
通第一七号

月十八日「デヴィス」ヲ訪ヒタルニ同氏ハ昨日本使ヨリ
七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二八

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二九

三一〇

モノト了解シテ此形式ニ同意セルモノナリ聯盟規約第二十一条第六項南太平洋諸島ニ関スル条項ニ「受任國領土ノ構成部分トシテ」ナル語アルハ之カ為ナリ此成行ヲ無視シ南太平洋諸島ノ委任統治ヲ同条第四項及第五項ノ場合ト一律解釈セントスルハ妥当ナラサルカ如ク畢竟委任統治ノ性質ハ聯盟規約加入国ニトリテハ該規約ノ明文ニ依リテ解釈スルノ外ナク此際右規約ノ条項及聯盟理事会ノ決定ヲ変更シ別ニ委任統治条件ヲ定ムルコトハ如何ニシテ行ハレ得ヘキヤ想像スルコト能ハスト述ヘタルニ「デヴィス」ハ聯盟理事会カ米国トノ協議ヲ變シテ委任統治条件ヲ決定セルヲ不当トスルノ議論ヲ繰返シ本使ノ指摘セル点ニ付テハ自分ハ説明スルコトヲ得ヘキ地位ニアラサルヲ以テ直接ニ國務長官ト意見ヲ交換セラレタシト云ヘリ

次ニ布哇又ハ其他ノ米領諸島ニ於テ日本ニ電線ノ陸揚及運用ヲ許スノ問題ニ關シテハ「デヴィス」ハ例ヘハ米国政府ヨリ日本政府宛公文ヲ以テ「若シ日本ノ希望アルニ於テハ米国ハ英國及伊国トノ例ニ倣ヒ（右協定案ハ曩ニ一旦通信會議第四分科会ノ問題トナリタルカ後ニ本使會議ヨリ分離シテ米英伊三国間ニ討議スルコトトナリ三国委員間ニ一ノ

成案ヲ得タルモ未タ各本国政府ノ承認ヲ得ルニ至ラス客年通第八七号電報及十一月十四日公第六二三号公信参照）同一条件ヲ以テ米領諸島ニ電信ノ陸揚及運用ヲ日本ニ許スコトニ異議ナシ」トノ趣旨ヲ言明スルモノ一案ナルヘシト云ヘルニ付本使ハ右米英伊三国協定案ナルモノハ日本ノ同意シ難キモノナルコト其ノ當時日本委員ノ声明セル通リニテ今更同一問題ヲ復活スルコトヲ得ス要スルニ仮リニ日本カ「ヤップ」島ニ於テ電信ノ陸揚及運用権ヲ米国ニ許与スルトトセハ幾分カ日本ノ國論ヲ緩和スルニ足ルヘキカト考へ予メ一応之ニ關スル米国政府ノ方針ヲ質問シタル次第ナルモ米国政府ニ於テ前記協定案ノ復活ヲ求メラル以上右我國論緩和ノ目的ニ資スル所ナキヲ以テ考量ノ理由ナシト答ヘタルニ「デヴィス」モ日本ノ立場ヲ了解シ他ニ適當ノ考案ナキヤ考究シタルモ遂ニ発見セス一先ツ散会セリ

在欧各大使及在蘭公使ニ転電セリ

三二九 三月二十一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
米國ノ新聞論調穩力トナレルニ付我方ノ反対

往電第一四一号ニ關シ三月十七日「デヴィス」ニ会見ノ節

通第二八号
(三月二十二日接受)

貴電第一一五号ニ關シ

當國ニ於テハ戦争余波殊ニ昨年ノ大統領選挙ニ伴ヒ万般ノ問題ニ關シテ神經過敏ノ状ヲ呈シタル一般ノ人心ハ新大統領就任以来漸ク常態ニ復帰スルノ傾向アルモノノ如ク独線処分及「ヤップ」管理ノ問題ニ付テモ最近新聞紙ノ論調漸次穩カトナリ屢我ニ不利ナル記事ヲ掲ゲ居リタル「ワシントン、ポスト」ノ如キモ往電第一三九号所報ノ通り聊カ其態度ヲ異ニセルノ観アリ依テ此ノ際貴電御来示ノ通信ヲ為サシムルハ却テ世論ヲ挑発シ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アリト思考セラルルニ付本件ハ暫時実行ヲ見合サルル様致シタシ英仏独伊ヘ転電セリ

三三〇 三月二十一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シ日米間往復文書ノ公表見

合方累ネテ稟申ノ件

通第一一九号
(三月二十二日接受)

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三〇

三三一

三三一 三月二十二日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シ連合通信員ニ対シ為シタ
ル談話ガ連合通信トシテ華盛頓ポスト等諸新
聞ニ掲載サレタル件

第一五三号
(三月二十三日接受)

三三一

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二二

「ヤップ」問題ニ関スル真相及ビ本邦側ノ主張ハ当國ニ於テ一般公衆ニ誤解セラレ居ルノ感アルヲ以テ本使ハ十二日連合通信ノ「フッド」ト会談ノ際同人ニ対シ本問題大体ノ経過ヲ語リタル處「トリビューン」「ヘラルド」「華盛頓ボストン」及「華盛頓スター」ハ十三日連合通信トシテ日本ハ最高會議ガ与ヘタル委任統治ヲ根拠トシ「ヤップ」島ノ自由占的管轄ヲ主張シ電線ニ付テハ其使用ヲ總テノモノニ自由ニ許スト同時ニ其運用及ビ管理ハ電線陸揚ゲ地ヲ統治スル國ニ於テ之ヲ行フベキヲ主張シ実例ヲ「グアム」「マニラ」線ノ存スル今日「グアム」及ビ「ヤップ」經由米亞兩大陸連結線ハ平常ノ場合ニ於テ必要ナラズ從テ之ガ管理問題ノ解決ハ切迫セルニアラズトノ記事掲載セラレタリ更ニ十四日「華盛頓ボストン」ノFox本使ヲ來訪シ日米懸案ニ付種々質問スル所アリ本使ハ之ニ對シ問題ノ大要ヲ語リ置キタルガ十五日ノ「ボストン」紙第一面ニ「フォックス」ハ本使ノ談トンテ「日米両国間ニハ外交手続ニ依リテ解決シ得ザル問題ナク外交以外ノ方法ニ依リ解決シ得ル問題ナシ」トノ意見ヲ掲ゲタル上「ヤップ」問題ニ付テハ本使ノ談ト

「ヤップ」那霸線ヲ而シテ和蘭ヲシテ「ヤップ」「メナド」線ヲ各管理セシムルノ交渉モ行ハレタリ然レドモ日本ノ見解ニ從ヘバ國際管理主義ハ理論一貫セズ且ツ委任統治規定及ビ日本ノ法律ニ反ス
以上日本ノ見解ニ對シテハ「ヒューズ」長官ハ專ラ米國側ノ見解ヲ主張シ極力同國ノ権利ヲ擁護セントスルヤモ計ラレズ然レドモ今日ノ處日米両國ハ此機微ナル交渉ニ當リ共ニ意見ノ合致ヲ切望シ居ルヲ以テ本件ノ満足ニ解決セラルベキヤ信ジテ疑ハズ

三二二 三月二十四日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

太平洋旧独線処分及ヤップ島委任統治問題ノ文書

(三月二十五日接受)

太平洋旧獨線処分及ビ「ヤップ」島委任統治問題ニ關シ當地ニ於ケル交渉ノ経過ハ隨時電報セル通リナルガ今ヤ本問題ノ討議ハ終結ニ近ヅキ帝國政府ニ於テモ最後ノ方針ヲ決定セラルベキ時期ニ達シタルモノト思考スルニ付此ノ際右経過ノ要点及本使ノ所見左ニ稟申ス

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三二二

セズシテ左ノ記事ヲ掲ゲタリ

日本ノ見解ニ依レバ「ヤップ」ノ重要ナルハ同島ガ電線ノ陸揚地ナルノ点ニミ存シ決シテ海軍根拠地ナルガ故ニアラズ戰前ニ於テハ獨蘭会社ガ「ヤップ」「グアム」線「ヤップ」「メナド」線及ビ「ヤップ」上海線ヲ所有運用シツアリタルガ開戦ニ當リ日本ハ前「線ヲ切断シ第三線ヲ那霸ニ陸揚ゲセリ而シテ今日運用セラレツツアルハ此第三線ノミ尚日本ハ先ニ戦争ノ結果「ヤップ」ヨリ独逸人ヲ駆攘シ爾來同島ヲ占領シ来レルガ「ヤップ」ヲ含ム南洋諸島ハ對独平和條約第二十二条ニ依リ受任國ノ領土ノ一部トシテ其統治ニ委セラレタルガ後最高會議ニ依リ「ヤップ」ノ委任統治ガ日本ニ托セラルルヤ同國ハ「ヤップ」ニアル電線ヲモ包含スル總テノ事項ハ日本ノ法規法權ノ下ニ服スペキモノナリトノ見解ヲ執レリ日本ノ法律ニ依レバ電信ノ經營ハ政府ニ屬ス而シテ日本ハ既設電信所有ノ問題ニ關シテハ和蘭ノ既得権ヲ尊重シ又「ヤップ」島ニ於ケル日本ノ権利ニ關シテハ之ヲ放棄スルノ意ナシ「ウイルソン」在任中ニ提出シタル米國ノ主張ハ電線ヲ國際管理ニ容レシムルニアリタリ又米國ヲシテ「グアム」「ヤップ」線ヲ日本ヲシテ

三二三

三、最モ重大ナル難問ハ「ヤップ」島ニ陸揚ゲセラレタル電線運用ノ問題ナリ蓋シ過般戦争以来歐州諸国ハ其ノ運用スル電線ヲ利用シテ政治上ハ勿論商業上ノ機密ヲモ探知シ米国亦自ラ其ノ例ニ倣ヒタルノ経験ヲ有スルガ故ニ米国発着電信ヲシテ外国電信系ヲ經由セシムルコトハ当國ニ於テ政府民間共ニ著シク不安ノ念ヲ抱ク所トナリ米国人ノ国民性ト相俟チテ極力外国電信系ノ羈絆ヲ脱セントコトヲ主張スルニ至リタル処「ヤップ」上海線ニ関シテハ其ノ求ムル所多キニ過ギタルヲ自覺シ右ノ主張ヲ断念シタルモ蘭領印度トノ連絡ニ付テハ飽クマデ前説ヲ固持シ「グアム」ト「メナード」トノ間ニハ第三國ノ干渉ナキ通信発着ノ便ヲ得ンコトヲ努メツツアリ本使ハ此ノ点ニ付テモ從来及ブ限り貴訓ノ趣旨ヲ体シテ吾ガ主張ヲ力説シタル心算ナルモ到底妥協ノ余地アルモノト思ハレズ

四、客年貴電第五七八号ニ依レバ「ヤップ」「メナード」線ヲモ日本ノ所有トシ蘭國ノ既得利益ニ付テハ日蘭間ニ直接交渉ヲ行ヒ今回會議ノ関与外ニ置クベシトノ事ナル處前項ノ事情ニ依リ米国ハ「グアム」「ヤップ」線ヲ利用シテ「メナード」ト直通連絡ヲ開ク事ニ最モ重フ置クノミナラズ

トスル遙カニ重大案件ヲ眼前ニ控ヘ旧独線問題ノ如キハ強ヒテ拘泥スルノ価値無キモノト認ムルモノノ如シ日本ハ歐州諸国ト自ラ趣ヲ異ニスルモノアリ必ズシモ英仏ノ例ニ倣フヲ要セザルベキモ結局今日ノ主張ヲ固持スル時ハ我ハ孤立ノ地位ニ立チ日米ノ扞格ハ益々顯著ナルベク事茲ニ到ラバ如何ニシテ此紛糾ヲ解クコトヲ得ベキヤ本使ハ種々思索ヲ廻ラシタルモ遂ニ成案ヲ得ズ

六、米国ガ「ヤップ」端ニ於テ電信局ヲ設置スル場合ヲ仮定シ其我利害ニ及ボス影響ヲ考フルニ同局実際ノ機能ヨリ見レバ主トシテ蘭領印度トノ通信上日本ノ干渉ヲ脱スルニ止マリ而カモ平時ニ於テハ米國ト蘭領印度トノ間ニ我干渉ヲ必要トスベキ重要機密電信ノ往復アルモノト想像セラレズ又戰時ニハ別ニ我利益ヲ保全スルニ足ルベキ相当ノ方法ナキニ非ザルベシ米支間ノ連絡ニ付テハ現ニ米国ハ自国会社ノ所有運用スル「グアム」「マニラ」上海線アルヲ以テ同線ニ故障無キ限重要電信ハ総テ之ヲ經由スルヲ常トスベク從ツテ「ヤップ」那霸上海線ハ我ニ於テ可成設備ノ完全ト通信ノ自由トヲ計リ米国ヲシテ我電信系ヲ利用セシムル様誘致スルヲ得策ト信ズ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三二

日本ガ米国ヲ疎外シテ蘭國ト協定スルハ米国ノ好マザル所ナル事明瞭ナルガ故ニ本案ハ成立ノ見込無ク結局先づ日本間にニ大体ノ解決案ヲ定メタル上之ヲ基礎トシテ蘭國ト交渉スルノ外無シト思考ス

五、本問題ニ関シ過般英國大使ト熟談シタル処同大使ハ予テ「デヴィス」ト接触ノ結果感想ニ依ルニ「ヤップ」島ニ於ケル電線運用権ニ付テハ日本ノ現行法制上实行困難ナルコトハ米国側ニ於テモ充分了得セザルニ非ザルモ既ニ「ヤップ」島委任統治問題ニ関シ公然列國ニ抗議ヲ提出セル行掛リアリ右抗議ハ米国上院外交委員会一致ノ支持ヲ得タルノミナラズ他ノ一方ニ於テ米国実業界ノ圧力亦強大ナルニ鑑ミ最早讓歩スルコトヲ得ザル地位ニ在ルモノト察セラルト語リ實際的見地ヨリスレバ一國領土内ニ於テ外国電線ノ陸揚及運用ヲ許スモ何等不利益ナキニ鑑ミ英國ノ如キハ夙ニ開放主義ヲ採リ來レリト言ヒ腹藏無キ私見ヲ述ブレバ日本モ「ヤップ」島ニ於ケル外國電線ノ陸揚及運用ニ関シ融通ノ途ヲ講ゼラル方大局上得策ナルヤニ思考スト内話セリ仏國大使ノ米國ニ對スル態度ニ至リテハ一層妥協的ニンテ一般対独問題戰後ノ經濟的復旧問題等米トノ協調ヲ緊切

七、從来本使ハ我ガ法制ヲ解釈シ帝國政府以外ノモノガ帝國領土内ニ電信ヲ運用スルコトヲ許サザル趣旨ナリトシ之ヲ米國委員ニモ説明シ來リタル処現ニ長崎ニ於テハ大北電信会社ガ其所有線ニ付技術的運用ヲ司ドルノ特例アリ蓋シ電信法制定ノ當時ニ於テハ之ヲ唯一ノ例外トスル方針ナリシナランモ斯ノ如キ嚴格ナル排他的制度ハ歐州ニモ其例少ナキモノノ如ク又今日ノ時勢ニ適セザル所アルニ似タリ尤モ往電通第二十六号ニ述べタル如ク「ヤップ」島ニ於テ設置セラル可キ米國電信局ニシテ公衆電信ノ受付配達ヲモ行フコトトセバ長崎ニ於ケル実例ト異ナリ且ツ米國ニ之ヲ許スハ蘭國ニモ同一便益ヲ与フルノ外ナカルベシト雖モ若シ「ヤップ」島ニ於テ米國又ハ蘭國電信局ノ設置ヲ承認スルコトトナラバ同局自カラ政治上ノ情報電信ヲ「グアム」又ハ「メナード」ニ發送スルコトヲ防止スルノ途無ク又電信収入ノ問題トシテハ固ヨリ顧ミルニ足ラザルガ故ニ右公衆電信ノ受付配達ノミニテハ事實上重大ナル影響ヲ吾ニ与フルモノニアラズト思考ス尚蘭國代理公使ヨリ戰前ノ例ヲ聞クニ「ヤップ」島電信局長ハ蘭国人之ニ當レリト言フ

八、要スルニ今回問題全体ヲ通ジ吾ニ取りテ特ニ重要ナル

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三三

ハ日本本土ト「ヤップ」島ノ通信線ヲ吾ニ取メ之ニ依リ
テ支那及ビ蘭領印度トノ連絡ヲ計ルコト及ビ「ヤップ」島

ノ委任統治ハ日本之ニ当ルコトノ二点ニアル可シ其第一点

ニ付テハ米国ハ既ニ同意シタルガ若シ米国ニシテ既設「ヤ

ップ」「グアム」線ノ「ヤップ」端運用権並ニ将来米国ノ

計画スルコトアル可キ新電線ノ「ヤップ」島ニ於ケル陸揚

及ビ運用権ノ保障ヲ得ルコトヲ以テ満足シ其以外ニ日本ノ

「ヤップ」島委任統治ニ対シテ異議ヲ挾マザルノ意思明瞭

トナラバ之ヲ条件トシテ吾ハ往電通第二六号「デヴィス」

ノ開示セル解決条件六ヶ条ニ同意シ全問題ノ妥決ヲ計ルコ

ト日本国交ノ大局上緊要ナリト信ズ

九、日本ノ「ヤップ」島委任問題ニ対スル國務長官ノ意見

トシテ「デヴィス」ノ語レル所ハ往電通第二七号ノ通リナ

ルガ右意見ナルモノハ國務長官ニ於テ熟考ノ結果ナルヤ疑

フベキモノアリ此点ニ関シテハ追テ直接ニ同長官ト充分意

見ヲ交換スベキモノニ先ダチ本使ニ於テ前記問題ノ全体ニ

涉リ帝国政府ノ御方針ヲ心得置クヲ必要ト思考スルニ付右

至急御詮議ノ上何分ノ義成ル可ク早ク御回電ヲ請フ

仏独伊蘭ヘ転電セリ

三三六

三月二十五日 在蘭國ニ見臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

三三三 ヤップ電線問題ニ関スル蘭国外務大臣ノ議会

答弁要領報告ノ件

第二四号 （三月二十六日接受）

外務大臣ハ「ヤップ」電線問題ニ関スル第二院議員「ラーフェンスタイン」ノ質問ニ対シ二十三日附左ノ通り書面答

弁セリ

蘭國政府カ独蘭電信会社ノ為ニ「ヤップ」「メナド」線ヲ

要求シタリトノ説ハ真ナラス本件問題ノ性質ハ蘭國カ「ヤップ」「メナド」「ヤップ」「グアム」ノ

三電信線ニ関シ利益ヲ有スルコトニ存シ右三線ハ戰前独蘭

電信会社ニ依リテ運用セラレ支那露西亞及米國ヲ經由シテ

蘭本国及蘭領東印度間ノ通信ヲ維持シタルモノナリ独逸政

府ハ「ベルサイユ」平和條約ニ依リ他ノ諸電信ト共ニ前頭

電線ニ関スル有ラユル權利権原及利益ヲ同盟及連合國ニ対

シ拠棄シタルカ蘭國政府ハ右新事態ニ関連シ是等電線ニ関

スル蘭國ノ権利及利益ノ侵害セラルルコトヲ防止スル為平

和条約諸条件ノ実施ニ付注意ヲ払フコトヲ怠ラス

尙外務大臣ハ本件ニ関シ平和會議開催中独逸政府及平和會議ニ対シ蘭國政府ヨリ抗議書ヲ提出セル事實ヲ指摘セリ
在米大使ヘ転電セリ

三三四 三月二十七日 在紐育熊崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ニ関スル外務省公表概要及海軍問題

二関スル加藤海相談話ヲ紐育重要諸紙報道ノ

件

第一〇〇号 （三月二十八日接受）

「ヤップ」島ニ関スル本省御公表文概要及ヒ海軍問題ニ関

スル加藤海相談話概況ニ関スル左記要領ノ三月二十四日東京発連合通信電報ハ三月二十六日当地重要諸新聞ニ掲載セ

ラレ「アメリカン」ノ外ハ相当ニ大ナル紙面ヲ与ヘラレ居レリ

一、外務省ハ「ヤップ」ニ関シ公表書ヲ発シ政府ハ土民ノ精神的物質的幸福ヲ計ルニ全力ヲ尽シツツアルコト近ク

軍制ヲ廢スルコト同島ニ陸軍海軍根拠地ヲ建設セサルコ

ト同島ノ經濟的及ヒ戰術的価値ハ人ノ想像ヨリ少キコト近ク尚「マーシャル」島ニモ言及シ外國商人ノ上陸ヲ禁シタ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三四

三三五

貴電通第三一号ニ関シテハ目下當方ニ於テ考慮中ノ處帝国政府ニ於テ之ガ最後ノ決定ヲ為スニ当リテハ英仏ノ態度ヲノ見込回電方訓令ノ件

第一二九号

太平洋洋旧獨線及ヤップ島委任統治問題ニ關シ
英仏両國讓歩ノ具体的表示アリタリヤ茲結局

三三七

考慮ニ置クノ必要アルニ付客年貴電通第一六二号及第一六三号報告後英仏両国ニ於テ何等力讓歩ニ関スル具体的表示アリタリヤ又結局如何ニ折合ハントスル御見込ナリヤ至急回電アリタシ

本電貴電ト共ニ在欧各大使及在蘭公使ニ転電アリタシ

四月三日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

マタン紙主筆ステファン、ローザンヌガ独線

問題ニ関シ佐分利ニ対シ為セル内話ノ要領報

告ノ件

第一八四号

(四月四日接受)

「ヴィヴィアニ」ニ從テ来米セル巴里「マタン」紙主筆「ステファン、ローザンヌ」(同人ハ戦争中仏国政府ヨリ「プロパガンダ」ノ為メ米国ニ派遣セラレ居リタルモノナリ)ガ三月三十一日佐分利ト会食ノ際為セル内話ノ要領左ニ電報ス

(+) 「ローザンヌ」ハ先ヅ次ノ如ク語レリ

今回渡米ノ際船中ニテ「ビビアニ」氏ガ日本ニ反対シテ米仏ノ接近ヲ計ルノ使命ヲモ有スル旨ノ「シカゴ、トリ

ナリ全部讓歩スルノ覺悟ヲ有スト答ヘ且ツ仏国ガ右ノ如キ態度ニ出ヅルコトハ引テ日本ノ立場ヲ困難ナラシムルコトハ仏国側ニ於テ之ヲ思ハザルニアラザルモ仏国特殊ノ事情ハ充分諒トセラレ度ク日本側ニ於テ右仏国政府ノ意向ヲ成ル可ク速力ニ承知シ置カルコトハ米国ト交渉セラル上ニ便宜多カルベシト思考シ内話スル次第ナリト附言セリ

(3) 独線問題ニ関スル右「ローザンヌ」ノ談話ハ前記第一項ノ談話ト同ジク「ビビアニ」氏ノ意ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤヲ明ナラシメンガ為佐分利ヨリ右談話ノ内容ハ「ビビアニ」氏ノ意見ヲ反映スルモノナリヤト質問シタルニ「ローザンヌ」ハ右ハ仏国政府ノ意向(tendance)ニシテ仏国政府ガ右ノ意向ヲ有スルニ至リタルハ在米仏国大使ノ意見与ツテ力アリト云ヒ尚仏国外務省モ同意見ニシテ從来独線問題ハ主トシテ遞信省ノ意見ニ依リ左右セラレタルガ今回外務省ノ意見重ヲ為スニ至ルコトガ

仏国政府態度変更ノ原因ナリトテ幾分申訳ラシキ説明ヲモ加ヘタル上右ノ内話ハ特ニ「ビビアニ」氏ノ指図ニ基クモノニ非ズ両国ノ関係ニ鑑ミ本件仏国政府ノ意向ハ予

ビューン」巴里通信員「ヘンリー、ウェールス」ノ通信ヲ無線ニテ受取り其節「ビビアニ」氏ハ非常ニ憤慨シタルガ同氏ハ「ローザンヌ」ガ日本大使館員ト会スルコトヲ知リ同氏ガ戦争ノ初期ニ於テ首相トシテ難局ニ立テル際日本ガ日英同盟ノ誼及ビ崇高ナル精神ニ駆ラレテ参戦シタルコトハ決シテ之ヲ忘レザルコト及ビ今回同氏ノ使命中ニハ何等日本ニ反対スルガ如キコト無キハ勿論ナル旨ヲ通ゼンコトヲ特ニ依頼セラレタリ

(1) 次ニ「ローザンヌ」ハ独線問題ニ付内話シ度コトアリトテ自発的ニ左ノ如ク述ベタリ

即チ仏国政府ハ独線問題ニ付米國ノ主張ニ対抗シテ強硬ナル態度ヲ取り來リタルモ仏国ハ諸般ノ事情ヨリ米国ノ援助ニ待タザル可カラザルモノ多ク從テ米国ノ好感ヲ繫ギ置クコト緊要ナルヲ以テ仏国政府ハ大局ニ鑑ミ從来ノ態度ヲ変更ス可ク即チ米国ニ於テ「ブレスト」紐育線ニ関スル其主張ヲ固持シ他ニ解決ノ方法無キ場合ニハ仏国ハ同線全部ヲ放棄スルニ至ル可シト

右ニ対シ佐分利ハ「ブレスト」ニ於ケル運用権ヲモ放棄スル次第ナリヤト質問シタルニ「ローザンヌ」ハ其通り

メ日本側ニ内話シ置クコトヲ適當ト思考スル次第ナリト述ベタリ

(4) 佐分利ハ進ンデ本件独線処分ニ関シ「ビビアニ」氏ガ米国側ニ会談セラルコトナリ居ルヤト問ヘルニ「ローザンヌ」ハ「ビビアニ」氏ニ於テハ独線問題ニハ談合スルコトナカル可ク同問題ハ全然在米仏国大使ニヨリ処理セラルル筈ナリト言ヒ更ニ何レノ途仏国ハ自ラ進ンデ讓歩スル訳ニ非ズ米国ノ態度執拗ニシテ仏国ガ全然讓歩スルニ非ザレバ他ニ解決ノ途ナキ時始メテ讓歩スルニ至ル可シト云フニ外ナラザルニ付其ノ辯誤解ナカラシコトヲ望ムト言ヘリ

(5) 右独線ニ関スル談話ヲ終リタル後佐分利ヨリ「ビビアニ」氏ハ平和条約及国際聯盟ニ関スル使命ヲ有スルヤヲ質問シタルニ對シ「ローザンヌ」ハ大要次ノ如ク語レリ「ビビアニ」氏ハ二ノ使命ヲ有ス即チ一ハ「カーテン」ノ使命ナリ後者ハ仏国欧羅巴及国際聯盟ニ関スル正確ナル情報ヲ大統領國務卿及「ロッヂ」ニ知ラシムルニ在リ共和党政府成立以来米国ノ平和条約及聯盟ニ対スル反対ノ態度

四 ヤップ島ノ地位及曰獨逸海底電線専題一件 11114

「從来ヨリセ一層強クナリタルガ如ク然ルニ米國ガ「
ルサイユ」條約トハ離レテ单独ノ行動ヲ取ルニ至ラバ之

独逸ノ條約不履行ヲ獎励スルノ結果トナリ仏國ニ執リ由
々シキ大事ナルニ付先ヅ以ト「ノックス」決議案ヲ不成

立ニ終ラシメ延テ米國ヲシテ平和條約ヲ批准セシムル様

米國當局ヲ説得ス可ク尚仏國「チャール」ノ問題ヲ始ト
シ種々ノ点ニ於テ聯盟ト離ル同ラザル關係ヲ有スルヲ以

テ米國ヲ聯盟ニ加入セシムハコトニ全力ヲ尽ス同ク「ロ
ーチ」ノ留保ノ如キハ仏國ハ毫モ躊躇スルコトナク之ヲ
承諾シ得ベク其ノ他如何ナル種類ノ留保ト雖モ苟クモ米

國ガ聯盟ニ加入スル以上ハ又ノ承諾ベルニ至ル可ト謂
くヲ特又「ヨーザンヌ」ノ米國カ留保附ニ加入スルノ
ルナル場合ニヤ五國ノ「ノ」ノ間ニ事ヲ決スル時ハ小國ハ
感情ヲ書ベキ付五國ノ間ニ下相談ヲナスノ必要ナル
ハ勿論ナシムヤ正式ノ加入ハ九月聯盟總会開會ノ時機迄
持ヒテ邇近ナル可ク即チ其ノ時機トナリト米國ヲ止
ムニ一定ノ留保的條件ヲ附シテ加入ベキ眞實セバ總
合ノ容ル所トナル可キハ殆シム疑ナシテ既考セラル
ニ其「ノ」出其心得リト米國側ト詔シ貽ル

11110

ナリト答ヘタリ
在歐州各大使ヘ転電セリ

11114 四月五日 在本邦米國臨時代理大使モ
内田外務大臣宛

ヤップ島ノ地位ニ關ハ米國政府回報ノ件
註記 四月五日附米國ノ公文、交換ノハーフ
ノ法律的意見(四月二十一日摘説)

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA

No. 551. Tokyo, April 5, 1921.
Your Excellency:

I have the honor to inform Your Excellency that I have transmitted to my Government your note of February 26, 1921, No. 7, in reply to my note of December 10, 1920, No. 506, regarding the status of the Island of Yap and that I have been instructed by my Government to reply as follows:

The Government of the United States finds itself unable to agree with the contention of the Imperial

Japanese Government that in order to maintain the position of the Government of the United States with respect to the Island of Yap it is necessary for the Government "to prove not merely the fact that the particular line of views was stated at the meetings" of the Supreme Council but also that the Supreme Council "decided in favor of those views". If it is meant that the United States could be bound without its consent by the action of the Supreme Council, the contention is deemed by my Government to be inadmissible and on the other hand the United States has never assented to the mandate purporting to embrace the Island of Yap.

In view of the frequent references in the note of Your Excellency's Government to what is termed the decision of the Supreme Council, my Government deems it appropriate to state the fundamental basis of its representations and the principles which in its view are determinative. It will not be questioned that the

right to dispose of the overseas possessions of Germany was acquired only through the victory of the Allied and Associated Powers and it is also believed that there is no disposition on the part of the Imperial Japanese Government to deny the participation of the United States in that victory. It would seem to follow necessarily that the right accruing to the Allied and Associated Powers through the common victory is shared by the United States and that there could be no valid or effective disposition of the overseas possessions of Germany now under consideration without the assent of the United States. My Government must therefore point out that as the United States has never vested either the Supreme Council or the League of Nations with any authority to bind it or to act on its behalf there has been no opportunity for any decision which could be deemed to affect the right of the United States. It may also be observed that the right accruing to the United States through the victory in which it

11111

四 ヤップ島ノ地位及曰獨逸海底電線専題1件 11114

アラバマ公使及日本公使の間の交換文書 1 号
has participated could not be regarded as in any way
ceded or surrendered to Japan or to other nations
except by treaty and that no such treaty has been
made.

The fact that the United States has not ratified
the Treaty of Versailles cannot detract from rights
which the United States had already acquired, and it
is hardly necessary to suggest that a treaty to which
the United States is not a party could not affect these
rights; but it should be noted that the Treaty of Ver-
sailles did not purport to secure to Japan or to any
other nations any right in the overseas possessions of
Germany save as an equal right therein should be
secured to the United States. On the contrary Article
119 of the Treaty of Versailles provides "Germany
renounces in favor of the Principal Allied and Associ-
ated Powers all her rights and titles over her overseas
possessions." It will not be questioned that one of the
"Principal Allied and Associated Powers" in whose favor

tempted to confer the mandate without the agreement of
the United States. It is manifest that the League of
Nations was without any authority to bind the United
States and that the confirmation of the mandate in
question and the definition of its terms by the Council
of the League of Nations in December 1920, cannot be
regarded as having efficacy with respect to the United
States.

It should be noted that this mandate not only recites
Article 119 of the Treaty of Versailles to the effect
that "Germany renounces in favor of the Principal
Allied and Associated Powers all her rights over her
overseas possessions including therein the group of
islands in the Pacific Ocean lying north of the equator"
but also recites that "the Principal Allied and Associa-
ted Powers agreed that in accordance with Article 22
Part I (Covenant of the League of Nations) of the said
treaty a mandate should be conferred upon His Maj-
esty the Emperor of Japan to administer the said islands

Germany renounces her rights and titles is the United
States. Thus not only could the position of the Gov-
ernment of Japan derive no strength from the Treaty
of Versailles or from any discussions preliminary thereto
but the terms of that treaty confirm the position of
the Government of the United States.

Further the draft convention relating to the man-
date for the German concessions in the Pacific Ocean
north of the equator, which was subsequently proposed,
proceeded in the same view, purporting on behalf of
the United States as one of the grantors to confer the
mandate upon Japan thus recognizing the right and
interest of the United States and the fact that the
proposed action could not be effective without the
agreement of the United States as one of the Principal
Allied and Associated Powers. As the United States
did not enter into this convention or into any treaty
relating to the subject, my Government is unable to
understand upon what grounds it was thereafter at-

and have proposed that the mandate should be formu-
lated" as set forth. While this last quoted recital, as
has already been pointed out in previous communica-
tions by my Government, is inaccurate in its terms
inasmuch as the United States as one of the Principal
Allied and Associated Powers had not so agreed and
proposed, the recital again recognizes the necessity of
the participation of the United States in order to make
the proposed disposition effective.

As, in the absence of any treaty with the United
States relating to the matter, there was no decision on
May 7, 1919, binding the United States, it is deemed to
be unnecessary again to discuss the brief minutes of the
meeting of the Supreme Council on that date. It may,
however, be proper to say that the minutes of this
meeting, although obviously without any finality, could
not properly be construed without due regard to the
other proceedings of the Supreme Council and without
taking account of the reservation which President Wil-

son had already made in the previous meetings of the Supreme Council on April 21st, April 30th, and May 1st, 1919. The attitude of President Wilson is sufficiently shown by the following statement which he made to the Department of State on March 3, 1921:

"I beg to return the note received yesterday from the Japanese Government which I have read in relation to the proposed mandate covering the Island of Yap.

My first information of a contention that the so-called decision of May 7, 1919, by the Council of Four assigned to Japan a mandate for the Island of Yap was conveyed to me by Mr. Norman Davis in October last. I then informed him that I had never consented to the assignment of the Island of Yap to Japan.

I had not previously given particular attention to the wording of the Council's minutes of May 7, 1919, which were only recently called to my attention.

I had on several occasions prior to the date mentioned made specific reservations regarding the Island of Yap and had taken the position that it should not be assigned under mandate to any one power but should be internationalised for cable purposes. I assumed that this position would be duly considered in connection with the settlement of the cable question and that it therefore was no longer a matter for consideration in connection with the peace negotiations. I never abandoned or modified this position in respect to the Island of Yap and I did not agree on May 7, 1919, or any other time that the Island of Yap should be included in the assignment of mandate to Japan.

As a matter of fact all agreements arrived at regarding the assignment of mandates were conditional upon a subsequent agreement being reached as to the specific terms of the mandates and further upon their acceptance by each of the Principal Allied

and Associated Powers. The consent of the United States is essential both as to assignments of mandates and the terms and provisions of the mandates after agreement as to their assignment or allocation. The consent of the United States as you know has never been given on either point as to the Island of Yap".

Apart from the expressed purpose of President Wilson in relation to the Island of Yap, inasmuch as the proceedings of the Supreme Council on May 7, 1919, did not, and in the nature of things could not, have finality, my Government is unable to perceive any ground for the contention that it was its duty to make immediate protest with respect to the so-called decision of May 7, 1919, and certainly it cannot be said that an omission to do so operated as a cession of its rights. It may be added, however, that when the matter was brought to the attention of the Government of the United States in connection with the Conference on Communications in October

last, my Government informed the Government of Japan and other Governments (by notes of November 9, 1920) that it was the understanding of the American Government that the Island of Yap was not included in the action of May 7, 1919. Its position was subsequently stated at length.

It is a cause of regret to my Government that after and despite this protest there should have been any attempt to pass upon drafts of mandates purporting to deal with the Pacific Islands including Yap and that a mandate should have been approved or attempted to be put into effect which, while purporting to be made in the name of the United States, was without the assent of the United States. My Government trusts that this action, which it must assume was taken under misapprehension, will be reconsidered.

In particular as no treaty has ever been concluded with the United States relating to the Island of Yap and as no one has ever been authorized to cede or surrender

the right or interest of the United States in the Island, my Government must insist that it does not lose its right or interest as it existed prior to any action of the Supreme Council or of the League of Nations and cannot recognize the allocation of the Island or the validity of the mandate to Japan.

In this view the Government of the United States deems it to be unnecessary at this time to consider the terms of the so-called "C" mandates or the discussion with respect thereto.

The American Government, as has been clearly stated in previous communications, seeks no exclusive interest in the Island of Yap and has no desire to secure any privileges without having similar privileges accorded to other Powers, including of course Japan, and relying upon the sense of justice of the Government of Japan and of the Governments of the other Allied and Associated Powers my Government looks with confidence to a disposition of the matter whereby the

just interests of all may be properly conserved.

I venture to add that notes similar to the foregoing are being sent simultaneously to the Governments of Great Britain, France and Italy and that in view of the widespread interest in the subject and the public attention which it has already received, the notes will be made public in Washington as soon as they have been delivered to the respective Foreign Offices.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) Edward Bell

His Excellency
Count Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's
Minister for Foreign Affairs,
etc., etc., etc.

(押印記)

以書翰致啓上候應者十九百一十年十一月十日第五〇六号
「ヤッハト」島問題に關スル指翰ニ対ノ回答セラシタル千九

[印]1911年11月11十六日附第七号貴翰ハ正リ本国政府へ伝達致シ候本使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ右貴翰ニ対シ左記ノ通リ閣下ニ回答ヲナスノ光榮ヲ有シ候
米国政府ハ「ヤッハト」島ニ關スル其ノ主張ヲ支持センカ為リハ米国政府ノ見解ヲ最高會議ニ於テ陳述セル事實ノミナラス更ニ最高會議カ右見解ヲ承認シタルコトヲ決議シタル事實ヲモ立証スルノ必要アリタル日本国政府ノ議論ニ同意スルコト能ハス候右議論ノ意若シ米国政府カ同意セサリシ事項ニ關シテヤ同政府ハ最高會議ノ行動ニ依リ拘束セラルキモノナリト為スニ在ラハ米国政府ハ右議論ヲ以テ到底容認スカラサルモノト思惟致候ノミナラス合衆国ハ「ヤッハト」島ヲ含ム委任統治ニハ断シテ同意セルコト無ニ候

貴国政府ハ其ノ回答書ニ於テ屢々最高會議ノ決定ナルモノニ論及セラルルカ故ニ弊国政府ハ其ノ意見ノ基調及ヒ弊国政府カ確実ナリト看做ス主義ヲ茲ニ開陳スルヲ以テ機宜ニ適スルモノト思考致候独逸國ノ海外諸領土ノ処分權ハ一ニ同盟及連合諸國ノ勝利ニ拠リテ之ヲ獲得セルコトハ疑ヲ容ルルノ余地無之日本帝国政府亦米国カ右勝利ニ参与ンタル

ノハニ否定スルノ意志ヲ有セサルコト一般ニ信セラルル所ニ御座候果シテ然ラハ勝利ハ同盟及連合諸國ノ協同一致ニ因リテ獲得セルモノナルカ故ニ右勝利ニ基キテ自然ニ同盟及連合諸國カ掌握セル權利ハ米国モ当然之ニ均霑シ得ルコトハ論理上必然ノ帰結ニシテ從テ米国ノ同意ヲ待タスシテ本件獨逸海外領土ヲ正当有効ニ处分シ得ヘキ筈ノモノニアラサルコトモ亦當然ノ事ナルモノノ如ク思考被致候因テ弊国政府ハ最高會議ニモ將又國際聯盟ニモ弊国ヲ拘束シ又ハ弊國ヲ代表シテ行動スヘキ何等ノ権限ヲ委任セサリシヲ以テ米国ノ權利ニ影響ヲ及ホスマノト思惟セラルベキ決議ヲナスノ機會ナカリシコトヲ茲ニ指摘セサルカラサル次第ニ有之候勝利ハ米国ノ戦争參加ニ因リテ之ヲ獲得セリ故ニ右勝利ニ拠リテ米国カ掌握セル權利ハ條約ニ拠ルニアラスハ之ヲ日本若ハ其ノ他ノ國民ニ譲渡又ハ引渡ラナシタリト看做スヘキ理由ナク而モ何等斯ノ如キノ條約ハ之ヲ締結セラシタルコト無之次第ニ御座候

米国カ「ヴォルサイユ」條約ニ批准セサリシ事實ハ弊国ノ既ニ獲得セル權利ヲ毀損スルノ理由トハ成リ難ク從テ米国ノ加盟セサル條約カ何等ノ拘束ヲ弊国ノ既得権ニ加フヘカ

ラサルモノナルコトハ茲ニ言フノ必要ナカル可ク候「ヴェルサイユ」条約ハ独逸海外領土ニ関シ他ノ国家ト同等ナル権利ヲ米国ニ賦与スルニ非スンハ日本又ハ其ノ他ノ国民ニ對シテモ右領土ニ関シ権利ヲ賦与スルノ目的ヲ有セサリシコトハ殊ニ之ヲ摘示スルノ必要有之候

「ヴェルサイユ」条約第百十九条ノ条文ニハ「独逸ハ主タル同盟諸国及連合諸国ノ為ニ独逸ノ海外領土ニ対スル総テノ権利及権原ヲ拠棄ス」ト規定致居候独逸ハ主タル同盟及連合國ノ為ニ其ノ権利及ヒ権原ヲ拠棄セルモノニシテ米国カ右同盟及連合國ノ一員タルコトハ蓋シ疑無キ所ニ御座候然ラハ「ヴェルサイユ」条約ニ拠ルモ亦同条約締結前ノ予備商議ノ狀況ニ徴スルモ日本帝国政府ノ論鋒ヲ支持スヘキ所以ノモノヲ発見シ得サルノミナラス右条約ノ条文ハ却テ米国政府ノ主張ノ正当ナルコトヲ確認致居候更ニ独逸カ割譲セル赤道以北ノ太平洋諸島委任統治ニ関スル協約草案ハ其ノ後ニ提議セラレタルモノナレトモ右草案モ亦同一精神ニ則リ日本ニ対スル委任統治権ノ附与者ノ一員タル米国ノ権利利益ヲ認メタル上右委任統治ハ主タル同盟及連合國ノ一国タル米国ノ同意ヲ得ルニアラスンハ効力

ニ同意シ且提議セサル限り其ノ辞句正確ナリト謂フヲ得サルト共ニ右条項自身又前記提議事項ノ有効ナル為ニハ米国ノ参加ヲ必要ト認メ居候

本件ニ關シテハ米国トノ間ニ何等条約ヲ存セス從テ千九百十九年五月七日米国ヲ拘束スヘキ決議アルヘキ理ナキ力故ニ右同時ニ於ケル最高會議ノ議事録摘要ニ就キ論議スルコト又不必要ニ御座候然レトモ右會議ノ議事録ハ決定的ノモノニアラサルコトハ明ナルモ（右議事録ノ解釈論トシテモ）最高會議ノ他ノ議事ヲ相當考慮スルコトナク又「ウイルソン」大統領カ千九百十九年四月二十一日四月三十日及ヒ五月一日ノ最高會議ニ於テ予メ為シタル留保ヲ無視シテハ之ヲ適切ニ解釈スル能ハサルモノト申可ク候「ウイ爾ソン」大統領ノ態度ハ千九百二十一年三月三日其ノ國務省へ与ヘタル左記陳述書ニ依リテ充分明白ニ候

「ヤップ」島ノ包含スル委任統治ノ提議ニ関シ昨日日本

国政府ヨリ接受セル文書ハ閲読ノ上茲ニ之ヲ還附ス

所謂四頭會議カ千九百十九年五月七日ノ決議ニ因リ「ヤ

ップ」島ノ統治ヲ日本ニ委任セリヤ否ヤノ疑義ニ関シテハ昨年十月「ノーマン、デヴィス」氏ヨリ始メテ其ノ報

ヲ有シ得サルノ事實ヲ承認スル意味ニ於テ起草セルモノニ有之候然リ而シテ米国ハ右委任協約ニモ亦本問題ニ関スル其ノ他ノ一切ノ条約ニモ加盟セサリシカ故ニ米国ノ同意ヲニ基クモノナルヤ弊国政府ノ解シ得サルトコロニ御座候國際聯盟ハ米国ヲ拘束スヘキ何等ノ権限ヲ有セサルコト並ニ國際聯盟理事会ハ千九百二十年十二月前記委任統治ヲ確認シ其ノ条項ヲ確定セルモ右行為カ米国ニ對シテ効力ヲ有スルモノト看做ス能ハサルコトハ明白ニ候

右委任統治条項ハ「ヴェルサイユ」条約第百十九条ノ条文「独逸ハ主タル同盟及連合國ノ為太平洋中赤道以北ニ位スル諸島ヲ包括スル独逸ノ海外領土ニ関スル一切ノ権利ヲ拠棄ス」ル旨ヲ再録スルニ止マラス尚「主タル同盟及連合國ハ前記条約第一編（國際聯盟規約）第二十二条ニ准拠シ前記諸島ノ施政ヲ行フノ委任ヲ日本國皇帝陛下ニ賦与スルコトニ同意シ且右委任統治条項ヲ立案スヘキコトヲ提議セリ」トノ旨ヲモ再録セラレタル條項ハ前数回ノ通告書ニ於テ既ニ指摘致シタル通リ主タル同盟及連合國ノ一員トシテ米国カ之

告ニ接シタリ予ハ此ノ時「ヤップ」島ヲ日本ニ委託スルコトニ就キ同意シタルコトナキ旨ヲ「デヴィス」氏ニ通告セリ

千九百十九年五月七日ノ最高會議ノ議事録ノ字句ニ就テハ予ハ之ニ格別注意ヲ払ハサリシモ最近漸ク之ニ留意スルニ至レリ前記五月七日以前ニ就テ予ハ既ニ屢々「ヤップ」島ニ關シテハ殊ニ留保ヲ為シ何レノ國ニモ同島ノ統治ヲ委任スルコトナク海底電線利用ノ目的ノ為メ之ヲ國際化スヘキコトヲ主張セリ予ハ此主張ハ海底電線問題ノ解決ニ関連シテ相當考慮セラルヘク最早講和談判ニ関スル問題ニアラサルヘシト思考シタリ予ハ「ヤップ」島ニ關シテハ此ノ主張ヲ拠棄シ若ハ変更セルコトナク又千九百十九年五月七日ニ於テモ亦其ノ他ノ日時ニ於テモ「ヤップ」島ヲ日本ニ對スル統治委任中ニ包含セシムルコトニ同意セルコトナシ

委任統治ノ割当ニ関スル總テノ合意ハ各種ノ委任統治条項ニ付爾後ノ合意成立シ且主タル同盟及連合國カ各自之ヲ承認スヘキコトヲ条件トセルコトハ蓋シ當然ノ事理ナリトス委任統治ノ割当ニ関シテモ將又右ノ割当ニ関スル

合意成立後ノ委任統治条項ニ関シテモ米国ノ同意ハ必要条件ナリ然ルニ貴下ノ承知セラル如ク「ヤップ」島ニ就テハ右要点ノ内何レニ関シテモ米国ハ断シテ之ニ同意ヲ与ヘタルコトナシ

千九百十九年五月七日ノ最高會議ノ議事ハ何等決定的ノ意義ヲ有セス又道理上之ヲ有シ得ヘキノ理ナキカ故ニ「ヤップ」島ニ関シテ「ウイルソン」大統領カ言明セル目的ハ之ヲ別トシ尚弊国政府ハ所謂千九百十九年五月七日ノ決議ニ對シ即時ニ抗議ヲナスコトヲ以テ弊国政府当然ノ義務ナリトス議論ニ対シテハ何等ノ論拠アルコトヲ承認致シ兼候從テ右抗議ヲナサル事實ヲ以テ弊国政府カ其ノ権利ヲ抛棄セルモノト称スル能ハサルコトモ亦当然ニ有之候然レトモ本件カ昨年十月ノ通信會議ニ関連シテ弊国政府ノ留意スル所トナリシ際米国政府ハ千九百十九年五月七日ノ行為(action)ニハ「ヤップ」島ヲ含マスト解釈スル旨ヲ千九百二十年十一月十九日附書面ヲ以テ日本国政府並其他ノ各國政府へ通牒セルコトヲ茲ニ附言致度候尚右主張ハ其ノ後之ヲ詳細ニ陳述仕候

此抗議ニモ拘ラス其ノ後ニ至リテ「ヤップ」島ヲ含ム太平

当然日本ヲモ包含スヘキ米国以外ノ諸国ニ同等ノ特權ヲ付与セスシテ米国獨リ之ヲ壟斷セントスルノ希望ハ全然無之候弊国政府ハ日本国政府並他ノ同盟及連合国政府ノ正義ノ観念ニ信頼シ總テノ正当ナル利益ヲ適當ニ保存スル如ク本件ノ处分セラルヘキコトヲ確信致居候

以上ニ述ヘタルト同趣旨ノ通牒ハ同時ニ之ヲ英、仏、伊諸国政府へ送達ノ手続中ニ有之且本件ハ広ク諸方面ニ利益關係ヲ有シ既ニ世界一般ノ注意ヲ喚起セルトコロナルヲ以テ前記各國政府ノ外務省へ右通牒ノ交付ヲ了シタル上ハ直ニ華盛頓ニ於テ発表スル所存ナルコトヲ附言致度候本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十一年四月五日 東京

米国大使館ニ於

代理大使 エドワード・ベル(署名)

外務大臣伯爵 内田康哉閣下

(附 記)

右四月五日附米国ノ公文ニ対スル「ペーティー」博士ノ法律的意見(大正十年四月二十一日摘記)

一右公文中最肝要ナル点ハ米国ハ歐州戦争參加ニヨリ條約七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三七

洋諸島ノ処分ヲ目的トスル委任統治条項草案ヲ通過セシメントスル所ニ御座候弊国政府ハ右ノ行為ノ必スヤ誤解ニ基ケルモノタルヲ推定スルモノニ候ヘハ其ノ再考セラレシコトヲ期待シテ已マス候

殊ニ「ヤップ」島ニ関シテハ米国トノ間ニ何等条約ノ締結セラレタルコトナク又何人モ同島ニ於ケル米国ノ権利又ハ利益ヲ割譲シ若ハ引渡スヘキ権利ヲ委任セラレタルコト無キヲ以テ弊国政府ハ同島ニ関スル米国ノ権利又ハ利益ハ最高會議若ハ國際聯盟ノ行為(action)以前既ニ存在セシ如ク爾後ニ於テモ之ヲ喪失スルモノニ非サル旨ヲ主張シ併セテ日本ニ対スル同島ノ割当即日本ニ対スル委任統治条項ノ有効ナルコトハ之ヲ承認スル能ハサル次第ヲ主張スル必要有之候以上ノ理由ニ拠リ米国政府ハ此際所謂(?)式委任統治条項ヲ商議考慮スルノ必要ナキモノト認メ居候

米国政府ハ前数回ノ通告書ニ於テ明ニ陳述セル如ク「ヤップ」島ニ対シテ何等排他的ノ利益ヲ求ムルモノニハ無之又

トハ關係ナク独逸ノ領地ニ対スル確定ノ法律上ノ権利ヲ取得セリトノ主張ナリ右公文ハ全体ヲ通シテ同盟及連合国ハ戰勝ニ依リ或ル権利(rights)ヲ取得セルヲ仮定スト雖モ如斯仮定ニハ何等ノ根拠ナシ近代ノ戰争ニ於テハ敵國カ全然征服サレ又ハ全滅シタル場合ノ外平和条約ニ依ラスシテ戰勝者カ権利ヲ取得スルコトナシ而シテ米国ハ平和条約ノ当事国ニアラサルヲ以テ米国カスカル権利ヲ主張シ得ル理由ハ了解ニ苦シム又其権利ノ範囲ハ何ニ依テ定マルヤ条約ヲ離レテ云ヘハ米国ハ独逸領土ノ全部ヲ要求シ得ルニ至ルヘシ

二独逸ハ其ノ殖民地ヲ主タル同盟及連合国ノ為メニ拠棄シタルハ事實ナルモ之ニヨリ条約ノ当事国ニアラサル米国ニ何等ノ権利ヲ賦与スルヲ得ス米国ノ権利ハ其ノ戰争參加力極メテ貴重ナリシコトニヨリ生スル道徳的ノモノニシテ何等特定ノ権利ノ取得又ハ其分ケ前ニ与ルヘキ権原ニアラス平和条約ヲ批准シタル諸国ハ之ヲ批准セサル或ル一国ノ監督(Control)ヲ受クルコトナク条約実施ノ措置ヲ取り得ヘキモノナリ

三米国ハ平和条約ヲ批准セサル限り何等ノ権利ヲ有セサル

ヲ以テ米国カ其ノ権利ヲ処分スル為米国ヲ拘束シ又ハ之ヲ代表スル権限ヲ最高會議又ハ理事会ニ賦与シタリヤ否ヤノ問題ヲ生セス

四從テ米国ハ独逸殖民地ヲ獲得シタル主タル同盟及連合國ノ一員ニアラスト云フヲ得ヘシ甲カ乙丙丁ニ連帶ニ或ル権利ヲ譲渡シタルトキニ乙ハ其ノ譲渡行為ヲ同時ニ是認シ且否認スルコトヲ得ス條約全体ノ組立テヨリ見テ主タル同盟及連合國ハ條約ノ諸条項ヲ一体トシテ之ニ依テ生スル権利ヲ得義務ヲ負フモノニシテ独逸カ尚戦時状態ニアル米国ニ領土ヲ割譲シタルトハ想像スルヲ得ス

五条約当事国トシテ予想サレタル國カ欠缺シタル場合ニ条約力無効トナルヘキヤハ條約ヲ批准シタル諸國カ決定スヘキ事ニシテ「ヴェルサイユ」條約ハ其末文ノ規定ニヨリ総テノ署名國カ批准セサル場合ニモ条約ハ有効ナリ

六委任統治条項ニ関スル條約案ニ米国ヲ參加セシメタルハ米国ノ平和条約批准ヲ予想シタルモノト解スルヲ得ヘク何レノ場合ニモ右條約案ノ為メ他國ハ爾後ノ行為ニ束縛ヲ受クルモノニアラス

七最高會議ニ於ケル審議モ同様ノ予想ノ下ニ行ハレタルモ

ノト解スヘク同會議ニ於ケル「ウイルソン」氏ノ態度ハ本件ノ領土ノ処分ニ影響ナキモ同氏カ本件ニ特別ノ注意ヲ成セサリシヲ証スルニ止マル

八委任統治条項ニハ米国公文ノ云ヘル如ク米政府ノ名ニ於テ作成サレタルヲ意味スルモノニアラス又特定國ヲ列記スルニ代ヘテ主タル同盟及連合國ト記シタルハ何等ノ差支ナク若シ特定國ヲ列記スルハ却テ米国ノ感情ヲ害スルニ過キサルヘシ

九要スルニ(一)戰勝ハ何等ノ法律上ノ権利ヲ賦与セズ(二)米國ハ条約ノ当事国トシテノ主タル同盟及連合國ノ一員ニアラズ而シテ條約ニヨリ何等ノ権利ヲ有セズ(三)米國ハ條約ヲ同時ニ是認シ且否認シテ権利ヲ主張シ義務ヲ拒否スルヲ得ズ(四)米國大統領ハ相談ニ与カリ而シテ抗議ヲナスガ為メニ議事録ニ充分ノ注意ヲ払ハザリシニヨリ同氏ニ対スル德義上ノ要求ハ満足サレタルモノト云フヘシ

ハ事實ナルモ其文意ハ sharp ノモノニ非ズ右公文ハ追テ發表スベキニ付之ニ徵シテ明カナルベシト云ヒ置キタルコトアルモ御申出ノ次第アルニ於テハ右發表ハ暫ク之ヲ見合スベシ尤モ右見合ニ付テハ相當理由ヲ附スル必要アルニ付

日本政府ノ請求ニ依リ暫時發表ヲ見合スコトヲ國務長官ニ於テ翌日新聞記者接見ノ際談話スベシトノ事ナリシニ付古谷ハ日本政府ノ請求ニ依リ發表ヲ見合スト云フハ甚ダ穩カナラザルニ付日本政府請求云々ノコトハ全然談話セザル様致シ度シトノコトヲ國務長官ニ伝言方極東部長ニ依頼シ置キタリ

四月六日本使ハ國務長官ニ會見シタルニ同長官ハ新聞記者団ト接見ノ際右公文ハ單ニ差当リ發表シ難シト云ヒ置キタリト述ベタル上元来米国政府ハ「ヤップ」問題ハ日米間ノ爭議ニ非ズ他ノ主要連合國モ等シク關係ヲ有スル問題ナリ

ト解釈シ居ルニ付日本政府ニ公文ヲ送ルト同時ニ他ノ英仏伊三国政府ヘモ同趣旨ノ公文ヲ送リタル次第ナリ但シ日本政府宛ノモノノ冒頭ニハ特ニ二月二十六日附日本政府ノ公文ニ refer シタル一節アルモ其他ハ殆ト同文ナリ今回ノ公文ハ「ヤップ」ニ関スル從來ノ争点ヲ闡明セントスルモ

三三八

四月七日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ問題ニ關スル米国政府公文発表ニ付其交渉経緯報告ノ件

第一八〇号

（四月八日接受）

「ヤップ」問題ニ関シ

米国政府ヨリ日本政府ニ公文ヲ送リ在東京米国代理大使ヨリ右公文交附済ノ電報ニ接シ次第之ヲ發表スベシトノ内報ヲ得タルニ付其模様ヲ探ル為四月五日國務長官ニ會見ヲ求メタルモ其機會ヲ得ザリシヲ以テ不取敢古谷參事官ヲシテ同日夕刻極東部長ニ會見セシメ往電通第二九号本使ト「デヴィス」トノ会見ノ次第ヲ述べ「ヤップ」問題ニ關スル新公文ヲ發表セラルルニ付テハ予メ當方ニ打合セアルコトト思考スル旨述べシメタルニ極東部長ハ之ニ對シ國務長官ノ意ヲ受ケテ語ル所ニ依レバ前日「華盛頓タイムス」夕刊ニ「ヤップ」問題ニ關シ米国政府ハ sharp note ヲ日本ニ与ヘ其写ヲ英仏伊三国ニ与ヘタリトノ記事現ハレシ為新聞記者者団接見ノ際國務長官ハ本件ニ關スル質問ヲ受ケタルニ対シ本問題ニ關シテ日本及主要連合國政府ニ公文ヲ送リタル

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三八

ノニ非ズシテ米国政府ノ政策ヲ宣言シタルモノナリ從来委任統治問題ニ関スル米国ノ態度ニ付種々ノ揣摩臆測行ハレ居ル有様ナルニ付此際本問題ニ関スル米国政府ノ政策ヲ一コトナレバ日本政府宛ノ公文ハ暫ク之ヲ他日ニ譲リ此ノ際例ヘバ英國政府宛ノ公文ヲ発表シタント思考ス英國政府宛ノモノハ已ニ同政府ニ交付セラレ而シテ右公文中ニハ交付済ミノ上ハ之ヲ発表ス可シト附言シアルモ発表ニ関シテ何等異議ヲ申來リ居ラズト述べタルニ付本使ハ米国政府ガ日本政府ニ公文ヲ送リタルコトハ古谷ガ極東部長ニ会見シタル後ニ至リテ始メテ承知シタル次第ニシテ其ノ公文ノ文意ニ付テハ今ニ知ル所ナシ從テ右公文発表ノ可否ニ付テハ何等ノ意見ヲ述ブコトヲ得ズ仍テ右公文写ヲ得タント謂ヘルニ対シ早速其ノ写ヲ送ル可シト答ヘタリ尚本使ハ何レニスルモ米国政府ガ英國政府ニ与ヘタル公文ノ発表ニ関シ英國政府ニ異議ナキ以上本使ハ之ニ対シ異議ヲ述ブル意図ヲ有セズト述ベタルニ國務長官ハ大イニ満足ノ意ヲ表シ然ラバ差当リ英國政府宛ノ公文ヲ発表スルコトトス可シ且ツ英國

第一五三号 四月七日 内田外務大臣ヨリ

在米國幣原大使宛（電報）

三三九

ヤップ島問題ニ関スル日米間往復文書ノ公表
差控方希望スル旨米国代理公使二回報シ置キ

タル件

第一五三号

在本邦米国代理大使ハ本大臣宛本月五日附公文ヲ以テ大体貴電第一四一号米国政府カ考量中ノ回答書ノ趣旨ノ如キ主

張ヲ開陳シ之ト同様ノ公文ハ英仏伊政府ニ送致セラルヘキ筈ノ處本件カ広汎ナル利害關係ヲ有シ與論ノ注意ヲ惹キタルニ鑑ミ本公文ハ關係各外務省ニ交附次第「ワシントン」ニ於テ公表スヘキ旨ヲ附記シタルカ四月六日同代理大使ヨリ電話ヲ以テ其後接受シタル本国政府ノ訓令ノ趣ニ依リ本文ハ二月二十六日附ノ日本政府ノ公文ト同時ニ公表シタルニ付貴電通第二九号御来示ノ成行ヲ指示シ本件キ處日本政府ニ於テ前記二月二十六日附公文ノ公表ヲ希望サレサルニ於テハ今回ノ米国ノ公文モ公表セサルヘキ旨ヲ申入レタルニ付貴電通第二九号御来示ノ成行ヲ指示シ本件往復文書ハ公表差扣ヲ希望スル旨回答シ置キタリ前記公文ノ内容ハ追テ電報スヘシ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三三九

三四〇

本電英仏伊各大使ヘ転電アリタジ
（四月八日接受）
三四〇 四月七日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

告ノ件

通第三二号

四月五日在米仏伊大使ニ会見シ独線問題ニ付談話セリ要領左ノ通り

一、先ツ本使ヨリ最近「デヴィス」ニ付太平洋独線ニ関スル米国ノ最終具体案ヲ確メ之ヲ政府ニ電報シタル旨ヲ述ヘタル上政府ニ於テ何等新ニ考量ヲ加フルノ余地アリヤ否ヤ元ヨリ予測シ得サルモ若シ大西洋独線問題ニ付新ナル發展アラハ此際之ヲ政府ニ通報スルコト本使ノ義務ナリト思考スルニ付其後仏伊大使ト「デヴィス」トノ交渉ノ成行ヲ承知シタント云ヘルニ仏伊大使ハ米国ノ主張ハ大要次ノ如シト答ヘタリ
イ、「ベンザン、ハリファクス」線ニ付テハ客年中既ニ英米ソ間ニ仮リノ話成立シ居リ其後何等ノ変更ナシ

政府宛公文ヲ先ニ発表スルコトハ本問題カ日米間ノ争議ニ非ザルコトヲ明白ナラシムル為最モ適當ナラント思考スル旨ヲ述ベタリ尚本使ハ公文発表ノ問題ニ関シ前國務次官

「デヴィス」ト談話ノ際結局同次官ニ於テ本件公文ノ発表ハ両國國交上不可ナラント云ヒ本使モ之ニ同感ヲ表シ本件ニ関シテハ更ニ考量ノ上決定ス可キコトヲ語リタルガ同氏ハ次官トシテハ其ノ時已ニ辞職後ニシテ國務省ヘノ出勤モ稀ナリシニ付同氏ヨリ右ノ趣旨十分國務長官ニ伝ヘラレ居ルヤ否ヤ不安ト思ハレル廉モ有リ旁々古谷ヲ遣シ右談合ノ次第ニ付國務省ノ注意ヲ喚起スルコトヲ適當ト認メタル次第ナリト述ヘタルニ國務長官ハ「デヴィス」ヨリ其ノ話ヲ聽キ居ラザルモ今回發表セントスル公文ハ全ク米国ノ政策ヲ声明セントスルモノナルガ故ニ日米間ニ從來交換セラレタル公文トハ自ラ別問題ナリ日米間ニ往復セル文書ニ付テハ日本政府ニ於テ今回ノ米国公文ヲ研究セラレタル上更ニ打合セノ上發表ノ可否ヲ決スルコトトス可シト答ヘタリ英仏伊各大使ヘ転電セリ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三四〇

三四六

所有権ヲ収メ運用ハ紐育ニ於テハ米国会社之ニ当リ「ブレスト」ニ於テハ仏国会社ヲシテ米国会社ノ代理人トシテ之ヲ掌ラシム即チ運用ノ権利ハ米国之ヲ収ムルモ「ブレスト」端ニ於ケル一切ノ運用ハ仏国会社ニ於テ之ヲ行使ス

ハ、仏国ハ本件海底線ニ依ル通信ニ対シ「ブレスト」ニ於テ一切課税スルコトヲ得ス

ニ、米国ハ何時ニテモ「ブレスト」線ヲ北欧ニ延長スルコトヲ得ヘク右延長ヲ実行シタル場合ニモ一切課税スルコトヲ得ス

ホ、伊国ノ関係ハ次ノ方法ニ依リ解決ス即チ海底線ヨリ生スル収入ノ一部ヲ積立其ノ額カ伊国ヨリ「アゾーレス」ニ至ル線ヲ敷設シ得ル程度ニ達シタル時ハ之ヲ伊国ニ与ヘテ全線ヲ敷設セシム（右ニ付仏國大使ハ伊国カ獨線全體ニ付共同ノ所有権ヲ有スル以上ハ収入積立ハ總テノ線ニ適用スルコト当然ナラスヤト質問シタルニ「デヴィス」ハ或ハ然ラント答ヘタル趣ナリ當仏國大使ハ本件ハ要スルニ米伊間ニ協定スヘキ問題ニシテ伊国カ右ノ案ニ同意スルヤ否ヤハ疑問ナリト云ヘリ）

仏國大使ハ右米國側ノ主張ニ依レハ仏國ハ殆ント価値ナキ「ブレスト、カサブランカ、ダカール」線及又「ペルナンブコ、モンロビア」線ノミヲ收ムルコトナリ仏國ニ取り極メテ不利モノナレトモ大局上之ヲ承諾スル外ナルヘシトノ意見ヲ本国政府ニ電報シタルカ爾來一応ノ簡単ナル回電ハアリタルモ確定的ノ返事ニハ未タ接シ居ラスト云ヘリ

尚仏國大使ハ米國トノ交渉ノ内容ハ秘密ニスヘキ性質ノモノナルヤモ知レサルニ付本使限リニ含ミ置ク様希望スト云ヘリ

二、次ニ本使ヨリ仏國大使ノ問ニ答ヘ太平洋獨線ニ關スル米國最後ノ提案往電通第一六号ノ趣旨ヲ内話シタルニ仏國大使ハ米國ノ主張右ノ程度ナルニ於テハ日本政府ニ於テ直ニ同意セラレ可然ヤニ思考スト述ヘ尚進ニテ同大使ハ「ヤップ」問題ニ関連シ五月七日決定ノ性質ニ付問合セタルニ右決定ニハ署名モナク又席上ニテ決定ノ文句ヲ讀上ケタルコトモナシトノコトナリ果シテ然ラハ單ニ英國書記官カ記憶セリト言フノミニテ四國代表者カ同意セリトノ証拠薄弱ニシテ米國ノ主張ニモ相當有力ナル根拠

アリト言ヘリ依ツテ本使ハ右仏國大使ノ説ニ依レハ五月七日ノ決定全部ノ効力ヲ否認スルノ結果トナルモ從来右決定全体ノ効力ハ何等問題トナリタルコトナク只右決定ニ「ヤップ」カ包含セラレ居ルヤ否ヤカ問題トナリ居ルノミ而シテ右決定ノ際「ウイルソン」氏ニ於テ何等留保ヲナササリシコトモ今ヤ意見一致シ居レリ五月七日前ニ

米國側カ「ヤップ」ニ付意見ヲ述ヘタルコトアルモ右ハ

前記決定ニ附隨スヘキ留保ト見ルヲ得サル旨ヲ答ヘタルニ

ニ仏國大使ハ日本側ヨリ言ヘハ其ノ主張ニ根拠アルヘキモ五月七日決定ナルモノカ曖昧タルモノナリトノ感想ハ

之ヲ去ルヲ得スト言ヘリ

右ニ対シ本使ヨリ更ニ日本カ直接ニ利害ヲ有スル問題ニ付日本委員ノ出席ヲ求ムルコトナクシテ日本ノ意思ニ反対セル決定ヲナスノ権利ナキ旨ヲ注意シタルニ仏國大使

ハ米國委員カ「ヤップ」ヲ國際化スヘシト論セルニ対シ牧野全權ハ单ニ本件ニ付テハ言フヘキコト多シト述ヘラレタルノミニテ明確ニ「ウィルソン」ノ主張ニ反対シタルコトナカリシカ如シト言ヒ尚数日前提國務卿ト會見ノ際

同氏ハ聯盟カ米國ニ計ルコトナシニ委任統治ニ關スル決

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三四一

三四二

貴電第四三六号ニ関シ
米國國務卿及英外相間ノ往復公文要領至急電報アリタシ
三四一 四月八日 在ジユネーヴ石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

三四二 四月八日 在ジユネーヴ石井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關スルバルバーオアノ意図ニ付

方要請ノ件
（四月十三日接受）

ゼネヴァ第八号

三四三

「ヤップ」島ニ關スル米國政府ノ主要連合國ニ送レル公文

三四七

要領七日「タン」紙ニ見タル處仮國政府ハ政務局次長ヲ当地ニ遣ハシ本日午後「バルフォア」氏ニ面会ノ上規約改正委員会ニ於テ米国ニ関係ヲ及ホスヘキ問題ニ付余リ深ク論及サルトキハ米国ノ國論ヲ激シ目下苦心中ノ「ビビアニ」氏ノ立場ヲ困難ナラシムヘキニ付右事情ヲ含ミ叙上ノ問題ハ控ヘラレタキ旨懇談セル由尚「バルフォア」氏ハ本使ニ対シ自分ハ「ウイルソン」氏ヲ立派ナル政治家ト信スルモノナルガ「ヤップ」島問題ニ關シテ自國民ノ意ヲ迎フルカ為此ノ如キ行動ニ出テタルハ遺憾ナリト云ヘリ

三四三 四月十日 在紐育熊崎總領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

四 独領植民地処分ニ付國務長官ノ連合国ニ一発

セル通牒ニ対スル新聞論調報告ノ件

第一一九号 (四月十一日接受)

旧獨領殖民地処分ニ關シ國務長官ノ連合国ニ發セル通牒ニ關スル八日當地新聞論調左ノ通り

World 此通牒ハ平和條約ト國際聯盟ノタメunanswerable argumentナリ Hughes く米国ノ權利ト云フモ其權利ト

解釈シ得ベシ一ハ戰利品ノ分配ヲ求ムモノト見ルニアルガ果シテ然ラバ條約ガ獨逸ト主要連合国三国以上ノ批准ヲ得タル今日米国ハ嘗テ其大統領ガ不要ナリト宣言シテ全國民ノ喝采ヲ得タルモノヲ要求スル權利アリヤ又若シ Hughes ノ意ニシテ各國ノ正当ナル利益ノタメニ適當ナル処分ヲ要求スルモノナラバ米国ハ先づ正義ヲ進メ戰争ヲ防グ國際條約ニ入ラザルベカラズ

Tribune Mesopotamia ニ關シテハ米国ハ不當ナル差別待遇ニ抗議スルモノナルガ「ヤップ」ニ關シテハ其日本ニ對スル讓渡ガ正当ナラザルヲ云フモノナリ「ヤップ」讓渡ニ錯誤アリシハ記録ニ明カナリ條約ハ獨逸及ビ主要三國ノ批准ニ依リ効力ヲ生ゼルモ之批准セル國ノミニ關ス米国ノ承諾ナキ時ハ委任統治ノ権限完全ナリト云フベカラズ米国ハ本件ノ再考ヲ要求ス之連合國ガ米国ヲ正當ニ待遇スルノ用意アルヤフ試ス一ノ機会ナリ

Herald (七日) Hughes 通牒ハ米国ガ其承諾ナクシテ権利ヲ放棄スルモノニアラザルコトヲ明カニセリ連合國ガ自身ノ錯誤ニ依リ米国ガ其權利ヲ放棄スペシ思惟シテ為セル处分ハ無効ナリ米国ノ立場ハ何處迄モ主張セラルベシ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三四四

ハ何ゾヤ權利モ行使セザルコトニ依リ消滅スルコトアリ米國ハ自ラ好デ條約ノ外ニ立チ條約上ノ責任ヲ負ハズ權利ノミヲ主張セントスルモ難シ「ヤップ」ニ關シ權利ノ重要ナルモノアルベキモ條約ニ加入セザル米国ハ連合國ノ好意ニ依頼セザルベカラズト云フニアリ

Times Hughes の所説ハ正當ナルヲ以テ連合國ハ「ヤップ」処分ヲ再考スルコトニ同意スベキヲ期待スルモ若シ然ラバ如何ニシ得ベキヤ斯ル面倒起ルモ畢竟條約ニ加入シ居ラザルタメナリ其責任ハ上院ニアリ

Journal Commerce 米国ガ戰勝ニ貢献シタル廉ニ依リ其果実ニ均霑スルノ權利アリト云フ（脱）但シ連合國及ビ國際聯盟ニシテ其立場ヲ固持スルハ得策ニアラズ米國ニ於ケル聯盟贊成者ハ離反スベシ然レドモ華府ニ於ケル最近ノ言説ハ我論理ヲ弱メタリ「ウイルソン」時代ハ米国ハ未ダ聯盟ニ加入スル見込ミアリト見ラレタルモ現政府ハ條約ノ責任ヲ拒絶セルヲ以テ委任統治問題ニ關スル其主張モ夫レ丈ヶ薄弱トナレリ

Globe Wilson ハ一九一七年四月米国ハ利己的ノ目的ナク領土モ償金モ欲セズト宣言セルガHughes 通牒ハ二様ニ在米大使郵報セリ

Sun Hughes 謂「ヤップ」以外ノ処分ニモ影響ヲ及ボスモノナリ休戦條約ニ依リ決セラレタル「アルサス、ローレン」処分ノ如キハ格別其他ノ領土変更ノ大部分ニ影響アリ米国ノ承認ハ權利ノ完成ニ必要ナリ日本ハ膠州ノ讓受ケニ關シ米国ヲ説得スルコトハ今日ト雖モ容易トセザルベシ宣言ハ領土獲得者ノ利益ニアラズ最善ノ政策及ビ正義ハ「ヤップ」処分ノ変更ヲ要求ス

三四四 四月十一日 在仮國石井大使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

ヤップ問題ニ關スル米國公文ニ対スル仮國新

開論評報告ノ件

第五三九号 (四月十三日接受)

在米大使發大臣宛第一八〇号

一、仮國新聞ノ大部分ハ一面米国ニ対スル氣兼ト仮國政府從来ノ行掛リトニ制セラレ孰レモ仮國ノ関スル限り日米兩國間ノ円満ナル解決ヲ希望スル旨ノ当ラズ触ラズノ記事ヲ掲ゲタルモノ多シ然レドモ本件ハ太平洋ニ於ケルガ

me transmettre un mémorandum du département d'Etat sur le statut de l'île de Yap.

Ce mémorandum ayant été adressé simultanément aux Gouvernements de Grande-Bretagne, d'Italie et du Japon, il ne pourra y être répondu qu'après accord entre les gouvernements des quatre puissances intéressées lors de la prochaine réunion du conseil suprême des alliés.

Je tiens cependant à déclarer dès maintenant à Votre Excellence que, lorsque cette question viendra au conseil suprême, les représentants de la France en aborderont l'examen avec le plus vif désir de trouver une solution qui donne toute satisfaction aux Etats-Unis.

Déjà, Votre Excellence le sait, le gouvernement de la République a fait tout ce qui dépendait de lui pour prêter en cette affaire son aide au gouvernement américain. Par une note du 18 février, après avoir constaté que la décision du 7 mai 1919 ne comportait aucune restriction en ce qui concerne le mandat attribué au

Président Wilson et M. Lansing avaient, au cours d'une réunion précédente, formulé, en présence du représentant du Japon, des réserves catégoriques au sujet de l'île de Yap, que le baron Makino n'avait pas refusé de laisser mettre en discussion la question soulevée par les représentants des Etats-Unis, et que, par conséquent, le gouvernement japonais avait connaissance des réserves américaines. La note concluait qu'il y avait là des éléments d'une reprise de conversations entre les Etats-Unis et le Japon, que le gouvernement de la République serait heureux de voir aboutir à un résultat satisfaisant.

Cette note avait été le même jour communiquée à l'ambassade du Japon à Paris, et Votre Excellence avait bien voulu exprimer à mon département sa vive satisfaction de cette communication en donnant l'assurance qu'elle serait particulièrement appréciée à Washington.

shington.

在英國林大使（電報）

川四九

四月十七日 在米國幣原大使（電報）

太平洋海底電線問題ノ上院ノ報告書

タル法案大綱報告ノ件

(四月十八日接収)

太平洋海底電線國當ニ閣スル法案四月十四日上院ニ提出セラ
ラ商務委員ニ附託セランタルガ其大要左ノ通り一、太平洋沿岸ノ或地点ト馬尼刺及或亞細亞地方トヲ連絡
ベル海底電線ノ建設維持及經營ヲ政府ニ於テ行フロム二、右電線ノ建設、維持及經營ハ通信長官、陸軍長官、海
軍長官、商務長官及陸軍信印長ヨリ成ル太平洋電信委員
会ハシテ之ニ任ヤシムルホツ

三、右電線陸揚地點ノ選定ハ右委員会ニ一任スルハツ

四、該案実行ノ為不取敢五十万弗ヲ支出シ更ニ八百万弗ヲ
超過セザル範囲内ニ於テ契約締結ノ権限ヲ右委員会ニ与
ヘル

川四五〇 四月十九日 在英國林大使（電報）

内田外務大臣宛（電報）

ヤマト其他委任統治問題ニ閣スル英國ノ主張

二、オペル英國ノ勧説ニ付意見陳申ノ件

第四八〇号

(四月二十日接収)

往電第四七九号末段所論ノ如ク米國政府ノ態度ハ要スルニ
若シ「ヤマト」其他委任統治問題ニ閣スル其主張ニシテ容
ニラルニ於テハ或ル程度迄「ハルサイ」條約ヲ認メ
特ニ賠償問題歐州経済金融狀況國境問題ニ対シ尽力ヲ惜マ
サルシト謂フニアリトハ観測ハ斯国一部ノ有力ナル輿論
ヲ代表スルヤノニシテ今日經濟金融關係ニ於テ米國ノ援助
ヲ借ルノ必要ヲ痛切ニ感シ居ル矢先「ヤマト」問題ハ實際
日本ノ國運ヲ左右スルカ如キ大問題ニ非ス從テ日本側ニ於
テ余リ頑強ノ態度ニ出テ斯何トカ速ニ妥協ノ道ヲ見出シ以
テ米國ノ願ヲ立テ米國ヲシテ歐州ニ対シ經濟的支援ヲ与フ
ル事ヲ肯諾セシムニ至ハム事ヲ希ヒシタル者斯國ニヤ
少ナカラサルノ事實ハ我方針決定上特ニ注意ヲ要スル義ニ
思考セラル

在歐米各大使（転電セリ）

七 ヤマト島ノ地位及田舎地盤問題題1件 川四九 川四五〇

三五一 四月十九日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國ノ対米回答ニ関シ報告ノ件

第五八九号

(四月二十一日接受)

貴電第一九〇号ニ関シ御訓令ノ趣旨ヲ覚書ニ認メ貴電第二五二号ノ書類ト共ニ予テ仏国政府ニ通告シ置キタル處仏國外務省ハ十一日付公文ヲ以テ往電第二四八号仏國ノ対米回答ハ別添ノ會議速記録ニ基礎ヲ有スルモノナリトテ一九一九年四月三十日及五月一日ノ速記録写ヲ送付シ来レリ其他何等新ナル事実ヲ記載シアラズ

三五一 四月二十二日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣(電報)

ヤップ島問題ニ関スル米国政府ヘノ回答二付

仏英両国ノ態度ニ基キ措置方訓令ノ件

第三七四号

貴電第五六五号ニ關シ「ヤップ」島問題ニ関スル仏国政府ノ態度從來ト異ナルモノアリ又英國政府ノ態度モ其ノ米国ニ對スル關係上聊カ顧慮スヘキ点ナントモ限ラスト認メラレタルニ付暫ク其ノ發展ヲ見タル上交渉スルヲ有利ナリト

三五三 四月二十四日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

太平洋独線其他ニ関スル通信會議ノ議事報告ノ件

通第三三号

(四月二十五日接受)

四月二十一日午後四時第十五回會議開催六時閉会
一、先ツ前回ニ引続キ米国「コンマーシャル」會社ノ要求ニ付米國委員ト英仏兩大使トノ間ニ議論アリタルカ結局賠償委員会ニ對シ此種問題ニ關スル同會ノ取扱振ヲ問合スコ右在英米大使ニ転電アリタシ

トトナレリ

二、次ニ大西洋独線ニ關スル米仏間ノ協商ニ付「デヴィス」及仏國大使ヨリ説明スル所アリ米國側ハ頻リニ仏國修正案ノ不当ナルコトヲ攻撃シ之ニ對シ仏國大使ハ本国政府ノ意見ナレハ如何トモシ難シトノ趣旨ヲ繰返セルノミニテ何等纏リタルコトナシ米國提案及仏國修正案ノ要点左ノ通り

ニ帰属セシメ同國ハ現ニ同線ヲ運用シ居ル英國會社ニ之ヲ売渡ス可シ

ヘ、伊國ノタメ新ニ「ネーブルス、アゾールス」線ヲ布設スヘシ其費用ニハ先前記「コンスタンチノーブル、コシスタンザ」線ノ代價ヲ以テ其一部ニ當テ別ニ之カ為メ大西洋旧独線全体ヨリ各語ニツキ小額ノ料金ヲ徵收シテ之ヲ積立ツルコトトス可シ

乙、仏國ノ修正案

イ、「ブレスト」「アゾールス」間ハ仏國會社ニ於テ之ヲ運用ス右仏國會社ハ米國ニ於テ之ヲ指定スルモ同會社ノ地位ハ戰前独逸會社ノ享有セル地位ト同一ナル可シ

ロ、「ブレスト」ヨリ独線ヲ独逸又ハ「スカンヂナビヤ」ニ延長スルニ異存ナキモ毎語ニツキ一仙ノ料金ヲ徵收ス可シ尚旧独米間ノ例ニ徴シ線条ニ故障アルトキハ他ノ線ヲ代用スルコトヲ得可シ

ハ、該線ヲ「ブレスト」ヨリ中欧又ハ「スカンヂナビヤ」ニ延長スルハ隨意タル可ク其場合ニ仏國ハ直通電報ニ對シ一切監督ヲ行ヒ又ハ課稅ヲ為スコトヲ得ス

ニ、南大西洋ノ旧独線ハ仏國ニ帰屬セシム
ホ、「コンスタンチノーブル、コンスタンザ」線ハ伊國

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五三

認メ取敢ヘス帝国政府ノ関スル限ニ於テ対米回答案審議ナリシ處今回英國側ヨリ提議セル米國ノ議論ヲ以テ講和約全般ニ影響スルモノトシ之ヲ法律的ニ取扱フヘシトノ件ニ就キテハ帝国政府ニ於テモ全然同意見ナルヲ以テ先ツ法律問題トシテ大使會議ニ於テ審議スルコトニ致度シ尤モ米國ノ公文ハ一般的ノモノタルト同時ニ帝国ニ最モ痛切ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ米國ニ対シ何等カノ措置ヲ執ル前ニ予メ帝国政府ノ同意ヲ求ムル様御取計アリタシ尚米國ノ公文ニ對スル帝国政府ノ所見ハ追テ電報スヘシ

右在英米大使ニ転電アリタシ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五四

三五八

帝国政府ニ於テ右提案ヲ好意ヲ以テ考慮シツツアルコトハ之ヲ疑ハサルモ最近「ヤップ」委任統治ノ問題更ニ紛糾ヲ加フルニ至リ而シテ独線処分ハ右委任統治ノ問題ト密接ノ干係アリ両問題ヲ別々ニ解決スルコト困難ナルヲ以テ政府ニ於テモ自然決定ヲ遷延シ居ルモノト思考スル旨ヲ述ヘ尚進ンテ米国政府カ「ヤップ」ノ地位ニ付如何ナル具体的提案ヲ有セラルルヤ明瞭ニ承知スルコトヲ得ハ問題全般ノ考量ニ便ナルヘシト述ヘタルニ新國務次官「フレッチャー」ハ「ヤップ」ノ地位ニ付テハ日本ノ利益ヲ満足セシムルト同時ニ他ノ諸国ノ利益ヲモ満足セシムルノ案ヲ見出シ得サルニ非スト思考スルニ付何時ニテモ本使ト非公式ノ会見ヲ試ム可シト答ヘタリ本使ハ更ニ「デヴィス」及「フレッチャー」ト暫時間答ヲ試ミタルモ適確ニ米国カ採ラントスル態度ヲ突止ルコトヲ得サリシモ其間ニ「フレッチャー」カ「若シ海底線ニ関シ全然自由ノ権利ヲ吾人ニ与ヘラルレハ吾人ハ同島ノ行政ヲ一国ノ手ニ委スルコトニハ困難ヲ感セサルヘシ」ト言ヘルハ注意ニ値スルモノト認メタリ

尚最後ニ本使カ試ニ日本カ「ヤップ」ニ於ケル海底線ノ自由ナル陸揚及運用ヲ承諾シタリトセハ夫ニテ委任統治ニ関ルニ非スト思考スルニ付何時ニテモ本使ト非公式ノ会見ヲ試ム可シト答ヘタリ本使ハ更ニ「デヴィス」及「フレッチャー」ト暫時間答ヲ試ミタルモ適確ニ米国カ採ラントスル態度ヲ突止ルコトヲ得サリシモ其間ニ「フレッチャー」カ「若シ海底線ニ関シ全然自由ノ権利ヲ吾人ニ与ヘラルレハ吾人ハ同島ノ行政ヲ一国ノ手ニ委スルコトニハ困難ヲ感セサルヘシ」ト言ヘルハ注意ニ値スルモノト認メタリ

尚最後ニ本使カ試ニ日本カ「ヤップ」ニ於ケル海底線ノ自由ナル陸揚及運用ヲ承諾シタリトセハ夫ニテ委任統治ニ関ルニ非スト思考スルニ付何時ニテモ本使ト非公式ノ会見ヲ試ム可シト答ヘタリ本使ハ更ニ「デヴィス」及「フレッチャー」ト暫時間答ヲ試ミタルモ適確ニ米国カ採ラントスル態度ヲ突止ルコトヲ得サリシモ其間ニ「フレッチャー」カ「若シ海底線ニ関シ全然自由ノ権利ヲ吾人ニ与ヘラルレハ吾人ハ同島ノ行政ヲ一国ノ手ニ委スルコトニハ困難ヲ感セサルヘシ」ト言ヘルハ注意ニ値スルモノト認メタリ

四、「デヴィス」ハ引続キ委員タルモ議長ヲ辞シ次回ヨリ「フレッチャー」ヲ議長トスルコトニ決定セリ「ロジャー・デヴィス」ハ依然委員タルモ「バーカソーン」「ジョンソン」両氏ス可キモ「ヤップ」島ノ地位ニ関スル問題ハ尚解決セサルヘシト答ヘタリ

スル難問題ハ消滅スル次第ナリヤト試問シタルニ「フレッチャー」ハ委任統治ニ関スル全般ノ問題ハ尚残ル可シ同問題ハ単ニ「ヤップ」ノミニ関係アルモノニ非スト答ヘ又「デヴィス」ハ右本使ノ言ノ如クナレハ独線ノ問題ハ解決ス可キモ「ヤップ」島ノ地位ニ関スル問題ハ尚解決セサルヘシト答ヘタリ

在欧洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

三五四 四月三十日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島最終処分ニ關スル英國下院ニ於ケル
質問応答要旨報告ノ件

第五二五号

(五月一日接受)

英國政府ハ聯盟ノ一員トシテ「ヤップ」最終処分ニ關スル日米關係並日支間ニ於ケル強度ノ不和ナル關係ニ對シ干涉ヲ為ス義務ナキヤ將又本件ニ對シ聯盟ハ何等行動ヲトルコ

トナキヤ否ヤトノ下院ニ於ケル質問ニ對シ二十五日外務次官ハ簡単ニ其ノ義務ナシト答ヘタル処右ハ之ヲ質問者ノ地位等ニ照シ相当注意スヘキ方面ニ於テ日米並日支關係ノ改善ヲ注視シツツアル反映ナリト觀測セラル

三五五 五月二日 在米國幣原大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)
ヤップ問題ノ真相及解決案ニ關シ意見具申ノ件

二、「ヤップ」問題ニ關シテハ「ヴィルソン」政府時代ニハ一昨年巴里會議ニ於ケル委任統治割当問題討議ノ際米

國カ特ニ留保ヲナシタルコトヲ立論ノ根拠トシタルモ現政府ハ一切前大統領ノ行動ニ依リテ羈束セラルコトヲ峻拒シ「ヴェルサイユ」條約ヲ批准セサルノ方針ヲ執ル結果右留保ノ有無ニ重ヲ置カス別ニ米国カ共同戦捷ニ貢献セルノ事実ヲ論拠トシ敵國ヲシテ其領土ヲ放棄スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタルハ米国ノ努力亦与テ力アル以上連合諸國カ米国ヲ度外視シテハ敵國領土ノ処分ヲ決定スルノ権利ナキコトヲ主張スルニ至リ近來當國ニ於テラス連合諸國カ米国ニ計ル所ナク着々委任統治問題解決

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五五

三五九

三、右米国現政府ノ主張ヲ査スルニ敵國カ五大國ノ為メニ領土ヲ放棄セルハ「ヴェルサイユ」條約ノ明文ニ基クモノナルカ故ニ米国ハ同條約ヲ批准スルコトナリ從テ其規定スル義務ヲ承認スルコトナクシテ單ニ同條約上ノ権利ノミニ均霑スルコトヲ得ヘキヤ否先般「デヴィス」カ國務省法律顧問ノ意見トシテ本使ニ内話セル所ニ依レバ敵國カ五大國ノ為ニ領土ヲ放棄セルハ既ニ成就セル一ノ事実ニシテ将来五大國ニ對シ履行スヘキ約束ニアラス從テ米国ハ「ヴェルサイユ」條約ヲ批准セサル場合ニモ右放棄ノ事實ヲ承認スル以上ハ他ノ連合國ト齊シク該領土ノ处分決定ニ參加スルノ權利アリト言ヘリ右ハ法理論トシテ疑義ノ存スル所ナルヘク將又連合諸國ハ條約ノ規定ニ基キ理事会ノ一員トシテ昨年十二月十七日ノ理事会決議ニ參加シタルモノナル處米國モ亦同一ノ手続及資格ニ依リ右決議ニ參加スルノ道アリシニ係ラス自ラ此地位ヲ放棄シ理事会ノ圈外ニ立テ其決議ニ對シ否認權（「ヴィット」）ヲ行ハントスルハ公平ノ見地ヨリスルモ議論ノ余地アルヘシ

点ニ属ス然ルニ第二種ノ論点ハ一般原則ノ適用ニ影響スル限り英國及仏國ニ於テモ我ト共通ノ利害關係ヲ有スト雖モ英仏側ノ立場トシテハ（一）可成問題ノ範囲ヲ局限シテ之カ解決ヲ日米両國間ノ直接交渉ニ譲リ自ラ其ノ渦中に投ズルヲ避ケントスルノ傾向アルコト及（二）本論点ノ解決アリトモ英仏自ラ直接ノ痛痒ヲ感ゼザルコトハ我ニ於テ常ニ念頭ニ置ク事ヲ要スベシ他ノ一方ニ於テ我立場ヨリ之ヲ觀レバ速ニ解決ノ必要アルハ第二種ノ論点ニシテ其ノ解決遷延スルニ從ヒ日米双方共ニ國民的感情益々刺戟セラレ両國ノ國交ハ一般ニ絶エズ緊張ノ状ヲ呈スベク加州問題解決案ノ如キモ間接ニ深甚ナル影響ヲ受クベキコト自然ノ情勢ト言ハザルヲ得ズ

六、卑見ヲ以テスレバ此際我ノ執ルベキ措置ニ一案アリ一ハ米国ニ於テ日本カ「ヤップ」ノ委任ヲ行フニ異議ナキ時ハ日本ハ同島旧獨線及将来計画セラルコトアルヘキ一切海底電線ノ陸揚及運用ヲ一般列國ニ向テ開放スヘントノ方針ヲ自発ニ声明スルニ在リ一ハ「ヤップ」ニ関シ日米両國カ特種ノ利害關係ヲ有スル一切ノ問題ヲ挙ケテ仲裁裁判ニ附託センコトヲ提議スルニ在リ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五五

四、他ノ一方ニ於テ「ヤップ」ノ委任統治カ日本ニ帰属スルノ主張ノ根拠ハ一昨年五月七日ノ最高會議ノ決定ニ存スル處其決定ハ正式ニ列國代表者ノ調印ヲ了シタルモノニ非ズ法律上ノ性質ヨリスレバ追テ正式ノ手続ニ依リ確認セラルベキ一ノ予備的協議タルニ止マリ最終的ニ当事國ヲ羈束スル國際約束ト解スベキモノニ非ズトノ議論モ生スヘシ

五、思フニ「ヤップ」問題ハ二種ノ論点ヲ包含ス第一ハ旧敵領土ノ处分ヲ律スベキ一般原則ニ關スルモノノ第一ハ其原則ヲ「ヤップ」ノ場合ニ適用スル結果ニ關スルモノ之ナリ第一ハ英仏二國ガ全然日本ト同一又ハ之以上ノ利害關係ヲ有スル所ニシテ第二ハ日本ノミ主トシテ直接ノ利害關係ヲ有ス凡ソ何國ト雖モ米国ノ同意ヲ得ズシテ旧敵領土ノ处分ヲ決定スルノ權利ナント言ヒ又ハ右領土ノ行政ニ關シテハ嚴正ニ機會均等主義ヲ貫徹スヘント言ヒ若クハ一國ガ（不明）アルハ五大國全体ノ代理者（「トラスチー」）タル資格ヲ害スベシト言フガ如キ主張ハ第一種ノ論点ニ属シ又「ヤップ」ニ於ケル海底電線ノ陸揚及運用ヲ一般列國ニ向テ解放スペシトノ主張ハ第二種ノ論

七、日本ハ「ヤップ」ニ於テ統治權ヲ行フ以上海底線ノ陸揚及運用ノ目的ニ限り同島ヲ列國ニ向テ開放スルコトハ事實上我ニ如何ナル不利ヲ來スベキヤヲ考察スルニ其軍事上ノ關係ニ至リテハ一ニ専門家ノ講究ニ待ツノ他ナント雖モ戰時ニ際シ事帝国ノ安危ニ関スル場合ニハ自ラ臨機応変ノ措置ヲ執ルノ道ナキニ非ザルベク常識ノ判断ヲ以テスレバ海底電線ノ陸揚及運用ヲ外國ニ許ストモ特ニ重大ナル不利ヲ虞ルベキ理由ナキニ似タリ之ヲ歐米ノ実際ニ微スルニ外國会社ニ電線ノ陸揚及運用ヲ許スモノ頗ル多ク英國大使ノ談ニ依レバ同國ニ於テ之ガ為事實上何等困難ヲ感ジタルコトナシト言ヘリ或ハ帝國官憲ニ於テ「ヤップ」ヲ通過スル一切ノ電信ヲ検閱又ハ差押得ルノ自由ヲ有スルコトハ種々ノ目的ニ便ナルヤモ知ルベカラズト雖モ米国ト支那大陸トノ間又ハ蘭領印度ト其本国トノ間に於ケル電信連絡ハ必スシモ「ヤップ」ヲ經由スルノ必要ナキガ故ニ若シ帝國憲法電信ノ検閱又ハ差押ヲ行フトキハ關係諸國ニ於テ「ヤップ」經由電信ノ発送ヲ避クルニ止マリ殆ント我ニ實益ナカルベシ唯帝國ト一外國ノ間ニ國交上ノ危機切迫シ帝國ガ「ヤップ」方面ニ於

テ秘密且ツ迅速ニ何等カノ予備行動ヲ執ルノ必要ヲ生ジタル場合ニハ外国カ同島ニ於テ海底電線ヲ運用スルハ我行動ノ機密ヲ保ツニ妨害トナルヤモ計リ難ント雖モ今ヤ無線電信ノ利用著シク発達シ且ツ各國牒報機關ノ活動機敏ナルニ当リ右機密保持ノ為ニハ到底海底電線運用ノ独占ニ重ヲ置クニ足ラザルベシ

八、若シ「ヤップ」島ニ於テ一切海底電線ノ陸揚及運用ヲ

一般外國ニ向テ開放スルコトニ決セラルトキハ此方針ハ自發的声明ノ形式ヲ以テ關係列国ニ通告スルヲ適當ト思考ス蓋シ米国政府ハ旧敵國ノ領土ノ処分ヲ律スベキ一般原則ノ適用トシテ「ヤップ」ニ於ケル海底電線ノ陸揚及運用権ヲ要求スルモノナルカ故ニ此要求ニ同意スルノ形式ニ依ルトキハ米国ノ主張スル右一般原則ヲモ承認スルモノト解セラレ其結果委任統治ノ全体ニ亘リテ英仏ノ立場ニモ影響ヲ及ボシ問題ヲ複雜ナラシムルノ虞アルベク之ニ反シ我自發的声明ノ形式ニ依ルトキハ一般原則ノ議論ヲ避クルコトヲ得ベシ

九、若シ前項ノ案ニ依リ米国ト妥協ヲ計ルヲ不得策ト認メラルニ於テハ前記第六項末段ノ仲裁裁判附託ヲ提議ス

度ヲ宣明スルヲ主要目的トシ其実行上ニ至リテハ仲裁々判官ノ選定其ノ他種々ノ困難ナル問題ヲ伴フコトヲ予想セザル可ラズ

何レノ場合ニ於テモ仏國ハ近來努メテ米国ノ歓心ヲ求ムルノ方針ヲ執リ又英國ト雖モ「ヤップ」ニ於ケル海底電線運用権ヲ日本カ獨占セントスル主張ニハ元来深ク吾ニ同情ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ吾ニ於テ徒ラニ英仏両國ノ支持ニ望ラ繫ギ米國ト右運用権問題ヲ争フハ極メテ不得策ト思考ス尤日本ガ「ヤップ」ニ於テ一切海底電線ノ陸揚ケ及ビ運用ヲ一般列国ニ向テ開放スルコトニ決スルモ米國ハ之ヲ以テ「ヤップ」ニ関スル特殊問題ノ解決ト認メ日本ノ委任統治ニ同意ス可ク米國現政府ニ於テ未ダ其ノ方針ヲ明言スルニ至ラズ本使ハ之ニ關シ帝国政府ノ意向ヲ体スルコトナクシテ深ク米國政府ヲ追窮スルニ顧慮シ四月二十一日ノ會議ニ於テ一応ノ質問ヲ提出スルニ止メ置キタル処「フレッチャード」ハ「ヤップ」委任統治ノ問題ニ関シ別ニ本使ト意見ヲ交換スベキコトヲ答ヘタルハ已報ノ如シ

ヲ有利ナラシムルノ効果アリト思考ス將又之ヲ米國ニ提議スルニ付テハ先ツ英仏伊三国ト協議ヲ遂ケ係争当事国トシテハ一方ニ於テ米國他ノ一方ニ於テハ日英仏伊四國共同トスルコトニ努ムルヲ得策トスベシ

一〇、今ヤ「ヤップ」問題ハ日米両國間ニ前記第五項末段

所載ノ形勢ヲ馴致スルニ至リ時日ノ経過ハ益々其解決ヲ困難ナラシムルニ止ル可ク此際法律上ノ見地ヨリ本問題ヲ考査シ米國ト折衝ヲ重ネントスル英國政府ノ意見ハ時日遷延ニ向テハ或ハ妙案ナル可ク又前記第五項ノ第一種論点ニ付テハ此方法ニ依ルモ我ニ於テ異議ヲ唱フ可キ必要ナル可シト雖モ之ヲ以テ第二種論点ノ解決ヲ試ムルハ何等解決ノ望ナクシテ徒ラニ日米國交ノ緊張ヲ増スニ至ル可シ私カニ大局ヲ案ズルニ両國カ特殊ノ利害関係ヲ有スル繫争問題ハ成ル可ク速ニ之ヲ一掃スルコト必要ニシテ之ガ為ニハ前記第六項ノ第一案ニ依ルヲ最良策ト信ズ第一案タル仲裁裁判附託提議ノ案ハ單ニ我公平ナル態

在歐州各大使ニ転電セリ

十一、貴電第一四六号自動仲継機ノ設備ニ依リ「ヤップ」ニ於ケル電線運用権問題ヲ解決セントスル案ハ曩ニ英國委員長「ブラウン」ヨリ提出セルコトアリシモ當時米國委員ノ強ク反対セル所ニ係リ（昨年十一月議事録参照）又「ヤップ」「グアム」線ノ陸揚権ニ年限ヲ附セントスルノ案ハ日本カ米國ニ対スル恩恵ノ行為トシテ帝國領土内ニ米國電線ノ陸揚ヲ特許スル場合ニハ當然ナル可キモ米國カ権利トシテ旧独線ノ分配ニ参加セントスル從來ノ主張ニ顧ミ到底本案ニ対シ米國ノ同意ヲ得ルノ望ナキハ明瞭ナル可ク今更本使一個ノ私案トシテ右二点ヲ提議スルハ今日迄ノ交渉ノ経過ヲ無視スルノ嫌アリ結局有害無益ニ終ル可キコト疑ヲ容レズ從テ本使ハ前記解決案ヲ提出スルコトヲ見合ハセ来レル次ニ付其ノ已ムヲ得ザル事情御含ミ（脱）大体御承認ヲ得ルニ於テハ公然ノ处置ヲ執ルニ先テ予メ當國政府ノ内意ヲ確ムル等夫々準備ヲ要スルニ付帝國政府ノ御意向成ル可ク速ニ御回訓相成リタン

三五九 六 五月二一日 在米國幣原大使署
内田外務大臣宛(電報)

米國政府ノ抗議書ニ対シ伊國大使ハ回國政府

ハ回國書ニ國務長官ニ手交ノ件

別電 同日在米國幣原大使署内田外務大臣宛電報第11

五一號 右伊國政府回答書

第一〔五〕〇號 (五月二一日接受)

「ヤップ」委任統治ニ関スル米國政府ノ四月五日附抗議書ニ対シ伊國大使ハ四月二十九日別電第11五一號ノ通リ回國政府ノ回答書ヲ國務長官ニ交付シ右同日公表セラシタリ在歐州各大使ヘ電報セリ

(別電)

五月二日在米國幣原大使署内田外務大臣宛電報第11五一號

伊國政府回答書

第一〔五〕一號

Italy is fully convinced that the United States are not asking for any privilege in the Island of Yap, which is not equally granted to every other nation including Japan. Italy is also convinced that the United

a position to cooperate toward the attainment of the common end which consists in the realization of the era of serene peace and prosperity for the civilized world.

Shidehara

三五九七 五月三日 内田外務大臣署
在英國林大使宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シ我方針ヲ説及措置方謂

令ノ件

第一〔八〕〇號

往電第一一四号ニ關シ帝国政府ハ「ヤップ」島問題ノ其ノ性質上充分隔意ナキ協議ニ依リ米國政府トノ諒解ヲ贏チ得キモノナリト認メ極メテ善意ヲ以テ帝国政府ノ見解ヲ卒直ニ披瀝スルノ措置ヲ執リタルモノニシテ今後ト雖モ亦此方針ヲ以テ関係国間ノ円満ナル協調ニ到達シ得キヲ期待シ居ル次第ナリ

抑々獨領南洋諸島処分問題ハ其由來決シテ一朝ノ故ニアラス開戦当初帝国ハ日英同盟ノ誼ニ依リ直ニ起テ參戰シ東亞方面ヨリ進テ地中海方面ニ亘リ敵勢力ノ掃蕩及警備治安ニ

セヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五九

States intend to protect their interest in the Island of Yap with full consideration for the interest of other nations. Italy therefore agrees with the text of the American note of the 5th of April instant concerning equality of right among the mandatories in exercise of their mandates. Italy wishes and trust that just right of every body concerned be recognized always and everywhere in the Island of Yap as well as in every other place and circumstance with perfect equality and justice. Italy has seconded the Anglo-French proposal which confided the study of the Yap question to a juridical committee and a conference of ambassadors in Paris and she now expects that the conference will pronounce itself with equality in such a way as to eliminate every possibility of disagreement and to conciliate all conflicting interests. Italy is particularly glad whenever the moral policies of the two governments and the material interests of the two nations agree in such a way as to put Italy and the United States in

ノ「プロトコル」ノ通り暫定的ノ決定ヲ見タリ

而シテ五月七日ノ最高會議ニハ帝国全權ハ不幸ニシテ列席セサリンモ其決議ノ内容及効果ニ付テハ帝国政府ハ前記「ウイルソン」氏ノ異議アリタル事實ニ鑑ミ當時ニ於テ既ニ最高會議当事者等ニ付充分之ヲ確ムルノ手段ヲ執リ又昨年來米国政府ノ公文ヲ接受シタル後ニ英仏伊三国政府ニ対シテ更ニ之ヲ確メ當時ノ最高會議ニ列席シタル英仏両国政府ヨリ明確ナル回答ヲ得テ茲ニ帝国政府ノ当初ノ了解即チ

五月七日ノ決議ハ委任統治地域割当テニ関スル最終的決議ナルコト及帝国ニ割当テラレタル委任統治地域ニ関シテハ何等留保又ハ条件ノ附加スルモノナキコトヲ再確認スルコトヲ得タル次第ニシテ帝国政府カ曩ニ米国政府ニ回答セル根柢ハ一一前記ノ諸事実ニ基ケルモノナリ

「ヤップ」島ノ帰属問題ニ關シテハ議会及新聞紙上ニ於ケル言論ニ依リ既ニ御承知ノ通り我國論ハ極メテ之ニ重キヲ置キ今日ニ於テハ日米間公文ノ公表ニ依リ政府ノ措置ニ信賴シテ冷静ノ態度ヲ持シ居ルモ一旦我ニ不利ナル解決ヲ見ルニ至ランカ或ハ勢ヒ往年ノ不幸ナル経験ヲ繰返スノ虞ナシトセス加フルニ委任統治割当ニ付テハ一昨年五月七日ノ

最高會議ノ決議ニ基キ昨年十二月十七日聯盟理事会ハ右決議ヲ確認シテ委任統治条項ノ細目ヲ決定公表シタルニ拘ラズ今日ニ至リ万一一國ノ発議ニ依リ更ニ之ヲ改定スルカ如ク從テ國際協力ノ至高ノ精神ニ基キ聯盟ニ依リ世界ノ平和ヲ維持セムトスル国民的心理ニ大ナル失望ヲ感セシメ飽マテ聯盟ノ主義ニ忠ナラントスルノ感情ニ陰影ヲ投スルニ至ラムコトヲ虞ルモノナリ

上述ノ如ク「ヤップ」島ノ「ステータス」問題ニ付テハ各般ノ事情ヲ斟酌ノ上既ニ確定セラレタル所ニシテ帝国政府ハ今更之力変更ヲ試ミントスルノ議ニハ同意スル能ハス然リト雖モ海底電線処分問題ニ付テハ当初ヨリ未決定ノ問題タルノミナラス華府通信予備會議ニ於テハ帝国政府ハ妥協的精神ヲ以テ努メテ關係国トノ協調ヲ計ルノ態度ヲ執リ來リタル行懸リアリ殊ニ当初帝国ト同一ノ歩調ヲ執リタル英仏両国カ大ニ米国ニ譲ル所アリタル為事態ハ最早前日ト同シカラス米国政府ノ真意ハ何レニ在リヤニ付テハ今日之ヲ予測シ難キモ從来ノ同政府カ海底電線問題ニ重キヲ置ケルモノアルニ顧ミ旁々帝国政府ハ海底電線問題ニ付テハ「ヤ

ズ日本政府ガ不満足ト思考スルコトアル可キ文句ヲ説明シ得ル余地ヲ存シ置ク方可ナリシナリ伊国ハ其ノ親切ナル利害ニ顧ミ米国ト良好ノ關係ヲ維持スルコト已ムヲ得ザル次第ナリト雖モ決シテ日本トノ友好關係ヲ害スルコトヲ欲セズスノ如キコトトナリタルハ在米伊国大使カ本來ノ外交官畑ノ人ニ非ズシテ政治家ヨリ外交官トナリタル為ニシテ單ニ米国ノ好感ヲ得ルコトヲノミ目的トシ他ノ事情ヲ顧慮スルコトヲ怠ルガ為メナリ云々ト語リタル由ナリ

英米仏ヘ転電セリ

三五八 五月五日 在伊國落合大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ関スル伊國ノ米国宛回答書ヲ

米国ガ公表シタルニ対シ伊國政府不快ヲ感じ

居ル件

第一三八号

(五月十日接受)

當館諜報者ガ極秘トシテ本使ニ内報シ来ル所ニ依レバ伊國ニ

外務省ニ於テハ「ヤップ」島問題ニ關シ最近伊國ガ米国ニ

發シタル回答口上書ノ全文ヲ發表シタルコトニ付不快ノ感

ヲ抱キ居レリ外務総務長官ハ在米伊国大使ガ該公表(脱)伊國政府ノ承認ヲ求メタリヤ否ヤヲ知ラズ且ツ斯カル文書

ヲ公表スル暁日本ニ於テ如何ナル影響ヲ來スヤヲ考慮セザル可ラザリキ故ニ若シ發表スルトシテモ寧ロ全文ヲ發表セ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三五八

三五九

三五九 五月六日 在伊國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シ米国公文ニ対スル回答書

二付各國ノ意向報告ノ件

(五月八日接受)

第六九七号

「ヤップ」問題ニ關シ本月二日本使ガ「カーデン」卿ニ話

シタル際卿ハ本問題ハ最高會議ニ附セザルヲ得ザルベシト答ヘタルガ翌日卿ハ本使ニ向ヒ「昨夜「ブリアン」ニ(脱)

ノ際本件ニ言及シタルガ今回ノ最高會議ニ於テ本件ヲ議スルノ余暇ナキニ付先づ以テ本件ヲ法律委員ニ托スベシトノ

三六七

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六〇

三六八

意見ナリシガ貴見如何ト問ヒタルニ付本使モ之ニ同意ノ旨答ヘ右ハ其通り進行スルコトト思ヒ電報シ置キタルニ其後「フロマジオ」氏ハ「ブリアン」氏ヨリ何等訓令ヲ受ケザリシ由ニ付本使ヨリ「ブ」ニ尋ネタルニ案外ニモ「ブ」氏ハ米國公文ニ対スル回答ハ各國別々ニシテ然ルベシト思考スト述ベタルニ付本使ハ米國公文ハ各國別々ニ送ラレタルコトナレバ各國ノ回答モ別々ニテ然ルベキモ本件ハ最高會議ニテ協議ノ結果同一回答ヲ発スルコトガ仏國政府ノ意志ト諒解シ居リタルガ如何ト質セルニ「ブ」氏ハ其通りナリ就テハ各國ニ於テ回答案ヲ作成シテ之ヲ比較スルコト

トシテハ如何ト述ベタリ本使ヨリ更ニ米國ハ我等ノ案内ニ応ジテ最高會議ニ参加シタル后ニハ同會議ニ於テ対米回答案ヲ議スル余地ナケレバ同會議ニ於テ之ヲ議スルノ機会ハ或ハ今回限リナラント言ヒタルモ独逸ニ対スル制裁及ビ担保ニ心ヲ奪ハレタル彼ハ更ニ受ケ答ヘナシ本件ハ帝国政府ニ於テモ此際急ガザル態度ト心得居ルニ付今之ヲ最高會議ニ附セズシテ法律委員ニ附託シテ本件ニ関スル四国政府ノ同一行動ヲ執ルノ主義丈ハ確定シ置キタシト考ヘタルモ前条ノ仕末ニテ曖昧ノ内ニ閉会セリ若シ米國ガ間モナク最高

會議大使會議等ニ参会スルモノトセバ日英仏伊ノ同一行動ハ最高會議以外ニ議セラレザルベカラザルニ至ルベク其場合少クモ仏伊両国ハ本件ニ關シ強硬ナル態度ヲ執ルノ案ニ参加スルヲ好マザルベシト思ハル

右歐米各大使ヘ転電セリ

三六〇 五月八日 在紐育熊崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

伊国外相ヤップ島問題ニ關スル米國公文ニ付

談話ノ件

(五月十日接受)

本官発在仏大使宛電報第六号

五月五日巴里発「アッソシエート、プレス」電報トシテ六日当地新聞ニ掲載セラル所左ノ通り
伊国外相「スマーリツ」伯ハ倫敦最高會議ヨリノ帰途「ヤップ」ニ関スル米國「ノート」ニ付語リテ曰ク本件ハ最高會議ノ問題トナラザリシモ「カーゴン」卿ト交談ノ機会ヲ得タリ余ハ米國ノ參戰ナクシテハ戰勝ヲ得ルコト能ハザリシモノニシテ而カモ米國ハ今日迄何等要求スル所ナカリシヲ以テ其ノ「ヤップ」ニ付スル要求ニ付テハ之ヲ達成

スルノ権利アリ米國ハ「ヤップ」ヲ得ザル可ラズ之伊國政府ノ希望スル所ナリト述ベタリ云々

右貴見ノ公表ニ対シ異議ナキヤトノ問ニ対シテハ何等異議ナキノミナラズ伊國政府ガ本問題ニ關シ如何ニ感ジ居ルカヨ米國民ガ知ルハ余ノ欣快トスル所ナリト答ヘ又日本政府ノ本件ニ対スル態度如何ナル可キヤトノ問ニ同政府ハ政治ノ実際ニ付明瞭ナル知覚ヲ有スルヲ以テ其ノ必ズ米國ニ同意ス可キヲ疑ハズト語リ「カーゴン」卿ノ貴下ニ対スル回答如何ノ問ニ対シテハ之ヲ語ル可キハ「カーゴン」卿ナリト述ベタル趣

新聞切抜郵送ス

在英大使ニ転電シ外務大臣ヘ電報シ在米大使ヘ郵送セリ

三六一 五月十四日 在英國林大使ヨリ

ヤップ島問題ニ關シカーゴン卿ハ日本ガ妥協

ノ方法ヲ講ゼラレ度旨談話ノ件
第五九一号 (五月十五日接受)

往電第五八八号末段ノ「ヤップ」問題ニ關シ「カーゴン」卿ハ日本ノ立場ニ付自分ヨリ彼是進言スルノ権利ナキモ友

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六一

三六九

邦ノ外務大臣トシテ善意ヲ以テ意見ヲ述べ見タシト前置コナシ堵「ヤップ」ノ統治權ヲ日本ニ委任シタル五月七日ノ決議ニハ「ウイ爾ソン」大統領ハ何等「リザーベーション」ヲナササリシコトハ事實ニシテ法理論トシテハ米國ノ言分ニ無理アルハ勿論ナルモ七日以前ニ於テ大統領並「ランシング」氏カ保留ヲナセルモ亦事實ニシテ七日ノ決議ニハ注意ヲ怠リシヤニ取ラレ「モーラリー」ニ言フトキハ米國トシテハ多少ノ言分アリトモ云ヒ得ヘシ兎ニ角御承知ノ通リ最近仏國ハ米國ノ歎心ヲ得ルニ急ニシテ伊國モ亦米國ノ同情ヲ求ムルノ状アリ英國トシテハ成ルヘク米國トノ紛議ヲ避ケタキハ是亦御推測ノコトナルヘク日本モ多分同様ナルヘン「ヤップ」問題ハ日本ニ取り死活ノ問題トモ思ハレズ今回ノ最高會議ニ於テハ同問題ハ議題ニ上ラザリシ処自分ノ推測ニ依レハ次回ノ會議ニハ米國モ加入ニ決シタルヲ以テ必ズ議題ニ上ルヘシト思ハル就テハ日本政府ニ於テ何トカ考案ヲ立テラレ妥協ノ途ヲ講セラルレハ法理論ハ兎ニ角トシテ實際大局ニ顧ミ彼我ノ便宜ナラント思考スル旨申述ヘ尚日本政府ハ近ク「ヤップ」島ニ「シビル、アドミニストレーション」ヲ布クコトニ決セル趣伝聞セル処米國ト

ノ交渉未決ノ今日右ハ同國ノ感情ヲ害スルノ虞アリト思ハル暫ク見合ハサルコト得策ナラズヤト附言セラレタリ依テ本使ハ其ノ好意ヲ謝シ免ニ角實際ノ考案トシテ何トカ妥協ノ途アルヘキコトハ一己ノ私見トシテ既ニ考ヘ居タル所ニシテ卿ノ意見ハ早速帝國政府ニ取次グベシト述ヘ置キタリ本件ニ付テハ在米幣原大使ノ意見モ既ニ御承知ノ通リニテ法理論ニ拘泥セズ妥協ノ方法ヲ講ズルコト日本ニ取り面目ヲ損スル次第ニモ之ナカルベク法理論ヲ楯ニ余リニ深入ヲナシ最後ニ讓歩スルハ面白カラズト思考ス在歐米各大使ヘ転電セリ

三六一 五月十四日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

ヤップ島問題ニ付米國政府ト直接交渉方意見

具申ノ件

第六一四号

(五月十六日接受)

愈々最高會議ニ米國モ参加ノコトト相成タルニ付テハ次回會議ニ於テ「ヤップ」問題ノ上程セラルベキハ略々予見セラルルノミナラズ昨十三日新任米國大使ノ談ニ依ルモ米國政府ハ同問題ヲ最高會議ノ議ニ附セントノ考ヘアルモノノ

如ク而シテ同氏交替迄ニ法律専門家意見ノ提出ヲ見ルノ運ビト相成時ハ大体我ニ有利ナルヤモ知レズト雖モ本使ノ管見ヲ以テスレバ既ニ問題ハ法律論ノ範囲ヲ逸脱シテ政治的見地ヨリ決定ヲ見ントスルニ至リ從テ法律上我立場ノ有力ナルニ過信シ頻ニ我主張ノ貫徹ヲ試ムル時ハ反テ米國ノ經濟的支援ヲ得シコトニ急ナル仮伊ノ同情ヲ削ギ更ニ英國ノ態度モ往電第五九一号「カーボン」卿ノ所言ニ徴シ仮伊米ニ逆ラヒテ迄飽迄我ヲ支援スベキヤ否ヤ慮リナキアタハズ從テ我方ニ於テハ出来得ル丈速ニ幣原大使稟請ノ趣旨ニ依リ米國抗議ノ骨タル海底電線問題ニ付米國ニ満足ヲ与ヘ「ヤップ」ノ地位問題ヲ我主張通り解決スルガタメ米國政府ト直接交渉ヲ開始セラルコト然ルベク而シテ最高會議開催ノ節ハ我方ニ於テハ十分互讓ノ精神ヲ以テ円満解決方ニ付尽瘁シ居リ海底電線ニ付テハ斯々ノ讓歩ヲ為シ帝國政府トシテハ有ユル苦痛ヲ忍ビテ國際平和ノ確立ヲ顧念スルモノナリト声明シ得ル事態ヲ馴致シ置クコト最モ必要ナリト思考ス早キニ及シテ右御裁断相成リ此上事態ノ紛糾ヲ避ケルノ策ヲ講ズルコトト致度ク右敢テ稟申ス

米仏ヘ転電セリ

三六三 五月十九日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛 (電報)

ヤップ島問題解決ニ付英國側ノ支持取付ニ努

力方訓令ノ件

第三一五号

貴電第五九一號ニ閑シ

「ヤップ」島問題ニ閑スル帝國政府ノ所見ハ既ニ往電第二八〇号ヲ以テ申進メタル通リニシテ帝國政府ハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ付テハ從來ノ經緯及国内ノ事情ニ顧ミ之ヲ讓歩スル能ハサルモ米國政府カ從來最モ重ヲ置ケル海底電線問題ニ對シテハ尚充分ニ交渉ノ余地ヲ存スルモノト思考シ目下其ノ具体的提案及交渉ノ方法等ニ付テ研究中ニシテ不日之ニ対スル我態度ヲ申進ムル積ナリ

帝國政府ハ往電合第一一七号ヲ以テ申進メタル通リ本問題ニ付テハ先ソ之ヲ法律的ニ取扱ヒ徐ニ時日ノ経過ヲ俟テ根本的解決ヲ計ラムトスル英國政府当初ノ意見ヲ正当ト認メ居リ次回ノ最高會議ニ於テ本問題カ上議セラル場合ニモ亦此方針ヲ以テ進行シタキ考ナリ然レトモ斯ル手続方法ノ問題ニ付テハ帝國政府ハ連合國ノ協調ヲ害シテ迄モ之ヲ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六三

ヲ行フニ於テハ米国側ノ感情ヲ刺戟スルノミナラス英國政府ノ支持ヲ得ルニ付テモ困難ヲ惹起スヘキ虞アルヲ以テ右ニ付テハ出来得ヘキ丈非公式且懇談的ニ商議ヲ試ミラルル様特ニ御配慮アリタシ

念ノ為本問題解決ニ関スル帝国政府ノ所見ノ大綱ヲ再説スレハ左ノ如シ

一、帝国政府ハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ変更ヲ及ホスノ議ニハ賛成セサルコト從テ委任統治割当問題ノ再議ニハ同意ヲ表スル能ハサルコト尚委任統治地域ニ機會均等主義ヲ適用セントスル米国ノ主張ニ付テモ帝国政府

ハ客年十二月理事会カ決定ンタルC式委任統治条項カ維持サル限リ右米国ノ主張ニ同シテC式委任統治地域ニ

関スル機会均等問題ヲ再燃セシメントスル意ナキコト

二、海底電線問題ニ関スル件ニ付テハ帝国政府ハ充分ニ交譲妥協ノ精神ヲ以テ米国ト交渉スルヲ辞セサルコト

尚貴電中ニ在ル「ヤップ」島ニ民政ヲ布ク云々件ハ從來同島ヲ含ム南洋獨領諸島ハ統治条項未定ノ為占領當時ノ軍政ヲ維持シ来レルカ今回統治条項確定セルニ依リ去ル四月

二十九日官報ヲ以テ委任統治ニ関スル從来ノ諸決議ヲ告示

務大臣ト会談ノ件

第一五四号

(五月一十五日接受)

貴電第五五号ニ閲シ

三六四 五月二十二日 在伊國落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ関スル伊国ノ態度ニ付同国外

シ目下之ヲ民政ニ移スコトニ手続中ニシテ予算ノ形式上問題アリ未タ之ヲ実行スルニ至ラス勿論「ヤップ」島ニ限り之ヲ民政ニ移スカ如キ考ハ毫モ之ナク唯既ニ英國ニ於テ漸次委任統治地域ヲ民政ニ移セルト同一ノ意味ニ於テ我統治ニ帰セル赤道以北南洋諸島ヲ全体トシテ民政ニ移スコトニ手続中ナルニ過キス從テ「ヤップ」島問題トハ全然別箇ノ考慮ニ出テタルモノニシテ之ヲ軍政ノ下ニ放置スルト民政ヲ布クトニ依リ其ノ解決ニ何等關係アルモノニ非ス此ノ点誤解ヲ避クル為特ニ「カーボン」卿ニ説明シ置カレタシ右歐米各大使ニ転電アリタシ

記事ノコトハ毫モ知ラザルニ付大臣ニ話サレタシ大臣ハ不日帰京後直ニ「ブーローニュ」會議ニ出席スル筈ナルモ其出發前面会ノ機会アル様取計フベシトノコトニテ其結果二十一日「スマーフォルザ」伯ニ面会シタリ同伯ハ総務長官ヨリ本使ノ話シタルコトヲ聞キ居レルニ付テハ内密ニ且腹藏ナク御話スペシトテ述ブルトコロニ依レバ過般倫敦會議ノ節同伯ト「カーボン」卿トノ間ニ本件ノ話アリ本問題ニ就キ日米双方ノ主張ニハ隨分著シキ懸隔アリ法理上ヨリ言ヘバ日本側ノ申分正當ナレドモ米国側ニ於テ條約最高會議國際聯盟等ノ關係ヲ離レ米国ノ助力ニ依リ戰捷ヲ得タル現実ノ事実ニ基キ其重要視シテ手強ク主張スルモノヲ度外視スルコトハ不可能ナリ何レカ解決ノ途アルベキカトノコトナリシガ同伯ハ帰途米国ノ通信員ニ会見ヲ求メラレ本件ノ談話ヲナシタリ新聞ニ現レ居ルトコロハ勿論正確ナラズ唯米国通信員ガ「ヤップ」島問題ノ米国ニトリ重大ナルコト恰モ「フェーメ」問題ガ伊国ニトリ重大ナリシト同様ナリトテ熱心主張スルトコロアリタルニ対シ伊国ハ米国ガ左程重キヲ置クモノニ就キ敢テ之ニ反対セムトスルモノニアラズトノ趣意ヲ語リタル次第ナリ伊国ハ本件ニ就キ米国ノ立場ヲ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六四

シ目下之ヲ民政ニ移スコトニ手続中ニシテ予算ノ形式上問題アリ未タ之ヲ実行スルニ至ラス勿論「ヤップ」島ニ限り之ヲ民政ニ移スカ如キ考ハ毫モ之ナク唯既ニ英國ニ於テ漸次委任統治地域ヲ民政ニ移セルト同一ノ意味ニ於テ我統治ニ帰セル赤道以北南洋諸島ヲ全体トシテ民政ニ移スコトニ手續中ナルニ過キス從テ「ヤップ」島問題トハ全然別箇ノ考慮ニ出テタルモノニシテ之ヲ軍政ノ下ニ放置スルト民政ヲ布クトニ依リ其ノ解決ニ何等關係アルモノニ非ス此ノ点誤解ヲ避クル為特ニ「カーボン」卿ニ説明シ置カレタシ右歐米各大使ニ転電アリタシ

貴電第五五号ニ閲シ

大臣十七日ニ帰京シ同日再び首相ト打合ノ為「トリノ」ニ出張スル等ノ事故ニ依リ久敷面会ヲ得ザリシニ付十八日總務長官ニ面会ノ節該事件ニ言及シタル處同長官ハ米国新聞立場ニ都合好キ様考慮スベキ旨ノ所言ヲ得テ之ヲ信ジ居リタルニ今回ノ如キ態度ヲ示サレタルハ甚ダ諒解ニ苦ミ且不快トセルトコロナリト述ベタルニ同伯ハ新聞報道ノ真相ハ上述ノ如クナルガ米国ハ最高會議及國際聯盟ノ決定ニ羈束セラレザルコトヲ声言シ一層広キ見地ヨリ手強ク其主張ヲナシ居リ一方伊国ノミナラズ英仏等ニ於テ財政及經濟ノ關係上米国ノ感情ヲ斟酌スルコト現在ノ事情ニ於テ已ムヲ得ザル次第ナリト述ベタリ尚本件其モノニ関スル帝国政府ノ意囑ニ就キ本使ノ所見ヲ問ヒタルニ付本使ハ本日ハ唯帝国政府ニ報告スル為新聞記事ノ正否ヲ問ハムト欲シタル迄ニテ立入りテ所見ヲ戦ハサムト欲セシ次第ニアラザルカ元來一口ニ「ヤップ」問題ト言フモ之ハ該島ノ「ステータス」問題ト該島ニ關係ヲ有スル海底電線ノ処分問題ト二種ニ区

三七三

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六五

三六六

三七四

別スルヲ要ス本使ノ純然タル個人トシテノ日下ノ觀察ニ依ルニ帝国政府ニ於テハ海底電線ノ問題ニ就キテハ妥協ノ精神ニテ引続キ討議ヲ辭セザルベキモ「ステータス」ノ問題ニ付テハ事理明白之ヲ根本問題トナスノ余地ナカルベシト思考スト述べ置キタリ

英米仏へ転電セリ

三六五 五月二十六日 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關スルカーボン卿ノ意見聽取

ノ件

(五月二十七日接受)

貴電第三一五号ニ関シ

二十五日「カーボン」卿ニ會見本使ハ先づ同卿友好的意見開示ニ對スル帝国政府ノ謝意ヲ述べ海底線問題ニ關シテハ交譲的精神ヲ以テ米国政府トノ間ニ妥協ヲ試ミンガ為提案慎重審議中ニ属スルモ「ヤップ」島ノ「ステータス」ヲ変更スル議ニ至リテハ其ノ及ボスベキ影響單純ナラザルニ顧ミ贊同シ難キ所ナリトノ趣旨ヲ述べ米国ハ海底電線処分ノミヲ以テ満足スベキヤ否ヤ同卿ノ見込如何ヲ質シタル処同

局貴案第一ノ趣旨ニ依リ本件ノ解決ヲ計ルノ外無シト思考セラル専處「ヤップ」委任統治問題ハ近ク連合國最高會議ニ附セラルヘキ形勢トナリ居ル今日同會議ノ成行ヨリ離レ別ニ帝国政府ヨリ自發的声明ヲナスコトハ實際ノ事態ニ適応セザルヤノ嫌アルニ付帝国政府ハ同會議ニ於ケル討議ニ

際シ最高會議及國際聯盟理事会ノ威信ノ為飽迄モ「ヤップ」島統治ニ關スル其決定ヲ維持スヘキコトヲ主張スルト同時ニ同島ニ於テ海底電線ノ陸揚及運用ノ自由ヲ列國ニ認ムルノ意アルコトヲ言明シ以テ實質上米国ノ要求ニ満足ヲ与ヘ之ニ對シ米国ヲシテ最高會議及聯盟理事会ノ前記決定ニ関スル異議ヲ棄テシムル様試ミ度キ意図ナリ就テハ貴官ハ最近ノ機会ニ於テ米国當局ト會見ヲ遂ケ右最後讓歩ニ關スル帝國政府ノ別電腹案ヲ暗示シ米国側ニ於テ果シテ之ヲ以テ満足シ委任統治ニ關スル其主張ヲ棄ツルニ至ルノ見込アリヤ御内探ノ上其結果至急電報アリタシ

右別電ト共ニ参考トシテ在欧各大使及在蘭公使へ転電アリタシ

(欄外註記)

「五月二十日陸海通三省主任官ト協議済」

三六六

三七五

卿ハ米国政府ニシテ電線処分ノミヲ以テ本件ノ終結トナサバ幸ナルモ若シ同政府ニシテ更ニ一步ヲ進メ「ヤップ」島「ステータス」問題ヲ固持セントセバ之ヲ思ヒ止マラシムルニ由ナク關係諸國ハ考量ニ附セザルヲ得ザル可尤其場合先づ之ヲ法律的研究ニ附スルハ最モ妥当ノ方法ナリト思考スト答ヘタリ尚同卿ハ本問題ハ來ル最高會議ノ議ニ上ル可キヤ否ヤ又新米国大使ノ有スル権限ノ範囲等不明ナリト言ヘリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

三六六 五月二十八日 内田外務大臣ヨリ 在米國幣原大使宛(電報)

ヤップ島委任統治問題ニ關スル我腹案ヲ米國

側ニ暗示シニ之ニ對スル同國ノ意向内探方訓令

ノ件

貴電第一四四四号ニ關シ「ヤップ」問題其後ノ發展ニ鑑ミ結

別電 同日内田外務大臣堯在米國幣原大使宛電報第二一五号 最後讓歩ニ關スル日本政府腹案

第二一四号

貴電第一四四四号ニ關シ「ヤップ」問題其後ノ發展ニ鑑ミ結

別電 同日内田外務大臣堯在米國幣原大使宛電報第二一五号 最後讓歩ニ關スル日本政府腹案

第二一五号

「閣議ヲ經タル上発電可然乎」

(別電)

五月二十八日内田外務大臣堯在米國幣原大使宛電報第二一五号

最後讓歩ニ關スル日本政府腹案

第二一五号

別電

一、「ヤップ」上海線ハ日本ノ所有トシ那覇上海間ニ日本ニ於テ連絡線ヲ敷設シ「ヤップ」那覇上海線ヲ構成スルコト

二、「ヤップ」「グアム」線ノ価額ハ独逸ノ対米貸方ニ計上但シ對獨平和條約第八編第一款第七附屬書第二項ニ依リ「ヤップ」「グアム」線ノ価額ハ独逸ノ対米貸方ニ計上スルコト

三、「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭國ノ所有トスルコト但シ蘭國ハ之ニ依リテ獨蘭會社ニ關シテ從來蘭國政府及國民ノ有シタル一切ノ利益ヲ放棄スルコト

四、各電線ノ所有者ハ其電線ノ兩端共ニ之ヲ運用スルコト

五、米日蘭三國間ニ公平ナル電信連絡業務取扱協定ヲ設ケ之ニ依リテ各電線相互間ノ連絡ヲ確保スルコト

六、「ヤップ」那覇上海線ノ連絡方法ハ日本ニ於テ通信上

三七五

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六七

ノ利便ヲ考慮シ適宜之ヲ定メ且上海端ハ先ツ日本局ニ引
込ミ日本局ニ於テ運用シ同線ニ依ル電報ノ受付配達ヲ執
行スルコト但シ大北会社経由ノ電報ニ対シテハ日本局ト

大北会社トノ間ニ適當ナル受授方法ヲ協定スルコト

七、各線ノ所有者ハ「ヤップ」島ニ於テ何等ノ課税又ハ監
督ニ服スルコトナクシテ各自ノ電線ヲ運用スルノ権利ヲ
有スルコト

八、将来「ヤップ」島ニ於テ計画セラルコトアルヘキ一

切ノ海底電線ノ陸揚及運用ノ自由ヲ一般列国ニ認ムルコ
ト（但シ右ノ結果ハ海底電線ノ関スル限り「ヤップ」島
ヲ國際化シタルモノナリト解セラレ從テ戰時ニ於テ帝国
ノ行動ヲ拘束セラルコトナルノ虞アルヲ以テ出来得
ヘクハ既設線ニ限り陸揚及運用ノ自由ヲ認ムルカ若クハ
一步ヲ譲リ米蘭二国ニ對シ将来其計画スルコトアルヘキ
線ニ付右ノ自由ヲ認ムルコトニ依リ解決ヲ計ラル様致
度シ）

九、前記各項ニ依ル決定ハ蘭国及支那国並ニ大北電信会社
ノ関スル限り各其承諾ヲ得ルコトヲ条件トスルコト從テ
五大国ハ右承諾ヲ得ル為共同ニ尽力スルコト

トハ思考シ難シ尤モ同官ノ述ベタル右感想ナルモノハ仏伊
両国政府ノ本問題ニ關スル回答ガ米国ニ友好的ナルコトヲ
考量ニ加ヘタルモノト察セラル
在英大使ヘ転電セリ

三六八 六月五日

在米國幣原大使宛（電報）

ヤップ島ノ地位ニ關スル國務長官トノ妥協点

二付討議ノ件

第三一四号

（六月七日接受）

六月三日國務長官ト會見ノ機會ニ於テ本使ハ「ヤップ」問
題ニ言及シ日本政府ハ可成速ニ其解決ヲ切望スルモノナル
處本問題ハ性質上二種ニ分レ第一ハ「ヤップ」ニ集中スル
旧獨線ノ処分ニ關スルモノ第二ハ「ヤップ」ノ國際的地位
(「ステータス」)ニ關スルモノ之ナリ第一種ノ問題ハ累次
通信會議ノ議題トナリ之ニ對スル米国ノ主張ハ本使ニ於テ
モ予テ承知スル所ニシテ今ヤ其満足ナル解決ヲ期待スベキ
充分ナル成算ヲ有スルニ至リタルモ第一種ノ問題ニ付テハ
未ダ米国政府ノ具体解決案ヲ聞カズ只從来米国ノ最モ重キ
ヲ置キタル点ハ既設ノ「ヤップ」「グアム」線及ビ将来米

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三六八

三七六

註 五月二十八日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電報第二二四

号及第二二五号電文ハ外交調査会ニ附議後五月三十一日閱議
決定セラレタリ

三六七 六月一日 在米國幣原大使（電報）
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シ新聞記者ノ質問ニ対スル

國務長官ノ応酬振ニ付回報ノ件

第三〇八号

（六月三日接受）

貴電第二一八号ニ關シ國務長官ハ五月二十日頃「ヤップ」
問題交渉ノ發展ニ付新聞記者ヨリ執拗ニ質問ヲ受ケタルコ
トアリ其際「ニュース」ハ同問題交渉ハ其後満足ニ進捗シ
ツツアル旨語リタル處記者中ニハ之ヲ以テ日本政府ガ同問
題ニ關シ最近公文ヲ米国政府宛送付セリト即断シ其内容ニ
關シ揣摩臆測ヲ試ミタルモノモ尠カラザリシニ付「ニュー
ス」ハ翌日新聞記者トノ會見ニ於テ其推測ノ誤レルコトヲ
指摘シ米国政府ハ新ニ日本政府ヨリ公文接手セルコトナキ
モ自分ノ感想ニ依レバ本問題ノ満足ナル解決ニ至ルベキコ
トヲ信ズル旨ヲ述ベタル由ナリ御問合ノ記事ハ之ニ基クモ
ノナルベク前頭「ニュース」ノ言ハ宣伝ヲ目的トスルモノ
名義ヲ用ヒテ「ヤップ」ヲ日本ノ委任統治ニ置クコトヲ議決
セリ之米国ノ頗ル不満トスル所ニシテ米国ハ如何ナル一國
タリトモ「ヤップ」ニ於ケル権利及ビ便益ノ享有上優先ノ
地位に立ツコトヲ反対セザルヲ得ズト論ジタルニ付本使ハ
前記米国政府ノ主張セラル主義ナルモノハ其性質上当然
旧敵國領土全部ニ適用セラルモノニアラズヤト推問シタ

ルニ「ヒュース」ハ多少躊躇ノ後右主義ハ性質上旧敵国領土全部ニ適用アルモ事實上「ヤップ」以外ノ地域ニ付テハ之ヲ主張スルノ意志ヲ有セズ只「ヤップ」ハ通信上最モ枢要ノ地域ニ當ルヲ以テ該主義ノ同島ニ實行セラレントコトヲ主張セザルヲ得ズト答ヘタリ

依テ本使ハ米国ガ特ニ「ヤップ」ニ閑シ此主張ヲ固持スル理由ハ同島ガ通信上枢要ノ地位ヲ占ムルノ点ニアリトセバ本使ノ先ニ述ベタル如ク米国ノ同島ニ於ケル海底電線ノ陸揚及ビ運用権ノ承認セラルニ至ラバ米国ハ之ヲ以テ「ヤップ」ノ國際的地位ノ閑スル問題全体ノ解決ト認メザルヤト問ヒタルニ「ヒュース」ハ單ニ海底電線ノミナラズ無線電信其他将来學術ノ發達ニ依リ新ニ發明セラルコトアルベキ一切ノ通信設備ニ付テモ米国ハ「ヤップ」ニ於テ列國ト均等ノ権利ヲ求ムルモノナリト答ヘタリ

本使ハ今ヤ無線電信ノ有効距離ハ數千哩ニ達シ米国ガ「ヤップ」ヲ去ルコト僅ニ二百哩ニ過ギサル「グアム」ヲ領有スル以上「グアム」ニ於ケル無線電信線ヲ以テ優ニ米国ノ需要ヲ充タスニ足ルベク特ニ「ヤップ」ニ於ケル無線電信機装置ノ権利ヲ主張セラルハ何等事實上必要ニ基クモノ

ト信ゼラレズト指摘シタルニ「ヒュース」ハ之ニ對シ別ニ語ヲ繼ギ元來一昨年五月七日最高會議決議ハ其決議ノ

末項ニ依リ翌日全部公表セラレタルガ其公表セラレタル事

項ニ對シテハ「ヤップ」ニ閑スル何等ノ留保又ハ特殊規定ナシ爾來右公表事項ニ對シ何國政府ヨリモ異議ヲ提出シタルモノナク從テ日本人民ハ當然該決議ガ其字句ノ通りニ实行セラルベキコトヲ期待シタリ然ルニ昨年ニ至リ前米国政

府ハ突然該決議中ニ記録セラレザル別段ノ留保スペキモトヲ主張スルヤ日本ノ國民ハ頗ル意外ノ感ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ蓋シ旧獨領南洋諸島ノ大部分ハ赤道以南ニ位シ夫々濠州「ニュージーランド」又ハ英帝國ノ委任統治ニ屬スペキモノニシテ米国ハ之ニ對シ何等異議ヲ唱ヘズ唯日本に割当テラレタル僅少ノ地域ノミニ付主義ノ問題ヲ提起シ強硬ニ異議ヲ固執スルハ日本ニ於テ米国ノ真意ニ疑惑ヲ抱クノ原因トナリタルコト自然ノ状勢ナルベク近着ノ本邦新聞紙ニ依ルニ今回米国ノ行動ガ深甚ナル印象ヲ一般國民ノ心裡ニ与ヘタルノ状アルハ両國ノ關係上極メテ不幸ト云ハザルベカ

ト信ゼラレズト指摘シタルニ「ヒュース」ハ之ニ對シ別ニ語ヲ繼ギ元來一昨年五月七日最高會議決議ハ其決議ノ

末項ニ依リ翌日全部公表セラレタルガ其公表セラレタル事

項ニ對シテハ「ヤップ」ニ閑スル何等ノ留保又ハ特殊規定ナシ爾來右公表事項ニ對シ何國政府ヨリモ異議ヲ提出シタルモノナク從テ日本人民ハ當然該決議ガ其字句ノ通りニ実行セラルベキコトヲ期待シタリ然ルニ昨年ニ至リ前米国政

府ハ突然該決議中ニ記録セラレザル別段ノ留保スペキモトヲ主張スルヤ日本ノ國民ハ頗ル意外ノ感ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ蓋シ旧獨領南洋諸島ノ大部分ハ赤道以南ニ位シ夫々濠州「ニュージーランド」又ハ英帝國ノ委任統治ニ屬スペキモノニシテ米国ハ之ニ對シ何等異議ヲ唱ヘズ唯日本に割当テラレタル僅少ノ地域ノミニ付主義ノ問題ヲ提起シ強硬ニ異議ヲ固執スルハ日本ニ於テ米国ノ真意ニ疑惑ヲ抱クノ原因トナリタルコト自然ノ状勢ナルベク近着ノ本邦新聞紙ニ依ルニ今回米国ノ行動ガ深甚ナル印象ヲ一般國民ノ心裡ニ与ヘタルノ状アルハ両國ノ關係上極メテ不幸ト云ハザルベカ

ラズ且日本國民ハ日清戰後三國干涉ノ苦キ経験ヲ有ス當時日本政府ハ大局ニ鑑ミ独逸ノ主張ニ係ル三國ノ要求ニ屈シテ遼東ヲ還付シ該問題ハ一時解決シタルモ我國民的感情ニ及ボンタル重大ナル影響ハ遂ニ掃フニ由ナク惹テ過般日独立戦役ノ一遠因トナルニ至レリ日米両國ハ此例ニ倣フ可ラズ密ニ将来ヲ慮ルニ此際相互ニ取リテ最モ緊急ナル点ハ両国ノ人心ニ何等不快ノ念ヲ残サザル解決法ヲ講ズルニアリ之ガ為ニハ双方共互讓ノ精神ニ依リ公平ナル妥協点ヲ發見スルヲ要ス曩ニ「ウイルソン」政府ハ米国ノ為メ「ヤップ」

「グアム」線ノ割当及同線両端ノ運用権ヲ要求シ「ヤップ」ノ地位ニ付テハ将来ニ亘リテ一切米国海底電信ノ陸揚及運用ノ自由ヲ主張セリ日本政府ハ國內法規及内政ノ關係上之ニ同意ヲ表スルコトヲ得ザリンモ今ヤ日米親善ノ為メ万難ヲ排シ右米国ノ要求及主張ニ満足ヲ与ヘンコトヲ考慮

中ナルニ當リ米國現政府ハ更ニ一步ヲ進メテ啻ニ海底電線ノミナラズ一切通信上ノ権利及便益ニ付均等ノ主義ヲ主張セラルモノトスレバ其日本ニ求メラル條項ハ益々峻烈ニシテ殆ド際限ナキモノ如シ斯ノ如キ条件ヲ以テシテハ本使一曰トシテ最早本問題解決ノ望ヲ絶ツノ外ナク日米永

セラルモトスレバ其日本ニ求メラル條項ハ益々峻烈ニシテ殆ド際限ナキモノ如シ斯ノ如キ条件ヲ以テシテハ本使一曰トシテ最早本問題解決ノ望ヲ絶ツノ外ナク日米永

第三三七号 (六月二十二日接受)

六月十八日國務長官ト會見「ヤップ」問題ニ閑スル協議ヲ

続行シ前回ノ話合ニ依リ先ソ本使一箇ノ私案トシテ甲号（別電三三九）及乙号（別電三三八）案文ヲ提出シ甲号ハ

太平洋ニ於ケル旧獨線ノ处分ニ閑スルモノ乙号ハ「ヤッ

プ」ノ地位ニ於ケル旧獨線ノ处分ニ閑スルモノナルコトヲ説明シ兩案共細目及字

第三三九号 同日幣原大使發内田外務大臣宛電報第三三八二 同右電報第三三九号

ヤップ島ノ地位ニ閑スル件

句ニ至リテハ未タ帝国政府ノ承認ヲ得タルニ非サルヲ以テ本使限リノ私案ト認メラレタキ旨ヲ附言シタル処「ヨーバ」ハ之ヲ閲読シ貴趣旨ハ善ク了解セリ何レ來週中何分ノ意見ヲ定メ更ニ貴官ト非公式協議ヲ続行スベシト答へ語ヲ繼キ前回会談ノ節自分ヨリ米國カ「ヤップ」リ於テ無線電信機ニ付テモ海底電線ト等シク設備ノ自由ヲ有スベキコトニ言及シ之ニ対スル貴官ノ反対論アリ其ノ後熟考スルニ貴説ノ如ク米國ハ元ヨリ「グアム」ヲ領有シ同地ノ無線電信機ヲ以テ各地ト通信ヲ交換スルノ便アルモ若シ「グアム」ノ無線電信機ニ故障ヲ生シタル時ハ其ノ附近ノ「ヤップ」ニ於テ之カ代用トナルヘキ無線電信機ヲ有スルコトハ實際上有益ナルヘク日本モ強ヒテ之ニ反対セラルヘキ理由無キニ似タリト述ヘタリ

本使ハ之ニ答ヘ米國ハ現ニ「グアム」ト米國及亞細亞両大陸トノ間ニ全部米國ノ經營ニ係ル一海底電信ヲ有シ今後モ必要有ラバ「タマム」「ヤップ」線ヲ延長シテ「ヤップ」マリ亞細亞大陸ニ至ル別線ヲ敷設スルコトヲ得ケク是等ノ海底電線カ一朝全部通信不能トナリ且「タマム」ノ無線電信機モ之ト同時ニ故障ヲ生スルカ如キコトベ実際上殆シト

(元 電) 六月二十日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第111118号

太平洋ニ於ケル旧独線ノ処分ニ關スル件

第111118号 別電

(Tentative draft)

It is agreed that the United States shall have free access to the Island of Yap on the footing of entire equality with Japan or any other nation in all that relates to the landing and operation of the existing Yap-Guam cable or of any cable which may hereafter be laid by the United States or its nationals.

Shidehara

7 of the Treaty of Versailles.

2. The Yap-Guam cable to be assigned to and owned by the United States; the value of said cable to be likewise credited by the United States to Germany.

3. The Yap-Menado cable to be assigned to and owned by the Netherlands, in full and final satisfaction of all claims of the Netherland Government and its nationals respecting their interests in the German-Netherland Telegraph Company.

4. Each country to operate both ends of the cable which it owns under the foregoing plans of allocation.

5. Arrangements to be made among Japan, the United States and Netherlands for the regulation of their connecting cable services at Yap.

1. The Yap-Shanghai cable to be assigned to and owned by Japan; the value of said cable to be credited by Japan to Germany in the reparation account conformable with the provisions in Part 8, Section 1, annex

(元 電) 六月二十日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電報第111119号

ヤップ島ノ地位ニ關スル件

第111119号 別電

(Tentative draft)

which is to be connected with the existing Yap-Naba section so as to establish Yap-Naba-Shanghai services; the means of connection between the Yap-Naba section

想像シ得ラレス尚「ヤップ」問題從来ノ経過ヲ案スルニ前回ニモ指摘セル通り「ウイルソン」政府時代ニ米國カ日本ノ「ヤップ」委任統治ニ関シテ異議ヲ唱ヘタルハ單ニ同島ニ於ケル海底電線ノ陸揚及運用權ヲ確保セムトスルノ目的ニ出テタルコト疑ラ容レス日本ハ今ヤ此ノ点ニ付万難ヲ排シテ米國ノ希望ニ副ハム事ヲ努ムルニ方リ現米國政府カ更ニ一步ラ進メテ新要求ヲ提出セラルルハ本案ノ妥結ヲ益困難ナラシムル所以ナリト述ヘタルニ「ビューズ」ハ乙号貴案カ「ウイルソン」政府時代ニ於ケル問題ノ経過ニ徴シ無理ナラサル事ヲ了解スルモ他ノ一方ヨリ見レハ既ニ海底電線ノ經營ヲ承認シナカラ等シク通信ノ機關タル無線電信ノ經營ニ於テ反対セラルルハ理論一貫セサル所アルカ如ク「ヤップ」ニ於ケル米國無線電信機ノ設備ハ米國ニ取りテ幾分ノ利益アルト共ニ日本ニ取りテモ格別ニ害害アリトモ思ハヌス尤モ此ノ点ハ尙篤ト研究シテ更ニ協議スルコトレスベシト答ヘ「先當日ノ会見ヲ打切りタリ
別電ト共ニ在欧各大使及和蘭ヘ転電シタリ

(元 電)

六月二十日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電報第111118号

三九九

and the Naba-Shanghai section to be determined by Japan, having in view the promotion of facilities of communication.

7. The Shanghai end of the Yap-Naba-Shanghai cable to be brought in to the Japanese Telegraph Office at Shanghai, over it to be subject to substantially the same arrangements, mutatis mutandis, as were in force when the Yap-Shanghai cable was in the hands of the

German-Dutch Company which formerly owned it, and traffic passing which will undertake the receiving and delivery of messages passing over said cable; provided, however, that with regard to messages emanating from or destined to the Great Northern Telegraph System, suitable arrangements will be made between the Japanese Telegraph Administration and the Great Northern

sages.

8. The operation by the United States or by the Netherlands of its own cable at Yap to be free from

「ップ」問題ハ同島ノ國際共有ヲ基礎トシテ交渉セラルモノ如ク若シ円満解決ニ至ラバ聯盟會議ノ議ヲ経ルノ要ナキニ至ル。ベシ移民問題ノ交渉ハ日本労働者ノ絶対入國禁止及在米日本人財産權ノ保護ヲ基礎トス将又山東ハ聯盟ノ裁決ニ委セラルヲ待タズ日本ノ声明通り能フ限り速カニ還附セラルルニ至ルベク其ノ第一歩トシテ既ニ日本ハ山東駐兵ヲ三千ニ減ジ且ソ同地財產ニ對スル支那側ノ保護確立次第全部撤兵ヲ行フベシト云フ云々

力要左ノ通リ論語ニ拵外リ

右諸問題ニ関スル日米直接交渉ノ開始ハ満足ニ堪ヘザル所ナリ國祭節盟ノ委任充當剥奪、米國ノ承認セダレ所ナレフ

以テ「ヤップ」島ニ対シ権利ノ取得乃至承認ニ関スル日米
争議ハ両国間ノ自由討議ニ依リテコソ解决セラルベシ日米

間ノ諸問題ノ解決セラルル以上独リ加州問題ヲ存シテ両国
國交ノ災タラシム可ラズ解決ノ道ハ自ラ存スベシ山東問題

ニ付テハ同地ニ政治上ノ目的ヲ有セストハ日本ノ声明スル所ニシテ日本ハ遠カラズ撤兵ヲ実行スルニ至ルベシ今ヤ米

七 ヤツプ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七一

all taxation or control at the hand of the local authorities.

9. The Principal Allied and Associated Govern-
ments jointly to communicate with the Netherlands,

China and Great Northern Telegraph Company, the Eastern Extension Company and any other company affected, in order to secure the necessary consent of each of these parties to the terms of the present arrangement in which such parties are respectively interested.

三七〇 六月二十二日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

ヤップ島問題ニ関スル日米直接交渉ニ付華府連合通信ノ発シタル電報ヲ掲載シタル新聞記

第三四四号 事及其反響報告ノ件
(六月二十三日接受)

地方新聞ニ掲載ヲ見タリ

国政府ニトリテハ其ノ日支両国ニ対スル友情ニ鑑ミ山東還附速成ノ労ヲ執ルベキ好時機ナルベク日本大使及國務長官ノ討議ニ依リ本問題ノ解決ヲ見ルニ至ラバ日米親交ノ増進上効果偉大ナルベシ云々

十八日國務長官ハ本使ト面談ノ節前記ノ報道ニ言及シ右ハ自分モ過般旅行先ニ於テ一読シタルガ一般公衆ニ於テ両国間諸問題ノ交渉ガ順調ニ進行シツツアルコトヲ感知スルハ國交ノ為メニ有利ナルガ故ニ諸方面ノ問合セニ対シ自分ハ右報道ヲ否認セズ又確認モセズ其ノ儘ニ附シ置キタリ但シ自分ノ漏シタルモノニ非ザルコトハ了承セラレタシト云ヘ

三七一 八月六日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

務長官ノ大統領宛書翰ノ大要報告ノ件

第四六五号
（八月七日接受）

太平洋横断海底電線國設ノ件ニ關シ其ノ後 Johnes ヨリ右
二回ノ文書別、意見、文：「先頃、國務省より、ハワイ、及

シタル上之ニ回答シタルガ國務長官ノ大統領ニ宛テタル七

三八三

月十九日附書簡ノ大要左ノ如シ

予ハ此種施設ハ先以テ米国民業ニ委セラルベキモノナリト
ノ意見ニ賛同ス且ツ予ハ民間ニ於ケル意図ヲ尋ネ若シ民間
企業家ニシテ政府及公共ノ需要ニ応ズルヲ得ザルカ又ハ之
ヲ欲セザル場合ニシテ初メテ政府ノ事業トシテ之ヲ計画ス
ベキモノナリトノ見解ヲ有ス（中略）最近Commercial会
社ハ日本ニ於ケル運用ニ関シ適當ナル協定ノ成立ヲ条件ト
シテ桑港日本間海底線ノ陸揚及運用ノ特許ヲ出願セリ而シ
テ同社ハ万一日本トノ適當ナル協定成立セザルニ於テハ
Midway諸島ヨリ「グアム」島ニ至ル一線ヲ敷設シ同島ヨ
リ小笠原島ヲ経テ日本ニ通ズル同社ノ現在線ト接続セシメ
ンコトヲ計画シツツアリ此ノ場合ニ於テ新線ハ第一次ニ日
米間ノ通信ニ使用シ米国ト「フィリッピナス」及支那トノ
通信ハ「グアム」島ヨリ「フィリッピナス」及支那ニ通ズ
ル現在線ニ依ルコトトナルニ至ルベシ

更ニ又 Western Union会社ハ米国西海岸ノ一地点ヨリ

「グアム」及「フィリッピナス」ヲ經テ支那ニ至ル海底線ノ
敷設ノ特許ヲ出願セリ之等二社ノ中少クトモ一社ハ喜ンデ
料金低減並ニ通信改善ニ関スル吾人ノ要求ニ適応スル様其
ヲ讀上ケタリ本使ハ之ヲ聴取リタル上

（一）覚書第一点中米国人民ノ為居住来住ノ自由及課税ノ免除
ニ付保障ヲ求メラルル處右ハ海底電信業務ノ目的ニ關係
ナキ場合ヲモ包含スル趣旨ナリヤト質問セリ同官ハ之ニ
答ヘ元來「ヤップ」ハ商工業上価値ナキ一孤島ナルガ故ニ
一般商工業ノ目的ヲ以テ同島ニ居住来住スル米国人又ハ
寄港スル米国船アルヘシトモ思ハレス從テ本件ハ全ク海
底電線業務ノ目的ニ關係アル場合ノミヲ予想シタルモノ
ナリト説明セリ本使ハ目下同島ニ米国人ノ居住スルモノ
アリヤ又ハ米国船ノ寄港スルモノアリヤヲ知ラサルモ現
ニ若干外国人ノ居住スルモノアルハ予テ聞及ヒタル所ナ
ルカ覚書ノ字句ニ依レハ是等海底電線業務ノ目的ニ關係
ナキ外国人又ハ其ノ所有財産若クハ寄港船舶ニ対シテモ

ノ設計ヲ変更スルコトト信ズ独領海底線ノ分配問題ニ関ス
ル交渉ハ目下進行中ナルガ「グアム」「ヤップ」間海底電
線ハ或ハ米国政府ニ分配セラルルニ至ルナランカ独領海底
線ニ関スル決定如何ハ実ニ太平洋ニ於ケル海底線通信ノ改
善計画ニ對シ重大ナル關係ヲ有スベシ
太平洋ニ於ケル現在ノ通信機関ヲ公衆及政府ノ為メニ適當
ナル条件ヲ以テ改善シ拡張スルコトハ政治上軍備国防上望
マシキコト勿論ナルモ一方距離ノ遠隔費用ノ多額ナルヲ以
テ結局政府ニ於テ之ガ施設ヲ要スルコトアランモ予ハ太平
洋ニ於ケル無線電信並ニ海底電信ノ必要ニ関スル調査終了
シ且ツ独領海底電線ノ分配決定セザルニ民業ニテ之ヲ施設
経営スルヲ得ザルコト確定スルニ至ル迄ハ仮令「ジョン
ス」氏提案ノ如キ範囲ト雖モ国庫ヨリ何等巨額ノ支出ヲ為
サザルコトヲ得策ナリト信ズ云々 原文郵送

三七一 八月二十一日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題解決案ニ対スル國務長官ノ回答
覚書ニ關シ討議ノ模様報告並請訓ノ件

別電 同日在米國幣原大使發内田外務大臣宛

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七二

三七二

電報第五四二号

八月十九日米國務長官ノ幣原大使ニ手交セル覚書

第五四一号（至急）

（八月二十二日接受）

八月十九日國務長官ト會見ス同官ハ六月十八日本使ノ提出
シタル「ヤップ」問題解決案（往電三三八及三三九号）ニ
對シ自分ノ意見ヲ認メ置キタリトテ別電第五四二号ノ覚書
ヲ讀上ケタリ本使ハ之ヲ聴取リタル上

一定ノ自由及免除ノ保障ヲ求メラルモノノ如ク解セラ
レ果シテ然ラハ委任統治ノ責任ヲ有スル日本トシテ熟考
ヲ要スル所アルヤニ思考シタルヲ以テ右質問ヲ發シタル
次第ナリト述ヘタルニ「ヒューズ」ハ覚書中用ヒタル字句
ニ至リテハ追テ條約文起草ノ場合ニ修正追加スヘキモノ
アルコト勿論ニシテ差当リ右字句ニ重キヲ置カルコト
ナク唯大体ノ趣意ヲ考量セラレンコトヲ望ムト答ヘタリ
(二) 覚書第二点ニ就キ國務長官ハ本使ノ質問ニ答ヘ他日日本
ガ同島ニ現存スル無線電信ノ設備ヲ撤廃スルコトアリト
スルモ米国ニ於テ直ニ之ニ代ルベキ設備ヲナサムトスル
ノ一定計画アルニアラズ唯單純ナル主義ノ問題トシテ此
権利ヲ承認セラルハ公平ノ見地ヨリ米国ノ重キヲ置ク
トコロナリト説明セリ

(三) 尚本使ハ五大國協同シテ和蘭支那及大北電信会社ニ交渉
スベキ旨ノ本使提案第九項ニ對スル國務長官ノ意見トシ
テ本件ニ關シ五大國間ニ一ノ条約ヲ締結スルノ必要アル
コトヲ覚書末段ニ指摘セラレタル處右ハ先づ本使提案第
一項乃至第八項ノ趣旨ニ依リ五大國間ニ一ノ条約ヲ締結
シタル上ニ依リ和蘭支那及大北会社ニ交渉スベシトノ

意ナリヤト雖シタルニ回宜く然リテ答く尤斯ノ如キ手続
上ノ問題ニ至リテハ自分ハ確定ノ意見ヲ有セバト陸岬ヤ
リ

以上質問応答後本使ハ尚篤ト熟考ヲ遂げ十一分ノ意見ヲ述
ブルコトナルベシトハ覺書ノ写ヲ讀ム故ケ斯日ノ会見ヲ終
タリ

帰館後更ニ考量ヲ加エタルニ覺書ノ辞句ハ正確ナリサヘト
コロアルセ寒際問題ニシテ何ノリバニヤ特リ重要ナル事
項ニトラバ又大体國務長官ノ意見ハ成ルク速リ「ヤハ
」問題ヲ解決セムトスルノ意誠ニ出タルモハレ體メハ
ハルニ付此際微細ナル点ニ亘リテ議論ヲ繼續スルコトナク
全然右意見ニ快諾ヲ与ヘリハ一応本問題ノ解決ニベシニ
ト最得策ナリト信ス何分ノ儀至急御回禮ヲ讀ハ
右歐州各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

(丙 圖) 八月二十日在米國總原大使兼內田外務大臣宛電報第五回 1冊
八月十九日米國國務長官ハ總原大使ハ手交セル覺書

第五回 1叶

Tentative draft submitted by Japanese Ambassador

- (c) Each country to be free to operate both ends of its cables either directly or through its nationals including corporations or associations.
 - (d) No cable censorship or supervision of operation or messages.
 - (e) Free entry and exit for persons and property.
 - (f) No taxes, port, harbor or landing charges, or exactions, either with respect to operation of cables or to property, persons or vessels.
 - (g) No discriminatory police regulations.
- Second. Radio Telegraphic Service. It is recognized that the Japanese Government should maintain wireless (radio telegraphic) service between Yap and Japan, and also that it may be impracticable to maintain more than a single wireless station upon the Island of Yap without an impairment of efficiency through mutual interference.

On the other hand, the equality of right with respect to all electrical communication should be recognized

has the following:
“It is agreed that the United States shall have free access to the Island of Yap upon the footing of entire equality with Japan or any other nation, in all that relates to the landing and operation of the existing Yap-Guam Cable or of any cable which may hereafter be laid by the United States or its nationals.”

Comments:

First. It is understood that this would involve and that the formal agreement would include.

(a) Rights of residence without restriction; and rights of acquisition and enjoyment and undisturbed possession, upon a footing of entire equality with Japan or any other nation or their respective nationals of all property and interests, both personal and real, including land, buildings, residences, offices, works and appurtenances.

(b) No permit or license to be secured for the enjoyment of these rights and privileges.

and the same right and privileges should be accorded to the United States and its nationals with respect to radio telegraphic service as with respect to cables. It would be agreeable, however, to have an agreement that so long as the Japanese Government should maintain on the Islands of Yap an adequate radio telegraphic station, cooperating effectively with the cables and with other radio stations on ships and shore, without discriminatory exactions or preferences, the exercise of the right to establish radio telegraphic stations at Yap by other Governments or nations should be suspended.

The memorandum as to the allocation of cables submitted by the Japanese Ambassador contains the following:

“9. The Allied and Associated Governments jointly to communicate with the Netherlands, China and the Great Northern Telegraph Company, in order to secure the necessary consent of each of these parties to the

terms of the present arrangement in which such parties are respectively interested.”

Comment:

There should be an appropriate Convention between the Principal Allied and Associated Powers to embody the above provisions. Such convention should also contain suitable provisions relating to administration, such as are found in Articles 3, 4 and 5 of the mandate purporting to have been granted on behalf of the Allied and Associated Powers, but to which the United States has not agreed. It should also contain provisions for extradition and the expropriation of property.

在欧各大使及在蘭公使へ転電ヤハ

Shidehara

(和訳)

八月十九日米国國務長官ヨリ幣原大使ニ手交セル覚書ノ訳文

日本大使ノ提出ニ係ル試案ニハ左ノ事項アリ

「現在ノ「ヤップ」—「グアム」線又ハ将来米国若ハ其国民ニ依リ架設セラルルコトアルキ総テノ海底電線ノ陸揚

及運用ニ関スル一切ノ事項ニ付米国ハ日本若ハ其他ノ諸国ト全然平等ノ基礎ニ於テ自由ニ「ヤップ」島ニ出入シ得ベキコトヲ約定ス」

意見

第一、右ノ試案及正式協定ハ左記ノ諸点ヲ包含スヘキモノトベ

(イ) 何等ノ制限ナク居住スル権利及日本若ハ其他ノ諸国又ハ其國民ト全然平等ノ基礎ニ於テ一切ノ動産、不動

産並其果実ヲ取得シ、使用シ若ハ平穏ニ占有シ得ル権利、但シ右動産、不動産中ニハ土地、建物、住宅、事務所、工場及其備付品等ヲ含ムモノトベ

(ロ) 是等権利及特權ヲ享有スルニハ特ニ許可若ハ認可ヲ必要トセサルコト

(ハ) 各国ハ直接ニ又ハ其國民(会社若ハ組合ヲ含ム)ニ依リ其所有海底電線ノ両端ヲ自由ニ運用シ得可キコト

(イ) 海底電信ノ検閲又ハ運用若ハ通信ニ対スル監督ヲ為ササルコト

(ホ) 人及財産出入ノ自由

(エ) 海底電線ノ運用ニ関シ並財産、人若ハ船舶ニ関シ何

等ノ租税港湾若ハ上陸ニ関スル課金又ハ取立金ヲ徵収

セサルコト

(イ) 警察法規ハ差別的ナラサルコト

第二、無線電信事業

日本政府ハ「ヤップ」日本間ニ無線電信事業ヲ維持スヘキ

コト並「ヤップ」島ニ一個以上ノ無線電信局ヲ維持スルハ相互ノ妨害ニ依リ通信ノ効益ヲ減殺スルコトナクシテ实行シ得サルヘキコトヲ茲ニ認ムモノトス

他方ニ於テ電氣ニ依ル總テノ通信ニ關シ平等ノ権利承認セラルベク且無線電信事業ニ関シ海底電線ニ関スルト同様ノ権利及特權ヲ米国及其國民ニ与フヘキモノトス

然レトモ日本政府カ「ヤップ」島ニ於テ適當ナル無線電信局ヲ維持シ何等差別的取立金若ハ優先権ヲ認ムルコトナ

ク海底電線並船舶及海岸ニ在ル他ノ無線電信局ト有効ニ協同運用スル限りハ他国政府若ハ國民ノ「ヤップ」島ニ於ケ

ル無線電信局設立権ノ行使ヲ停止スヘシトノ約定ヲナスモ可ナリ

日本大使ノ提出ニ係ル電線割当ニ関スル覚書中ニハ左ノ事項アリ

「陸、海、參、軍、通ヘ八月二十七日

在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外調、平田、伊東、大養、後藤、大岡諸氏ヘ八月二十一日
原委員長、加藤、山梨委員ヘ九月一日
三元老ヘ九月三日」

~~~~~

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九三

## 国際管理説自然撤回トスベキ件

第五四八号（至急）

（八月二十四日接受）

往電第五四一號ニ関シ

三七四 九月一日

在米國幣原大使宛（電報）

## ヤップ島問題解決ニ関スル日本政府ノ最終決

## 定訓令ノ件

附記一 ャップ島ニ関スル米国トノ交渉案件（条約局

意見）

二 八月二十七日外陸海通四省並參謀本部及軍令

部係官協議事項

## 貴電第五四一號ニ関シ

帝国政府ハ日米親交ヲ増進セムトスルノ誠意ニ基キ貴見ノ如ク此際速ニ本件ノ解決ヲ図ルヲ得策ト認メ大体「ヒューズ」覚書ノ趣旨ヲ容ルルト共ニ我南洋諸島委任統治ニ対スル米國ノ異議ヲ棄テシムルノ方法ヲ講スルコトニ決定セリ尚其形式及細目ニ至テハ左記ノ諸項ニ則リ彼我ノ了解ヲ明確ナラシメ置クト緊要ト存ズルニ付貴官ハ右決定ノ次第ヲ先方ニ通告スルト同時ニ成ル可ク速ニ形式及細目ニ関シ商議ヲ遂ゲラレタシ

本件ハ久シク日米間ノ懸案トナリ動モスレハ両国国交ニ累ヲ及ホスノ虞アリタル事實ニ鑑ミ右了解ニヨリ本問題ニ関スル諸般ノ争点ヲ一掃シ将来ニ何等疑義ノ余地ヲ貽ササルコトトナシタキニ付貴官ハ其ノ御含ニテ適切ナル妥結ニ達シ得ル様精々御尽力相成タシ

第一、「ヤップ」海底電線ノ分配及運用ニ關スル問題ハ先ツ五大國總体ニテ解決スヘキ筋合ノモノナルヲ以テ五大國間ニ貴電第三三九号ノ九ヶ条ニ該當スル規定ヲ内容トスル一ノ取極ヲ設クルコト

第二、「ヤップ」島ニ於ケル海底電線、無線電信其他一切ノ電氣通信ニ關シ米国又ハ米国人ニ許与スヘキ諸般ノ權利及特權（幣原案乙及「ヒュース」覚書第一点及第二点）ニ關スル規定ヲ内容トスル取極ヲ日米間ニ結フコト

第三、以上ノ取極ハ米国ニ於テ赤道以北旧独領諸島全部ニ對スル我委任統治ニ異議ナキヲ条件トスルモノナルコト

ハ米国側ノ充分了解シ居ル所ナルヘキモ「ヒュース」案ハ此点ニ付必シモ明瞭ナラサルカ如ク或ハ将来當局者更迭ノ場合ニ何等力疑義ヲ生スルコトナキヲ保シ難キニ依リ米国ニ於テ我委任統治確認ノ次第ヲ表示スル為「米

在欧各大使在蘭公使へ転電セリ

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

国ハ日本カ赤道以北旧独領諸島全部ニ對シ委任統治ヲ引受ケタル事實ヲ認ムルモ「ヤップ」島ハ國際通信上特殊ノ地位ヲ有シ米国モ亦右通信ニ關シ利害ヲ有スルノ事實ニ顧ミ日米両國ハ該島ニ於ケル電氣通信業務ニ就キ米国又ハ米国人ノ權利及特權ヲ特ニ協定スルモノナル」旨ヲ掲記スル公文書ヲ交換シ其内ニ前記第二項ノ諸規定ヲ列記スルコト最モ本件實際ノ事態ニ恰當スルモノト思考スル處若シ米國側ニ於テ右形式ニ同意シ難キ事情アルニ於テハ必シモ之ヲ固執スルノ要ナキモ前記我委任統治ニ對スル米國側確認ノ点ハ是非共然ルヘキ方法ニ依リ明白ナラシムル様御措置アリタシ

第四、「ヒュース」覚書ニ拠レハ米国側ニ於テハ前記第一項及第二項ノ諸点ヲ一括シテ五大國間ノ條約トナシ且其内ニ南洋諸島委任統治条項類似ノ規定ヲモ含マシメムトスルモノナルヤニ察セラル處若シ先方ノ趣旨ニシテ委任統治条項ヲ五大國間ノ條約ヲ以テ再ヒ規定シ又ハ其原則ニ変更ヲ加ヘントスルニアラハ是等条項ハ日英仏伊四國及聯盟理事会ノ關スル限り確定ノモノナリトノ我從來ノ主張ニ悖ルコトトナルノミナラス既ニ該条項ヲ枢密院

## 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

三九二

ニ報告ノ上公布シタル行懸上既定ノ我統治条項其物ニ手

ヲ付クルコトハ我方ノ立場トシテ同意ヲ困難トスル事情

アルヲ以テ斯ル形式ハ避クルコト致度シ前項ノ如ク米

国側ニ於テ南洋諸島全部ニ対スル我委任統治ノ事実ヲ認

ムルトキハ統治条項ハ当然「ヤップ」島ニモ適用セラル

ヘキモノナルヲ以テ同島ニ関シ更メテ委任統治条項類似

ノ規定ヲ設クルノ必要ナキ様思ハルモA及B式委任統

治ニ関スル本年八月ノ米国覚書ニ徵スルニ米国側ニテハ

或ハ領土問題ハ憲法上大統領ノ権限ノミニ属セストナシ

C式委任統治条項ノ承認モ亦條約ノ形式ニ依リ上院ノ批

准ヲ要ストノ見解ヲ有スルヤモ計リ難キ處其辺ニ関スル

貴官ノ御意見電報アリタシ

第五、(1)「ヒュース」覚書第一点a乃至gノ諸項ハ「ヤッ

プ」島ニ於ケル電気通信業務ニ関スルモノニ限リタン

(2)同覚書末段犯人引渡ニ関シテハ若シ現存日米犯罪人引

渡条約ヲ同島ニ適用スルノ意味ナリトセハ我方ニ於テ

勿論異存ナキモ之ニ反シ同島ニ於テ犯罪ヲ行ヘル米国

人ヲ米国ニ引渡シ同國自ラ之ヲ処罰スルノ意味ナリト

セハ同島ニ対スル我法権ノ制限トナルヘキヲ以テ同意

シ難シ

(b)又公用徵收ニ関スル規定トハ帝国官憲ニ於テ通信業務

ノ目的ニ関スル米国若ハ米国人ノ財産ニ対シ公用徵收ヲ

ニ於テ一般ニ米国若ハ米国人ノ財産ニ対シ公用徵收ヲ

行ヒ得サルモノトセハ承諾シ難ク若又米国側ニ於テ通

信業務ノ目的ノ為ニ財産ノ公用徵收ヲ行ハントスルモ

ノトセハ右ハ寧ロ我方ニ於テ米国側ノ為ニ必要ナル財

産ノ徵收ヲナスノ方法ヲ設クルコトトシタシ

(c)右(2)(b)ノ二項ハ實際上極テ稀ニ起ル問題ナルヘキモ理

論上帝國主權ノ制限トナル点ニ於テ尠カラス我國民ノ

感情ヲ刺戟スヘシト思ハルニ依リ此種ノ事項ニ就テ

ハ實際問題ニ対シ我方ニ於テ充分便益ヲ与フルコトト

ナシ取極ノ文書ニハ之ヲ記載セサルコトトシ度シ

在欧各大使及在蘭公使ニ参考トシテ転電アリタシ

(欄外註記)  
〔大正十年九月一日閣議及外交調査会ニ提出、同日閣議及外調決定〕

(附記一)  
ヤップ島ニ関スル米国トノ交渉案件(外務省條約局意見)

(一記註外欄)

ヤップ島ニ関スル米国トノ交渉案件

一、幣原案(同大使來電第三三八号第三三九号六月二十一日接受)ヲ基礎トシテ國務卿「ヒュース」ノ覚書ノ修正

ヲ加ヘテ協議ヲ進ムルコトニ異存ナシ

二、米國覚書第一点米國人民ノ為居住往来ノ自由及課稅ノ免除ニ付保障ヲ与フルハ海底電線業務ノ目的ニ關係アル

場合ノミニ限リタシ但シ米國カ「ヤップ」島ニ関シ覚書ノ如キ均等待遇ヲ主張スルニ於テハ同島カ現在ノ狀態ニ於テハ經濟上ノ価値少ナク外国人ノ往来住居モ頻繁ナラサルヘキヲ以テ譲歩シテ可ナラン

三、無線電信ニ關スル米國ノ要求カ今回ノ申出ノ如キ条件附ノモノナラハ之ニ同意シテ可ナラシカ

四、海底電線ノ处分及運用ニ關スル「條約」ハ先ツ日米英仏伊ノ五國間ニ之ヲ締結シタル上之ニ依リ和蘭支那及大北会社ニ交渉スルコト致タシ

五、前項ノ形式及手続ヲ以テスルニ於テハ米國覚書ニ所謂Such Conventionヲ締結シ其ノ中ニ於テ南洋ニ關スル我委任統治条項第三条(奴隸売買禁止、強制労働ノ制限、大酒ノ禁止、武器取締)第四条(陸海軍根拠地ヲ作

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

(四記註外欄)

ル禁止)第五条(宣教師ノ往来居住)ニ付協定スヘシト

云フハ第三条第四条ニ付テハ單ニ米國ノ承認ヲ要スト云

フニアルカ又ハ之ヲ変更修正スル意味ナリカ前者ノ場合

ナラハ差支ナカラシモ後者ノ場合ナラバ米國ノ所存ヲ明

カニスヘキ必要アルヘシ尚犯罪人引渡及公用徵收ニ関スル規定ヲ設クルモ差支ナカラシ

但シ米國ハA式及B式ニ關スル覚書中宣教師ノ事業ハ單ニ教務ニ關スルモノノミナラス教育慈善ニ關スルモノヲ

モ保護スヘキ旨要求シ居ルニ付「ヤップ」島ニ關シテモ

或ハ同様ノコトヲ要求スルコトアルヘシ

右条約ノ結果ハ理事会ノ決定シタル委任統治条項ト日本英仏伊ノ條約カ連立スル姿トナルモ右ハ日本カ委任統治条項ニ依リ有スル権限ノ施行ニ付更ニ実行上ノ細目ヲ協定シタルモノト説明スルヲ得ヘシ

六、米國カ此ノ際幣原案ヲ大体承認シ日本ノ有スル委任統治条項第一条第二条ヲ争ハス且「ヤップ」島問題トシテ之ヲ解決セントスル意向ヲ示シ来リタルハ本件ニ關スル從来ノ紛議ヲ一掃スル好機會ナリト言フヘク之ヲ機トシテ米國ノ提議ニ応シ之ヲ以テ「ヤップ」島ニ關スル「ス

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

三九四

「テーラス」ノ問題及海底電線ノ運用及処分問題ヲ一括シ  
テ解決済ミトスルコト致シタシ

(欄外註記)

一 「均等待遇問題ハ日本トシテハ反対ニアラス唯一般ニC式

統治ニ亘ル問題トシテ残シ置キタキモ米国ガ万一強テ主張

スルトキハ「ヤップ」島ニ閔スル限り承諾シテ可ナラン」

二 「犯人引渡トハ意味不明ナルモ多分電信業務ニ関係セル  
者カ罪ヲ犯シタル場合ニ日本ニテ裁判セス直ニ米国ニ引渡

スノ意味ニアラザルカ」

三 「犯人引渡及公用徵收モ單ニ電信業務ニ関係アル場合ニ  
限ルモノナルヘシ此範囲ニテ応諾シテ可ナルヘシ」

四 尚所謂「条約」ノ形式ニ付テハ米国ノ所見ヲ質シタル上ニ  
テ審議スルコトトシ大体幣原案及米国ノ斯意見ニ依リ解決

スルコトニ承諾シ差支ナシト認ム

(附記二)

八月二十七日外務陸軍海軍通信四省並參謀本部及軍令部係官協  
議事項

「ヤップ」海底電線処分問題ニ閔スル協議

大正十年八月二十七日

通信省 吉野外信課長

海軍省 原(敢次郎) 大佐

藤田(尚徳) 大佐

ハ意見アリ(後出)

一、「旧独領海底電線ノ分配、運用、賠償ニ閔スル諸点ハ  
五大國間ノ取極トナスコト」

原大佐ハ和蘭ハ「ヤップ」「メナド」以外ノ線ニ對  
シテモ何等カ要求スル所アルヤモ知レサル故先ツ以  
テ和蘭トノ了解ヲ求ムル必要ナキカト述ヘタルモ先  
ツ五大國間ニ協定ヲ遂ケタル後五大國ハ和蘭ト交渉  
ヲ開始スル方可ナルヘシト云フニ衆議一致ス

河村(儀一郎) 中佐  
井関(隆昌) 砲兵大尉

陸軍省 安井(栄三郎) 工兵大尉

外務省 捏内欧米第二課長 天羽事務官

参謀本部星川(久七) 工兵少佐

一、「ヤップ」海底電線問題ニ閔シテハ大体「ヒュース」  
提案ノ趣旨ヲ認ムルモ之ニ閔スル細目及取極ノ形式等ハ  
後ニ審議決定スルコトナシ同時ニ右ニ関連シテ米国ヲ  
シテ日本ノ委任統治ヲ認メシムル方法ヲ講スルコト」

透、海、軍、陸、參、大体異論ナシ但其細目ニ就テ  
ハ意見アリ(後出)

三、「ヤップ」島ニ於ケル海底電線ノ陸揚及運用ノ自由

其他「ヒュース」案ニ掲ケタル電氣通信ニ閔スル諸項  
(無線電信ノ件ヲモ含ム)ハ日米間ノ取極トナスコト

若シ此点ニ就テ米国側ニ於テ強テ五大國間ノ取極トナサ  
ンコトヲ主張スル時ハ請訓ヲ俟テ更ニ審議スルコト」

(一)原大佐ヨリ「ヒュース」覚書第一点(b)ニ依リテ米国カ  
許可無クシテ勝手ニ島内ノ土地、海岸、港湾等ヲ使用

スルカ如キ結果ヲ生ストセハ行政上甚シク支障ヲ來ス  
虞アリト思考スル旨ヲ述ヘタルカ(b)ノ意味ハ(a)ニ列記

セル權利ノ享有ニハ特ニ許可認可ヲ要セスト云フニア  
ルヘントノ意見ニ一致ス

(二)吉野外信課長ヨリ「米国カ「ヤップ」島ニ無線電信問  
題ヲ持出セシハ「グアム」ニハ百「キロ」ノ無線電信設

備アルヲ以テ若シ米国ニシテ「ヤップ」ニ於テ同様ノ  
設備ヲ要求ストセハ創設費約四百万円以上又維持費ニ  
モ相当ノ金額ヲ必要トシ到底通信省トシテハ引受ケ得  
ス反之若シ十「キロ」乃至二十「キロ」位ノモノナラハ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

容易ニ引受ケ得ヘシ故ニ所謂「適當ナル無線電信局」  
ノ意義ヲ確ムル様幣原大使ニ訓令セラレタントノ意見  
ヲ述フニ之対シ原大佐ハ米国側ニ質問スルヨリモ先ツ  
日本ニ於テ十「キロ」ナリ二十「キロ」ナリ計画ヲナ  
シ米国ヲシテ之ヲ承認セシムル方可ナリト信スト述フ  
(因ニ「ヤップ」島ニハ現在六「キロ」ノ設備アリ其  
通信距離屋間四五百哩ニ過キサルモ将来ハ三十「キ  
ロ」ノ最新式設備ヲナシ日本内地ト直接通信ヲナシ得  
ルコトトスル計画アリ又「バラオ」島ニハ百「キロ」  
ノ無線電信局建設中ナリ)

(三)通信省意見「ヤップ」ノ無線電信ハ日本ニ對スルノ  
ミナラス各方面ニ向テ通信スルノ自由ヲ有スヘキハ勿  
論ナルカ此点モ米国ニ於テ異議ナキ様了解ヲ得置クコ  
トモ必要ト信ス」

(四)星川少佐ハ「曩ニ我最後ノ讓歩案ヲ決定セシ時參謀本  
部ノ少數意見ハ「ヤップ」島ニ於テ電信局ノ運用權ヲ  
米国ニ認ムルコトハ仮令自發的声明ニセヨ絶対ニ反対  
ニシテ右運用權ヲ認ムルヨリモ寧ロ「ヤップ」ノ委任  
統治ヲ賭シテモ可ナリ五大國間ニ於テ堂々争フ可シト

### 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七四

云フニ在リタリ參謀本部ノ意見ニ非ス单ニ私見ニ過キ  
サルモ自分トシテハ無線電信ニ関シテハ之ヲ除外セん  
コトヲ希望ス」ト述フ之ニ対シ掘内課長ハ無線電信ニ

関スル米国ノ要求ハ名ヲ得テ実ヲ棄ツルモノナルカ今  
若シ之ヲ除外スレハ日米ノ了解遂ニ成立タス結局六月

十八日ノ状態ニ立戻ルコトトナリ勢ヒ太平洋會議ノ問  
題トナルヘキカ會議ニ懸レハ日米間ノ問題ヲ五大國ノ

問題トナス結果ヲ生スルノミナラス會議ニ於テハ日本  
カ本問題ニ関シテ孤立トナルヘキハ明カナルヲ以テ寧

ロ此際本件ノ解決ニ依リ太平洋會議前ニ日米間ノ霧囲  
氣ヲ良好ナラシムルヲ可トセサルヤト述

四、「米国ヲシテ日本ノ関スルC式委任統治条項ヲ承認セ  
シムルコト

委任統治条項第三条乃至第五条ニ関シ米国ニ於テ修正意  
見アル場合ニハ委任統治条項ノ趣旨ニ反セサル限り之ヲ

承認シ差支ナキコト  
本件ハ日米間ノ取極トナスコト」

委任統治ノ件並(四)ノ条項ヲ日米間ノ協定ト為スカ  
又ハ五大國間ノ協定トナスカニ就キテハ外務省ニ一

三九六

任ス又其形式ニ就テモ外務省ニ一任ス

結局(一)本協議原案ヲ基礎トシテ幣原大使ニ対スル訓令案ヲ

起草スルコト  
(二)出来得ル限リ早ク閣議ニ提出スルコト

(三)成ルヘク閣議案ヲ來週月曜迄ニ関係者ニ送附スルコ  
トニ決定シタリ

#### (附記三)

ヤップ島問題協議案ニ関スル參謀本部意見

八月二十九日

參謀本部

ヤップ島問題ニ関スル協議案ニ就イテノ意見

「ヒューズ」ノ修正意見ヲ認ムルハ不可ナリ依テ更ニ折衝  
ヲ重ネ已ムヲ得サレハ五大國會議ニ於テ本問題ヲ議スルヲ

可トス

#### 理由

一、「ヤップ」島ニ対スル米国ノ要求ハ益々峻烈ニシテ殆  
ント底止スル所ナク新ニ電氣的通信一切ノ開放並ニ居住

權ニ関シ治外法權ニ類スル要求ヲ加ヘタリ今帝国ニシテ  
之ヲ認容センカ委任統治ハ是名ノミニシテ実ハ徒ラニ警

白ニシ置カレタシ

三七五 九月一日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛 (電報)

#### ヤップ島問題ニ関スル我最終決定ノ訓令ニ付

#### 追訓ノ件

第四〇一号

往電第四〇〇号ニ関シ貴電第五四二号「ヒューズ」覚書第

二点冒頭「日本ハヤップト日本間ニ無線電信事務ヲ維持ス  
ベキ」云々トアルハ勿論ヤップニ於ケル我無線電信局ノ通  
信ヲヤップ日本間ニ限ルノ意味ニ非ザルベキモ此点ニ就キ  
将来万ノ疑惑ヲ避クル為「ヤップト日本間ニ」トアルヲ  
「ヤップニ於テ」ト改ムル等然ルヘキ方法ニ依リ右無線電  
信局ハ何レノ方向ニ対シテモ通信シ得ルモノナルコトヲ明  
白ニシ置カレタシ

三、米独講和條約ノ内容ニ依リ判断スレハ米国ハ「ヤッ  
プ」島問題ニ関シ機會均等ノ権利ヲ確保スル迄ハ本問題  
ヲ飽迄力争スルノ底意アルモノノ如シ果シテ然ラハ帝国  
カ今茲ニ不利ヲ忍ヒ太平洋會議前ニ本問題ヲ解決セント  
焦慮スルモ米国側カ誠意之ニ応スルヤ疑ハシク徒ニ我讓  
歩ヲ告白スルニ止マランノミ

三七六 九月十日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

#### ヤップ島問題ニ関シ國務長官ト意見交換ノ件

別電 同日在米國幣原大使堀内田外務大臣死電報第五  
九四号

九月八日ヤップ島問題ニ関シ米國國務長官ニ手  
交セル覚書

第五九三号 (九月十一日接受)

九月八日國務長官ト會見ノ際ニハ「ヤップ」問題ニ関シ別電第五九四号ノ覺書ヲ提出シ左ノ通り意見ヲ交換セリ

一、覺書第二項ニ就キ本使ハ一方ニ於テ米國カ昨年十二月十七日聯盟理事会ノ決議セル委任統治國ノ指定及統治條項ニ依リ拘束セラレサルコトヲ主張スル理由ハ諒解シタルモ他ノ一方ニ於テ日英仏伊四國代表ハ右決議ニ参加シ一致ノ承認ヲ与ヘタルモノナルカ故ニ四國ノ閑スル限りハ既ニ確定議ニシテ今更之ヲ再議スヘキ筋合ニ非ス此ノ矛盾スル兩方面ヲ調和セムカ為メニハ結局理事会ニ參加セサル米國ト理事会ノ決議ニ依リ委任統治國ト成リタル日本トノ間ニ一ノ条約又ハ取極ヲ設ケ米國カ「ヤップ」ニ於テ電氣通信業務ノ目的ニ關シ享有スヘキ權利特權及免除ヲ規定スルノ外無シ別ニ五大國間ニ本件ヲ協定セムトスルハ理事会ノ決議ヲ再議スルコトト成リ又々容易ナラサル難問題ヲ生スルノミナラス米國トシテ実益無キコトト思考スル旨ヲ説明シタルニ「ヒューズ」ハ尤モナリ尚一応熟考ノ上確答スヘシト述ヘタリ

二、覺書第三項ニ關シ本使ハ日本カ前記米國ノ權利特權及

アル為メ若シ自国内ニ於テ内外人間又ハ外国人間ニ差別待遇ヲ与フルノ法規アルトキハ其ノ法規ハ委任統治地域ニモ適用セラルコトナル處赤道以北ノ旧獨領諸島ハ商工業上重要ノ価値アルモノトモ思ハレサルニ付米國ニ於テ實際上利害關係薄キモ赤道以南ノ旧獨領諸島ハ地域モ広ク又商工業上ノ価値少ナカラサルニ顧ミ其ノ受任國ニ對シテハ米國ハ飽ク迄均等待遇主義ヲ主張セザルヲ得ズ（同官ハ之ヲ主張スルハ日本ニ取りテモ極メテ有益ナルベシト附言セリ）從テ主義ノ問題トシテハ前記赤道以北ニ付テモ同様ノ主張ヲ一貫セザルヲ得ザルコト

以上ノ諸点ニ關シ委任統治條項中若干字句ノ補修ヲ希望スル旨ヲ述ベタリ本使ハ斯ノ如キ細目ニ至リテハ之ヲ規定スル形式ノ問題ハ別トシテ實質上日本政府ニ異議アリトモ思ハレザルモ今少シク米國政府ノ意見ヲ書面ニ認メ送付セラレタシト述ベタルニ國務長官ハ自分モ其ノ積リニテ目下覺書起草中ナリト云ヘリ次ニ本使ハ右諸点ガ満足ニ解決セラル時ハ日本ノ委任統治ニ何等異議ナキカト念ヲ押シタルニ「ヒューズ」ハ異議ナシト答ヘタリ

三、本使ハ米國政府ニ於テハ前記第一項及第二項ノ規定ガ

免除ヲ承認スルコトトナラハ米國ニ於テ「ヤップ」其他赤

道以北ノ旧獨領諸島ニ對スル日本ノ委任統治ニ異議無キコトト諒解シ差支無キヤト問ヒタルニ「ヒューズ」ハ右委任

統治條項ニ關シ尚別ニ修正ヲ希望スル若干事項アリトテ

(イ)該條項第五条中「聯盟國ノ國民タル一切ノ宣教師」ニ関スル保障規定ハ聯盟ニ加入セサル米國ノ宣教師ニハ適用セラレサルコトナルヘキニ付（國務長官ハ此ノ機會ニ於テ「米國ハ他日聯盟ニ加入スルヤモ知レス其ノ場合ニハ問題起ラサルモ」云々ノ語ヲ用ヒタリ宛モ同官自身ハ米國カラ日本聯盟ニ加入スルコトアルヘキヲ予想スルモノト解セラレルモ其ノ語氣ハ本使ノ注意ヲ引キタリ）米國ノ宣教師ヲモ其ノ中ニ包含スルノ趣旨ヲ書キ表ハスノ必要アリ

(ロ)同条ニ「宣教師ガ其ノ職務ヲ行フ為メ」云々ノ語氣アル處米國ノ宣教師ハ單ニ宗教上ノ職務ノ外兼ネテ教育事業ニモ從事スルヲ常トスルニ付「其ノ職務」トハ單ニ宗教上ノ職務ニ限ラサルノ趣旨ヲ明カナラシムルコト及

(ハ)受任國ハ當該地域ニ對シ自國ノ構成部分トシテ施政及立法ノ全權ヲ有シ自國ノ法規ヲ適用スルコトヲ得ル旨ノ規定

將又本使ハ本件日米條約ニハ聯盟理事会決議ノ委任統治條項全文ヲ其ノ儘理理事会ノ決議トシテ援用シ之ニ對シ米國ハ左記各項ノ了解ヲ以テ同意スト規定シ次ニ其ノ了解ノ各項ヲ列記スルノ方法ヲ採リテハ如何ト述ベタルニ「ヒューズ」ハ即座ノ意見トシテハ之ニ異議ナキモ尚熟考スペシト云ヘリ

四、本使ハ覺書第四項ノ趣旨ヲ説明シ旧獨逸海底電線ノ処分ニ關シテハ「ヤップ」ノ委任統治ニ關聯スル前記各項ノ問題ト趣ヲ異ニシ五大國間協同ノ協定ヲ要スルコトヲ述べタルニ「ヒューズ」ハ能ク了解セリト答ヘタリ尚本使ハ此ノ機會ニ於テ大西洋旧獨線処分ニ付米英仏伊間交渉ノ経過

ヲ問ヒタルニ「ヒョーベ」<sup>1</sup> ト本件ハ「アーナチャード」<sup>2</sup> ト管スル所ニシテ自分ハ其ノ近状ヲ詳カニセサルモ何等交渉ノ進捗セルヲ聞カズト云ヘリ

五、覚書第五項ニ関シ本使ハ日米間犯人引渡条約ハ日本ノ委任統治地域ニモ適用セラルヘキモノナルガ故ニ今回新規約又ハ取極中別ニ犯罪人引渡ノ規定ヲ設クルノ必要ナカルベシト説キタル處「ヒョーベ」<sup>3</sup> ト日本間引渡條約ガ右地域ニ適用セラルルヤ否ヤハ一ノ問題ニシテ少ナクトモ其ノ適用アルコトヲ明確ニ規定スル必要アリト云ヘルニ付本使ハ何故ニ犯罪人引渡條約ニミ重キヲ置カルルヤ寧ロ一切ノ日米條約ハ日本ノ委任統治地域ニ適用セラルルコトノ概括的規定ヲ設クルコト適當ナラザルヤト述べタルニ國務長官ハ至極尤モナリト思考スルモ更ニ考量スベシト答ヘタリ

六、本使ハ公用徵収ニ關スル米國提議ノ趣旨ヲ問ヒタルニ「ヒョーベ」<sup>4</sup> ト本使覚書第六項末段ニ掲ゲタル通リ電氣通信業務施行ノ為土地ヲ要スル場合ニ土人ニ於テ土地ヲ売却スルヲ肯ゼザルコトアルベク日本官憲ニ於テ好意的斡旋ノ労ヲ執ラルルモ條約又ハ法律ノ効力ニ依ルニ非レバ所有者ノ意見ニ反シ用地ヲ買取スルコトヲ得サルベシト説明セリ

在歐各大使在蘭公使へ転電セリ

(別 稿)

九月十日 在米國整原大使發内田外務大臣宛電報第五九四号  
九月八日 ヤップ島問題ニ關シ米國國務長官ニ手交セル覚書

第五九四号

Memorandum

#### 1. On the subject of the rights, privileges, and ex-

emptions to be enjoyed by the United States or its nationals in the Island of Yap, the Japanese Government are happy to find that the comments made by the Secretary of State in his memorandum of August 19, under the first heading from (a) to (g) inclusive, and the second heading relative to radio-telegraphic service, are substantially acceptable to Japan, it being understood that such rights, privileges, and exemptions therein indicated are intended to the service of electrical communication in the Island.

2. As a due and practical course of procedure to be followed in the actual situation for an early adjustment of this phase of the problem, it is submitted that a convention or agreement be concluded between Japan and the United States; providing for the right of the United States to have free access to the Island of Yap for purposes of electrical communication on the line suggested in the memorandum of the Japanese Ambassador of June 18, and assuring further the rights,

privileges, and exemptions bearing on the same subject as indicated in the comments under the first and second headings of the memorandum of the Secretary of State of August 19.

3. The Japanese Government proceed on the assumption that upon these rights of the United States being recognized by Japan, there will be no objection on the part of the American Government on the assignment to Japan of the mandate for the Island of Yap or for any of the former German possessions in the Pacific lying north of the equator. It is the desire of the Japanese Government that this understanding be recorded either in the proposed convention or agreement to be concluded, or in supplementary notes to be exchanged between the two Governments.

4. With regard to arrangements for the disposition of the former German cables in the Pacific, it is well understood that such arrangements can not, in the nature of things, take effect without common accord of

本使ハ公用徵収ト曰くバ一国が其國家ノ公共ノ目的ニ徵収スル事ヲ意味シ他國ノ公共ノ目的ニ徵収スルハ我法律ノ規定ニ反スルモノト解セラルルヤモ知ルベカラズ要スルニ實際上必要少クシテ且法律上ノ難問題ヲ包含スル公用徵収ノ如キハ條約又ハ取極中ニ規定ヲ避ケルコトヲ希望スル旨ヲ述ベタルモ「ヒョーベ」<sup>5</sup> ト日本政府ガ米國ノ要望ヲ容レ電氣通信業務ニ必要ナル土地ヲ米國ニ提供スルニ尽力スベキコトヲ明言セラレ此点ハ両國政府間ニ大体ノ目的ヲニスルモノト認メラルハ自分ノ満足スルトロナルモ何等力條約上ノ保障ナキ時ハ實際上困難ヲ生ズベキヲ虞ルト云ヒ議合セズ何レニスルモ重要問題ニ非ナルカ故ニ決定ヲ他日ニ譲リタリ

the five Powers. The Japanese Government are therefore prepared to agree that a convention or agreement be concluded among the five Powers, embodying in substance the terms of adjustment suggested in the Memorandum of the Japanese Ambassador of June 18, (from Paragraph 1 to Paragraph 9 inclusive, of the Memorandum).

5. Reference is made in the concluding Paragraph of the Memorandum of the Secretary of State of August 19, to the need of provisions for extradition and expropriation of property. It would seem that the question of extradition will be covered by the existing extradition convention between Japan and the United States which is naturally to apply to the Island of Yap.
6. With regard to the question of expropriation, if the suggestion is intended to establish exemption, from the process of expropriation, of all American property used for purposes of electrical communication in the island, the Japanese Government will be ready to agree to

九月八日在米國幣原大使ヨリ米國國務長官ハ手交セル  
覚書

- 1、「ヤップ」島ニ於テ米國若クハ其ノ國民ノ享有スベキ  
権利特權及免除ノ問題ニ關シ日本政府ハ米國國務長官ガ  
八月十九日附覚書ニ於テ「イ」項ヨリ「エ」項ニ至ル第  
一点並ニ無線電信業務ニ關スル第二点ノトリ述バランタ  
ル意見ヲ大体ニ於テ承諾シ得キヨトヲ欣幸トス但右権  
利特權及免除ハ同島ニ於ケル電氣通信業務ノ為ニ許与セ  
ラルベキモノトベ
- 1)、本問題中此ノ点ノ迅速ナル解決ヲ計ラムガ為メ現実ノ  
事態ハ恰當スル適切且實際のナル手続トシテ六月十八日  
附日本大使覚書中ニ提示シタル基礎ニ於テ電氣通信ノ目  
的ノ為メ「ヤップ」島ニ自由ニ出入シ得キ米國ノ権利  
ヲ規定シ且八月十九日附國務長官ノ覚書中意見第一点及  
第一点ニ於テ表示セラレタルト同一ノ問題ニ關スル権利  
特權及免除ヲ保障スル一ノ條約又ハ取極ヲ日米間ニ締結  
ヤムコトヲ提議ベ
- 1)、日本政府ハ米國ガ是等諸権利ヲ日本ニ依リ承認セラル  
ル時、「ヤップ」島若ハ赤道以北ニ在ル太平洋旧獨領諸  
島ノ地位及旧獨逸海底電線處分問題一件 四四九

such an exemption. Again, if it is contemplated that the Government or telegraph companies of the United States, in establishing their station of electrical communication on the island, may find it necessary to resort to expropriation proceedings in order to procure land or other property required for such purposes, the Japanese Government will be willing to give an assurance that they will offer every possible facility and cooperation in placing the needed property at the disposal of the United States. In any case, neither the question of extradition or that of expropriation is likely to give rise to actual difficulties, and the Japanese Government would prefer omission in the proposed convention or agreement, of provisions for these matters which are apparently of little practical importance, and which call for considerations of involved legal technicality.

在歐各大使及在蘭公使ク監視セラ  
(本件)

Shidehara

島ノ何ニリ対シテヤ委任統治ヲ日本ニ附与スルコトニ異  
議ナカルベシトノ前提ノ下ニ本商議ヲ進ムル次第ニシテ  
日本政府ハ日米兩国政府間ニ締結セラル可キ前記ノ條約  
若ハ取極又ハ両国政府ノ間に交換セラルヘキ追加文書中  
ニ於テ前記ノ諒解ヲ明記セラルトヲ希望ス

四、太平洋ニ於ケル旧獨領海底電線ノ処分ニ關スル取極ニ  
關シテハ右取極ハ其性質上五大國全體ノ一致ヲ得ルニ非  
ザレバ効力ヲ生セサルコトハ勿論ナルヘキカ故ニ日本政  
府ハ六月十八日附日本大使ノ覚書中ニ提示セラル解決条件  
(同覚書第一項乃至第九項) ノ内容トスル一ツノ条約若  
ハ取極ヲ五大國間ニ締結ベルコトヲ承諾スル意向ナリ

五、八月十九日附國務長官覚書末段中ニハ犯罪人引渡及財  
産ノ公用徵收ニ關スル条項ノ必要ニ言及シアル處犯罪人  
引渡ノ問題ニ對シテハ當然「ヤップ」島ニモ適用セラル  
くキ現存日米犯罪人引渡条約ヲ以テ充分尽サルベシ

六、公用徵收問題ニ關シテハ若シ米國ノ提案ニシテ同島ニ  
於ケル電氣通信ノ目的ノ為ニ使用セラルル凡テノ米國財  
産ヲ公用徵收ノ執行ヨリ免除セラルト意味スルモノト  
セハ日本政府ハ右ノ如キ免除ニ同意ラ表スルニ躊躇セス

## 貴電第五九三号ニ関シ

若シ亦前記提案ニシテ米国政府若ハ米国電信会社カ同島ニ於テ電気通信局ヲ設置スルニ当リ其目的ノ為ニ必要ナル土地若ハ其他ノ財産ヲ獲得センカ為公用徵収ノ手続ニ訴フルヲ必要トスルコトアルヘキヲ顧慮シタルモノトセハ日本政府ハ必要ナル財産ヲ米国ノ自由ニ委スル為出来得ル限り便益並協力ヲ与フヘキコトヲ欣然保障スヘシ何レノ途犯罪人引渡又ハ公用徵収ノ問題ハ共ニ實際上ノ困難ヲ生スヘシトモ思ハレサルニ付日本政府ハ前記条約若

ハ取極中ニハ斯ノ如ク殆ト實際上重要ナラサル觀アリテ而カモ法律上複雜ナル専門的考慮ヲ必要トスル事項ニ関スル条項ハ之ヲ削除ゼンコトヲ欲ス

三七七 九月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛（電報）

## ヤップ島問題ノ終局的解決ヲ図リタキニ付米

## 國側トノ交渉ニ當リ含ミ置クベキ諸点訓令ノ

件

附 記 ャップ島交渉ニ關スル幣原大使來電ニ對スル意  
見（條約局）

第四三二号

本問題ニ關シ大体「ヒュース」氏指摘ノ諸点ニ付満足ナル了解ニ達スルニ於テハ米国側ニ於テ「ヤップ」島ヲ含ム赤道以北ノ旧独領諸島全部ニ對スル帝國ノ委任統治ニ異議ナキコト明白トナリタルニ付テハ此ノ際速ニ其ノ形式及細目ニ付協定ヲ遂ケ以テ本件ノ終局的解決ヲ図リタキ意向ナル處右ニ闕スル米國側トノ交渉ニ當リテハ更ニ左記ノ諸点御含ノ上精々御尽力相成度シ

一、貴電第二項①及②宣教師ニ闕スル米國側ノ希望ニ對シテハ聯盟國ノ宣教師ニ對スル保障ヲ米國宣教師ニ及ホスコト及「其ノ保障」ナル文句ヲ宗教上ノミニ止メス学校教育ニ從事スルヲ許スコトニ解釈ヲ定ムルコトニ異議ナシ但シ之カ為ニハ受任國ハA式及B式委任統治条項案ニ關スル米國覺書中ニ引用セル東亞弗利加統治条項案第八条第三項ニ規定スルカ如ク公安及善政ノ維持ノ為必要ナル監督ヲ行フノ権アルコトヲ同時ニ右解釈中ニ明定シ置クコトヲ要ス

二、同第二項⑤赤道以北ノ旧独領諸島ニ對シ通商上ノ機會均等主義ヲ認ムヘシトノ点ハ主義ニ於テ帝國ノ異議ナキ

所ナルモ右ハ他ノC式委任統治國カ各其ノ受任地域ニ對シ之ヲ認ムルコトヲ条件トスルコトニ致シタク尚右C式委任統治地域ニ對スル機會均等主義適用ノ問題ニ付テハ帝國政府ニ於テ久シク英國政府ト論議ヲ重ね結局客年十二月十七日聯盟理事会ニ於ケル委任統治条項決定ノ際ノ帝國政府ノ宣言ヲ以テ一應妥協点ヲ見出シタル行懸ニ照シ此ノ際帝國ヨリ進ソテ右ノ妥協ヲ破ルハ面白カラサル次第ニ付此ノ点ハ先ツ米國側ヲシテ英國側ト協議セシムル様致度シ

三、貴電第三項形式ノ点ニ闕シテハ公文交換又ハ取極ノ形式ヲ以テスルコト帝國ノ立場トシテ最モ望マシキ所ナルモ米國側ニ於テ其ノ法制上絶対ニ條約ノ形式ニ依ルコト

差支ナシ但シ米國ハ「ヴェルサイユ」條約及國際聯盟ノ当事國ニ非サルヲ以テ聯盟理事会ノ委任統治条項ニ闕スル決議トハ全然別箇ニ存在スルモノトシテ右決議ニ抵触セザル範囲内ニ於テ同様ノ事項ニ付日米間ニ條約ヲ締結スルノ形ト為シタキ意向ニ付貴見ノ如ク統治条項全体ヲ其ノ儘理事會ノ決議トシテ援用スル場合ニハ成ルヘク統定

治条項其ノモノニ付重テ條約ヲ締結スルカ如キ外觀ヲ避クルカ為統治条項ノ全文ヲ掲ケタル上右条項ノ適用ニ關シ米國又ハ米国人ノ享有スペキ権利及特權ニ付日米間ニ左記各項ノ了解ヲ遂クルモノナル旨ヲ規定シ次ニ其ノ了解ノ各項ヲ列記スルノ方法ヲ採ルコト適當ナリト思考ス

四、貴電第五項犯罪人引渡ノ点ニ闕シテハ日米犯罪人引渡條約ヲ帝國ノ受任地域ニ適用スルコトヲ明確ニ規定スルハ帝國ニ於テ毫モ支障ナシ但シ一切ノ日米條約ハ日本ノ受任地域ニ適用セラルヘシトノ概略的規定ヲ設クルコトハ島民ノ狀態大ニ内地ト異ル關係モアルニ依リ各條約ニ付其利害ヲ攻究シタル上右地域ニ對スル適用ノ有無ヲ決スルコト致度シ

五、貴電第六項公用徵収ノ点ニ闕シテハ貴見ノ如ク公用徵収ノ權ヲ米國ニ認ムルノ條項ヲ條約又ハ取極中ニ挿入スルコトハ帝國ノ法制上極メテ困難トスル所ナルヲ以テ右ハ電氣通信業務ニ必要ナル限り米國側ノ需要ヲ満足セシムルニ努ムヘシトノ言質ヲ与フルニ止メ度シ

六、往電第二五一號第九項ニ於テ同電列記各項ニ依ル決定ハ蘭國支那及大北電信會社ノ承諾ヲ得ルコトヲ条件トス

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七七

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七七

四〇六

ヘキ旨ヲ明記シタルハ本件電線処分及運用ニ関シ米国ト  
解決ヲ遂グルモ蘭国支那若ハ大北電信会社トノ了解成立  
スルニ非ザレバ我海底電線ノ運用ニ障害ヲ來ス可キ場合  
アルベキヲ予想シタル結果ニ出タルハ申迄モ無キ次第  
付後日万一ノ誤解ヲ避クル為貴電第三三九号内ハ右ト同  
様ノ趣旨ナルコトヲ明瞭ニシ置カレタシ  
在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

(附記)

ヤップ島交渉ニ関スル幣原大使來電ニ対スル意見(条約局)

一 委任統治条項第五条ニ規定セル聯盟國ノ國民タル一切  
ノ宣教師ニ關スル保障規定ヲ米國ノ國民タル宣教師ニ対  
シテモ適用スルコト及同條ニ所謂其ノ職務トハ宗教上ノ  
職務ニ限ラザルノ趣旨ヲ明カナラシムルコトノ二点ニ関  
シテハ實質上帝國政府ニ於テ異議ナシ

(註) 委任統治条項ニ依リテハ受任國ハ單ニ聯盟國  
ノ國民タル宣教師ニ対シテ同條項規定ノ保障ヲ与フ  
ルノ義務ヲ負担スルニ止リ聯盟國以外ノ國民ニ対シ  
右ノ保障ヲ与フルト否トハ全ク受任國ノ自由ニ決シ  
得ヘキ所ナリトス而シテ今之ヲ「ヤップ」島其ノ他

三 右二点ニ関スル了解ハ公文交換ノ形式ヲ以テスルコト  
帝國ノ立場トシテ最モ望マシキ所ナルモ米國側ニ於テ其  
ノ法制上絶対ニ條約ヲ要ストセハ最後ノ讓歩トシテ之ニ  
同意シ差支ナシ但シ右ハ米國カ「ヴェルサイユ」條約及  
國際聯盟ノ当事國ニ非サルコトヲ理由トシ聯盟理事会ノ  
決議トハ全然別箇ノ存在トシテ右決議ニ抵触セサル範囲  
内ニ於テ同様ノ事項ニ付條約ヲ締結スルノ形ト為スノ必  
要アルニ付聯盟理事会ノ決議シタル委任統治条項ヲ其ノ  
儘理事会ノ決議トシテ援用スル場合ニハ統治条項其ノモ  
ノニ付重テ條約ヲ締結スルコトトセス統治条項ノ適用ニ  
関シ少クトモ形式上議論ノ余地ヲ貽スヘシ米國及米國民  
カ享有スペキ利益ニ付日米ノ了解ヲ遂グルノ形式ヲ採ル  
コト可然ト認ム尤米國カ「ヴェルサイユ」條約ノ当事國  
ニアラズトノ理由ハ我方ノ見解ナルガ此ノ点ハ條約其ノ  
他ノ文面上ニ書頭ハス必要ナシ

四 日米犯罪人引渡し條約ヲ帝國ノ受任地域ニ適用スルコト

ヲ明確ニ規定スルハ帝國ニ於テ毫モ支障ナシ但シ一切ノ

日米條約ハ日本ノ受任地域ニ適用セラルヘシトノ概括的  
規定ヲ設ケントスルニ至リテハ大ニ考慮ヲ要ス領土ノ構成  
他ノ文面上ニ書頭ハス必要ナシ

赤道以北ノ旧独領諸島ニ付テ考フルニ聯盟國ノ国民

タル宣教師ニ認ムル所ヲ米國民タル宣教師ニ認ムル

ニ敢テ支障ナカルヘキナリ但シ其ノ範囲ニ関シテハ

米國ノA式及B式ニ關スル覺書ニ述ヘタル所ニ依ル

コト

二 赤道以北ノ旧独領諸島ニ付テ考フルニ聯盟規約第二十二

条ノ文面上及聯盟ノ精神上A及B式委任統治地域同  
様通商上ノ機会均等主義ノ適用アルヘキコトハ帝國  
ノ久シク主張シタル所ニ係リ米國側ノ此主張ニ対シ  
テハ主義ニ於テ固ヨリ異論アルヘキ理ナキノミナラ  
ズ實際上赤道以南ノ旧独領諸島ニ付右ノ主義ノ認メ

ラルルコトハ帝國トシテ最モ望マシキ所ナリトス然  
レトモ本問題ニ付テハ帝國政府ハ英國政府ト論議ヲ  
重ネ一ノ妥協ニ到達シタルモノナルヲ以テ帝國カ進  
テ此妥協ヲ破ルハ面白カラズ故ニ此点ハ先ツ米國ニ  
於テ英國側ト協議スル様致シタシ

成部分トシテ受任國ノ法制ノ下ニ施政スト言フコトト他  
國トノ條約カ全部受任地域ニ適用アリト言フコトトハ全  
然別箇ノ問題ナリコハ各具体的の條約ニ付其ノ利害ヲ攻究  
シタル上右地域ニ付スル適用ノ有無ヲ決スヘキ問題ナリ  
五 公用徵收ノ權ヲ米國ニ認ムルノ條項ヲ條約又ハ取極中  
ニ挿入スルハ帝國ノ法制上極メテ困難ナリ右ハ電氣通信  
業務ニ必要ナル限リ米國側ノ需要ヲ満足セシムルニ努ム  
ヘシトノ言質ヲ与フルニ止メタシ

三七八 九月十七日

在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關シ國務長官ト會談及右ニ付

意見稟申ノ件

別電

同日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第六  
一〇号

(九月十八日接受)

第六〇九号

ル覚書

九月十五日國務長官ト會見ス先づ「ヤップ」問題ニ關シ

官ヨリ別電第六一〇号ノ覺書ヲ讀上ゲタリ本使ハ之ニ對シ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七八

四〇七

第六項(2)ニ日米諸条約ガ委任統治地域ニ適用セラルベキヲ  
トヲ新条約中ニ規定スルノ提議アリ若シ日本政府ニ於テ之  
ニ同意スル時ハ第五項犯罪人引渡條約ノ「ヤップ」ニ適用  
セラルコトニ就キ何等特ニ規定ヲ設クルノ必要ナキニア  
ラズヤト問ヒタルニ「ヨーベ」ハ貴見ノ通リナリ右重複  
規定ノ必要ナシト答ヘタリ

尚同官ハ公用徵収ノ問題ニ関シ前回意見交換ノ次第アリタ  
ルガ要スルニ日本官憲ノ誠実ナル斡旋ニ拘ラズ万一米国電  
気通信當局者間ニ於テ其目的ニ必要ナル土地買入ノ商談調

ハザル時ハ米国ノ得タル電気通信施設ノ権利ハ事實上之ガ  
行使ニ困難ヲ生ズルノ結果トナルベキヲ以テ此ノ場合ニ備  
ヘムガ為日本政府ニ於テ本件規定ニ同意セラレムコトヲ切  
望スト言ヘリ

追テ「ヨーベ」ハ「ヤップ」委任統治及旧独逸海底電線  
処分問題ニ就キ日米兩國政府意見著シク接近スルニ至リタ  
ルヲ見テ欣快ニ堪ベズ若シ今回同官ノ覚書ノ各項ガ幸ヒニ  
日本政府ノ同意ヲ得ルニ於テハ直ニ條約案起草ニ著手スく  
シト述べタリ本使ハ其場合ニ於テ該條約ノ締結ニハ全權委  
任状ヲ要スルモノト認メラルヤト問ヒタルニ「ヨー

関スル規定ヲ設クルコトハ不当ニシハ可ラズ本使ノ所見ニ  
依レバ今日ノ形成ニ於テ右以外ニ「ヤップ」問題解決ノ望  
無ク又之ニ依リテ速カニ本問題ヲ一掃スル時ハ大局上ニ及  
ボス好影響少カラズト思考スルニ付帝國政府ニ於テ全部同  
意ヲ与ヘラントヲ切望ス  
在歐州各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

## (別 聞)

九月十七日在米國幣原大使差内田外務大臣宛電報第K100号  
九月十五日米國國務長官ニ幣原大使ニ手交セん覚書

第六1〇號

1. Secretary of State has the honor to acknowledge the receipt of the Memorandum of the Japanese Ambassador under date of September 8, and is gratified to find that the comments in the Secretary's Memorandum of August 19, under the first heading, from (a) to (g) inclusive, and under the second heading relative to radio-telegraphic service, upon the Memorandum of the Japanese Ambassador of June 18, 1921, are substantially acceptable to Japan, it being understood that

「ズ」ハ一般條約ノ定例ニ倣シ全權委任状ヲ交換セムコトヲ  
希望ス之ガ郵送ニ要スベキ時日ヲ節約セムガ為全權委任状  
ヲ電報ニテ提示スルノ便法セアルベシ（最近米獨條約ハ此  
便法ニ依リタル由）ト言ヘルニ付本使ハ若シ日本政府ニ於  
テ本使ニ命ジ該條約ニ調印セシムルノ意図アリトセバ或ハ  
東京ニ於テ本使ニ對スル委任状ヲ在邦米國大使ニ手交シ  
之ヲ以テ正式ノ委任状提示ニ代フルコトスルモ可ナルベ  
シト述べタルニ「ヨーベ」ハ右一層簡便ナル方法ナリト  
答ヘタリ

本使帰還後更ニ本件覚書ヲ精査スルニ大体九月八日附本使  
ノ覚書中ニ掲ゲタル提議ニ同意シタルモノニシテ其他丁  
「ヤップ」ニ於ケル電気通信ノ目的ノ為メ公用徵収ノ件ニ  
付テハ前議ヲ維持セルモ其他ハ何ソニスルモ重要ナル問題  
トセ思ハレズ理論トシテ米國政府ノ主張ニ異議ヲ唱フル  
ノ理由乏シキニ似タリ次ニ①赤道以北旧独逸諸島ニ關シ今  
回ノ覚書第六項(2)乃至(3)ノ諸項ハ之亦實質上些々タル問題  
ニシテ既ニ米國ニ於テ日本ガ聯盟理事会ノ決議ニ對スル委  
任統治國タルヲ承認スル前提ノセトニ其委任統治國ト理事  
会ニ加入セザル米國ハノ間ニ條約ヲ以テ日本ノ委任統治ニ  
答ヘタリ

トセ思ハレズ理論トシテ米國政府ノ主張ニ異議ヲ唱フル  
ノ理由乏シキニ似タリ次ニ①赤道以北旧独逸諸島ニ關シ今  
回ノ覚書第六項(2)乃至(3)ノ諸項ハ之亦實質上些々タル問題  
ニシテ既ニ米國ニ於テ日本ガ聯盟理事会ノ決議ニ對スル委  
任統治國タルヲ承認スル前提ノセトニ其委任統治國ト理事  
会ニ加入セザル米國ハノ間ニ條約ヲ以テ日本ノ委任統治ニ  
答ヘタリ

トセ思ハレズ理論トシテ米國政府ノ主張ニ異議ヲ唱フル  
ノ理由乏シキニ似タリ次ニ①赤道以北旧独逸諸島ニ關シ今  
回ノ覚書第六項(2)乃至(3)ノ諸項ハ之亦實質上些々タル問題  
ニシテ既ニ米國ニ於テ日本ガ聯盟理事会ノ決議ニ對スル委  
任統治國タルヲ承認スル前提ノセトニ其委任統治國ト理事  
会ニ加入セザル米國ハノ間ニ條約ヲ以テ日本ノ委任統治ニ  
答ヘタリ

- the rights, privileges and exemptions indicated in those comments are intended to refer only to those that are essential to the service of electrical communication in the Island of Yap.
2. The U.S. has not sought privileges in the Island of Yap to the exclusion of the other principal Allied and Associated Powers; it is recognised, however, that, although the U.S. has not agreed to the Mandate to Japan, the others of those Powers have given their assent thereto; and in the absence of representations from these Powers, which might be taken to indicate a contrary view, in answer to the identic note addressed to them by this Government in April last, there is no ground for objection to the making of a convention or agreement between Japan and the U.S. with respect to the Island of Yap, as stated in Paragraph 2 of the Japanese Ambassador's Memorandum of September 8, 1921.
3. With respect to the other islands or former German

possessions in the Pacific lying north of equator, comment is made below in Paragraph 6.

4. It is recognized that arrangements for the disposition of the former German cables in the Pacific should be made by a convention or agreement to be concluded among the five principal Allied and Associated Powers.
5. It is understood that the existing extradition conventions between Japan and the United States will apply to the Island of Yap, but it is deemed advisable to insert a clause to this effect in the proposed convention between Japan and the United States.

With respect to the question of expropriation, it is understood that the American property and facilities for the purpose of electrical communication in the Island will be exempt from the process of expropriation. In order, however, that needed property and facilities for such communication may be had, it is desired that, if they can not be otherwise obtained, the Japanese Government shall agree to use its power of expropriation

for this purpose. It is assumed, in the light of the fact that such action would be for the purpose of carrying out the agreement between Japan and the United States, that it could be regarded as a public purpose with respect to Japan; and that, there will be little difficulty in agreeing upon a proper clause to the effect in the proposed convention.

6. There remain for consideration the questions which relate to the other islands in the Pacific, lying north of the equator which were formerly possessed by Germany.
- The assumption that there will be no objection on the part of the U.S. to the assignment to Japan of a mandate for these islands is true in a qualified sense, that is, there will be no objection in case an agreement is reached with respect to the additions to, or qualifications of the mandate, which are deemed necessary to give suitable protection to the interests of the U.S. Appropriate provisions to cover these points may be incorporated

in the same convention which will contain the proposed stipulations as to Yap. The points deemed to be important are these:

- (A) As the U.S. is not a member of the League of Nations or a party to the Mandate, there should be a general provision in the convention that the U.S. should have the benefit of the engagements set forth in the Mandate.
- (B) In Art. 5 of the Mandate, reference is made to "nationals of the State, Member of the League of Nations." There should be suitable provision in the convention that missionaries who are nationals of the U.S. should have similar privileges. In the same Article, it is stated that the privileges of missionaries are "for the purpose of prosecuting their calling". There is some ambiguity in this, and in order to protect the philanthropic and educational work of missionaries it is suggested that schools should be mentioned as in Art. 8 of the British "B" Mandate for

German East Africa.

(C) The Secretary of State has proposed that provisions similar to those of Art. 7 of the British "B" Mandate for East Africa should be inserted in all "A" and "B" Mandates, prohibiting monopolistic concessions by Mandatory or the monopolizing of national resources by the Mandatory itself, and considers that the same principle should apply to all "C" Mandates.

While he is not at liberty to waive that principle, he nevertheless feels that, in view of the paucity of existing or potential economic resources in the former German islands north of the equator, there would appear to be no occasion to insist upon the insertion in the convention of any provision expressly making this principle applicable to these Islands.

(D) It is desired that there should be contained in the Convention a statement that the treaties between the United States and Japan now in force should apply to the mandated islands, and that, in view of the

special provisions of the terms of the Mandate, the citizens and vessels of the United States should have free access to all waters of the Mandates territories save as it may from time to time be necessary to close temporarily and place or port to quarantined vessels.

(E) It is also desired that there should be a provision that vested American Treaty rights will be maintained and respected.

The Mandate in its present form could easily be recited in the Convention and the provisions indicated above might thereafter be inserted in appropriate clauses of the Convention.

It is understood that the administration by Japan of the Mandated islands will be subject to the Convention with the U.S., and that the terms of the Mandate which are recited in the Convention and of which the U.S. is to have the benefit will not be modified without the express consent of the U.S. It is also desired that, as the U.S. is not a member of the

League of Nations, a report will be made to the U.S. similar to that which is to be made by Japan to the Council of the League of Nations, as provided in Art. 7 of the Mandate.

Shidehara

## (和訳)

一、米国國務長官ハ九月八日付日本大使ノ覺書ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ千九百二十一年六月十八日付日本大使ノ覺書ニ對スル八月十九日付米國國務長官ノ覺書第一点(1)項乃至(2)項並無線電信業務ニ關スル第二点ニ於テ開陳セル意見カ右意見中ニ表示セラレタル権利特權及免除ハ「ヤッパ」島ニ於ケル電氣通信業務ニ欠クベカラザルモノハ「限ラル」モノナリトノ了解ノトニ大体ニ於テ日本ノ承認シ得ル所ナルヲ了悉スルヲ欣幸トベ

二、米国ハ他ノ主タル同盟及連合國ヲ排除シテ「ヤッパ」島ニ於ケル特權ヲ求メシニ非ざ然レ共米國ハ日本ノ委任統治ニ同意セザリシリ反シ他ノ諸國ハ之ニ同意ヲ与ヘタルコトヲ了知ス且客年四月米國政府ガ右各國ニ宛テ発送

シタル同文通牒ニ對シ反対的意見ヲ表示スルモノト思料シ得ベキ回答ナカリシハ以テ千九百二十一年九月八日附日本大使ノ覺書第一項ニ記載セラレタル如ク「ヤッパ」島ニ關シ日米間ニ條約若ハ取極ヲ結ハコトニ對シ何等異存ヲ称フルノ根拠ナシ

三、赤道以北太平洋ニ置ケル旧独逸屬地中ノ他ノ諸島ニ關シテハ後段第六項ニ於テ意見ヲ表示スベシ

四、太平洋ニ於ケル旧独逸海底電線ノ処分ハ五主要同盟及連合國間ニ締結セラルベキ條約若ハ取極ニ依テ約定セラルベキモノトス

五、現行日米犯罪人引渡条約ハ「ヤッパ」島ニ適用セラルベキモノトス但シ前記日米間條約中ニ其趣旨ノ条項ヲ挿入スルヲ可ナリト思料ス

公用徵收問題ニ關シテハ同島ニ於ケル電氣通信業務ノ為米國ノ有スル財產若ハ便益ハ公用徵收方法ヨリ免除セラルベキモノトス更ニ公用徵收以外ノ方法ニ依リ右通信ニ必要ナル財產若ハ便益ヲ得ルコト能ハザル場合ハ日本政府ハ其目的ノ為ニ公用徵收權ヲ行使スルコトニ同意セラルコトヲ希望ス而シテ右ノ措置ハ日米間取極ノ實行

ヤヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線處分問題一件 三七六

ヲ目的トスル事實ニ鑑ミ日本ニ關シテハ公共ノ目的ニ出ヅルモノト認メラルベキガ故ニ前記條約中ニ其趣旨ヲ以テ適當ナル条項ヲ插入スルノ困難殆ンド無カルベシト推定ス

六、次ニ曩ニ獨逸ガ領有シタル赤道以北太平洋ニ於ケル他ノ諸島ニ關スル諸問題ヲ考量スベシ  
是等諸島ニ對スル委任統治ヲ日本ニ附与スルコトニ付米國側ニ於テ異存ナカルベシトノ推定ハ限定セラレタル意味ニ於テ真実ナリ即チ米國ノ利益ニ對シ適當ナル保護ヲ与フル為必要ナリト思料セラルル条項ヲ委任統治條項ニ附加シ若ハ右ノ如キ条件ヲ之ニ附スルコトニ關シ合意成立スル場合ハ米國側ニ於テ日本ノ委任統治引受ニ異議ナカルベシ

是等ノ諸島ヲ包含スル適切ナル規定バ之ヲ「ヤッパ」島ニ關スル前記条項ヲ含ム右條約中ニ規定スルコトヲ得ベシ右諸島中重要ナリト思惟セラルルモノ左ノ如シ  
(1)米国ハ國際聯盟ノ聯盟國ニ非ズ又委任統治條項ノ当事國ニ非ザルヲ以テ右條約中ニ於テハ米國ハ委任統治條項ニ規定セラレタル諸規定ノ利益ヲ享有スベキ旨ノ一

般的規定ヲ設ケザルベカラズ

(四) 委任統治条項第五条ニハ「國際聯盟ノ聯盟國タル國家ノ臣民」ト記載セルガ故ニ右協定中ニハ米國臣民タル宣教師ニ對シテモ同様ノ特權ヲ附与セシムル為適切ナル規定ヲ設ケザルベカラズ又同条ニハ宣教師ノ特權ハ「其職務ヲ行フ為」ナル旨ヲ記載シアルガ右文言ハ多少曖昧ナルヲ以テ宣教師ノ慈善及教育事業ヲ保護スル為獨領東亞弗利加ニ對スル英國B式委任統治条項第八条ノ如ク「學校」ヲ明記スベキコトヲ提議ス

(八) 米國國務長官ハ受任國ノ独占的利權若ハ天然資源獨占ヲ禁止スル東亞弗利加ニ對スル英國B式委任統治条項第七条ノ規定ト同様ノ規定ヲA式及B式委任統治条項全部ニ挿入スベキコトヲ提議シタルガ總テC式委任統治条項ニモ宜シク同一原則カ適用セラルベシト思料セリ米國國務長官ハ右原則ヲ撤回スルノ自由ヲ有セザルモ而モ赤道以北旧獨領諸島ニ於テ現ニ存シ若ハ存シ得ベキ經濟的資源ノ貧弱ナルニ鑑ミ右條約中ニ本原則ヲ明カニ是等諸島ニ適用セシムベキ規定ノ挿入ヲ主張スル理由ナキニ似タリ

三七九 九月二十四日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ關スル九月十五日附國務長官  
ノ覺書ニ付同長官ト論議報告竝本問題早急妥  
結ヲ有利トスル旨稟申及請訓ノ件

別電 同日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電報第六  
三〇号  
九月十五日附米國國務長官ノ覺書中一点ニ付幣  
原大使陳述ノ趣旨

第六二九号 至急 (九月二十五日接受)

九月二十一日國務長官ト會見ス本使ハ先ツ「ヤップ」問題ニ関シ去十五日附國務長官ノ覺書ニ對スル日本政府ノ意見ハ未タ回示ニ接セサルモ本使一己ノ参考迄ニ右覺書中意味ヲ確メタキ二点アリトテ別電第六三〇号ノ趣旨ヲ述ヘタルニ「ヒューズ」ハ第一点宣教師ニ對スル監督權ノ件ハ本使解釈ノ通リ英國ノ東阿弗利加委任統治条項案第六条末項ノ規定ヲ設クルニ異議ナキコトヲ明言シ第二点船舶ノ貨物積卸ハ外國貿易港ニ限り之ヲ行フコトヲ得ヘシトノ点ハ未タ同官ノ想及ハサリシ所ナルモ本使ノ解釈ハ當然ノ事理ナルヘシト答ヘタリ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三七九

(二) 右條約中ニハ現ニ効力ヲ有スル日米間ノ諸條約ハ之ヲ

委任統治諸島ニ適用スベキ旨並委任統治条項ノ特殊的規定ナル事實ニ鑑ミ米國臣民及船舶ハ検疫中ノ船舶ニ對シ隨時特定ノ場所若ハ港湾ヲ一時閉鎖スルノ必要アル場合ヲ除キ委任統治区域ノ総テノ水面ニ自由ニ立入ルコトヲ得ベキ旨ノ声明ヲ包含セラルコトヲ希望ス  
(三) 又米國ノ有スル條約上ノ既存権利ハ維持尊重セラルベキ旨ノ規定ヲ設クルコトヲ希望ス現在ノ形式ニ於ケル委任統治条項ハ容易ニ之ヲ條約中ニ列記シ得ベク又前掲諸規定ハ條約中ノ適當ナル条項トシテ挿入シ得ベシ日本ノ委任統治諸島ニ對スル統治ハ米國トノ條約ヲ条件トスペク且右條約中ニ規定セラル委任統治条項ニシテ米國ガ其利益ヲ受クベキモノハ米國ノ明示的承諾アルニ非ザレバ変更スルコトヲ得ザルモノトス又米國ハ國際聯盟ノ聯盟國ナラザルヲ以テ委任統治条項第七条ノ規定ニ基キ日本ガ國際聯盟理事會ニ提出スルモノト同様ノ報告書ヲ米國ニ提出センコトヲ希望ス

貴電第四三二号ニ依レハ(一)公用徵收法ヲ「ヤップ」ニ適用スルコトハ明文ヲ避ケ单ニ帝國官憲ニ於テ米國電氣通信業務ニ必要ノ物件供給ノ為便宜ヲ計ル旨ノ言質ヲ与フルニ止ムヘシトノコトナルモ我ニ於テ之カ実行ヲ期スルニ足ルヘキ手段ナクシテ言質ヲ与フルハ不誠実ノ嫌ナキ能ハス又誠実ニ言質ヲ實行センカ為ニハ万一當該物件所有者カ飽迄壳渡ヲ拒絶スル場合ニ我官憲ハ結局所有者ニ不法ノ威圧ヲ加フルノ外ナキニ至ルヘシ要スルニ此点ニ闕スル米國政府ノ主張ハ少クトモ理論上ニ於テ之ニ反対スル有力ノ論拠ナシト思考スルニ付断然之ニ同意セラレンコトヲ切望ス  
次ニ(二)日米條約ヲ我委任統治地域ニ適用スルト否トハ一々各條約ニ付考究スルコトヲ要ストノ御來示ナル處該地域力日本帝國ノ構成部分ヲナス以上ハ一律ニ條約ヲ適用スルコト当然ノ原則ナルヘク又本使ハ予メ一応日米現行各條約ヲ調査シタルモ委任統治地域ニ適用スルコトヲ得サル条項アルヲ發見セス単ニ犯罪人引渡し條約ニ限り適用セラルヘキコトヲ明言スルハ帝国ト其ノ委任統治地域トノ密接ナル関係ヲ確立スル趣旨ニ副ハサルノミナラス此際該地域ニ日米現行条約殊ニ通商條約ヲ適用スベキ明確ナル了解ヲ存スルハ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八〇

四一六

他日米國カ委任統治地域ノ特殊ナル國際的地域ヲ理由トシ  
テ右条約ノ保障セザル特殊ノ取扱ヲ要求スルコトアル場合  
ニ之ヲ拒絶スル論拠トモナルヘキニ付本件モ亦米國政府ノ  
主張ニ賛成セラルルヲ得策ト信ス最早會議ノ期日モ切迫セ  
ル此際成ルヘク速ニ「ヤップ」問題ヲ妥結スルハ大局上有  
益ニシテ遷延日ヲ重ヌルニ於テハ或ハ當國上院又ハ外國方  
面ヨリモ意外ナル故障ヲ生スルコトナキヲ保シ難ク從テ往  
電第六〇九号及本電ニ対シ至急電訓ヲ請フ

在欧各大使在蘭公使ヘ転電セリ

（別電）  
九月二十四日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第六三〇号  
九月十五日附米國國務長官ノ覺書中一点ニ付幣原大使陳述ノ趣  
旨

第六三〇号 至急

一、「ヤップ」問題ニ關スル九月十五日附米國國務長官覺  
書第六項(口)ニ於テ日米間ニ締結セラルヘキ條約若クハ取極  
中ノ宣教師ニ關スル規定ハ旧独領東亞弗利加ニ關スル英國  
(B)式委任統治条項第八条ニ於ケルカ如ク學校ニ關シ明記ス  
ルヲ要ストノ提議アリタリ右規定中ニ前掲英國(B)式委任統  
治条項第八条ノ規定ニ類似ノ一項ヲ挿入スルコトハ米國政

府ニ於テ承諾シ得ヘシト推定ス但シ米國政府ハ（公安及善  
政ノ維持ノ為必要ナル監督ヲ行ヒ及斯ノ如キ監督ヲ行フニ  
必要ナル一切ノ手段ヲ採ルヘキ）委任統治權ヲ承認スルモ  
ノトス

二、同覺書第六項(口)ニ於テ（米國臣民及船舶ハ檢疫セラレ  
タル船舶ニ對シ隨時特定ノ場所若クハ港湾ヲ一時閉鎖スル  
ノ必要アル場合ヲ除キ委任統治区域ノ總テノ水面ニ自由ニ  
立入ルコトヲ得ヘキ）旨記載セラル右提議ハ外國貿易ノ為  
メ開カレ且ツ税関ノ設置アル特定ノ港湾以外ニ於テ外國貿  
易ニ從事スル船舶ノ荷物ノ積込若クハ陸揚ヲ禁止スル各國  
一般ノ慣行ヲ否認スルノ意味ニ非サルモノト推定ス  
在欧各大使及蘭ヘ転電セリ

三八〇 九月二十六日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

旧独海底電線処分ニ關シ中國政府ヨリ公文提

出ノ件

第六四七号 （九月二十七日接受）  
交通部ヨリノ申出ニ基キ外交部ヨリ大要左ノ如キ二十四日  
附公文アリ（原文郵送ス）

ヤップ上海海底電線ニ關スル日米協議ニ抗議ノ件  
(關係電報往電第六四七号)

本件ニ關シ左記書類及送付候也

大正十年九月二十四日附外交部來信写及和訳文各卷通

（附屬書）

九月二十四日附外交部ヨリ小幡公使宛公文写及和訳文

照会新字第一五〇号

外交總長 順

為

照会事准交通部咨称日來報紙喧伝耶普問題日美兩國已有協  
調之望其解決弁法一耶普甘姆間海底電線帰美國安設管理二  
耶普上海間海底電線歸日本安設管理三耶普孟尼多間海底電

線帰荷国安設管理四美國得將海線在耶普島登岸五耶普島仍

委日本統治細查以上弁法顯有蔑視中國主權之處甘姆及孟尼

多為美荷屬地其海底電線既心各歸本国安設管理上海原係中

國領土自應由中國自行安設今觀美日協議各節如果確實不啻

犧牲中國主權以為彼此讓步之代價其違背國際平等原則已屬

瞭然當時德荷水線來華原經中國許其登岸但此項登岸權至中

德宣戰後業經取消現在日本既無繼承德國利益之權上海耶普

水線問題中國万難聽人處理若基於國際平等原則此項水線應

三八一 九月二十七日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

旧独海底電線処分ニ關シ中國政府ヨリ提出ノ

公文写及和訳文送付ノ件

機密第二九三号

在支那

（十月三日接受）

附屬書 右公文写及和訳文

特命全權公使 小幡西吉（印）

外務大臣伯爵 内田康哉殿

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八一

四一七

帰中國安設管理始不失太平洋上通信之自由應請向美日両公使鄭重声明等因查報載解決耶普問題弁法如果確實顯違國際平等原則中國政府應先向

貴公使聲明第一德荷水綫登岸權早已取消無論何國不能承繼第二上海耶普間海底電線中國主權所在無論如何解決須先得中國之同意相應照會貴公使查照即希軒達

貴國政府注意実総睦誼須至照會者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民国十年九月二十四日

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者交通部ヨリ近來新聞紙ノ報道ニ依レハ「ヤップ」問題ニ関シ日米両国間ニ已ニ協調ノ望アリ其解決弁法ハ（一）「ヤップ」「グアム」間海底電線ハ米國ノ敷設管理ニ帰シ（二）「ヤップ」上海間ノ海底電線ハ日本ノ敷設管理ニ帰シ（三）「ヤップ」「メナド」間ノ海底電線ハ蘭國ノ敷設管理ニ帰シ（四）米國ハ海底電線ヲ「ヤップ」島ニ陸揚セシムルコトヲ得（五）「ヤップ」島ハ尚日本ノ委任統治ト為ストノ事ナルカ以上ノ弁法ハ顧ニ支那主權ヲ

決タルヲ問ハス須ラク先ツ支那ノ同意ヲ得ヘキモノタルコトヲ声明致候間右貴國政府ニ転電シ御注意相成度此段照会得貴意候 敬具

三八一 九月二十九日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關スル米國國務長官ノ覚書

付越シタルニ付請訓ノ件

別 電 同日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第六五二号  
（九月三十日接受）

第六五二号  
往電第六二九号ニ閲シ

國務省ヨリ別電第六五三号ノ通り二十八日附覚書ヲ送付シ來リタルニ付前電稟請ノ件ト併セテ至急御詮議ノ上御回電ヲ請フ

右別電ト共ニ在欧各大使及在蘭公使ニ転電セリ

（別 電）  
九月一十九日幣原大使発内田外務大臣宛電報第六五三号  
ヤップ島問題ニ關スル九月二十八日附米國國務長官覚書

第六五三号

決タルヲ問ハス須ラク先ツ支那ノ同意ヲ得ヘキモノタルコトヲ声明致候間右貴國政府ニ転電シ御注意相成度此段照会得貴意候 敬具

三八一 九月二十九日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ關スル米國國務長官ノ覚書

付越シタルニ付請訓ノ件

別 電 同日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第六五二号  
（九月三十日接受）

第六五二号  
往電第六二九号ニ閲シ

國務省ヨリ別電第六五三号ノ通り二十八日附覚書ヲ送付シ來リタルニ付前電稟請ノ件ト併セテ至急御詮議ノ上御回電ヲ請フ

右別電ト共ニ在欧各大使及在蘭公使ニ転電セリ

（別 電）  
九月一十九日幣原大使発内田外務大臣宛電報第六五三号  
ヤップ島問題ニ關スル九月二十八日附米國國務長官覚書

第六五三号

蔑視シタル所有之「グアム」及「メナド」ハ米蘭両國ノ属地ナルヲ以テ其海底電線ハ已ニ各其本国ノ管理ニ帰スヘキモノナルモ上海ハ原ヨリ支那ノ領土ナルニ付当然支那ニ於テ自ラ敷設スヘキモノナリ日米協議ノ各節ニシテ若シ果シテ確実ナラハ啻ニ支那ノ主權ヲ犠牲ニシテ彼此讓歩ノ代価トスルノミナラス明カニ國際平等原則ニ違反スルモノナリ曩ニ獨蘭ノ海底電線ヲ支那ニ陸揚ケセシメタルハ原来支那カ其陸揚ヲ許可シタル為ナリ但シ此種陸揚權ハ支独宣戰後已ニ取消サレタルモノニシテ現在日本ハ已ニ獨國利益ヲ繼承スルノ權利ナシ隨テ上海「ヤップ」間ノ海底電線問題ハ支那トシテ断シテ他人ノ處理ニ応シ難シ若シ國際平等原則ニ基ケハ此種海底電線ハ支那ノ敷設管理ニ帰シ始メテ太平洋上通信ノ自由ヲ失ハサル次第付日米両国公使ニ対シ鄭重ニ声明アリ度旨申越有之候査スルニ新聞紙ノ記載セル「ヤップ」問題解決弁法ニシテ若シ果シテ確実ナラハ顧ニシ第一獨蘭海底電線ノ陸揚權ハ早ク已ニ取消サレタルモノニ付何国タルヲ問ハス繼承スルコト能ハス第二上海「ヤップ」間海底電線ハ支那主權ノ在ル所ナルヲ以テ如何ナル解

good government and to take all measures required for such control."

2. In regard to interpretation of provision granting

free access to all waters of mandated islands, Secretary is happy to state that he concurs in construction proposed (in second paragraph of Memorandum) so far as is necessary to safeguard collection of customs revenues.

It is therefore suggested that when convention shall be signed, clause providing that "citizens and vessels of U.S. should have free access to all waters of mandated territories save as it may from time to time be necessary to close temporarily any place or port to quarantined vessels" shall be clarified by an exchange of notes setting forth understanding that this provision in convention should be construed to mean that at these ports or islands where there are no Japanese customs officials, American vessels may load or unload cargo only under such reasonable regulations as Japanese Government may enact for purpose of assuring due collection of

customs revenues from trade so conducted.

Shidemura

三八三 九月二十一日 内田外務大臣  
在米國幣原大使宛 (電報)

シ得ザル並立解決交渉ニ付シ體クベキ諸指

示ノ件

第四六回

貴電第六〇九号(関)

貴電第五九三号貴電「シヨーベ」会見の結果「ヤップ」島問題ニ關スル米國側ノ要求ハ大体帝國政府ノ意見ニ接近シ來リタルモノト認メタルヲ以テ成ルベク速カニ本件ノ円満ナル解決ニ達セシコトヲ欲シ取敢ヘズ往電第四二二一號ニア以テ右貴電第五九三号列舉ノ諸点ニ付帝國政府ノ見解ヲ披瀝シタル次第ナル處貴電第六一〇号「シヨーベ」覚書中ニハ從來ノ交渉ニ於ケル解決ノ基礎トハ全然異リタル新規ノ要求モ包含サレ居リ右ニ対シテハ帝國政府ニ於テ今直チニ「シヨーベ」覚書全部ノ要求ニ同意シ得ザル事情モアリ旁々本件ノ解決方交渉ニ付テハ重ネテ左記ノ諸点御含ムノ上

精々御尽力相成リタシ

1. 「ヤップ」島ニ關スル米國側ノ要求ニ付「シヨーベ」

覚書第五項日米犯罪人引渡し條約ヲ同島ニ適用スヘキ旨ノ

条項ヲ條約中ニ插入スルコトニ異議ナシ又公用徵収ニ關

シテハ同覚書ノ如ク米國側ニ於テ他ノ方法ヲ以テシテハ

電氣通信業務ニ必要ナル財產若ハ便宜ヲ得ル能ハサル場

合ニハ帝國政府ニ於テ其ノ權力ヲ行使シ米國ノ需要ヲ満

足ヤシムヘキ旨ヲ約定スルノ規定ヲ設クルコトニ同意セラ

ニ差支ナシ但シ右規定ト共ニ其ノ米國側ニ於テ必要トス

ル土地ノ位置及区画ニ付テハ必要ニ応シ其ノ都度日米間

ニ協定ノ上之ヲ決スヘキモノトスル旨規定スルコトニ取

計ハシタシ

際切実ニ米國側ノ考慮ヲ促スト共ニ其ノ要求ヲ緩和セシムルコトニ依リ本件解決ノ障碍ヲ除去スルコトニ充分御尽力アリタシ

(イ)同項(イ)日米諸条約ノ適用問題ニ付テハ貴電第六二九号

ヲ以テ縷々御電票ノ次第アルモ若シ我委任統治地域ニ

日米間ノ諸条約ヲ悉ク適用スル場合ニハ帝國ニ対シ最

惠國約款ヲ有スル諸國ハ總テ之ニ均霑シ日本ト諸外国

トノ条約ハ一切之ニ適用セラルルコトトナリ結局右地

域ニ於テハ通商上ノ機會均等主義ヲ適用スルノ結果ト

ナルヘシ尤モ右ハ主義ニ於テ帝國ノ固ヨリ異議ナキ所

ナルノミナラス寧ロ機会均等主義ノ他ノ一切ノ受任地

域ニ於テ均シク実行サレシコトハ帝國ノ希望スル所ニ

シテ從來帝國ニ於テ久シク此点ニ付強ク主張シ來リタ

ルモ竟ニ英國其ノ他ノ容ル所トナラス結局客年十二

月十七日聯盟理事会ノ統治条項決定ノ際ノ帝國政府ノ

ノ要求ナルノミナラス以下ニ述フルカ如ク事ノ性質上帝

國単獨ニ決シ得カラサル筋合ノモノナルヲ以テ右ノ二

点ニ付テハ本件ニ關シ從來其ノ円満且迅速ナル解決ノ為

メ能フ限リノ讓歩ヲ敢テシタル帝國政府ノ誠意ニ鑑シ此

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八三

四二二

希望ハ單ニ帝国ノミナラスC式委任統治国全体ニ関スル問題ナルヲ以テ此ノ点ニ関シテハ前電申進メタル通り一切ノC式委任統治國力各其ノ受任地域ニ対シ一切ノ条約ヲ適用スルコトヲ条件トスルニ非サレハ帝国政府ニ於テ独リ之ニ同意スルヲ得ス又米国人及米国船舶ノ出入ニ付テモ右同様主義上一切ノC式委任統治國ニ於テ諸國民及諸船舶ノ自由出入ノ権ヲ認ムルニ非サレハ帝国限リ之ヲ承認シ得サル立場ニ在リ但シ右ノ如キ問題ノ決定ニハ尠カラス時日ヲ要スヘク之カ為本件全体ノ解決ヲ遷延セシムルハ甚タ遺憾ナルニ付米国政府ニ於テモ充分我立場ヲ諒解シ本問題ハ他日関係国間ノ商議ニ譲ルコトニ取纏メラレタシ

(d) 同項(b)中段本件日米条約ニ引用シタル委任統治条項ニシテ米国ノ利益ニ関係スルモノハ其ノ変更ニ付米国ノ同意ヲ要ストノ点ニ関シテハ其ノ統治条項ノ引用タルト否ヲ問ハス苟モ条約ノ内容トナリタル以上其ノ変更ニ相手国ノ同意ヲ要スルハ國際法上一般ニ認メラルル条約上ノ義務ニシテ從テ特ニ其ノ旨ノ規定ヲ設クルノ必要ナキモノト思考ス

八 同項末段行政年報ノ件ニ関シテハ元来委任統治地域ニ

関スル受任國ノ年報ヲ聯盟理事会ニ提出シテ其ノ審査ニ供スルハ委任統治制度カ國際聯盟ノ存立ヲ前提トシ又理事会カ其ノ施政ノ基準タル統治条項ヲ決定シタル関係上當然ノ帰結ナルノミナラス理事会ニ於テモ常設委員会ニ於テモ受任國ノ代表者参加ノ上之ヲ調査スルノ制ナルカ故ニ一国ノ主權ニ抵触スルコトナキモ米国側ノ希望ノ如ク之ヲ或一国ニ提出スヘキモノトスルハニ聯盟理事会ニ於テ右年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ实行ニ關スル一切ノ事項ニ付意見ヲ具申セシムル為常設委員会ヲ設置シ右委員トシテ四名ノ受任國人ノ外五名ノ非受任國人ヲ挙タルコトトシ其ノ一人トシテ米国人ヲ任命スルコトニ決定シタル次第ナルヲ以テ米国ニシテ帝国ノ委任統治地域ニ對スル施政ニ關シ意見ヲ開陳スルノ機会ハ充分ニ開カレ居ル次第ナリ兎ニ角本件ハ他ノ受任國ニモ關係ヲ有スルヲ以テ後日関係国間ノ協議ニ譲リタシ

三、尚本件交渉ニ當リテハ左記ノ諸点御含置アリタシ

(i) 同覚書第三項ハ「ヤップ」島ニ關スル諸点ト區別シテ特ニ「其ノ他ノ島嶼」ニ關スル意見ハ第六項ニ掲クヘシト為シ同項ニ於テ「右ノ島嶼」ニ對スル日本ノ委任統治ハ統治条項ニ必要ナル増補若ハ修正ヲ加フルノ点ニ付協定ヲ見タル場合ニ於テ之ヲ認ムヘシト記述シ其ノ文面上恰モ「ヤップ」島ニ付テハ電信業務ノ關係上右業務ニ必要ナル限度ニ於テ特別ノ条約ヲ締結スルニ止マリ同島ニ對スル委任統治權ノ問題ニ及ハス「其ノ他ノ島嶼」ニ付テノミ一定条件ノ下ニ是等島嶼ニ對スル日本ノ委任統治ヲ認ムルカ如クニモ解セラルル虞アル處右ハ米國側ノ意思ニ非サルヘキモ斯ノ如キ解釈ノ生スルコトハ将来ニ紛議ノ素地ヲ作ル次第ニ付此ノ点ニ關スル疑義ヲ貽サラシカ為條約文作製ノ際ハ「ヤップ」島ヲ含ム赤道以北ノ旧独領諸島全部ニ對スル帝國ノ委任統治ニ異議ナキ旨ヲ明カニスル条項ヲ設ケラルルコトニ取計ハレタシ

本電在欧各大使在蘭公使ニ転電セシメラレタシ  
ニハ右ハ自ラ他ノ受任地域ニ關連スルヲ以テ他日別箇ノ問題トシテ關係国間ニ協議スルコトトシ本件条約ニ於テハ同問題ニ触レサルコトニ取計ハレタシ

四、同覚書第六項(b)冒頭「米國ノ条約上ノ既得権」トハ如何ナルモノヲ意味スルヤ「ヒュース」ニ就キ御確メアリタシ

在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

三八四 十月三日 九月三十日ノ訓令ニ關シ意見具申並重ネテ請

訓ノ件

(十月四日接受)

第六六〇号

スルトコロ折返シ御回示ヲ請フ

(d) 同覚書第六項(c)委任統治國ノ利権若ハ天然資源ノ獨占禁止ニ關シテハ同項記載ノ如ク帝国ノ受任地域ニ在リテハ實際問題トナルコト少ク米國ニ於テ強テ主張スル

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八四

四二三

ヲ悉ク適用スル場合ニハ帝国ニ對シ最惠國約款ヲ有スル諸國ハ凡テ之ニ均霑シ日本ト諸外國トノ条約ハ一切之ニ適用セラルルコトトナリ結局右地域ニ於テハ通商上ノ機

会均等主義ヲ適用スルノ結果トナルベシ」トアル處本使ノ私見ニ依レバ右ハ当然ノ帰結ニアラザルガ如シ

(1)今回締結セムトスル日米新条約ハ日米両国間ニ効力ヲ有スルニ止マリ他国ニ対シテハ何等ノ保障ヲ与フルモノニアラズ新条約ニ依リ日米間ノ諸条約ヲ我委任統治地域ニ適用スルコトナリタリトテ之ガ為他ノ諸国モ同様其日本トノ条約ヲ右地域ニ適用セムコトヲ主張スベキ理由ナカルベシ暨ヘバ英國ガ日米新条約ノ利益ニ均霑セムトスル場合ニハ別ニ日英間ニ特殊ノ協定ヲ要スベク英國ヨリ其提議アリタル時ハ我ハ英國ガ追テ米国トノ協約ニ依リ英國又ハ其海外自治領ノ委任統治地域ニ閑シテ米国ニ与フルコトアルベキ利益ニ均霑スベキコトヲ条件トシテ右英國ノ提議ニ応ズルコト当然ナルベク他ノ一方ニ於テ米国ガ赤道以南ノ旧独領諸島ニ對シ機會均等主義ノ適用ヲ主張スベキコト明瞭ナルガ故ニ若シ英國ヨリ我ニ前記ノ提議ヲ為ス時ハ我ハ英國ニ信義ヲ失スルコトナクシテ機會均等主義ノ(b)式委任統治地域適用ニ閑スル我方從来ノ主張ヲ貫徹スルノ機会ヲ得ルコトナルベシ

スル前電ノ論点ヲモ御参考ノ上本件御同意アラン事ヲ希望ス

二、貴電第二項(d)ニ閑シ日米条約ニハ聯盟理事会ノ決議トシテ規定ノ委任統治条項ヲ引用シニ対シ米国ハ左記了解ノ下ニ同意ストシテ次ニ日米間特ニ協定スベキ各事項ヲ列記スルノ形式ニ依リタキ本使一個ノ考案ナル處此ノ形式ニ依ルトキハ右理事会ノ決議が変更セラレタル場合ハ米国ハ同意ノ目的物ヲ失フ事トナルガ故ニ日米新条約ニ掲グル各条項ノ效力ニ付テハ少クトモ疑義ヲ生ズ可シ従テ理事会決議ガ変更セラルトモ米国ニ於テ新決議ニ同意ヲ表セザル限り日米間ニハ從前ノ理事会決議ニ依リテ其ノ関係ヲ律スベキコトヲ明ニセンガ為本件米国ノ提議セル趣旨ノ規定ハ米国ニ取リテ必要アリトノ主張ハ相当ノ論拠アルコトト思考ス

三、米国ハ聯盟ニ加入スルト否トヲ問ハズ共同戦勝ニ貢献セル主要連合国ノ一員ナルガ故ニ他ノ同盟連合国ニ比シテ不利ノ地位ニ置カル可キ理由ナク独逸ガ五大國ノ為ニ放棄セル領土權ニ付テモ現ニ一部ノ持分ヲ有ストノ主張ハ今ヤ米国対外政策ノ根柢ヲナシ何國ニ対シテモ徹底的

(d)聯盟規約第二十二条第五項末段ハ委任統治地域ニ於テ受任國ト其他ノ聯盟國トノ間ニ機会ノ均等ナルベキコトヲ規定セリ然ルニ日米通商條約ノ最惠國約款ハ條約ノ一方当事國ノ領土内ニ於テ其國ト他方当事國トノ間ニ機会ノ均等ナルベキコトヲ保障スルモノニアラズ從テ該通商條約ヲ委任統治地域ニ適用スルモ聯盟規約ノ前記条項ニ依ル機会均等主義ヲ承認スル結果トナラザルベシ

(e)加州排日立法ノ規定スルガ如キ例ヘバ土地所有權借地權又ハ殖產ノ自由等ノ事項ニ閑スル差別的待遇ガ通商條約ニ抵触スルヤ否ヤノ問題ハ姑ク措キ若シ米国ニ於テ兩者抵触セザルモノト解スル時ハ我ハ又均シク同一通商條約ニ適用セラルベキ赤道以北旧独領諸島ニ付加州ニ於ケルト同様ノ差別待遇ヲ米国ニ与フルモ米国ヨリ何等抗議ヲ受クベキ理由ナカルベシ若シ又米国ガ右抵触アルヲ認ムル時ハ間接ニ米国内ニ於ケル排日立法ヲ幾分牽制スルコトナル可シ

以上ノ理由ニ依リ日米条約ヲ我ガ委任地域ニ適用スルトモ御懸念ノ如キ結果ヲ生ゼザルガ如ク尚此ノ点ニ閑

在歐州各大使在蘭公使ヘ転電セリ

三八五 十月八日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

## 対米抗議アリトノ新聞記事ニ付問合方ノ件

第四九八号

在支公使発本大臣宛第六四七号ニ閔シ新聞電報ニ依レバ支那政府ハ米国ニ対シテモ右抗議ヲ提起シタル趣ノ處若シ果シテ真ナリトセバ往電第二二五号第九項ノ趣旨ニ基キ日本公使宛往電第五〇三号ノ趣旨御含ノ上米国当局ニ対シ右新聞ノ所報ハ事実ナリヤ若シ然ラバ米国側ニ於テハ既ニ何等カ措置ヲ執リタリヤヲ尋ネラレ其結果電報アリタシ

在英大使ニ転電シ在欧大使在蘭公使ニ郵送セシメラレタシ

註

本電ハ在中国小幡公使ニ参考迄転電サレタリ

三八六 十月八日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

## 中国政府ノヤップ上海線ニ閔スル主張ヲ反駁

ノ件

第五〇三号

貴電第六四七号ニ閔シ

（）支那ハ其主張第二点ニ於テ「ヤップ」上海線ハ支那主權ノ在ル所ナルヲ以テ之ガ解決ニハ支那ノ同意ヲ要スト声明

スルモ独逸ハ平和条約ニ依リ自己及其國民ノ名ニ於テ主タル同盟及連合國ノ為ニ上海「ヤップ」線ニ閔スル各種ノ権利原又ハ特權ヲ總テ拠棄シタルガ故ニ該線ノ処分及運用ニ閔シテハ五大國ハ任意ニ之ヲ決定シ得可ク更ニ支那側ノ同意ヲ必要トスルモノニアラズ

（）又其第一点ニ於テ支那ハ該線ノ陸揚権ヲ取消シタルガ故ニ何國モ之ヲ繼承スルヲ得ズト主張スルモ右陸揚権ハ一九〇五年四月六日支那政府ト獨蘭電信株式会社トノ約定ニ依リ同政府ヨリ該会社ニ対シ之ヲ承認シタルモノナルガ右約定ハ其性質上戦爭ノ為ニ当然其効力ヲ喪フベキモノニ非ザルノミナラズ右約定中ニハ一九二九年十二月三十一日以前ハ当事者一方ノ通告ヲ以テ該約定ヲ廢棄スルヲ得ズトノ規定アリ而シテ他方ニ於テ主タル同盟及連合國ハ前記ノ如ク該線ヲ以テ独逸有ノモノト認メ独逸ヨリ該線ニ閔スル各種ノ権利原又ハ特權ヲ總テ承継シタリ右ノ関係ナルヲ以テ上海端ノ陸揚権承継ノ件ハ前記支那對獨蘭會社約定及對獨平和条約ノ規定ヲ如何ニ解釈スペキヤニ依リ決定セラルル問題ナルモ其法理上ノ解釈如何ニ拘ラズ支那側ト円満ナル諒解ヲ得ルニ非レバ将来實際運用上種々不便アルベキヲ以

テ該線处分ニ閔スル解釈案ニハ（イ）米国ハ「ヤップ」「グアム」線和蘭ハ「ヤップ」「メナド」線及日本ハ「ヤップ」

上海線ヲ夫々所有且運用スルコト（ロ）並ニ右決定ハ該線ノ上海端陸揚及連絡ニ閔シ支那及大北電線会社ノ承諾ヲ得ル為五大國共同ニ尽力シ其承諾ヲ得ルヲ条件トスルコトヲ定ムル筈ナルヲ以テ本件解釈ニ閔シ五大國間ニ意見合致ノ上ハ何レ共同ニテ支那政府ニ交渉ラナスコトナルベキモ此際支那側ニ対シ右趣旨ヲ示スコトハ未ダ其時機ニ非ズ就テハ若シ支那側ヨリ本件ニ閔シ何等問合ノ次第アラバ單ニ先方申出ノ次第ハ本国政府ニ伝達シ置キタル旨回答スルニ止メラレタシ

在米大使ニ転電セリ

註 本電ハ参考迄ニ往電第四九八号ト共ニ在米大使ニ転電シ在歐大使及在蘭公使ニ郵送セシメラレタリ

三八七 十月十二日

内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛（電報）

## ヤップ島問題ニ閔スル質疑ニ対シ日本政府ノ

見解重ネテ説示ノ件

第五〇四号

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八七

際上英仏等ノ國民ニ對スルト同様ニ認メ居レル内國民待遇ト同程度ノモノナルヘキコトヲ拒否シ難カルヘシ以上ノ結果右地域ニ於テ米国人ノ享有スヘキ自由又ハ權利ノ保障ハ英國其ノ他帝国ニ對シ同様ノ最惠國約款ヲ有スル諸國人民ニ無償無条件ニ且何等特殊ノ協定ヲ俟タスシテ均霑セシメサルヘカラサルコトトナリ結局日米通商条約ノ適用ハ米國カ今回新ニ帝國ニ對シテ要求シ然カモ他ノC式受任地域ニ適用スヘキコトヲ明言セサル free access 問題ト相俟テ帝國ノ受任地域ノミニ付テハ他ノC式受任地域ノ關係如何ニ拘ラス先ツ事實上所謂通商上ノ機會均等主義ヲ適用スルノ結果ヲ見ルニ至ルノ懸念アリ而シテ他方ニ於テハ赤道以南ノ受任地域ニ付テハ英國ハ米國等ニ對シテハ将来通商上ノ機會均等主義ヲ認ムルコトハ敢テ難シトセサルモノト認メラルヘク之ニ反シテ帝國ニ對シテハ客年十二月聯盟理事会ニ於ケル帝國トノ妥協ヲ理由トシテ之ヲ拒否スルコトヲ得ヘキ立場ニ在リ此ノ場合帝國ハ仮令英國ノミニ對シテハ我受任地域ニ對シ機會均等主義ヲ適用セサルコトヲ主張シ得ヘシトスルモ英國ハ之ニ依リテ何等痛痒ヲ感セサルヘク事茲ニ至リテ

ハ赤道以南ノ南洋諸島ニ對シ機會均等主義ノ適用ニ関スル帝國從來ノ主張ヲ貫徹スルコト愈困難トナルヘシ帝國政府ハ我受任地域ニ對シ機會均等主義ヲ適用スルコトニノ点ニ關スル米國側ノ希望ニ對シテハ最モ重ヲ置ク所ナルヲ以テ此一主義ノ適用ヲ見ルコトハ最モ重ヲ置ク所ナルヲ以テ此ノ點ニ關スル米國側ノ希望ニ對シテハ一切ノC式委任統治國カ各其ノ受任地域ニ對シ一樣ニ機會均等主義ヲ適用スルコトヲ条件トスルニ非サレハ此際帝國政府ニ於テ何等異議ナキハ勿論ナルモ同時ニ他ノC式受任地域ニ同一主義ノ適用ヲ見ルコトハ最モ重ヲ置ク所ナルヲ以テ此ノ點ニ關スル米國側ノ希望ニ對シテハ一切ノC式委任統治國カ各其ノ受任地域ニ對シ一樣ニ機會均等主義ヲ適用スルコトヲ条件トスルニ非サレハ此際帝國政府ニ於テ何等異議ナキハ勿論ナルモ同時ニ他ノC式受任地域ニ同一主義ノ適用ヲ見ルコトハ最モ重ヲ置ク所ナルヲ以テ此ノ點ニ關スル米國側ノ希望ニ對シテハ一切ノC式委任統治國ハ兎モ角實際上ノ問題トシテハ他ノC式受任地域問題ト深キ關係ヲ有スルヲ以テ帝國政府ハ主義上米國ノ要求ニ異議ヲ有セサルモ米國ニシテ右条件ヲ附スルコトニ同意セサル以上ハ五大國ニ關係ヲ有スル問題トシテ後日關係リ之ニ同意シ得サル立場ニ在リ要スルニ本問題ハ純理論ハ兎モ角實際上ノ問題トシテハ他ノC式受任地域問題ト深キ關係ヲ有スルヲ以テ帝國政府ハ主義上米國ノ要求ニ異議ヲ有セサルモ米國ニシテ右条件ヲ附スルコトニ同意セサル以上ハ五大國ニ關係ヲ有スル問題トシテ後日關係国間ノ協議ニ委ネタキ意向ナリ

二、貴電第二項ニ關シテハ委任統治条項ハ之ヲ日米條約ニ引用スルモ苟モ條約ノ内容トナリタル以上其ノ変更ニ相手國ノ同意ヲ要スヘキハ當然ノ儀ナリトノ見解ニ依リ前電ノ如ク申進シタル次第ナル處米國側ニ於テ此ノ点ニ付懸念アラハ今後委任統治条項ニ変更アルモ米國ノ同意ナ

キ限リ日米新條約ノ効力ニ影響ナキ旨ノ規定ヲ設クルニ

ネタキ考ナリ

異議ナシ然レトモ若シ米國側ノ要求ニシテ右ノ規定ヲ設クルコトニ依リ其ノA式及B式統治条項案ニ關スル米國覚書末項ニ記載セル要求ト同様C式委任統治条項其ノモノノ修正ニ米國ノ同意ヲ要ストノ主張ニ出ツルモノナルニ於テハ右ハ委任統治条項ノ決定カ聯盟理事会ノ權能ニ屬スル關係上帝國単獨ニ決シ得ヘキ筋合ノモノニ非サルノミナラス前顯A式及B式条項案ニ關スル米國覚書ノ要求ニ對シ理事会ニ於テ未タ何等決スル所ナキ次第ナルニ鑑ミ旁々本問題ハ後日關係國間ノ商議ニ譲リタシ

三、貴電第三項行政年報ノ件ニ關シテハ米國側ニ於テ御來示ノ如キ根本主張ヲ固執スルコトハ疑フ容レストルモ今次帝國ニ於テ本件ニ關シ米國トノ間ニ其ノ從來ノ紛糾ヲ一掃セムカ為解決ノ方途ヲ講シツツアルハ法理論トシテ米國ノ根本主張ヲ是認シタルカ為ニハ非ス全ク妥協交讓ノ精神ニ出テタルモノニシテ本項行政年報ニ關スル米國側ノ新ナル希望ニ對シテモ充分ノ同情ヲ有スルモ右ハ帝國限リ決シ得ヘキ性質ノ問題ニ非ス委任統治國全体ニ關スル問題ナルヲ以テ前項同様後日關係國間ノ協議ニ委

本電在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

三八八 十月十二日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ニ関スル質疑ニ至急回示方裏請

ノ件

第六八二号

(十月十三日接受)

往電第六六〇号ニ関シ過日米國務長官ヨリ本件數次催促ヲ受ケ其都度答弁ニ窮シ居ル有様ニテ此上遷延ヲ重ヌルハ故意ニ回答ヲ遅延セシメ居ルガ如キ感想ヲ与フル虞アルニ付前電裏請ノ件至急御回訓ヲ乞フ

三八九

十月十八日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

日本政府ノヤップ島問題ニ関スル主張ヲ國務

長官ニ開陳ノ件

別電

同日幣原大使発内田外務大臣宛電報第六九三号

十月十七日米國國務長官ニ手交セセル覺書

第六九二号

(十月二十日接受)

十月十七日國務長官ト意見シ貴電第四六四号及第五〇四号ニ依リ帝国政府ノ主張ヲ開陳セリ

一、「ヤップ」ニ於テ米國ノ電氣通信業務ノ為土地ノ公有

統治地域ニ就キ同一ノ権利ヲ要求セラルコト当然ナルベシ

(イ)五大國中米國以外ノ諸國ハ戰勝ノ結果何レモ何等カノ領土的利益ヲ得タルモ米國ハ一片ノ領土ヲ要求シタルニアラズ唯商工業上ノ権利ニ就キ他國ヨリモ不利益ナル地位ニ置カレザルコトヲ要求スルニ止ルノ点ハ常ニ考量ニ加ヘラレムコトヲ望ム

(ロ)仮ニ日本ガ赤道以北ノ旧独領諸島ヲ併合セルモノトセバ日米諸條約ノ當然右諸島ニ適用セラルベキコトハ日本ノ承認セラル所ナルベシ委任統治ハ領土併合ノ場合ヨリモ受任者ニ取リテ一層強大ナル権利又ハ廣汎ナル自由ヲ有スト解セラルベキ理由ナシ若シ本件地域ニ關シ日本ニ於テ日米通商條約ノ規定スル保謲サヘ米國ニ適用スルコトヲ躊躇セラルモノトセバ自分ハ其ノ理由ヲ解スルニ苦シム

(ハ)米國ハ日英両國ニ對シ主張ヲ異ニスルモノニ非ズ固ヨリ英國トハ赤道以北ノ委任統治問題ニ付未ダ交渉ヲ開始セザルヲ以テ自分ハ英國ガ果シテ此ノ点ニ關スル米國ノ主張ニ同意スベキコトヲ断言スルノ地位ニ在ラズ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八九

徵収ヲ行フ場合ニハ其都度土地ノ地位及面積ニ就キ日米間ニ協議ヲ遂グルコトヲ要ストノ我主張ニ対シテハ國務長官ハ直ニ同意ヲ表シタリ

二、日米諸條約ヲ我委任統治地域ニ適用スル時ハ事實上列

國ニ対シ機會均等ヲ承認セザルヲ得ザルニ至ルベク從テ該主義ハ一切ノ(ロ)式委任統治地域ニ適用セラルベキコトノ条件ヲ以テスルニアラザレバ帝国獨リ其委任統治地域ニ就キ之ヲ承認スルコトヲ得ズトノ論点ハ「ヒューズ」ニ於テ強硬ニ反対シ殆ド二時間ニ亘リ討議ヲ重テタルモ終ニ意見ノ一致ヲ見ズ同官ノ所論ヲ約言スレバ左ノ通り

(イ)日米通商條約ハ必ズシモ重要事項ニ関シ両國間ニ機會ノ均等ヲ保障スルモノニ非ズ譬へバ入國ノ自由ニ關シテハ條約ニ規定アルモ之ヲ以テ締約国一方ノ人民ガ他ノ一方ノ領土内ニ於テ其國民ト同一ノ自由ヲ有スルモノト解スペカラズ

(ロ)日本ハ日米新條約ニ依リ米國ニ対シテ或ル権利ヲ承認スルモ第三國ニ対シ同一ノ権利ヲ承認スルコトヲ要スル理由ナシ譬へバ英國ニ於テ之ニ均霑セムコトヲ希望スル時ハ日本ハ先づ英國又ハ其自治領ノ赤道以南委任

ト雖モ米國トシテハ赤道以北ニ付主張スル所ハ赤道以南ニ付テモ主張スル方針ナルコト言フヲ俟タズ

(ハ)機会均等主義ガ(ロ)式委任統治地域ニ適用セラルベキヤハ巴里會議ニ於テ日英間ニ意見ノ相違アリ自分ハ日本ノ主張ニ同情ヲ有スルモノナルモ今回日本ニ於テ英國ガ赤道以南ニ關シ日本ニ機會均等主義ヲ承認スベキコトヲ条件トシテ赤道以北ニ関シ日本ニ同主義ヲ承認スベシト言ハルハ畢竟日本ガ日米新條約ヲ利用シ間接ニ米國ヲシテ日英間ノ懸案ヲ解決セシメンコトヲ計ラルノ結果トナルベク之米國トシテ到底同意シ難キモノナリ

以上「ヒューズ」ノ意見ニ對シ本使ハ左ノ趣旨ヲ説明セリ

(イ)米國人民及船舶ノ為メ広ク來往ノ自由ヲ認ムルトキハ右重要事項ニ付大体日米両國ノ關係ヲ國民待遇ノ基礎ニ置クモノニシテ事實上両國間ニ機會ノ均等ヲ保障スルコトナルコトナシ

(ロ)法理論トシテハ第三國ガ日米新條約ノ規定スル米國ノ位置ニ均霑スルコトヲ得ザルハ明瞭ナリト雖モ一旦米

国ニ対シ認メタル權利ヲ英國ニ対シ拒否スルガ如キハ  
國際間ノ情誼トシテ容易ニ行ハレ得ベキコトニ非ズ  
(イ)赤道ノ南北ニ依リ委任統治条項ノ内容ヲ異ニシ日本獨  
リ讓歩ヲ重ネタルガ如キ外觀ヲ存スル時ハ本邦ノ国民  
的感情ニ不快ナル印象ヲ与フベシ

(乙)委任統治地域ニ一切ノ条約又ハ機会均等主義ノ適用セ  
ラルベキヤ否ヤノ問題ハ日本限リニ約束ヲ与フルコト  
ヲ得ベキモノニアラズ日本ハ日米間将来ノ問題ニ就テ  
ハ既ニ及ブ限り讓歩シテ懸案ノ解決ヲ計ルノ誠意ヲ表  
セルヲ信ズ之上他国ト共通ノ問題ニ関シ日本先づ独  
リ讓歩スペキコトヲ求メラルハ公平ナラザルニ似タ  
リ

右本使ノ説明ニ対シ「ヒューズ」ハ赤道以南其他一般委  
任統治ノ問題ハ今日ノ状況ヲ以テスレバ急ニ解決ノ途ナ  
キヤモ知ルベカラズ又其解決ノ多少遅延セリトテ國際時  
局ニ重大ナル影響ヲ及ボスノ虞アリトモ思ハレズ独リ  
「ヤップ」問題ニ至リテハ不幸ニシテ日米兩国間ニ一種  
ノ国民的感情ヲ刺戟スルコトトナリタルニ顧ミ速ニ同問  
題ヲ一掃スルノ緊切ナルヲ認メ之カ為ニハ當然同問題ニ  
リ

関連スル赤道以北旧独領諸島ノ委任統治問題全部ニ亘リ  
一樣ノ解決ヲ計ルノ必要ヲ生ズルニ至リタル次第ナル處  
日本政府ニ於テ(C)式委任統治地域ノ全体ニ就キ機會均等  
主義ノ問題解決セラル迄赤道以北ニ於ケル同主義又ハ  
日米諸條約ノ適用問題ニ就キ单独ニ協定スルコトヲ得ズ  
トノ主張ヲ固執セラル時ハ遺憾乍ラ全部問題ノ解決ヲ  
他日ニ讓ルノ外ナシト言ヒ暫ク默考ノ後若シ日本政府ニ  
シテ日本ノ委任統治地域ニ関シ日米諸條約ノ適用セラル  
ベキコト及米國人民及船舶來往ノ自由アルベキコトニ就  
キ米國ノ提案ニ同意セラルニ於テハ之ト同時ニ米國政  
府ヨリ本條約ニ対シテ一ノ公文ヲ日本政府ニ送リ他ノ(C)  
式委任統治地域ニ関シテモ米國ハ夫々其受任國ニ対シ  
一ノ提案ヲ為スノ意志ナルコトヲ言明スルモ可ナルベク  
之ヲ以テ本問題ノ解決ト認メラルコトヲ得ザルヤトノ  
意見ヲ提出シタルガ本使ハ同官発案ノ前記公文ナルモノ  
ハ日本ノ遭遇セル難闊ヲ解スニ足ルベントモ思ハレズト  
答ヘ尚篤ト討議ヲ尽シタルモ終ニ満足ナル結果ニ達セズ  
「ヒューズ」ハ頗ル悲観的ノ色ヲ示シタルヲ以テ本使ハ  
本問題ヲ留保シ他ノ論点ニ移レリ

三、今后委任統治条項ノ変更ガ米國ノ同意ヲ要ストノ米國  
案ハ「他日委任統治条項ノ変更セラル事アリトモ米國  
ニ於テ其変更ニ対スル同意ヲ明示セザルタメニ本件日米  
条約ニ掲タル各項ハ何等ノ影響ヲ受クルモノニアラズ」  
トノ意味ナルベク此意味ノ規定ナラバ帝国政府ニ於テ異  
議無キ旨本使ヨリ指摘シタルニ対シ國務長官ハ終ニ同意  
ヲ表シタリ

ルニアラズ單ニ日本ガ聯盟ニ提出セラル報告ノ複本  
(Duplicate ナル語ヲ用ヒ但シ「コピー」即チ謄本ノ意味  
ニハ非ズト附言セリ)ヲ日本ヨリ入手スルノミニテ満足  
スベシト述べ之亦討議ヲ重ネタルモ結局更ニ熟考スル事  
トナレリ

四、委任統治ニ関スル報告義務ノ問題ニ就テハ「ヒュー  
ズ」ハ前記第二項ニ述ベタルト同一ノ論旨ニ拠リ之ガ削  
除ニ反対シ米國ニ対シ何故ニ此ノ如キ簡単ナル義務ヲモ  
承認セラレザルヤトテ米國ガ戰勝ニ貢献セルノ事實ヲ根  
拠トスル從来ノ主張ヲ繰返セルニ付本使ハ右米國ノ立場  
ニ就テハ帝国政府ニ於テモ充分ニ其意義ヲ諒解スルモノ  
ニシテ必ズシモ右報告義務ヲ拒否セントスルニ非ズ唯帝  
國ノミ独リ先ンジテ此義務ヲ公然承認スルハ帝国ノ列國  
ニ対スル立場ニ於テ至難トスル所ナル旨ヲ反覆説明セリ  
國務長官ハ貴意ハ之ヲ詳知シタルモ本件ハ根本主義ノ問  
題ニ触ル所アルヲ以テ之ガ解決ヲ他日ニ讓ル事ハ米國  
トシテ同意シ難シ尤モ米國ハ特殊ノ報告ヲ日本ニ要求ス

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三八九

別電トモ在英大使ヘ電報シ同大使ヨリ在欧各大使及在蘭公  
司ノ意見書ヲ「ヒューズ」ニ手交シ置ケリ其全文別電第六九  
三号ノ通り

当日ノ会見ニ際シ本使ハ帝国政府ノ立場ヲ略記シタル一  
ノ意見書ヲ「ヒューズ」ニ手交シ置ケリ其全文別電第六九  
三号ノ通り

使の解釋や

(元 聞)

十四十八年三月原大使と内田外務大臣宛電報第十九回印  
十四十七年三月原大使と米国國務長官ハサウエー日本政府へ付  
場の詰留ヤル覚書

総長九回印

1. In continuation of the subject relating to the Island of Yap and to the other mandated islands lying north of the equator, the Japanese Government have carefully considered the Memorandum of the Secretary of State dated September 15, 1921, and are gratified to note that the positions of the two governments on the subject are now brought considerably closer to each other.
2. With regard to Paragraph 5 of the Secretary's Memorandum under review, the Japanese Government have no objection to the insertion, in the proposed American-Japanese Convention, of a clause to the effect that the existing extradition conventions between Japan and the United States shall apply to the Island of Yap. They are further ready to agree that they will

use their power of expropriation to secure to the United States needed property and facilities for the purpose of electrical communication in the Island, if such property or facilities can not otherwise be obtained. It is understood that the location and area of land to be so expropriated shall be arranged each time between the two governments, according to the requirements of each case.

3. Nor have the Japanese Government any objection to the proposals contained under headings (a) and (b) in Paragraph 6 of the Secretary's Memorandum, respecting provisions securing to the United States the benefit of the engagements set forth in the Mandate, and also guaranteeing certain privileges of missionaries.
4. Turning to the proposals under heading (d) of the same Paragraph with regard to the applicability of all existing treaties between Japan and the United States, and to the right of American citizens and vessels to have free access to all waters of the man-

dated territories, the Japanese Government are of the opinion that the acceptance of such proposals will practically lead to the recognition, in essential particulars, of the principle of equal opportunity for all nations. It will virtually imply that foreign nationals and vessels shall have access, on the same terms as Japanese, to the territories and territorial waters committed to Japan's charge. Japan is ready and willing to agree to the application of the principle of equal opportunity to the territories under her Mandate, provided that the other Mandatories of C class shall likewise agree to extend equal treatment to all nations in the territories under their respective Mandates. She feels that she can not in fairness be called upon, independently of the rest, to accept the arrangement by which the principle in question is to be put into effect only in her mandated territories, while it is denied in other territories of C Mandates.

5. It is proposed in the last paragraph of the memo-

randum of the Secretary of State that the terms of the Mandate which are to be recited in the proposed convention concern the United States and Japan, and of which the United States to have the benefit shall not be modified without the express consent of the United States. The Japanese Government understand it to be the meaning of this proposal that nothing contained in the new Americo-Japanese Convention shall be affected by any modification which may be made in the terms of the Mandate recited in the convention, unless and until such modification shall have been expressly consented by the United States. They are prepared to accept the insertion of a provision in this sense.

6. Finally the Secretary's memorandum suggests that Japan shall make an annual report to the United States similar to that which she is to make to the Council of the League of Nations. It is presumed to be the intention of the American Government to make a similar

suggestion to all the Mandatories, and the Japanese Government, while fully appreciating American points of view, do not feel themselves at liberty at this moment to enter into any binding engagement in the matter, apart from and in advance of other nations similarly placed. They are quite willing to take up the question with all the powers interested; and having regard to the desirability of an early conclusion of the proposed Americo-Japanese Convention, they desire that specific reference to the question of annual report regarding the Mandate will be withheld in the Convention.

Shidehara

三六〇 十月十九日 在米國幣原大使〔内田外務大臣宛（電報）〕

ヤップ島問題ノ件急議結方意見上申ノ件

同日幣原大使〔内田外務大臣宛電報第七〇〇一號〕

十月十八日附米國國務長官〔半公信〕回電

第七〇一號 (十月二十一日接受)

又往電第六九一號米国人ノ有スル既得利益ノ例ニハト J. V. Melander 及 A. V. Herman ノ所有スル Coconut Plantation 拙 American Board for Foreign Missions カ 「タキナ」及「マニシナ」群島及「所有スル土地其他」ノ財産アル眞別、國務長官〔半公信〕テ通知シ来シ、ノ在歐州各大使及「在蘭公使」転電ヤリ

(電 翻)

十四十九日幣原大使堀内田外務大臣宛電報第七〇〇一號  
十四十八日附米國國務長官〔半公信〕回電

第七〇〇一號

While noting with pleasure that the Memorandum of the Japanese Embassy under date of the 17th instant, in reference to the Island of Yap and other mandated islands north of the equator, indicates a concurrence in other respects with the views of the American Government, it is nevertheless noted with regret that there is an important divergence with respect to the two points hereinafter set-forth.

1. In Paragraph 4 of the Embassy's Memorandum,

ア ヤップ島ハ地位及田独逸海底電線専任問題1号 三六〇

往電第六九一號〔関〕

四〇九

十月十八日附テ國務長官〔内田外務大臣〕別電第七〇〇一號ノ通リ回答電書ヲ送附シ來レリ要ヘルニ今ヤ両國間意見ハ差異ハアト我ガ委任統治地域ニ日本諸現行條約ヲ適用スル事及ビ米國ノ人民及ビ船舶ガ右地域内ニ自由ニ來往スル事並工帝國政府ニ於テ委任統治年報副本ヲ米國政府ニ提出スル事ニ付新條約中規定ヲ設クキヤ否ヤノ点ニ他ナラズ又ニ閣ヘル本使ノ意見ハ既ニ往電第六六〇号稟申ノ通りニシテ此際帝國政府ニ於テ其ノ主張ヲ固執セラル限リ本使ノ微力ヲ以テシテハ最早ヤ本問題ノ急速解決ニ望ラ断ツノ止ムラ得ザルニ至ハリ惟フニ斯ノ如キ論点ニ拘泥シテ本問題ノ解決ヲ遲滞スルニ於テハ復世論ノ沸騰ヲ免レザルベク太平洋會議ヲ眼前ニ控ヘタル今日大局ノ形勢ヲ益々不利ナラシムル所ノナラズ米國ハ日本以外ノ受任國ニ對シテモ同一ノ主張ヲ固執スベキ事明瞭ナルガ故結局ハ同一ノ帰着点ニ折合フノ他無カルベキ事推測ニ難カラズ此際体面論ニ重キラ置キテ自然ニ有害無益ノ事局ヲ招クハ遺憾ニ堪ヘザルニ付帝國政府ニ於テ斷然本問題ノ急速解決ヲ計ラレンノ事ヲ切望ス

何分ノ儀大至急御回調ヲ請フ

it is indicated that the Japanese Government finds difficulty in accepting the proposal that the existing treaties between the United States and Japan should apply to the islands over which Japan seeks to exercise a Mandate, as it would "practically lead to the recognition, in essential particulars, of the principle of equal opportunity for all nations"—a principle which Japan would be ready and willing to apply, provided that other class "C" Mandatories should adopt the same principle.

The Government of the United States cannot but feel that this view rests upon a confusion between two ideas which, whatever their points of similarity, are essentially distinct. The question of equality of opportunity is not in fact at issue. Save as the interests of the United States may be involved, it is not for this government to discuss the terms or the effect of the understanding upon which Japan accepted the mandate of December 17, 1920, for the islands north of the

四〇九



## 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九二

日奮闘昨夜漸ク信任投票ニ勝ヲ制シ米国行決定セルニ付今二十七日面会シタルニ同氏ハ「シレジア」問題ニ関スル理事会ノ功勞ヲ感謝ストテ懇懃ナル挨拶ノ後華盛頓ニ行クニ付テハ仏國ノ利害ハ第二位ニ属シ大シタル事ナキモ氣ニナルハ日米ノ関係ナリ及ハス乍ラ自分ハ此間ニ立チ双方ノ円満ナル妥協ヲ講スル為メ如何ナル労ヲモ辞セサル可シ何カ承リ置ク事（脱）間ハレタルニ付本使ハ總理ノ好意ヲ謝シタル上列国共同問題ハ別トシ日米関係トシテハ第一ハ山東問題ナルカ之トテ厄介ナルハ米国当局ニ非ス支那当局ナリトシ最近日支往復ノ大体ヲ説明シ第二ハ「ヤップ」問題ナルガ之ハ大体妥協ニ達シ残ルハ重要ナラサルモ帝国政府ハ日本单独ニテ回答スヘキニ非ストシテ控へ居ルモノ即チ委任統治条項変更ト年報送付ノ場合ノ二点アルヲ告ケタルニ「ブリアン」氏ハ第一支那ノ回答ハ非常識極リ支那ハ無政府状態ナリ右ハ差シ当リ貴国ニトリ不利ニ非ザルベシ第二委任統治ニ関スル末段ノ両点ハ貴論ノ如ク英仏ニモ関係アリ貴国政府ノ思慮深キヲ謝スト述ヘタル後今ヤ世界ハ日仏英米ノ四国ニ依ツテ立ツト言ヒ得可ク伊国ハ大国ノ中ニハ相違ナキモ其ノ利益ハ限局セラレ世界的ニ非ス此ノ四国ノ

内日仏ハ軍国ナリトノ謬見ヲ抱ク者アルモ之ハ実状ヲ知ラサル者ノ言ノミ再度日米ノ間ニ仲介ノ機会アラバ喜ンテ労ヲ執ルヘシト繰リ返セリ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

## 三九二 十一月十二日 内田外務大臣ヨリ

在米國幣原大使宛（電報）

### ヤップ島問題ニ關シ廟議決定ノ上電訓スペキ

#### ノ措置訓令ノ件

##### 別電

同日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第六三一号

トシテ日本側応酬態度ノ件

#### 第六三〇〇号

##### 貴電第七〇二号ニ関シ

帝國政府ハ華府會議ニ臨ムニ先チ日米両国間ノ懸案トシテ

両国ノ民心ヲ刺戟シタル本問題ヲ解決シ以テ一般雰囲気ヲ良好平靜ナラシメシコトヲ庶幾シタル次第ナル處今ヤ貴官ノ御尽力ニ依リ彼我ノ見解著シク接近シ帝國政府ノ公明ナ

ル態度モ漸次米国人間ニ諒解セラルニ至リタルハ帝國政府ノ深ク欣幸トスル所ナリ而シテ今日両国政府間ニ未タ意見ノ一致ヲ見サルニ問題ハ帝國トシテハ主義上異議アル次

第二ハアラサルモ広ク他ノ受任国ニモ関係ヲ有シ帝國单独ニテハ實行シ得サルモノニ属シ且本件交渉ニ於ケル帝國ノ態度ハ米國ニ對シ聯盟國ト均等ノ地位ヲ認ムルト同時ニ日本モ亦他ノ受任國ト均等ノ地位ヲ保持セントスルニ外ナラスシテ極メテ穩當公正ノモノタリ本件解決方ニ関スル本大臣限リノ腹案トシテハ本件ハ仮令華府會議ニ上議セラルルモ我立場ハ何等不安ヲ伴ハスト思考セラルルノミナラス同会ノ開会ヲ見タルノ今日ニ當リ帝國独リ米國ニ對シテ他國ニ關係アル本問題ニ付率先シテ讓歩スルコトハ此際之ヲ避け關係諸國ト協議ノ上措置スルヲ適當トスヘク認メラルルトコロ本問題ニ付率先シテ讓歩スルコトハ此際之ヲ避ケ關係諸國ト協議ノ上措置スルヲ適當トスヘク認メラルルモ附議シタク当地政情ノ許ス限り速力ニ廟議ヲ確定シ何分ノ儀電訓ノ旨ナルモ万一米國政府ヨリ急速ニ解決ヲ求メ来ル場合ニハ右ノ事情御含ノ上取敢エス別電第六三一号ノ趣旨ニ依リ応酬セラレシ

#### （別電）

## 七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九二

## 四四〇

内日仏ハ軍国ナリトノ謬見ヲ抱ク者アルモ之ハ実状ヲ知ラサル者ノ言ノミ再度日米ノ間ニ仲介ノ機会アラバ喜ンテ労ヲ執ルヘシト繰リ返セリ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

内日仏ハ軍国ナリトノ謬見ヲ抱ク者アルモ之ハ実状ヲ知ラサル者ノ言ノミ再度日米ノ間ニ仲介ノ機会アラバ喜ンテ労ヲ執ルヘシト繰リ返セリ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

## 四四一

問題トハ自ラ別個ノ一問題ニシテ後者ハ全ク機会均等主義ノ適用ノ一手段ニ外ナラスト思考ス而シテ之ヲ米国ニ許容シ乍ラ他国ニ拒否スルハ往電第五〇四号ニモ述ヘタル如ク帝国政府從来ノ方針ニ鑑ミ其ノ実行ハ仮令法理上不可能ナラストスルモ事實上極メテ困難トスル所ナルノミナラス一国ニ認メテ他国ニ認メサル如キ差別待遇ノ例ヲ自ラ開クコトハ帝国從来ノ主張ニ照シ甚シク不利トル所ナリ

三、米国政府カ今回締結スヘキ日米新條約ニ於テ委任統治地域ニ關シ何国ヨリモ劣ラサル権利利益ヲ要求スルハ頗ル諒トスヘキモ帝国政府モ亦其ノ受任地ニ於テ他国ト異ナリタル加重サレタル義務ヲ負担スルハ洵ニ困難トスル所ニシテ右ハ單純ナル体面論ニ止マラス若今帝国政府多年ノ主張タル機会均等問題ニ付不對当ナル地位ヲ甘受スルニ於テハ帝国将来ノ地位ニ累ヲ貽スナキヲ保セサルナリ

四、要スルニ本問題ニ對スル日米兩國政府見解ノ相違ハ両國ノC式委任統治条項ニ對スル立場ノ相違ニ基クモノナリ帝国政府ハ曩ニ聯盟理事会ニ於テ決定セラレタル統治条項ニ拘束セラレ居ルヲ以テ其ノ見解ノ根拠ヲ該統治条

項ニ求ムルノ外ナキニ反シ米国政府ハ該統治条項ヲ承認シ居ラサルヲ以テ全ク自由ナル立場ニ其ノ立論ノ基礎ヲ置ケルモノト認ム從テ當政府ノ態度ハ各自國ノ関スル限り何レモ充分ナル根底ヲ有スルモノナルヲ以テ直ニ一ヲ以テ他ヲ排スルハ公平ナリト言フヲ得ス両政府ノ見解ヲ調節スルニ最適當且有効ナル手段ハ關係諸國ノ間ニ於テ協定スルノ外ナシト思考ス

#### ヘキ旨ヲ予メ約束スルニ同意セラレテ差支ナシ

六、第二ノ問題タル報告ノ件ニ付テハ帝国政府ハ米国政府カ他ノ關係諸國ト等シク其ノ受領及審査ニ関与セントスル趣旨ニハ反対ナルニアラス唯報告ノ受領及審査ハ聯盟規約第二十二条ニ明定セル如ク理事会ノ權限ニ属シ其ノ実施方法トシテ理事会ノ下ニ受任國及非受任國民ヨリ成ル常設委員会ヲ組織シ年報ノ受領審査及委任ノ实行ニ関スル一切ノ事項ニ付理事会ニ意見ヲ具申セシムルノ仕組トナリ居リ理事会及常設委員会ニ於テハ受任國ハ何レモ

理事又ハ委員ヲ派遣シテ他ノ委員等ト共同シテ公平ニ審議スルノ機會ヲ有スルモノニシテ米國覺書ニ記載セルカ如ク直接ニ各關係國ノ審査ヲ受クルモノニアラサルヲ以テ此点ニ関スル米國側ノ要求ニハ帝国限リ無条件ニ承認シ得サル立場ニ在リ尤モ米國カ國際聯盟ニ加入セス從テ理事会及常設委員会ニ其ノ代表ナキ為報告審査ノ機會ヲ有セサル事情ハ帝国政府ニ於テモ之ヲ諒トスル所ナルヲ以テ別ニ米國ノ代表者及關係國ノ代表者ヨリ成ル特別委員会ヲ組織シ共同シテ報告ノ受領審査ニ當ラシムルモ亦一案ナリト思考スルモ兎ニ角日米新條約中ノ規定トシテ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九三

#### ハ他ノC式受任國カ各其ノ理事会ニ提出スル年報ノ副本

ヲ米国ニ提出スルコトニ同意スル場合ニハ帝国ニ於テモ同様ノ手続ヲ為スヘキコトヲ明記スルニ異存ナシ

七、我受任地域ニ於ケル「ビュース」申出ノ米国人ノ既得利益ハ之ヲ尊重スルニ異議ナシ

#### 三九三 十一月十八日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

#### ヤップ島問題ハ日米限リニテ急速解決ヲ得策

#### トスル旨意見上申ノ件

第七三九号（大至急） （十一月十九日接受）

十一月十六日國務長官ハ本使ニ向ヒ「ヤップ」問題至急解決ニ至ラザルニ於テハ不得已之ヲ今回ノ會議ニ提出セザルヲ得ザル次第ナル處同問題ハ既ニ微細ノ点ヲ除キ両國ノ意見一致シ居ル次第ナルヲ以テ出来得ベクンバ之ヲ會議ノ問題トセズ日米兩國間ニ於テ解決シ以テ両國ノ善解ヲ外部ニ示スコトトシタシトノ意味ヲ説ベタリ尚十五日夜白耳義大使晩餐會ニ於テ仮国大使ト談話ノ際同問題ニ触レタルヲ以テ本使ハ日米兩國間ニ尚意見相違セル点ニアリ何レモ日米ノミノ關係ニ非ズ從テ日米ノミニテ決定スルコトハ他國ニ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九四

四四四

対スル義理合ヒ上為シ得ザル次第ナル旨ヲ述ベタルニ同大  
使ハ既ニ國務長官ヨリ事情ヲ聞キ居ルモノノ如ク日本政府

ニ於テ他国ノ感情ヲ顧慮セラルハ尤ノ次第ナルモ太平洋

ノ問題ニ付日米間限リニテ協定セラルモ仏國ノ関スル限

リ何等異存ナキ旨答ヘタリ又同夜國務長官ノ内話ニ依レバ

大統領（國務長官多忙ノ為メ「フレッチャ」氏之ニ代リ

會議ノ経過ヲ大統領ニ報告スルノ任ニ當リ居ル由ナリ）ハ

今回會議ニ於テ日米両国ハ直チニ意見ノ衝突ヲ來スベシト

思考シ居タルモノ少ナカラザリシニ拘ラズ開会後數日ニシ

テ斯ノ如キ説ガ全然根拠ナク日米ハ却テ提携事ニ當リ得ル

コトヲ世間ニ表明シ得タルヲ深ク喜ビ居ラル趣ナリ想フ

ニ「ヤップ」問題ガ此際會議ノ問題トナルトキハ目下懸案

トシテ残レル二点ノミナラズ問題ノ全部ニ亘リテ説明ヲ加

ヘ再議スルノ必要ヲ生ズベク其ノ討議中ニハ支那側ヨリ彼

は面倒ナル申出ヲ為スベキハ想像ニ難カラズ旁々同問題ハ

日米限リニテ急速解決スルコト得策ト認メラレ加藤徳川両

全權ニ於カレテモ全然同意見ナルニ付未決ノ二問題ニ付テ

モ此上我方ノ意見ヲ固執セザルコトトシ大至急同問題ヲ解

決スルコトニ廟議御決定ノ上至急御訓令アル様致シ度シ

在欧洲各大使ヘ転電セリ

三九四 十一月二十二日 在米國幣原大使宛（電報）

ヤップ島問題ニ關シ日米間ニ意見一致ヲ見サ

ルニ点ニ對スル日本政府ノ見解決定ノ旨通報

ノ件

會議第四五号

往電第六三〇号及貴電第七三九号ニ關シ

帝国政府ハ「ヤップ」島問題ニ関連シテ生シタル委任統治  
問題ニ關スル日米間懸案ニ付慎重ニ廟議ヲ尽シタル處未タ

日米両国間ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラサル二点ニ對スル帝

国政府ノ見解左ノ通り決定シタリ

第一、帝国ノ受任地域ニ對スル機會均等主義適用ノ問題ニ  
付テハ帝国ニ於テ他ノ一切ノC式委任統治國ト均等ノ地位  
ヲ保持セムコトハ其ノ重キヲ置ク所ナルト共ニ帝国政府ノ  
立場トシテハ一般C式委任統治國ニ共通ナル問題ニ付帝国  
獨リ米國トノ間ニ條約ヲ以テ其ノ義務ヲ負担セシメラルル  
コトハ飽ク迄之ヲ避ケ關係諸國ト協議ノ上措置スルヲ適當  
ト認メタリ勿論本問題ヲ日米両国間ニ於テ至急解決セムト

「十一月二十四日閣議決定（追認）」

スル國務長官ノ意見ハ帝国政府ノ全然同意スル所ニシテ帝  
国政府カ今日迄米国政府ノ希望ニ對シテ出来得ル限り之ヲ

應諾シタルモ亦実ニ此ノ趣意ニ外ナラス依テ貴官ハ往電第

六三一号ノ趣意ニ依リ此ノ際日米両国間ニ本件ノ解決ヲ図

ルコトニ努メラレタク若シ米国政府ニ於テ之ヲ承諾スル見

込ナキニ於テハ止ムヲ得ス米国側ト一応ノ打合ヲ遂ケタル

上適当ノ機会ニ於テ本問題ヲ關係國側ノ協議ニ付スルノ措

置ヲ採ラレ本件ニ關シ從来帝国ノ採レル公正ナル態度ヲ聞

明スルト共ニ帝国ノ主張ノ存スル所ヲ披瀝シ以テ円満ニ本  
件ヲ解決スルコトニ努メラレタシ

第二、行政年報提出ノ問題ニ關シテハ第一ノ問題ト異リ其

ノ性質上飽ク迄他ノC式委任統治國ト同一ノ地歩ニ立ツヘ

キモノナルヲ以テ往電第六三一号第六項ノ趣旨ニ依リ第一

項ト同様適宜之カ解決ヲ計ル様御措置アリタシ

以上加藤徳川両全權ヘモ御伝致アリタク華府會議ニ對シ全  
權ニ与ヘラレタル訓令ハ前記ノ程度ニ於テ変更セラレタル

モノト承知セラレタシ

（欄外註記）

「十一月二十二日外交調查會ニ於テ決定」

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九五

三点ニ帰シ第一点條約ノ適用ニ付テハ日本ニ於テ之ヲ南洋

四四五

諸島ニ適用セラルルモ何等不都合ナカルベシト忠考スルノ  
 ミナラズ差当リ赤道以南委任統治トハ全ク関係ナキ問題ナ  
 リ（日本モ米国モ濠州新西蘭ニ適用スベキ条約ヲ有セズ）  
 又年報ノ件ニシテモ米国ハ日本ノ立場ヲモ考量シテ特ニ副  
 本ナル文字ヲ使用シ居ル次第ニテ之亦極メテ微細ノ問題ナ  
 ルガ故ニ残ル所ハ米国人民及船舶ノ自由出入ノ問題ノミナ  
 リ今ヤ本件ハ急速解決ノ必要アルノミナラズ今迄日米間ノ  
 ミニテ協議ヲ進メ来リタルニ今更之ヲ會議ノ問題トシ又ハ  
 英国ヲ加ヘテ三國間ニ之ガ商議ヲ始ムルガ如キハ努メテ之  
 ヲ避ケ度キニ依リ米国側ニ於テモ最後ノ点ハ重ネテ考量ス  
 ルコトスベキニ付英國側トノ會議ハ暫ク之ヲ見合セ置ク  
 ロトーン度キ旨ヲ答ヘタリ

越エテ十二月五日國務卿ハ佐分利ノ來訪ヲ求ム重ネテ本件  
 ヲ日米間ニ於テ急速ニ解決スルノ必要ヲ述べタル上

一、赤道以南諸島問題ト以北諸島問題トハ現在ニ於テハ同  
 様ノ状態ニアラズ乃チ日米両国ハ濠州新西蘭トハ通商条約  
 ヲ有セザルガ故ニ赤道以南委任統治地域ニハ条約適用ノ問  
 題起ラズ畢竟現在ノ問題ハ日本ノ其ノ委任統治地域ニ於ケ  
 ル条約上ノ義務ハ日本ガ完全ナル主権ヲ有スル地域ニ於ケ

ルヨリモ薄弱ナリヤ否ヤトハフニ歸着ス若シ日本政府ニ於  
 テ希望セラルルナラバ米国ハ日米新条約調印ノ際将来米國  
 ガ濠州及新西蘭ト通商条約ヲ締結スル場合ハ之ヲ赤道以南  
 委任統治地域ニ適用スベキコトヲ要求スベキ旨ヲ記載スル  
 「ハート」ヲ作成スルモ差支ナシ

二、年報ニ付テハ米国ハ何故ニ其ノ副本ヲ受領シ得ザルカ  
 解スルニ苦シム米国ハ國際聯盟ニ加入セザルモ他ノ聯盟國  
 ニ劣ラザル待遇ヲ受クベキヲ至当トス  
 「ハート」ヲ作成スルモ差支ナシ

三、米国人民及船舶ノ自由出入ニ関シテハ日本ニ於テ日米  
 条約ヲ委任統治地域ニ適用シ且ツ之等地域ニ於テ米国人民  
 及船舶方國際情誼ニ依リ普通ノ取扱ヲ受ケ得ルコトノ了解  
 ノ下ニ日米新条約中ニハ自由出入ニ関スル特別ノ規定ヲ設  
 ケザルコトトシ此ノ他ニ対スル米国從来ノ要求ハ之ヲ撤回  
 スベキ旨ヲ述べ同日會見後直ニ右ノ趣旨ヲ認メタル書面ヲ  
 送付シ来レリ（要点別電第一六一號ノ通り）

右ノ次第ニテ米国ハ双方ノ間ニ意見ノ一致ヲ見ザリシニ点  
 中最モ我ニ取り面白カラズト認メラシ米国人民及  
 船舶ノ自由出入ノ件ヲ讓歩スルコトトナリシガ米国側ノ右  
 讓歩ハ全ク四國協商前本件ヲ日米両國間ニ締結シテ両國間

係ノ良好ナルコトヲ外部ニ示シ以テ同協商締結ノ準備トナ  
 サントスルノ趣旨ニ出デタルモノニシテ此ノ上米国側ト論  
 議ヲ重ヌルモ得ル所ナカルベキヲ信ズルノミナラズ現下ノ  
 大勢上本件ハ大至急解決ノ要アリト認ムルニ付我方ニ於テ  
 モ米国側ノ讓歩ト貴電御訓令後一方太平洋問題ニ対スル局  
 面ノ展開トニ鑑ム本件ハ之ニテ交渉ヲ打切り此ノ際「ヤッ  
 パ」ニ閑スル一切ノ解決ヲ計ルコトニ御詮議ヲ仰グ依テ御  
 回訓ヲ請フ  
 別電ト共ニ英仏へ轉電セリ  
 本電接受ノ口時電報アリタシ

#### （別 電）

十一月七日華府會議代表発内田外務大臣宛電報會議第1六一號  
 米国政府ノ讓歩ニ閑ベル「ハート」

#### 會議第1六一號（大解説）

（註釈）The situation of the islands south of the equator  
 is not analogous to that of the islands in question. The  
 United States has no commercial treaties which apply to  
 Australia and New Zealand, and the information in its  
 possession leads it to the belief that Japan has none.

→ ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 川九五

There can be no question regarding the extension of  
 any existing American or Japanese treaties to mandat-  
 ed islands south of the equator. The sole issue between  
 the United States and Japan, involved in the proposal  
 to recognize in the mandated islands the treaties exist-  
 ing between the two countries, is whether the treaty  
 obligations of the Japanese Government are to be deem-  
 ed less binding in the islands in question, which are  
 to be under the administration of Japan, than in the  
 territories which it possesses in full sovereignty.

Assuming that American nationals and vessels may  
 be assured of the usual comity in visiting the harbors  
 and waters of islands in question, the United States  
 will not insist upon any special arrangement upon the  
 matter, if the treaties of the United States with Japan are  
 recognized as applicable to these islands. Should it be  
 desired by the Japanese Government, the Secretary  
 of State would be willing to give a note, at the time of the  
 signing of the Convention, stating that it in the future

七 ャッパ島ノ地位及旧独逸海底電線處分問題一件 三九六 三九七

四四八

the United States should have occasion to make any commercial treaties applicable to Australia and New Zealand, it would seek to obtain such an extension of them as would include the islands south of the equator.

2. With respect to the annual report, there would seem to be no reason why the United States should not receive a duplicate, as proposed. While the United States is not a member of the League of Nations, it is to be hoped that the Japanese Government will recognize that this Government is no less entitled to consideration than are the members of the League.

英仏<sup>ク</sup>転電セリ

Zenken

三九六 十一月七日 在華盛頓華府會議代表ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ島問題ノ早急解決ニ關ハ請訓ノ件

會議第一六二号(大至急極秘) (十二月九日接受)

往電第一六〇号稟申「ヤップ」問題ノ解決ハ四國協商トノ關係上一刻ヲ争フ事情ト相成居ルニ付折返シ御電訓ヲ請フ

國務長官ノ申出ヲ認レヤップ島問題解決取計

方訓令ノ件

會議第一四九号(大至急)

貴電第一六〇号(闕)

「ヤップ」及南洋諸島委任統治問題ニ付テハ帝国政府ハ四國協商ノ成立ヲ促進セシメムトスル熱心ナル希望ヲ有スルヲ以テ此際円満ニ本問題ヲ解決スルノ有利ナルヲ認メ大体貴電第一六一號國務卿申出ヲ容ルコトニ決定セリ依テ貴官ハ左ノ趣意ニ依リ本件ヲ解決スルコトニ御取計アリタシ

一、貴電第一六一號中第一前段日米間通商條約ヲ我受任地  
ニ適用スルコトハ異議ナシ

二、同第一後段受任地ニ於ケル米国人民及船舶ノ自由出入問題ニ關シテハ帝国政府ハ米国人民及船舶ニ対シテ usual comityヲ与ハルコトニ異議ナシ尤「ヤップ」問題ニ關スル日米新協定中ニハ之ヲ規定セサルコトトシタルコト緊要ト認ムルニ付ニニ同意セラレタキ旨ヲ申出タリ元來此ノ種ノ発表ハ貴地及当地ニ於テ同時ニ之ヲ為スヲ適當トスヘキハ勿論ナルモ米国當局ガ四國條約批准ノ關係上世論ニ特別ノ注意ヲ払ヒ居ル事情ニ鑑ミ急速発表ハ已ムラ得ナルモノト認メ之ニ同意フ与ヘタルニ付右御諒承ヲ請フ

本電英仏大使ニ転電アリタシ

(欄外註記)  
「十一月十日閣議及外交調査会ニ於テ決定ノ上同日発電」

三九八 十二月十一日 在華盛頓華府會議代表ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ヤップ交渉結了ノ急速発表ヲ國務長官申出!!

対シ同意ヲ与ヘタルニ付諒承方裏請ノ件

別 電 同日華府會議代表発内田外務大臣宛電報會議第  
一〇六号

右案表文

會議第一〇五号(至急) (十一月十四日接受)

貴電會議第一四九号十日(土曜日)午後接到早速口頭ヲ以テ其ノ内容ヲ國務長官ニ通告シ更ニ十一月覺書ニ認メテ之ヲ送付セル處「ヨーク」ヘ元來此ノ問題ハ米国人ノ非常ニ神経ヲ惱マシ居ル所ナルヲ以テ「ヤップ」交渉結了ノ趣

内田外務大臣ヨリ  
在華盛頓華府會議代表宛(電報)

三九七 十二月十日

四四八

ガ外間ニ知ラルルヤ否ヤ直ニ種々ノ臆測ヲ為スモノアルヘキニ付一刻モ速ニ進テ交渉ノ結果ヲ発表スルノ必要アリ且「ヴィヴィニアニ」明十三日出發ノ為急ニ明朝四國條約ニ調印スルコトトナリタルニ付テハ是非トモ今日中ニ発表スルコト緊要ト認ムルニ付ニニ同意セラレタキ旨ヲ申出タリ元來此ノ種ノ発表ハ貴地及当地ニ於テ同時ニ之ヲ為スヲ適當トスヘキハ勿論ナルモ米国當局ガ四國條約批准ノ關係上世論ニ特別ノ注意ヲ払ヒ居ル事情ニ鑑ミ急速発表ハ已ムラ得ナルモノト認メ之ニ同意フ与ヘタルニ付右御諒承ヲ請フ

在歐州各大使在蘭公使ヘ転電セリ

(別 電)

十一月十一日華府會議代表発内田外務大臣宛電報會議第  
一〇六号

ヤップ島等ニ関ベル協定要領発表文

會議第一〇六号 Urgent

The United States and Japan have reached an agreement with respect to the Island Yap and other mandated islands in the Pacific Ocean north of the equator. Negotiations have been in progress since last

七 ャップ島ノ地位及旧独逸海底電線處分問題一件 三九八

四四九

June and the terms of settlement were almost entirely agreed upon before the meeting of the Conference of Limitation of Armament. The last steps in the negotiation have now been taken. The points of the agreement are as follows.

- (1) It is agreed that the United States shall have free access to the Island Yap on a footing of entire equality with Japan or any other nation in all that relates to the landing and operation of the existing Yap-Guam cable or of any cable which may hereafter be laid by the United States or its nationals.
- (2) It is also agreed that the United States and its nationals are to be accorded the same rights and privileges with respect to the radiotelegraphic service as with regard to the cables. It is provided that so long as the Japanese Government shall maintain on the Island Yap an adequate radiotelegraphic station co-operating effectively with the cables and with other radio stations on ships and shore without discriminatory

exactions or preferences, the exercise of the right to establish radiotelegraphic stations at Yap by the United States or its nationals shall be suspended.

- (3) It is further agreed that the United States shall enjoy in the island Yap of the following rights, privileges, and exemptions in relation to electrical communications.

- (a) Rights of residence without restriction and rights of acquisition and enjoyment and undisturbed possession upon the footing of entire equality with Japan or any other nation or their respective nationals of all property and interests, both personal and real, including lands, buildings, residences, offices, works, and appurtenance.
- (b) No permit or license to be required for the enjoyment of any of these rights and privileges.
- (c) Each country to be free to operate both of its cables either directly or through its nationals including corporations or associations.

(d) No cable censorship or supervision of operation or messages.

(e) Free entry and exit for persons and property.

(f) No taxes, port, harbour or landing charges or exactions, either with respect to the operation of cables or to property, persons or vessels.

(g) No discriminatory police regulations.

(4) Japan agrees that it will use its power of expropriation to secure to the United States the needed property and facilities cannot otherwise be obtained. It is understood that the location and area of land to be so expropriated shall be arranged each time between the two Governments, according to the requirements of each case. The American property and facilities for the purpose of the electrical communication in the island are to be exempt from the process of expropriation.

(5) The United States consents to the administration by Japan of the mandated islands in the Pacific Ocean, north of the equator, subject to the above provisions

with respect to the Island Yap and also subject to the following conditions.

(a) The United States is to have the benefit of engagements of Japan set forth in the mandate particularly those as follows; (Mandate Articles 3 and 4 inserted here)

(b) With respect to missionary it is agreed that Japan shall insure the complete freedom of conscience and the free exercise of all forms of worship which are consonant with public order and morality and that missionaries of all such religions shall be free to enter the territory and to travel and reside therein, to acquire and possess property, to erect religious buildings and to open schools throughout the territories. Japan shall, however, have a right to exercise such control as may be necessary for the maintenance of public order and good government and to take all measures required for such control;

rights will be maintained and respected;

(d) It is agreed that treaties between the United States and Japan now in force shall apply to the mandated island;

(e) It is agreed that any modifications in the Mandate are to be subject to the consent of the United States and further that Japan will address to the United States a duplicate report of administration of the Mandate.

A formal convention embodying those provisions will be drawn up for signature and will be subject to the ratification by the Senate.

Zenken

三九九 十一月十五日 外務省公表

日本國及亞米利加合衆國ハ「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ

太平洋委任統治諸島ニ関シ「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ日本國及亞米利加合衆國ハ「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ本年六月以来進捗シ右解決ノ条件ハ軍備制限會議前ニ既ニ大体意見ノ一致ヲ見タル處該商議ハ今回終局的ニ落着シタリ其ノ協定ノ諸点ハ左ノ如シ

一合衆国ハ現存「ヤップ」「グアム」線又ハ将来合衆国若ハ其ノ國民ノ敷設スルコトアルヘキ海底電線ノ陸揚及運用ニ関スル一切ノ事項ニ付日本國又ハ其ノ他一切ノ國ト全然同等ノ地歩ニ於テ「ヤップ」島ニ自由ニ出入シ得ヘキコト

要領公表ノ件

公表第十一号

大正十年十一月十五日 公表

〔1〕合衆国ハ「ヤップ」島ニ於テ電氣通信ニ関シ左ノ権利特權及免除ヲ享有スルコト

(1) 無制限ノ居住権及日本國若ハ其ノ他ノ國又ハ其ノ各国民ト全然同等ノ地歩ニ於テ土地建物住居事務所工場及附屬物ヲ含ム動産不動産等一切ノ財産及利益ノ取得享有及占有ノ権利

(2) 右権利及特權ノ享有ニ付許可又ハ認可ヲ要セサルコト

(3) 両國ハ自ラ又ハ自国民(公社又ハ組合ヲ含ム)ニ依リ其ノ海底電線ノ両端ヲ運用スルノ自由ヲ有スヘキコト

〔2〕海底電線ノ運用又ハ通信ニ付検閲又ハ監督ヲ受ケサルコト

(4) 人及財産ノ自由出入

〔3〕海底電線ノ運用ニ関シ又ハ財産、人若ハ船舶ニ関シ租稅港湾使用又ハ陸揚ニ關スル課金ヲ徵取セサルコト

(4) 差別的警察法規ヲ設ケサルコト

〔5〕其他ノ方法ヲ以テシテハ「ヤップ」島ニ於テ電氣通信ノ目

的ノ為必要ナル財産又ハ便益ヲ得ル能ハサル場合ニヘド

本国ハ公用徵取權ヲ行使シテ之ヲ合衆国ニ保有セシムルハ其ノ同意スルコト尤モ右ニ依リ徵取セラルヘキ土地ノ

七 ヤップ島ノ地位及旧独逸海底電線処分問題一件 三九九

日本國及亞米利加合衆國ハ「ヤップ」島及赤道

以北委任統治地域ニ関スル

要領

日本國及亞米利加合衆國ハ「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ本年六月以来進捗シ右解決ノ条件ハ軍備制限會議前ニ既ニ大体意見ノ一致ヲ見タル處該商議ハ今回終局的ニ落着シタリ其ノ協定ノ諸点ハ左ノ如シ

一合衆国ハ現存「ヤップ」「グアム」線又ハ将来合衆国若ハ其ノ國民ノ敷設スルコトアルヘキ海底電線ノ陸揚及運用ニ關スル一切ノ事項ニ付日本國又ハ其ノ他一切ノ國ト全然同等ノ地歩ニ於テ「ヤップ」島ニ自由ニ出入シ得ヘキコト

〔1〕合衆国及其ノ國民ハ無線電信業務ニ関シ海底電線ニ関スルノ同様ノ権利及特權ヲ付与セラルヘキコト但シ日本國政府ニ於テ「ヤップ」島ニ適當ナル無線電信局ヲ備ヘ差別的料金又ハ順位ヲ附スルコトナク海底電線並船舶及海岸ニ在ル他ノ無線電信局トノ間ニ有効ニ通信ヲ接続スル限り合衆国又ハ其ノ國民ノ「ヤップ」島ニ於テ無線電信局ヲ設置スルノ権利ノ実行ヲ停止スヘキコト

ニ陸海軍根拠地又ハ築城ヲ建設スルコトヲ得ス

(d) 宣教師ニ関シテハ日本國ハ公ノ秩序及道徳ニ反セサル

限り良心ノ完全ナル自由及各種礼拝ノ自由執行ヲ保障

シ且右一切ノ宗教ノ宣教師ハ其ノ地域ニ入り旅行シ又

ハ居住シ若ハ同地域内ニ於テ財産ヲ取得占有シ宗教的

建物ヲ建設シ及学校ヲ開設スルノ自由ヲ有スヘキコト

ニ同意スルコト但シ日本國ハ公ノ秩序及善政ヲ維持ス

ルニ必要ナル監理ヲ行ヒ及右ノ監理ニ必要ナル一切ノ

措置ヲ為ス権利ヲ有スルコト

(e) 日本国ハ合衆國民ノ既得財産權ヲ維持尊重スヘキコト

ニ同意スルコト

(f) 日米間ノ現行諸條約ヲ委任統治諸島ニ適用スヘキコト

(g) 日米間ノ正式条約中委任統治条項ヲ引用セル条項ノ変

更ニハ合衆國ノ同意ヲ要シ且委任統治ニ関スル行政年

報ノ複本ヲ合衆國ニ提示スルコト

前記諸条項ヲ内容トスル正式条約ハ起草ノ上調印シ且各

国法ニ依ル批准ヲ經ヘキコト

四〇〇 十二月十五日

在米國幣原大臣ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### ヤップ島及委任統治諸島ニ關スル日米条約締結ノ為必要ナル全權ヲ委任方稟請ノ件

第七六〇号 (十二月十七日接受)

在米國幣原大臣ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### ヤップ島及委任統治諸島ニ關スル日米条約締結ノ為必要ナル全權ヲ委任方稟請ノ件

十二月十七日接受)

「ヤップ」及委任統治諸島ニ關スル日米条約ハ可成速ニ締結ヲ要スルニ付テハ之カ為メ必要ナル全權ヲ本使ニ委任アル様御取計アリタク尚全權委任状御下付ノ上ハ直ニ其ノ英訳文ヲ當方へ御電報ヲ請ヒ當方ヨリ之ヲ米國政府ニ提示シ又之ト同時ニ貴地ニ於テ全權委任状ノ原本ヲ米國大使ニ御示シノ上同大使ヲシテ其ノ良好妥当ナルコトヲ本国政府ヘ報告セシムル様御取計アリタシ

條約文ハ確定次第電報スヘシ尚本件ハ今回ノ會議トハ關係ナキモノナルニ付米國側ニテハ國務長官ノミ調印ノ筈念ノ為メ申添ニ

### ヤップ島問題日米間諒解ニ關シ主要連合國及蘭中各国ノ承諾ヲ取付置クコトニ付米國側ノ

#### 意向探査方訓令ノ件

##### 會議第二〇一号

「ヤップ」問題ニ關シ今般愈々日米両國間ニ同意成立スルニ至リタル處電線ノ分配及運用問題ニ關シテハ曩ニ貴電第三三九号ノ九箇条ニ該當スル規定ヲ内容トスル條約若ハ取極ヲ主要連合國間ニ締結スルコトニ日米両國間ノ了解調ヒ居ル次第ナルガ支那政府ヨリハ往電第四五九号ノ通り「ヤップ」—上海線ニ關シ抗議ヲ提起シ居リ又和蘭側ニ於テモ果シテ「ヤップ」—「メナド」線ヲ取得スルコトニ依リ独

蘭会社ニ關スル其ノ他一切ノ請求權ヲ拋棄スルコトヲ同意スヘキヤ必スシモ予断シ難キモノアルヘク旁々目下主要連合國並蘭支両國代表者ノ貴地ニ集マリ居ルヲ幸ヒ前記日米間ノ了解ニ付他ノ利害關係國ノ大体ノ承諾ナリトモ取付ケ置クコト得策ナルヘシ就テハ右ニ關シ先ツ以テ米國側ノ意向ヲ探リ其ノ結果電報アリタシ

在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ